別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画		
事　項	記　入　欄	備　考
計　画　の　区　分	大学の収容定員に係る学則変更	
フ　リ　ガ　ナ 設　置　者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ ｷﾀｻﾄｹﾝｷｭｳｼｮ 学校法人 北里研究所	
フ　リ　ガ　ナ 大　学　の　名　称	ｷﾀｻﾄﾀﾞｲｶﾞｸ 北里大学（Kitasato University）	
大学本部の位置	東京都港区白金５丁目９番１号	
大　学　の　目　的	本大学は、北里柴三郎博士の精神に則り、生命科学及び医療科学分野における学術研究と人材育成を通して、広く社会の発展のために寄与することを目的とする。	
新設学部等の目的	社会の要請に応えうる、高度医療現場でチーム医療を支えるメディカルスタッフに必要とされる高度な医療技術、知識を有し、地域医療を展開できる人材の養成を目的とし、健康科学部（看護学科、医療検査学科）を設置する。 このことに伴い、北里大学としては収容定員が増加するため、認可申請を行う。	

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	備考
	年	人	年次 人	人		年　月 第　年次		
薬学部 薬学科（６年制）	6	260	－	1,560	学士（薬学）	平成18年4月 第1年次	東京都港区白金 5丁目9番1号 神奈川県相模原市南区 北里1丁目15番1号（1年次）	
生命創薬科学科	4	35	－	140	学士（薬科学）	平成18年4月 第1年次	同上	
獣医学部 獣医学科	6	120	－	720	学士（獣医学）	平成19年4月 第1年次	青森県十和田市東二十三番町 東二十三番町35番1号 神奈川県相模原市南区 北里1丁目15番1号（1年次）	
動物資源科学科	4	130	－	520	学士（農学）	平成19年4月 第1年次	同上	
生物環境科学科	4	90	－	360	学士（農学）	平成19年4月 第1年次	神奈川県相模原市南区 北里2丁目1番1号	
医学部 医学科	6	110	－	660	学士（医学）	昭和45年4月 第1年次	神奈川県相模原市南区 北里1丁目15番1号	
海洋生命科学部 海洋生命科学科	4	180	－	720	学士（水産学）	平成12年4月 第1年次	神奈川県相模原市南区 北里1丁目15番1号	
看護学部 看護学科	4	125	－	500	学士（看護学）	昭和61年4月 第1年次	神奈川県相模原市南区 北里1丁目15番1号	
理学部 物理学科	4	53	－	212	学士（理学）	平成6年4月 第1年次	神奈川県相模原市南区 北里1丁目15番1号	
化学科	4	80	－	320	学士（理学）	平成6年4月 第1年次	同上	
生物科学科	4	80	－	320	学士（理学）	平成6年4月 第1年次	同上	

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
医療衛生学部							神奈川県相模原市南区	
保健衛生学科	4	40	－	160	学士(保健衛生学)	平成18年4月第1年次	北里1丁目15番1号	
医療検査学科	4	105	－	420	学士(医療検査学)	平成18年4月第1年次	同上	
医療工学科						平成6年4月	同上	
臨床工学専攻	4	45	－	180	学士（臨床工学）	第1年次		
診療放射線技術科学専攻	4	70	－	280	学士(診療放射線技術科学)			
リハビリテーション学科						平成6年4月	同上	
理学療法学専攻	4	45	－	180	学士(理学療法学)	第1年次		
作業療法学専攻	4	40	－	160	学士(作業療法学)			
言語聴覚療法学専攻	4	30	－	120	学士(言語聴覚療法学)			
視覚機能療法学専攻	4	30	－	120	学士(視覚機能療法学)			
未来工学部						令和5年4月	神奈川県相模原市南区	
データサイエンス学科	4	100	－	400	学士（工学）	第1年次	北里1丁目15番1号	
健康科学部							新潟県南魚沼市	※令和5年6月設置届出予定
看護学科	4	80 (0)	－	320 (0)	学士（看護学）	令和6年4月第1年次	黒土新田500	
医療検査学科	4	80 (0)	－	320 (0)	学士（医療検査学）	令和6年4月第1年次	同上	
計		1,928 (1,768)	－	8,692 (8,052)				

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	未来工学研究科生命データサイエンス専攻修士課程（10）（令和5年3月認可申請） 健康科学部（令和5年6月届出予定） 看護学科（80） 医療検査学科（80） 北里大学保健衛生専門学院（併設校／専修学校） 臨床検査技師養成科（△80） 管理栄養科（△80） 保健看護科（△80） ※令和6年4月学生募集停止

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	
		講義	演習	実験・実習	計		
	-	－ 科目	－ 科目	－ 科目	－ 科目	－ 単位	

教員組織の分	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設	薬学部　薬学科	18人 (18)	12人 (12)	25人 (25)	53人 (53)	108人 (108)	0人 (0)	271人 (271)
		薬学部　生命創薬科学科	4人 (4)	1人 (1)	4人 (4)	9人 (9)	18人 (18)	0人 (0)	98人 (98)
		獣医学部　獣医学科	17人 (17)	12人 (12)	12人 (12)	8人 (8)	49人 (49)	1人 (1)	35人 (35)
		獣医学部　動物資源科学科	6人 (6)	7人 (7)	4人 (4)	2人 (2)	19人 (19)	0人 (0)	44人 (44)
		獣医学部　生物環境科学科	5人 (5)	4人 (4)	1人 (1)	1人 (1)	11人 (11)	0人 (0)	38人 (38)
		獣医学部　その他	1人 (1)	2人 (2)	2人 (2)	3人 (3)	8人 (8)	0人 (0)	0 人 (0)
		医学部　医学科	74人 (74)	40人 (40)	113人 (113)	533人 (533)	760人 (760)	0人 (0)	256人 (256)
		海洋生命科学部　海洋生命科学科	10人 (10)	8人 (8)	10人 (10)	3人 (3)	31人 (31)	0人 (0)	27人 (27)
		海洋生命科学部　その他	1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	1人 (0)	1人 (1)	0 人 (0)
		看護学部　看護学科	12人 (12)	8人 (8)	10人 (10)	14人 (14)	44人 (44)	0人 (0)	121人 (121)
		看護学部　その他	1人 (1)	1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	2人 (2)	0人 (0)	0 人 (0)
		理学部　物理学科	4人 (4)	2人 (2)	7人 (7)	0人 (0)	13人 (13)	0人 (0)	18人 (18)
		理学部　化学科	4人 (4)	4人 (4)	4人 (4)	5人 (5)	17人 (17)	0人 (0)	33人 (33)
		理学部　生物科学科	4人 (4)	2人 (2)	5人 (5)	4人 (4)	15人 (15)	0人 (0)	38人 (38)
		理学部　その他	1人 (1)	1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	2人 (2)	0人 (0)	1人 (1)
		医療衛生学部　保健衛生学科	4人 (4)	4人 (4)	3人 (3)	1人 (1)	12人 (12)	0人 (0)	43人 (43)
		医療衛生学部　医療検査学科	8人 (8)	1人 (1)	4人 (4)	5人 (5)	18人 (18)	0人 (0)	142人 (142)
		医療衛生学部　医療工学科 臨床工学専攻	4人 (4)	2人 (2)	4人 (4)	2人 (2)	12人 (12)	0人 (0)	79人 (79)
		医療衛生学部　医療工学科 診療放射線技術科学専攻	4人 (4)	3人 (3)	3人 (3)	3人 (3)	13人 (13)	0人 (0)	83人 (83)
		医療衛生学部　リハビリテーション学科 理学療法学専攻	4人 (4)	3人 (3)	5人 (5)	1人 (1)	13人 (13)	0人 (0)	87人 (87)
		医療衛生学部　リハビリテーション学科 作業療法学専攻	3人 (3)	1人 (1)	3人 (3)	2人 (2)	9人 (9)	1人 (1)	61人 (61)
		医療衛生学部　リハビリテーション学科 言語聴覚療法学専攻	3人 (3)	0人 (0)	3人 (3)	3人 (3)	9人 (9)	0人 (0)	70人 (70)
		医療衛生学部　リハビリテーション学科 視覚機能療法学専攻	3人 (3)	3人 (3)	2人 (2)	0人 (0)	8人 (8)	1人 (1)	53人 (53)
		医療衛生学部　その他	4人 (4)	4人 (4)	6人 (6)	4人 (4)	18人 (18)	0人 (0)	0 人 (0)
		未来工学部　データサイエンス学科	7人 (6)	3人 (3)	3人 (2)	3人 (3)	16人 (14)	0人 (0)	129人 (121)
		健康科学部　看護学科	6人 (6)	1人 (0)	7人 (6)	1人 (1)	15人 (13)	4人 (4)	41人 (15)
		健康科学部　医療検査学科	7人 (8)	0人 (0)	4人 (4)	5人 (5)	16人 (17)	1人 (1)	65人 (22)
	計		219人 (219)	129人 (128)	244人 (242)	665人 (665)	1,257人 (1254)	9人 (9)	－ (－)

概要	既設分	一般教育部　自然科学教育センター	5人 (5)	6人 (6)	9人 (9)	2人 (2)	22人 (22)	0人 (0)	9人 (9)
		一般教育部　人間科学教育センター	5人 (5)	6人 (6)	4人 (4)	0人 (0)	15人 (15)	0人 (0)	51人 (51)
		一般教育部　基礎教育センター	5人 (5)	7人 (7)	6人 (6)	0人 (0)	18人 (18)	0人 (0)	39人 (39)
		健康管理センター	1人 (1)	1人 (1)	2人 (2)	5人 (5)	9人 (9)	0人 (0)	0 人 (0)
		看護キャリア開発・研究センター	0人 (0)	0人 (0)	1人 (1)	0人 (0)	1人 (1)	0人 (0)	100人 (100)
		教職課程センター	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	2人 (2)
		北里大学	2人 (2)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	2人 (2)	0人 (0)	0 人 (0)
		計	18人 (18)	20人 (20)	22人 (22)	7人 (7)	67人 (67)	0 人 (0)	－ (－)
	合　　計		237人 (237)	149人 (148)	266人 (264)	672人 (672)	1,324人 (1321)	9人 (9)	－ (－)

教員以外の職員の概要	職　　種	専　任	兼　任	計
	事　務　職　員	313 人 (313)	136 人 (136)	449 人 (449)
	技　術　職　員	93 人 (93)	98 人 (98)	191 人 (191)
	図　書　館　専　門　職　員	20 人 (20)	11 人 (11)	31 人 (31)
	そ　の　他　の　職　員	20 人 (20)	27 人 (27)	47 人 (47)
	計	446 人 (446)	272 人 (272)	718 人 (718)

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	599,917.56㎡	0 ㎡	0 ㎡	599,917.56㎡	
	運動場用地	115,088.00㎡	0 ㎡	0 ㎡	103,528.00㎡	
	小計	715,005.56㎡	0 ㎡	0 ㎡	715,005.56㎡	
	その他	11,228,317.19㎡	0 ㎡	0 ㎡	11,228,317.19㎡	
	合計	11,943,322.75㎡	0 ㎡	0 ㎡	11,943,322.75㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	254,224.57 ㎡ (241,068.53㎡)	0 ㎡ (10,950.81㎡)	0 ㎡ (2,205.23㎡)	254,224.57 ㎡ (254,224.57㎡)	北里大学保健衛生専門学院（専修学校）と共用 令和6年度収容定員：670人 専修学校設置基準校舎面積：2,360㎡ ※北里大学保健衛生専門学院は令和9年度に廃止予定。

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	197室	102室	298室	14室 （補助職員 4人）	3室 （補助職員 5人）	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	大学全体	696 室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	大学全体	340,548〔53,539〕 (340,548〔53,539〕)	243,849〔139,593〕 (243,849〔139,593〕)	58,996〔44,179〕 (58,996〔44,179〕)	5,506 (5,506)	45,756 (45,756)	149,787 (149,787)	
	計	340,548〔53,539〕 (340,548〔53,539〕)	243,849〔139,593〕 (243,849〔139,593〕)	58,996〔44,179〕 (58,996〔44,179〕)	5,506 (5,506)	45,756 (45,756)	149,787 (149,787)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	8,133.65㎡	1,290	742,575	

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		
	11,452.81㎡	○相模原地区 ・野球場 1面 ・テニスコート 7面 ・サッカーコート2面 ・ラグビーコート1面 ・陸上競技場 1面 ・ゴルフ練習場 1箇所 ・弓道場 1箇所	○十和田地区 ・テニスコート 2面 ・馬場 1箇所 ○新潟地区 ・テニスコート 2面	大学全体

経費の見積り及び維持方法の概要

経費の見積り	区　分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	※大学全体
	教員１人当り研究費等		926千円	926千円	926千円	926千円	926千円	926千円	※図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
	共同研究費等		1,264,411千円	1,264,411千円	1,264,411千円	1,264,411千円	1,264,411千円	1,264,411千円	
	図書購入費	573,407千円	573,407千円	573,407千円	573,407千円	573,407千円	573,407千円	573,407千円	
	設備購入費	1,899,990千円	2,662,550千円	669,550千円	550,550千円	550,550千円	550,550千円	550,550千円	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
	千円	千円	千円	千円	千円	千円	
薬学部							
薬学科	2,350千円	2,050千円	2,050千円	2,050千円	2,050千円	2,050千円	
薬学科（2年次編入）	－	2,450千円	2,050千円	2,050千円	2,050千円	2,050千円	
生命創薬科学科	2,070千円	1,670千円	1,670千円	1,670千円	－	－	
生命創薬科学科（2年次編入）	－	2,070千円	1,670千円	1,670千円	－	－	
獣医学部							
獣医学科	2,330千円	2,130千円	2,130千円	2,130千円	2,130千円	2,130千円	
獣医学科（2年次学士入学）	－	2,430千円	2,130千円	2,130千円	2,130千円	2,130千円	
動物資源科学科	1,350千円	1,300千円	1,300千円	1,300千円	－	－	
生物環境科学科	1,350千円	1,300千円	1,300千円	1,300千円	－	－	
医学部	9,000千円	6,400千円	6,400千円	5,700千円	5,700千円	5,700千円	
医学部（1年次9月学士入学）	5,870千円	6,400千円	6,400千円	5,700千円	5,700千円	5,700千円	
海洋生命科学部	1,400千円	1,450千円	1,450千円	1,450千円	－	－	
看護学部	1,900千円	1,700千円	1,700千円	1,700千円	－	－	
理学部							
物理学科	1,663千円	1,513千円	1,513千円	1,513千円	－	－	
化学科	1,663千円	1,513千円	1,513千円	1,513千円	－	－	
生物科学科	1,713千円	1,613千円	1,613千円	1,613千円	－	－	
医療衛生学部	1,800千円	1,750千円	1,750千円	1,750千円	－	－	
医療衛生学部（2年次編入）	－	1,950千円	1,750千円	1,750千円	－	－	
医療衛生学部（3年次編入）	－	－	1,950千円	1,750千円	－	－	
医療衛生学部（4年次編入）	－	－	－	1,950千円	－	－	
未来工学部	1,650千円	1,600千円	1,600千円	1,600千円	－	－	
健康科学部							※令和5年6月届出予定
看護学科	1,800千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	－	－	
医療検査学科	1,700千円	1,400千円	1,400千円	1,400千円	－	－	

	薬学研究科修士課程	850千円	650千円	－	－	－	－	
	薬学研究科博士課程							
	薬学専攻	950千円	750千円	750千円	750千円	－	－	
	薬科学専攻	950千円	750千円	750千円	－	－	－	
	獣医学系研究科修士課程	650千円	450千円	－	－	－	－	
	獣医学系研究科博士課程							
	獣医学専攻	650千円	450千円	450千円	450千円	－	－	
	動物資源科学専攻	650千円	450千円	450千円	－	－	－	
	海洋生命科学研究科修士課程	800千円	550千円	－	－	－	－	
	海洋生命科学研究科博士課程	800千円	550千円	550千円	－	－	－	
	看護学研究科修士課程 (看護学研究コース)	830千円	630千円	－	－	－	－	
	看護学研究科修士課程 (高度実践看護学コース)	950千円	750千円	－	－	－	－	
	看護学研究科博士課程	950千円	750千円	750千円	－	－	－	
	理学研究科修士課程	950千円	750千円	－	－	－	－	
	理学研究科博士課程	950千円	750千円	750千円	－	－	－	
	医療系研究科修士課程 (臨床心理学コース以外)	985千円	785千円	－	－	－	－	
	医療系研究科修士課程 (臨床心理学コース)	1,150千円	950千円	－	－	－	－	
	医療系研究科博士課程	985千円	785千円	785千円	785千円	－	－	
	感染制御科学府修士課程	950千円	750千円	－	－	－	－	
	感染制御科学府博士課程	950千円	750千円	750千円	－	－	－	
	未来工学研究科修士課程	950千円	750千円	－	－	－	－	※令和5年3月認可申請

既設大学等の状況	大学の名称	北里大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	薬学部		295	—	1,700		1.02		東京都港区白金5丁目9番1号	
	薬学科	6	260	—	1,560	学士（薬学）	1.02	平成18年度		
	生命創薬科学科	4	35	—	140	学士（薬科学）	1.04	平成18年度	神奈川県相模原市南区北里1丁目15番1号（1年次）	
	獣医学部		340		1,600		0.94		青森県十和田市東二十三番町35番1号	
	獣医学科	6	120	—	720	学士（獣医学）	1.09	平成19年度		
	動物資源科学科	4	130	—	520	学士（農学）	0.92	平成19年度	神奈川県相模原市南区北里1丁目15番1号（1年次）	
	生物環境科学科	4	90	—	360	学士（農学）	0.68	平成19年度		
	医学部								神奈川県相模原市南区北里1丁目15番1号	令和2～5年度のみ臨時入学定員減（△1人） 令和2～3年度のみ臨時入学定員増（9人） 令和4年度のみ臨時入学定員増（11人） 令和5年度のみ臨時入学定員増（16人）
	医学科	6	125	—	719	学士（医学）	1.03	昭和45年度		
	海洋生命科学部								神奈川県相模原市南区北里1丁目15番1号	
	海洋生命科学科	4	180	—	720	学士（水産学）	1.08	平成12年度		
	看護学部								神奈川県相模原市南区北里2丁目1番1号	
	看護学科	4	125	—	500	学士（看護学）	1.05	昭和61年度		
	理学部		213	—	852		1.07		神奈川県相模原市南区北里1丁目15番1号	
	物理学科	4	53	—	212	学士（理学）	1.05	平成6年度		
	化学科	4	80	—	320	学士（理学）	1.10	平成6年度		
	生物科学科	4	80	—	320	学士（理学）	1.07	平成6年度		
	医療衛生学部		405	—	1,620		1.05		神奈川県相模原市南区北里1丁目15番1号	
	保健衛生学科	4	40	—	160	学士（保健衛生学）	1.05	平成18年度		
	医療検査学科	4	105	—	420	学士（医療検査学）	1.05	平成18年度		
	医療工学科		115	—	460		1.05	平成6年度		
	臨床工学専攻	4	45	—	180	学士（臨床工学）	1.04			
	診療放射線技術学専攻	4	70	—	280	学士（診療放射線技術科学）	1.05			
	リハビリテーション学科		145	—	580		1.05	平成6年度		
	理学療法学専攻	4	45	—	180	学士（理学療法学）	1.06			
	作業療法学専攻	4	40	—	160	学士（作業療法学）	1.03			
	言語聴覚療法学専攻	4	30	—	120	学士（言語聴覚療法学）	1.06			
	視覚機能療法学専攻	4	30	—	120	学士（視覚機能療法学）	1.03			
	未来工学部								神奈川県相模原市南区北里1丁目15番1号	令和5年度開設（100）
	データサイエンス学科	4	100	—	100	学士（工学）	1.05	令和5年度		

既設大学等の状況

大学の名称	北里大学大学院								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
薬学研究科								東京都港区白金	
薬科学専攻修士課程	2	25	—	50	修士（薬科学） 修士(臨床統計学) 修士(医薬開発学)	1.48	平成22年度	5丁目9番1号	
薬科学専攻博士後期課程	3	6	—	18	博士（薬科学） 博士(臨床統計学) 博士(医薬開発学)	1.27	平成24年度		
薬学専攻博士課程	4	3	—	12	博士（薬学）	0.83	平成24年度		
獣医学系研究科								青森県十和田市	
動物資源科学専攻修士課程	2	5	—	10	修士（農学）	1.70	昭和45年度	東二十三番町35番1号	
生物環境科学専攻修士課程	2	5	—	10	修士（農学）	0.40	昭和62年度		
動物資源科学専攻博士後期課程	3	3	—	9	博士（農学）	0.77	昭和47年度		
獣医学専攻博士課程	4	3	—	12	博士（獣医学）	1.50	平成2年度		
海洋生命科学研究科								神奈川県相模原市南区	
海洋生命科学専攻修士課程	2	21	—	33	修士（水産学）	1.87	平成12年度	北里1丁目15番1号	令和5年度入学定員増（9人）
海洋生命科学専攻博士後期課程	3	3	—	9	博士（水産学）	0.77	平成12年度		
看護学研究科							平成2年度	神奈川県相模原市南区	
看護学専攻修士課程	2	15	—	30	修士（看護学）	1.13		北里2丁目1番1号	
看護学専攻博士後期課程	3	4	—	12	博士（看護学）	1.16	平成9年度		
理学研究科								神奈川県相模原市南区	
分子科学専攻修士課程	2	14	—	28	修士（理学） 修士（生命科学）	1.17	平成10年度	北里1丁目15番1号	
生物科学専攻修士課程	2	11	—	22	修士（理学） 修士（生命科学）	0.95	平成10年度		
分子科学専攻博士後期課程	3	2	—	6	博士（理学） 博士（生命科学）	0.16	平成10年度		
生物科学専攻博士後期課程	3	3	—	9	博士（理学） 博士（生命科学）	0.55	平成10年度		
医療系研究科								神奈川県相模原市南区	
医科学専攻修士課程	2	40	—	80	修士（医科学） 修士（医療科学）	1.85	平成10年度	北里1丁目15番1号	
医学専攻博士課程	4	40	—	160	博士（医学） 博士（医科学）	0.81	平成10年度		
感染制御科学府									
感染制御科学専攻修士課程	2	18	—	36	修士（感染制御科学） 修士（生命科学）	1.30	平成14年度	東京都港区白金 5丁目9番1号	
感染制御科学専攻博士後期課程	3	4	—	12	博士（感染制御科学） 博士（生命科学）	0.50	平成16年度		

附属施設の概要	名　　称：北里大学病院 目　　的：大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）に定める大学病院及び医療法（昭和23年法律第205号）に定める特定機能病院として、高度な医療の提供、高度な医療技術の開発及び評価並びに医療に関する教育、研修等の諸活動を遂行し、地域医療及び広く人類の健康福祉に貢献する。 所 在 地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号 設置年月：昭和46年4月5日 規 模 等：地上14階地下1階　92,776㎡ 診療科　　33科 病床数　　1,185床 外来患者数　2,444.4人／日 入院患者数　819.0人／日 名　　称：北里大学北里研究所病院 目　　的：医療法による医療機関として北里医学の原点である土筆ヶ岡養生園以来の伝統を継承し、臨床・教育・研究・危機管理の高次の均衡ある医療を実現し、医療全体の発展に寄与する。 所 在 地：東京都港区白金五丁目9番1号 設置年月：平成20年4月1日 規 模 等：地上10階地下2階　24,796㎡ 診療科　　22科 病床数　　329床 外来患者数　772.9人／日 入院患者数　144.3人／日 名　　称：北里大学メディカルセンター 目　　的：医療法による医療機関として地域の医療を担い、また、教育及び研究の施設としての任務を果たすとともに、広く人類の健康福祉に関する学術の研究発展に寄与する。 所 在 地：埼玉県北本市荒井6丁目100番地 設置年月：平成20年4月1日 規 模 等：地上6階地下2階　30,770.79㎡ 診療科　　24科 病床数　　372床 外来患者数　649.5人／日 入院患者数　222.3人／日 名　　称：北里大学図書館　北里大学白金図書館 目　　的：本大学における教育研究等の活動に必要な図書及び資料等を収集し、及び整理し、これを効果的な利用に供するとともに文献その他の情報サービスを行い、本大学の教育研究等の充実及び発展に寄与する。 所 在 地：東京都港区白金五丁目9番1号 設置年月：昭和39年4月1日 規 模 等：面積　1,086.84㎡ 閲覧席数　182席　　蔵書数　82,462冊 名　　称：北里大学図書館　北里大学獣医学部図書館 目　　的：本大学における教育研究等の活動に必要な図書及び資料等を収集し、及び整理し、これを効果的な利用に供するとともに文献その他の情報サービスを行い、本大学の教育研究等の充実及び発展に寄与する。 所 在 地：青森県十和田市東二十三番町35番1号 設置年月：昭和51年3月31日 規 模 等：面積　1,302.87㎡ 閲覧席数　222席　　蔵書数　28,852冊 名　　称：北里大学図書館　北里大学医学図書館 目　　的：本大学における教育研究等の活動に必要な図書及び資料等を収集し、及び整理し、これを効果的な利用に供するとともに文献その他の情報サービスを行い、本大学の教育研究等の充実及び発展に寄与する。 所 在 地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号 設置年月：昭和45年6月23日 規 模 等：面積　3,042.20㎡ 閲覧席数　486席　　蔵書数　52,283冊 名　　称：北里大学図書館　北里大学海洋生命科学部図書館 目　　的：本大学における教育研究等の活動に必要な図書及び資料等を収集し、及び整理し、これを効果的な利用に供するとともに文献その他の情報サービスを行い、本大学の教育研究等の充実及び発展に寄与する。 所 在 地：岩手県大船渡市三陸町越喜来字烏頭160番地4 設置年月：昭和47年4月1日 規 模 等：面積　58.55㎡ 閲覧席数　117席　　蔵書数　6,227冊	

名　　称：北里大学図書館　北里大学看護学部図書館
目　　的：本大学における教育研究等の活動に必要な図書及び資料等を収集し、及び整理し、これを効果的な利用に供するとともに文献その他の情報サービスを行い、本大学の教育研究等の充実及び発展に寄与する。
所 在 地：神奈川県相模原市南区北里二丁目1番1号
設置年月：昭和61年4月1日
規 模 等：面積　430.80㎡
閲覧席数　58席　　蔵書数　17,905冊

名　　称：北里大学図書館　北里大学理学部図書館
目　　的：本大学における教育研究等の活動に必要な図書及び資料等を収集し、及び整理し、これを効果的な利用に供するとともに文献その他の情報サービスを行い、本大学の教育研究等の充実及び発展に寄与する。
所 在 地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成10年4月1日
規 模 等：面積　314.70㎡
閲覧席数　76席　　蔵書数　31,401冊

名　　称：北里大学図書館 北里大学健康科学部図書館
目　　的：本大学における教育研究等の活動に必要な図書及び資料等を収集し、及び整理し、これを効果的な利用に供するとともに文献その他の情報サービスを行い、本大学の教育研究等の充実及び発展に寄与する。
所 在 地：新潟県南魚沼市黒土新田500
設置年月：令和6年4月1日
規 模 等：面積　484.78㎡
閲覧席数　76席　　蔵書数　22,334冊

名　　称：北里大学図書館　北里大学教養図書館
目　　的：本大学における教育研究等の活動に必要な図書及び資料等を収集し、及び整理し、これを効果的な利用に供するとともに文献その他の情報サービスを行い、本大学の教育研究等の充実及び発展に寄与する。
所 在 地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：昭和43年4月1日
規 模 等：面積　1,500.04㎡
閲覧席数　190席　　蔵書数　105,311冊

名　　称：北里大学図書館　北里大学臨床教育研究棟図書館（医学図書館分館）
目　　的：本大学における教育研究等の活動に必要な図書及び資料等を収集し、及び整理し、これを効果的な利用に供するとともに文献その他の情報サービスを行い、本大学の教育研究等の充実及び発展に寄与する。
所 在 地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成29年9月4日
規 模 等：面積　924.58㎡
閲覧席数　245席　　蔵書数　11,500冊

名　　称：大村智記念研究所
目　　的：感染症と付随する各種重要疾病の原因・予防・治療法に関する研究と教育を行う。
所 在 地：東京都港区白金五丁目9番1号
設置年月：平成13年4月1日

名　　称：北里大学感染制御教育研究センター
目　　的：感染制御に関する世界最高水準の研究・教育拠点の形成を通じ、学内横断的に感染症の制圧に取組み、もって社会に貢献する。
所 在 地：東京都港区白金五丁目9番1号
設置年月：令和5年4月1日

名　　称：北里大学入学センター
目　　的：学生の入学に関する調査研究，入学試験の実施、学生募集にかかる広報を行う。
所 在 地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成15年7月12日

名　　称：北里大学健康管理センター
目　　的：学生及び教職員に係る保健管理・健診事業を実施する。
所 在 地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成13年3月16日

名　　称：北里大学高等教育開発センター
目　　的：学士課程教育プログラムや教材の開発及び教育活動の継続的な改善の推進・支援を行う。
所 在 地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成19年4月1日

名　　称：北里大学農医連携教育開発センター
目　　的：食糧生産にかかわる農学と人間の健康増進に関わる人材を育成する。
所 在 地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成25年4月1日

名　　称：北里大学教職課程センター
目　　的：大学及び大学院の教職課程の基本方針を企画・立案・検討し、教職課程教育の充実及び発展に寄与する。
所 在 地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成25年4月1日

名　　称：北里大学看護キャリア開発・研究センター
目　　的：地域看護職者のキャリア支援ならびに看護実践の向上に資する研究事業を実施する。
所 在 地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成19年4月1日

名　　称：北里大学附属臨床心理相談センター
目　　的：地域住民の様々なこころの問題などについて相談を受ける。
所 在 地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成24年4月1日

名　　称：八雲総合実習所
目　　的：学生の正課教育・課外活動等に利用する。
所 在 地：北海道二海郡八雲町上八雲751番地
設置年月：昭和53年7月23日
規 模 等：鉄筋コンクリート造5階建　1,336.98㎡

名　　称：薬学部附属薬用植物園
目　　的：標本園、試験圃場及び附属建物を設け、薬用植物に関連する調査及び研究を行うとともに、薬学部及び大学院薬学研究科の教育及び研究に寄与する。
所 在 地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：昭和47年7月1日
規 模 等：園地　4,826.0㎡
ドーム型温室　145.72㎡
温室管理棟　509.22㎡
植栽植物　891点
生薬・さく葉標本　18,739点

名　　称：薬学部附属医薬研究施設
目　　的：医薬品の研究を行う。
所 在 地：東京都港区白金五丁目9番1号
設置年月：昭和50年9月1日

名　　称：薬学部附属臨床薬学研究・教育センター
目　　的：臨床薬学教育を推進する。
所 在 地：東京都港区白金五丁目9番1号
設置年月：平成7年4月1日

名　　称：薬学部附属環境管理センター
目　　的：化学薬品，特に有害化学物質，毒・劇物危険物の管理などを行う。
所 在 地：東京都港区白金五丁目9番1号
設置年月：平成7年4月1日

名　　称：獣医学部附属動物病院
目　　的：獣医学の教育及び研究の施設としての機能を果たすため、動物の診療を行うとともに、地域社会に貢献する。
所 在 地：青森県十和田市東二十三番町35番1号
設置年月：昭和43年9月1日
規 模 等：V10号館　7,693.25㎡内
患畜頭数　13,526頭／年

名　　称：獣医学部附属フィールドサイエンスセンター　十和田農場
目　　的：獣医学部の附属教育研究施設として土地、動物、植物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与する。
所 在 地：青森県十和田市東二十三番町35番1号
設置年月：平成13年4月1日
規 模 等：農場　112,911.00㎡
飼育家畜数　139頭

名　　称：獣医学部附属フィールドサイエンスセンター　八雲牧場
目　　的：獣医学部の附属教育研究施設として土地、動物、植物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与する。
所 在 地：北海道二海郡八雲町上八雲751番地
設置年月：昭和51年4月
規 模 等：牧場3,521,932.19㎡
飼育家畜数　377頭

名　　称：獣医学部附属獣医臨床試験センター
目　　的：獣医学部附属動物病院における治験を行い、獣医療の質の向上に資する科学的根拠を創り出す治験及び臨床研究を推進、実施する。
所 在 地：青森県十和田市東二十三番町35番1号
設置年月：令和3年8月1日

名　　称：医学部附属遺伝子高次機能解析センター
目　　的：遺伝子高次機構解析を中核とした生命科学領域の基礎研究・応用研究と高度専門教育を行う。
所 在 地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成17年4月1日

名　　称：医学部附属バイオイメージング研究センター
目　　的：細胞レベルの形態および体内の活性標的分子の挙動等の解析を中核とした生命科学領域の基礎研究・応用研究を行う。
所 在 地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成18年4月1日

名　　称：医学部附属医学教育研究開発センター
目　　的：医学教育を取巻く変革の現状を踏まえて、時代に則した卒前・卒後の臨床医学教育の研究開発を行い、もって医学教育の発展と向上に寄与する。
所 在 地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成17年4月1日

名　　称：医学部附属臨床研究センター
目　　的：医療の質向上に資する治験及び臨床研究の推進と人材育成を行う。
所 在 地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成20年4月1日

名　　称：医学部附属新世紀医療開発センター
目　　的：先端医療領域開発部門と横断的医療開発部門を置き、臨床教育の活性化を図る。
所 在 地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成25年4月1日

名　　称：海洋生命科学部附属三陸臨海教育研究センター
目　　的：三陸海域の生態系・海洋環境及び海洋生物の生産・有効活用に関する総合的な研究の推進を行う。
所 在 地：岩手県大船渡市三陸町越喜来字烏頭160−4
設置年月：平成26年4月1日

名　　称：理学部附属疾患プロテオミクス・センター
目　　的：網羅的モノクロナール抗体作製、抗体産生細胞バンク確立、抗体医薬開発の基礎研究等を行う。
所 在 地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成17年4月1日

名　　称：医療衛生学部附属再生医療・細胞デザイン研究施設
目　　的：再生医療及び細胞治療の基礎技術の研究開発及び教育並びに実験動物による研究開発及び教育を行う。
所 在 地：神奈川県相模原市南区北里一丁目15番1号
設置年月：平成18年4月1日

学校法人北里研究所　設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度

	入学定員	編入学定員 2年次	編入学定員 3年次	編入学定員 4年次	収容定員
薬学部					
薬学科（6年制）	260	－	－	－	1,560
生命創薬科学科	35	－	－	－	140
獣医学部					
獣医学科（6年制）	120	－	－	－	720
動物資源科学科	130	－	－	－	520
生物環境科学科	90	－	－	－	360
医学部（6年制）	125	－	－	－	675
海洋生命科学部	180	－	－	－	720
看護学部	125	－	－	－	500
理学部					
物理学科	53	－	－	－	212
化学科	80	－	－	－	320
生物科学科	80	－	－	－	320
医療衛生学部					
保健衛生学科	40	－	－	－	160
医療検査学科	105	－	－	－	420
医療工学科					
臨床工学専攻	45	－	－	－	180
診療放射線技術科学専攻	70	－	－	－	280
リハビリテーション学科					
理学療法学専攻	45	－	－	－	180
作業療法学専攻	40	－	－	－	160
言語聴覚療法学専攻	30	－	－	－	120
視覚機能療法学専攻	30	－	－	－	120
未来工学部					
データサイエンス学科	100	－	－	－	400
大学全体	1,783	－	－	－	8,067

令和6年度

	入学定員	編入学定員 2年次	編入学定員 3年次	編入学定員 4年次	収容定員	変更の事由
薬学部						
薬学科（6年制）	260	－	－	－	1,560	
生命創薬科学科	35	－	－	－	140	
獣医学部						
獣医学科（6年制）	120	－	－	－	720	
動物資源科学科	130	－	－	－	520	
生物環境科学科	90	－	－	－	360	
医学部（6年制）	110	－	－	－	660	
海洋生命科学部	180	－	－	－	720	
看護学部	125	－	－	－	500	
理学部						
物理学科	53	－	－	－	212	
化学科	80	－	－	－	320	
生物科学科	80	－	－	－	320	
医療衛生学部						
保健衛生学科	40	－	－	－	160	
医療検査学科	105	－	－	－	420	
医療工学科						
臨床工学専攻	45	－	－	－	180	
診療放射線技術科学専攻	70	－	－	－	280	
リハビリテーション学科						
理学療法学専攻	45	－	－	－	180	
作業療法学専攻	40	－	－	－	160	
言語聴覚療法学専攻	30	－	－	－	120	
視覚機能療法学専攻	30	－	－	－	120	
未来工学部						
データサイエンス学科	100	－	－	－	400	
健康科学部						学部の設置（届出）
看護学科	80	－	－	－	320	
医療検査学科	80	－	－	－	320	
大学全体	1,928	－	－	－	8,692	

令和5年度

北里大学大学院	入学定員	編入学定員	収容定員
薬学研究科			
薬科学専攻（M）	25	－	50
薬学専攻（4年制D）	3	－	12
薬科学専攻（D）	6	－	18
獣医学系研究科			
動物資源科学専攻（M）	5	－	10
生物環境科学専攻（M）	5	－	10
獣医学専攻（4年制D）	3	－	12
動物資源科学専攻（D）	3	－	9
海洋生命科学研究科			
海洋生命科学専攻（M）	21	－	42
海洋生命科学専攻（D）	3	－	9
看護学研究科			
看護学専攻（M）	15	－	30
看護学専攻（D）	4	－	12
理学研究科			
分子科学専攻（M）	14	－	28
生物科学専攻（M）	11	－	22
分子科学専攻（D）	2	－	6
生物科学専攻（D）	3	－	9
医療系研究科			
医科学専攻（M）	40	－	80
医学専攻（4年制D）	40	－	160
感染制御科学府			
感染制御科学専攻（M）	18	－	36
感染制御科学専攻（D）	4	－	12
計	225	－	567

令和6年度

北里大学大学院	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
薬学研究科				
薬科学専攻（M）	25	－	50	
薬学専攻（4年制D）	3	－	12	
薬科学専攻（D）	6	－	18	
獣医学系研究科				
動物資源科学専攻（M）	5	－	10	
生物環境科学専攻（M）	5	－	10	
獣医学専攻（4年制D）	3	－	12	
動物資源科学専攻（D）	3	－	9	
海洋生命科学研究科				
海洋生命科学専攻（M）	21	－	42	
海洋生命科学専攻（D）	3	－	9	
看護学研究科				
看護学専攻（M）	15	－	30	
看護学専攻（D）	4	－	12	
理学研究科				
分子科学専攻（M）	14	－	28	
生物科学専攻（M）	11	－	22	
分子科学専攻（D）	2	－	6	
生物科学専攻（D）	3	－	9	
医療系研究科				
医科学専攻（M）	40	－	80	
医学専攻（4年制D）	40	－	160	
感染制御科学府				
感染制御科学専攻（M）	18	－	36	
感染制御科学専攻（D）	4	－	12	
未来工学研究科				研究科の設置（認可申請）
生命データサイエンス専攻（M）	10	－	20	
計	235	－	587	

令和5年度

北里大学保健衛生専門学院	入学定員	編入学定員	収容定員
臨床検査技師養成科（3年制）	80	－	240
管理栄養科（4年制）	80	－	320
保健看護科（4年制）	80	－	320
臨床工学専攻科（1年制）	30	－	30
計	270	－	910

令和6年度

北里大学保健衛生専門学院	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
臨床検査技師養成科（3年制）	0	－	0	令和6年4月学生募集停止
管理栄養科（4年制）	0	－	0	令和6年4月学生募集停止
保健看護科（4年制）	0	－	0	令和6年4月学生募集停止
臨床工学専攻科（1年制）	30	－	30	
計	30	－	30	

令和5年度

北里大学看護専門学校	入学定員	編入学定員	収容定員
看護学科（3年制）	40	－	120
計	40	－	120

令和6年度

北里大学看護専門学校	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
看護学科（3年制）	40	－	120	
計	40	－	120	

都道府県内における位置関係の図面

＜十和田キャンパス＞
（青森県十和田市）
・獣医学部獣医学科、動物資源科学科
・大学院獣医学系研究科

＜新潟キャンパス＞
（新潟県南魚沼市）
・健康科学部

＜相模原キャンパス＞（神奈川県相模原市）
・薬学部（1 年次）
・獣医学部獣医学科、動物資源科学科（1 年次）
・獣医学部生物環境科学科
・医学部
・海洋生命科学部
・看護学部
・理学部
・医療衛生学部
・未来工学部
・大学院海洋生命科学研究科
・大学院看護学研究科
・大学院理学研究科
・大学院医療系研究科
・大学院未来工学研究科（設置認可申請中）

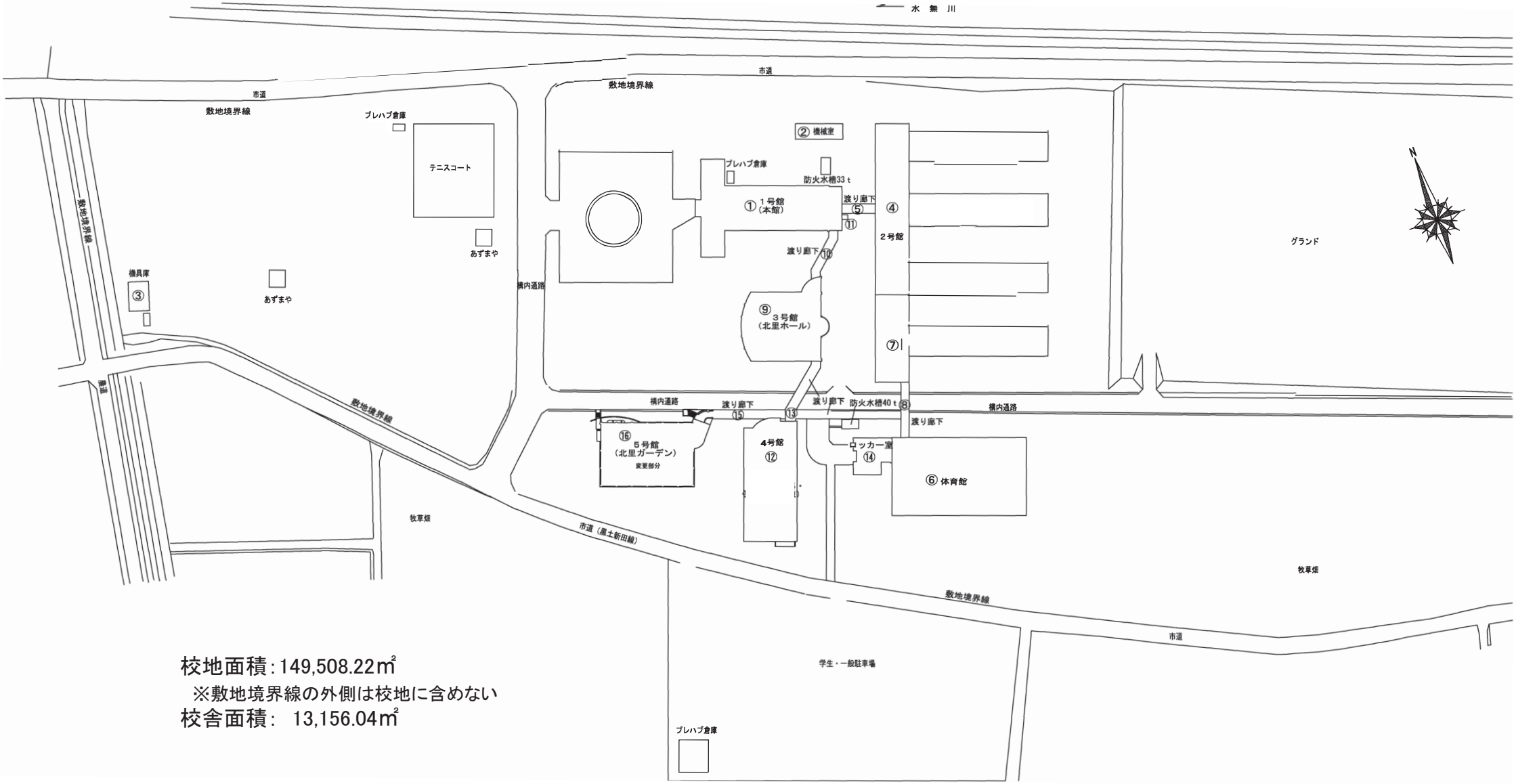
＜白金キャンパス＞
（東京都港区）
・薬学部
・大学院薬学研究科
・大学院感染制御科学府

最寄り駅からの距離，交通機関及び所要時間が分かる図面

JR 上越線・上越新幹線「浦佐駅」　東口から無料通学バスで約 7 分
（距離：約 3.2km）

校舎、運動場の配置図(北里大学新潟キャンパス)

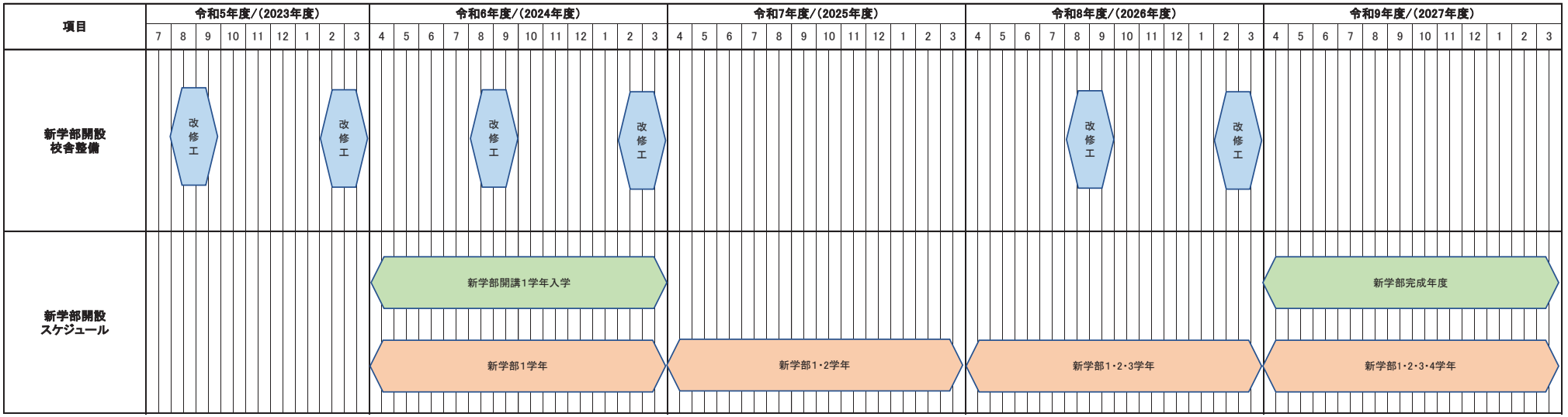
※本キャンパスは健康科学部のみで使用するため
塗り分けはしていない。



校地面積:149,508.22㎡
※敷地境界線の外側は校地に含めない
校舎面積: 13,156.04㎡

※校舎の平面図（P4～24）は削除いたしました。

校舎整備の工程表


項目
令和5年度/(2023年度)
令和6年度/(2024年度)
令和7年度/(2025年度)
令和8年度/(2026年度)
令和9年度/(2027年度)
7 8 9 10 11 12 1 2 3
4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3
4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3
4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3
4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3
新学部開設
校舎整備
改修工
改修工
改修工
改修工
改修工
新学部開設
スケジュール
新学部開講1学年入学
新学部1学年
新学部1・2学年
新学部1・2・3学年
新学部完成年度
新学部1・2・3・4学年

２０２４年度

北 里 大 学 学 則

（案）

学校法人　北 里 研 究 所

北 里 大 学 学 則

第１章　総　　則

（目　　的）

第１条　本大学は、北里柴三郎博士の精神に則り、生命科学及び医療科学分野における学術研究と人材育成を通して、広く社会の発展のために寄与することを目的とする。

（教育研究上の目的）

第２条　本大学は、学部、学科又は課程ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を定めるものとする。

２　前項の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は別表１のとおりとする。

（自己点検・評価）

第３条　本大学は、教育研究水準の向上を図り、本大学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究等の活動状況について自主的に自己点検・評価を行い、その結果を公表するものとする。

２　自己点検・評価の実施体制、実施方法、項目、結果の活用等については別に定める。

（教育情報の公表）

第４条　本大学は、次に掲げる教育研究活動等の状況についての情報を公表するものとする。

(1)　大学の教育研究上の目的に関すること。

(2)　教育研究上の基本組織に関すること。

(3)　教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること。

(4)　入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること。

(5)　授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること。

(6)　学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること。

(7)　校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること。

(8)　授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること。

(9)　大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること。

２　前項各号に掲げる事項のほか、教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報を積極的に公表するよう努めるものとする。

３　第１項の規定による情報の公表は、適切な体制を整えた上で、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によって行うものとする。

４　前各項の公表情報の詳細については別に定める。

第２章　学部、学科、専攻及び大学院

（学部、学科、専攻）

第５条　本大学に次の学部、学科、専攻を置く。

薬　　学　　部……薬学科、生命創薬科学科

獣　医　学　部……獣医学科、動物資源科学科、生物環境科学科

医　　学　　部……医学科

海洋生命科学部……海洋生命科学科

看　護　学　部……看護学科

理　　学　　部……物理学科、化学科、生物科学科

医療衛生学部……保健衛生学科

医療検査学科

医療工学科　臨床工学専攻、診療放射線技術科学専攻

リハビリテーション学科　理学療法学専攻、作業療法学専攻、

言語聴覚療法学専攻、視覚機能療法学専攻

未 来 工 学 部……データサイエンス学科

健 康 科 学 部……看護学科、医療検査学科

２　本大学における一般教育を円滑に実施するため、本大学に一般教育部を置く。一般教育部は自然科学教育

センター、人間科学教育センター、基礎教育センターをもって組織する。一般教育部に関する規程は別に定める。

（大 学 院）

第６条　本大学に大学院を置く。

２　大学院に関する規則は別に定める。

第３章　修業年限・在学年限及び入学定員・編入学定員・収容定員

（修業年限及び在学年限）

第７条　本大学の修業年限は、薬学部生命創薬科学科、獣医学部動物資源科学科・生物環境科学科、海洋生命科学部、看護学部、理学部、医療衛生学部、未来工学部、健康科学部においては４年、薬学部薬学科、獣医学部獣医学科、医学部においては６年とする。

２　卒業までの在学年限は、各学部とも前項の修業年限の２倍を超えることができない。

ただし、編入学、転入学、再入学の場合には、在学すべき年数の２倍を超えることができないものとする。

３　薬学部、獣医学部、医学部、海洋生命科学部、医療衛生学部、未来工学部、健康科学部においては、原則として同一学科同一学年における在学年数を２年以内とする。

（入学定員、編入学定員及び収容定員）

第８条　学生の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科・専攻	入学定員	（編入学定員）			編入学収容定員	収容定員
			２年次編入	３年次編入	４年次編入		
薬学部	薬学科	260名					1,560名
	生命創薬科学科	35名					140名
	学部計	295名					1,700名
獣医学部	獣医学科	120名					720名
	動物資源科学科	130名					520名
	生物環境科学科	90名					360名
	学部計	340名					1,600名
医学部	医学科	110名					660名
	学部計	110名					660名
海洋生命科学部	海洋生命科学科	180名					720名
	学部計	180名					720名
看護学部	看護学科	125名					500名
	学部計	125名					500名
理学部	物理学科	53名					212名
	化学科	80名					320名
	生物科学科	80名					320名
	学部計	213名					852名
医療衛生学部	保健衛生学科	40名					160名
	医療検査学科	105名					420名
	医療工学科	115名					460名
	臨床工学専攻	45名					180名
	診療放射線技術科学専攻	70名					280名
	リハビリテーション学科	145名					580名
	理学療法学専攻	45名					180名
	作業療法学専攻	40名					160名
	言語聴覚療法学専攻	30名					120名
	視覚機能療法学専攻	30名					120名
	学部計	405名					1,620名
未来工学部	データサイエンス学科	100名					400名
	学部計	100名					400名
健康科学部	看護学科	80名					320名
	医療検査学科	80名					320名
	学部計	160名					640名
計		1,928名					8,692名

第４章　学年、学期及び休業日

（学　　年）

第９条　学年は、４月１日に始まり、翌年３月 31 日に終る。

（学　　期）

第 10 条　学年は、これを次の２学期に区分する。

前　期　　４月１日から９月 30 日まで

後　期　　10 月１日から３月 31 日まで

２　学長は必要により、各学期の授業の開始日及び終了日を変更することができる。

（休 業 日）

第 11 条　休業日は次のとおりとする。

(1)　日曜日

(2)　国民の祝日に関する法律に規定する休日

(3)　開校記念日（４月 20 日）

(4)　北里研究所創立記念日（11 月５日）

(5)　春期休業日（３月 21 日から４月５日まで）

(6)　夏期休業日（７月 21 日から８月 31 日まで）

(7)　冬期休業日（12 月 21 日から１月５日まで）

２　学長は、必要により休業日を変更し、若しくは臨時に休業し、又は休業日に実習見学などを行うことができる。

第５章　教育課程

（教育課程）

第 12 条　教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目、自由科目に区分し、その内容により１群科目、２群科目、３群科目、４群科目に分類したうえ各年次に配当して構成する。

２　１群科目は幅広い視野と豊かな人間性を形成する科目、２群科目は専門の基礎的知識・技術を形成する科目、３群科目は高度の専門的知識・技術を形成する科目、４群科目は総合的な能力を形成する科目（単位互換科目を含む。）とする。

（授業科目及び単位数等）

第 13 条　授業科目及び単位数等は別表２、３のとおりとする。

２　年間の履修登録単位数は 50 単位未満とする。

３　前項に規定する履修登録単位数の上限を緩和する場合については、別に定める。

（単　　位）

第 14 条　授業科目の単位数は、１単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね 15 時間から 45 時間までの範囲で、本大学が定める時間の授業をもって１単位とする。

２　前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、特論等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めるものとする。

（１年間の授業期間）

第 15 条　１年間の授業を行う期間は、35 週にわたることを原則とする。

２　各授業科目の授業は、十分な教育効果を上げることができるよう、８週、10 週、15 週その他の本大学が定める期間を単位として行うものとする。

（授業の方法）

第 16 条　授業は、講義、演習、実験、実習、実技のいずれかにより又はこれらの併用により行う。

２　本大学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

３　本大学は、第１項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても同様とする。

４　本大学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、第１項の授業の一部を、校舎及び附属施設以外の場

所で行うことができる。

（成績評価基準等の明示等）

第 17 条　本大学は、学生に対して、授業及び研究指導の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示する。

２　本大学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定にあたっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示する。

３　成績評価基準については、学部において別に定める。

第 18 条　削除

（履修の方法）

第 19 条　学生は、第７条第１項に定める期間（編入学、転入学、再入学の場合は在学すべき年数。）以上在学し、各学部所定の授業科目を履修しなければならない。

２　各学部所定の授業科目の一部を本大学の他学部他学科他専攻の授業科目の履修をもって代えることができる。

３　前２項の履修方法は各学部規則の定めるところによる。

（単位の授与及び評価）

第 20 条　本大学は、一の授業科目を履修した学生に対しては、試験その他の本大学が定める適切な方法により学修の成果を評価して単位を与えるものとする。

２　前項の評価は、優・良・可・不可の４種をもって表し、優・良・可を合格、不可を不合格とする。

３　前項の成績の原成績(素点)に基づき、成績の数値平均 Grade Point Average(以下「GPA」という。)を算出するものとする。GPA に関し必要な事項は別に定める。

（他の大学、専門職大学又は短期大学における授業科目の履修等）

第 21 条　本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学、専門職大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60 単位を超えない範囲で本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　前項の規定は、学生が外国の大学（専門職大学に相当する外国の大学を含む。以下この項において同じ。）又は短期大学に留学する場合、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合に準用する。

（大学以外の教育施設等における学修）

第 22 条　本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等学校等の専攻科、高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、大学の定めるところにより単位を与えることができる。

２　前項により与えることができる単位数は、前条第１項及び第２項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

（入学前の既修得単位等の認定）

第 23 条　本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が本大学に入学する前に大学、専門職大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本大学に入学した後の本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が本大学に入学する前に行った前条第１項に規定する学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

３　前２項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本大学において修得した単位以外のものについては、第 21 条第１項及び第２項並びに前条第１項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

（本大学以外での履修の許可）

第 24 条　本大学学生にして、第 21 条及び第 22 条に定める大学等で授業科目の履修を希望する者は、教授会の許可を得なければならない。

（教員の免許状の所要資格の取得）

第 25 条　教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、別表４－①及び別表４－②に従い、教育職員

免許法及び教育職員免許法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

2　本大学の学部の学科において、当該所要資格を取得できる教員の免許状の種類は、次のとおりとする。

獣医学部	動物資源科学科	中 学 校教諭一種免許状（理科）
	〃	高等学校教諭一種免許状（理科）
	生物環境科学科	高等学校教諭一種免許状（農業）
海洋生命科学部	海洋生命科学科	中 学 校教諭一種免許状（理科）
	〃	高等学校教諭一種免許状（理科）
看護学部	看　護　学　科	養護教諭一種免許状
理学部	物　理　学　科	中 学 校教諭一種免許状（理科）
	〃	高等学校教諭一種免許状（理科）
	化　　学　　科	中 学 校教諭一種免許状（理科）
	〃	高等学校教諭一種免許状（理科）
	生 物 科 学 科	中 学 校教諭一種免許状（理科）
	〃	高等学校教諭一種免許状（理科）
未来工学部	データサイエンス学科	高等学校教諭一種免許状（情報）

（学芸員資格の取得）

第 26 条　学芸員の資格を取得しようとする者は、別表５に従い、博物館法及び博物館法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

2　前項の学芸員の所要資格を得させるための課程を置く学部の学科は海洋生命科学部海洋生命科学科とする。

第６章　卒業の要件及び学士の学位

（卒業の要件及び学士の学位）

第 27 条　本大学の薬学部生命創薬科学科、獣医学部動物資源科学科・生物環境科学科、海洋生命科学部、看護学部、理学部、医療衛生学部、未来工学部、健康科学部に原則４年（編入学、転入学、再入学の場合は在学すべき年数。以下同じ。）以上在学し、若しくは薬学部薬学科、獣医学部獣医学科に原則６年以上在学し、別表２に定める単位を修得した者、又は医学部に原則６年以上在学し、別表２に定める単位を修得し、総合試験、共用試験医学系臨床実習後 OSCE に合格した者は卒業とし、次の学士の学位を授与する。

薬学部	薬学科	学士（薬学）
	生命創薬科学科	学士（薬科学）
獣医学部	獣医学科	学士（獣医学）
	動物資源科学科	学士（農学）
	生物環境科学科	学士（農学）
医学部	医学科	学士（医学）
海洋生命科学部	海洋生命科学科	学士（水産学）
看護学部	看護学科	学士（看護学）
理学部	物理学科	学士（理学）
	化学科	学士（理学）
	生物科学科	学士（理学）
医療衛生学部	保健衛生学科	学士（保健衛生学）
	医療検査学科	学士（医療検査学）
	医療工学科	
	臨床工学専攻	学士（臨床工学）
	診療放射線技術科学専攻	学士（診療放射線技術科学）
	リハビリテーション学科	
	理学療法学専攻	学士（理学療法学）
	作業療法学専攻	学士（作業療法学）
	言語聴覚療法学専攻	学士（言語聴覚療法学）
	視覚機能療法学専攻	学士（視覚機能療法学）
未来工学部	データサイエンス学科	学士（工学）

健康科学部	看護学科	学士（看護学）
	医療検査学科	学士（医療検査学）

2　第１項の規定により卒業の要件として修得すべき単位数のうち、第 16 条第２項の授業の方法により、修得する単位数は 60 単位を超えないものとする。

ただし、各学部において 124 単位を超える単位数を卒業の要件としている場合は、同条第１項の授業方法によって 64 単位以上の修得がなされていれば、同条第 2 項の授業の方法によって修得する単位数については、60 単位を超えることができるものとする。

第７章　入学、編入学、転入学、再入学、転学部、転学科、転専攻、転学、休学、復学、留学、退学及び除籍

（入学の時期）

第 28 条　入学の時期は、学年の初めとする。

ただし、学長は、必要により学年の途中においても、学生を入学させ及び卒業させることができる。

（入学の資格）

第 29 条　本大学の学部の第１学年に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1)　高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者

(2)　通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者

(3)　外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

(4)　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5)　専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(6)　文部科学大臣の指定した者

(7)　高等学校卒業程度認定試験規則により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定規定による大学入学資格検定に合格した者を含む。）

(8)　本大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

（入学の出願、選考、手続き及び許可）

第 30 条　本大学に入学を志願する者は、入学願書に入学検定料及び別に定める書類を添えて願い出て、本大学が行う選考を受けなければならない。

2　前項の選考に合格した者は、指定された期日までに、第 43 条に定める入学金、授業料、施設設備費等（以下「学費」という。）に保証人連署の誓約書及び所定の書類を添えて、入学手続きを完了しなければならない。

3　学長は、前項の入学手続きを完了した者について、入学を許可する。

4　前３項の規定は編入学、転入学、再入学の場合にも適用する。

（編 入 学）

第 31 条　次の各号の一に該当する者が、本大学に編入学を願い出たときは、第８条の編入学定員の規定により、選考のうえ相当年次に入学を許可する。

ただし、編入学定員を定めていない学部の学科においては、定員に余裕のある場合に限り、選考のうえ相当年次に入学を許可することがある。

(1)　大学を卒業した者及び学士の学位を有する者

(2)　大学に２年以上在学し 62 単位以上を修得した者

(3)　外国において、学校教育における 14 年以上の課程を修了した者

(4)　短期大学、高等専門学校、国立工業教員養成所又は国立養護教諭養成所を卒業した者

(5)　学校教育法施行規則附則第７条に定める従前の規定による高等学校、専門学校又は教員養成諸学校等の課程を修了した者又は卒業した者

(6)　高等学校等の専攻科又は専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者で、学校教育法第 90 条に規定する大学入学資格を有する者

2　前項により入学を許可された者の、既に修得した授業科目及び単位数並びに在学すべき年数の認定は、教授会の議を経て行う。
3　前項の規定は転入学、再入学の場合にも適用する。
4　編入学に関する規程は別に定める。

（転 入 学）

第 32 条　他の大学の学生が、当該大学長の許可を得て本大学に転入学を願い出たときは、定員に余裕のある場合に限り、選考のうえ相当年次に入学を許可することがある。
2　転入学に関する規程は別に定める。

（再 入 学）

第 33 条　本大学を退学した者又は除籍された者（第 41 条第４号乃至第８号の除籍者及び第 53 条の懲戒退学者を除く。）が、同一学部の同一学科、同一専攻に 2 年以内に再入学を願い出たときは、選考のうえ相当年次に入学を許可することがある。
2　再入学に関する規程は別に定める。

（転学部、転学科、転専攻）

第 34 条　本大学の学生で、本大学の他の学部へ転学部を希望する者、又は同一学部内の他の学科及び他の専攻へ転学科、転専攻を希望する者があるときは、定員に余裕のある場合に限り、選考のうえ相当年次にこれを許可することがある。
2　前項により転学部等を許可された者の､既に修得した授業科目及び単位数並びに在学すべき年数の認定は、教授会の議を経て行う。
3　転学部、転学科、転専攻に関する規程は別に定める。

（転　　学）

第 35 条　本大学から他の大学へ転学を希望する者は、その事由を具して学長に願い出て、許可を受けなければならない。

（休　　学）

第 36 条　薬学部、獣医学部、海洋生命科学部、看護学部、理学部、医療衛生学部、未来工学部、健康科学部においては、病気その他やむを得ない事由により、次の各号の一に該当する者は、休学願に保証人連署のうえ学長に願い出て、許可を受けなければならない。ただし、疾病の場合は、医師の診断書を添付するものとする。

医学部においては、病気その他やむを得ない事由により、第１号、第２号及び第４号に該当する者は、休学願に保証人連署のうえ学長に願い出て、許可を受けなければならない。ただし、疾病の場合は、医師の診断書を添付するものとする。

(1)　学年初めから学年末まで 1 年間就学することができない者
(2)　学年初めから引き続き後期授業開始日の前日まで就学することができない者
(3)　学年末まで引き続き 6 ヵ月以上就学することができない者
(4)　外国人留学生で出身国における兵役等に就く必要がある者

2　第 1 項第 1 号により休学をした者は､願い出により許可を得て第 2 号による休学に変更することができる。
3　第 1 項第 2 号により休学した者が復学後に改めて休学を願い出た場合は､許可を得て後期授業開始日から第 3 号により休学するものとする。
4　本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が休学期間中に第 21 条及び第 22 条に定める大学等において修得した単位を、60 単位を超えない範囲で卒業に必要な単位として認定することができる。
5　第１項第４号による休学を希望する場合は、兵役等に就く事実及び期間を確認できる書類を休学願に添付するものとする。

（休学期間）

第 37 条　休学の期間は、当該年度限りとして、１年を超えることができない。
ただし、特別の事由があるときは、許可を得て、更に１年以内に限り休学することができる。
2　休学の通算年数は、第７条第１項に定める修業年限の範囲内とする。
3　休学の期間は、在学の期間に算入しない。
4　前条第１項第２号による休学期間は 0.5 年として扱う。
5　前条第１項第４号による休学の場合は、第１項に定める休学の期間を適用しない。 また、その期間は、第

2 項に定める休学の通算年数に算入しない。

（復　　学）

第 38 条　休学者が復学しようとするときは、復学願に保証人連署のうえ学長に願い出て、許可を受けなければならない。

ただし、休学の事由が疾病の場合は、校医又は医師の診断書を添付するものとする。

２　復学は、学年の初め又は後期授業開始日でなければこれを行うことができない。

３　前項により後期授業開始日に復学をする場合、当該年度における学年末までの在学期間は 0.5 年として扱う。

（留　　学）

第 39 条　本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が休学することなく外国の大学又は短期大学に留学することを認めることができる。

２　留学の期間は、１年間に限り在学年数に算入する。

３　留学中に修得した授業科目の単位は、60 単位を超えない範囲で卒業に必要な単位として認定することができる。

４　留学に関する規程は別に定める。

（退　　学）

第 40 条　退学しようとする者は、退学願にその事由を具して、保証人連署のうえ学長に願い出て、許可を受けなければならない。

（除　　籍）

第 41 条　次の各号の一に該当する者は、学長がこれを除籍する。

(1)　正当な事由がなく所定の期日までに学費を納めない者

(2)　休学期間満了後、10 日以内に何等の手続きをしない者

(3)　留年したとき、学年開始 10 日以内に何等の手続きをしない者

(4)　２ヵ月以上も何等の手続きをしないで引き続き欠席した者

(5)　第７条第２項乃至第３項に規定する期間を超えた者

(6)　第 37 条第１項乃至第２項に規定する期間を超えた者

(7)　死亡が確認された者

(8)　２ヵ年以上も快復が困難で、学業の継続ができない疾病と校医が診断した者

第８章　学　　費

（入学検定料等）

第 42 条　入学検定料等は、別表６－①及び６－②に示すとおりとする。

（学　　費）

第 43 条　学費は別表６－①に示す入学金、授業料、施設設備費、教育充実費及び別表６－②に示す登録料、科目等履修料、別表６－③に示す教職課程及び学芸員養成課程履修料のとおりとする。

２　いったん納入した学費は、別に定める場合を除き、一切返還しない。

３　学費は、社会情勢により、次の年度に進むとき変更することがある。

（納入期日）

第 44 条　学費は、毎年前期は４月 30 日までに、後期は 10 月 31 日までに所定の額を納入するものとする。

２　学費納入に関する規程は別に定める。

（休学期間中の在籍料）

第 45 条　休学期間中は、休学期間に応じ、授業料、施設設備費、教育充実費を免除し、在籍料を徴収する。この取り扱いは別に定める。

第９章　単位互換履修生、科目等履修生、研究生及び外国人学生

（単位互換履修生）

第 46 条　本大学と単位互換協定のある大学及び短期大学の学生で、本大学の授業科目の履修を希望する者は、正規の学生の学修に支障のない限り、教授会の議を経て、単位互換履修生としてこれを許可することができる。

（科目等履修生）

第 47 条　本大学は、本大学の学生以外の者で第 29 条第 1 項に該当する者が本大学の授業科目の一又は複数の科目の履修を願い出たときは、正規の学生の学修に支障のない限り、教授会の議を経て、科目等履修生としてこれを許可することができる。

２　科目等履修生は、別表６－②に示す審査料及び学費を所定の期日までに納入しなければならない。

３　科目等履修生に対する単位の授与については、第 20 条の規定を準用する。又、願い出があったときは単位修得証明書又は履修証明書を交付する。

（研 究 生）

第 48 条　学士号又は学士の学位を有する者が、学部において研究、実験、実習を行うことを願い出たときは、正規の学生の学修に支障のない限り、教授会の議を経て、研究生としてこれを許可することができる。

２　研究生の在学期間は１年とする。

ただし、研究生が引き続き在学を願い出たときは、在学期間の延長を許可することがある。

３　研究生は､授業料等の学費を次の各号の定めるところにより､所定の期日までに納入しなければならない。

(1)　研究を主たる目的とする研究生にあっては、正規の学生の学費に関する規定を準用する。

(2)　実験、実習を主たる目的とする研究生にあっては、科目等履修生の学費に関する規定を準用する。

（外国人学生）

第 49 条　第 29 条第１項に定める入学資格を有する外国人で、本大学に入学を志願する者があるときは、外務省在外公館又は本邦所在の外国公館の証明のある者に対し、選考のうえ入学を許可することができる。

（規定の準用等）

第 50 条　単位互換履修生、科目等履修生、研究生については、第９章の規定のほか、正規の学生に関する規定を準用する。

２　外国人科目等履修生、外国人研究生については、第 47 条又は第 48 条の規定を準用する。

第 10 章　公開講座

（公開講座）

第 51 条　公開講座は、教授会の議を経て随時開設する。

第 11 章　賞　　罰

（表　　彰）

第 52 条　学業が特に優秀な者、又は学生の模範となる行為をした者は、教授会の議を経て学長がこれを表彰することがある。

表彰規程は別に定める。

（懲　　戒）

第 53 条　本大学の教育の趣旨に背き、又は学生の本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て学長がこれを懲戒する。

懲戒は、けん責、謹慎、受験停止、停学及び退学の処分とし、次の各号の一に該当する場合は、懲戒退学の処分とする。

(1)　性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2)　学業劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3)　正当の理由なくして出席常でない者

(4)　本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第 12 章　教職員組織

（学長、学部長等）

第 54 条　本大学に学長及び学部長を置く。

２　学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。

３　本大学に副学長、学長補佐並びに学部の学科長又は運営委員、一般教育部に一般教育部長を置くことができる。

４　副学長に関する規程は別に定める。

５　学長補佐に関する規程は別に定める。

（教員、事務職員等）

第 55 条　本大学に教授、准教授、講師、助教、助手を置く。

２　本大学に事務職員、技術職員、技能職員等を置く。

３　教員及び事務職員等に関する規程は別に定める。

（学部長会）

第 56 条　本大学に学部長会を置き、大学全般にわたる学事に関する事項を協議する。

２　学部長会は、学長、副学長、学部長、一般教育部長、学長補佐、病院長、大学図書館長、大村智記念研究所長、学生指導委員会委員長、健康管理センター長をもって構成する。

３　学部長会は学長が招集し、議長となる。

４　学部長会は次の事項を協議する。

(1)　教育研究の基本方針及び学事計画に関する事項

(2)　学部、学科、専攻、一般教育部、課程、附属施設等の設置、改廃に関する事項

(3)　大学学則及び学事規程に関する事項

(4)　教育研究組織に関する事項

(5)　教育職員の人事に関する事項

(6)　教育課程に関する事項

(7)　学生の課外活動、厚生補導、就職指導に関する事項

(8)　その他大学全般にわたる学事に関する重要事項

５　学部長会に関する規程は別に定める。

（学長・副学長会議）

第 56 条の２　本大学に学長・副学長会議を置き、全学的な教学事項を協議する。

２　学長・副学長会議に関する規程は別に定める。

（教 授 会）

第 57 条　本大学の学部に学部教授会を置く。

２　学部教授会は、当該学部の専任教授をもって構成する。

ただし、必要あるときは、当該学部の准教授、専任講師、助教を加えることができる。

３　学部教授会は、構成員の３分の２以上の出席がなければ議事を開くことができない。

４　学部教授会は、当該学部における教育研究に関する次の各号に掲げる事項を審議し、学長に意見を述べるものとする。

(1)　学生の入学、卒業及び課程の修了

(2)　学位の授与

(3)　前 2 号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの（学長裁定）

５　各学部と一般教育部との連係協調を図るため、一般教育部に一般教育連合教授会を置く。

６　学部教授会、一般教育連合教授会に関する規程は別に定める。

（教授会に設置される委員会等）

第 58 条　学部教授会及び一般教育連合教授会は、その定めるところにより、教授会構成員の一部の者をもって構成される運営委員会、専門委員会等を置くことができる。

２　教授会は、その定めるところにより、運営委員会、専門委員会等の議決をもって教授会の議決とすることができる。

（名誉学長）

第 59 条　本大学は、本大学の教育・研究その他について助言を受ける必要があると認めたときは、学長として勤務した者をもって北里大学名誉学長（以下「名誉学長」という。）を委嘱することができる。名誉学長の委嘱期間は当該学長の在任期間とする。

（名誉教授）

第 60 条　本大学は、本大学に学長、副学長、学部長、教授、准教授又は講師として勤務した者であって、教育上又は学術上特に功績のあった者に対し、本大学の定めるところにより、北里大学名誉教授の称号を授与することができる。

２　名誉教授に関する規程は別に定める。

第 13 章　厚生補導

（学生指導委員会）

第 61 条　本大学における学生の厚生補導の充実を図るため、学部に学生の指導機関を置き、かつ全学的組織として、学生指導委員会を置く。

２　学生指導委員会規程は別に定める。

（課外活動組織）

第 62 条　本大学における課外教育を推進するため、教職員及び学生よりなる課外活動組織を置く。

２　課外活動組織に関する規程は別に定める。

（校医及び健康管理センター、保健室）

第 63 条　本大学に校医及び北里大学健康管理センター、北里大学保健室を置き、学生及び教職員の保健教育及び保健管理を行う。

２　校医及び北里大学健康管理センター、北里大学保健室に関する規程は別に定める。

第 14 章　附属施設

（附属施設）

第 64 条　本大学に次の附属施設を置く。

北里大学附属施設	各学部等附属施設
北里大学病院	薬学部附属薬用植物園
北里大学北里研究所病院	薬学部附属医薬研究施設
北里大学メディカルセンター	薬学部附属臨床薬学研究・教育センター
北里大学図書館	薬学部附属環境管理センター
北里大学白金図書館	薬学部附属東洋医学総合研究所
北里大学獣医学部図書館	獣医学部附属動物病院
北里大学医学図書館	獣医学部附属フィールドサイエンスセンター
北里大学海洋生命科学部図書館	十和田農場
北里大学看護学部図書館	八雲牧場
北里大学理学部図書館	獣医学部附属獣医臨床試験センター
北里大学健康科学部図書館	医学部附属遺伝子高次機能解析センター
北里大学教養図書館	医学部附属バイオイメージング研究センター
北里大学大村智記念研究所	医学部附属医学教育研究開発センター
北里大学感染制御教育研究センター	医学部附属臨床研究センター
北里大学入学センター	医学部附属新世紀医療開発センター
北里大学健康管理センター	海洋生命科学部附属三陸臨海教育研究センター
北里大学高等教育開発センター	理学部附属疾患プロテオミクス・センター
北里大学農医連携教育研究センター	医療衛生学部附属再生医療・細胞デザイン研究施設
北里大学教職課程センター	
北里大学看護キャリア開発･研究センター	
北里大学附属臨床心理相談センター	
北里大学八雲総合実習所	

２　附属施設に関する規程は別に定める。

第 15 章　補　　則

（細　　則）

第 65 条　この学則の実施に関し必要な細則は別に定める。

第 16 章　雑　　則

（組織的な研修等）

第 66 条　本大学は、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、所属職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修（次項に規定する研修に該当するものを除く。）の機会を設けることその他必要な取組を行うものとする。

２　本大学は、学生に対する教育の充実を図るため、当該大学の授業の内容及び方法を改善するために組織的

な研修及び教育を行うものとする。
3　本大学は、指導補助者（教員を除く。）に対し、必要な研修を行うものとする。
4　前３項の研修等に関し、必要な事項は別に定める。
（教員と事務職員等の連携及び協働）
第 67 条　本大学は、教育研究活動等の組織的かつ効果的な運営を図るため、教員と事務職員等との適切な役割分担の下で、これらの者の間の連携体制を確保し、これらの者の協働によりその職務が行われるよう留意するものとする。

附則
1　この学則は、昭和 54 年 4 月 1 日から施行する。
2　第 43 条（学費）並びに第 47 条第 2 項については、昭和 54 年度入学者から適用する。
附則
1　この学則は、昭和 55 年 4 月 1 日から施行する。
2　第 43 条（学費）並びに第 47 条第 2 項については、昭和 55 年度入学者から適用する。
附則
1　この学則は、昭和 56 年 4 月 1 日から施行する。
2　第 43 条（学費）並びに第 47 条第 2 項については、昭和 56 年度入学者から適用する。
附則
1　この学則は、昭和 57 年 4 月 1 日から施行する。
2　第 43 条（学費）並びに第 47 条第 2 項については、昭和 57 年度入学者から適用する。
附則
1　この学則は、昭和 58 年 4 月 1 日から施行する。
2　第 42 条（入学検定料等）及び第 43 条（学費）並びに第 47 条第 2 項については、昭和 58 年度入学者から適用する。
附則
1　この学則は、昭和 59 年 4 月 1 日から施行する。
2　第 42 条（入学検定料等）及び第 43 条（学費）並びに第 47 条第 2 項については、昭和 59 年度入学者から適用する。
附則
1　この学則は、昭和 60 年 4 月 1 日から施行する。
2　第 42 条（入学検定料等）及び第 43 条（学費）並びに第 47 条第 2 項については、昭和 60 年度入学者から適用する。
附則
1　この学則は、昭和 61 年 4 月 1 日から施行する。
2　第 43 条（学費）については、昭和 61 年度入学者から適用する。
附則
1　この学則は、昭和 62 年 4 月 1 日から施行する。
2　第 43 条（学費）並びに第 47 条第 2 項については、昭和 62 年度入学者から適用する。
附則
1　この学則は、昭和 63 年 4 月 1 日から施行する。
2　第 42 条（入学検定料等）並びに第 43 条（学費）については、昭和 63 年度入学者から適用する。
附則
1　この学則は、平成元年 4 月 1 日から施行する。
2　第 43 条（学費）並びに第 47 条第 2 項については、平成元年度入学者から適用する。
附則
1　この学則は、平成 2 年 4 月 1 日から施行する。
2　第 42 条（入学検定料等）については、平成 2 年度入学者から適用する。
附則
1　この学則は、平成 3 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 43 条（学費）については、平成 3 年度入学者から適用する。

附則

この学則中第 27 条（卒業の要件及び学士の学位）については、平成 3 年 7 月 1 日から、第 43 条（学費）、第 47 条（科目等履修生）、第 48 条（研究生）、第 49 条（外国人学生）の学費については、平成 3 年 10 月 1 日から適用する。

附則

1　この学則は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 43 条関係別表６のうち看護学部の入学金及び授業料等については、平成 4 年度入学者から適用する。

附則

1　この学則は、平成 5 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 43 条関係別表６のうち看護学部の授業料については、平成 5 年度入学者から適用する。

附則

1　この学則は、平成 6 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）の規定にかかわらず、平成 6 年度から平成 10 年度までの間の理学部生物科学科の入学定員は 60 名、収容定員は 240 名とする。

3　第 42 条（入学検定料等）及び第 43 条（学費）の規定については、平成 6 年度入学者から適用する。

4　平成 6 年度より衛生学部の学生募集を停止する。

5　医学部医学科入学定員の変更にともない、第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）の規定にかかわらず、医学部医学科の収容定員は次のとおりとする。

学　科	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度
医　学　科	700	680	660	640	620
収容定員合計	700	680	660	640	620

附則

1　この学則は、平成 7 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 43 条（学費）に定める別表 6－①の薬学部施設設備費及び海洋生命科学部授業料、看護学部授業料については、平成 7 年度入学者から適用する。

3　第 42 条（入学検定料等）及び第 43 条（学費）に定める別表 6－②は、平成 7 年度科目等履修生から適用する。

附則

1　この学則は、平成 8 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 43 条（学費）に定める別表 6－①の薬学部施設設備費及び看護学部授業料、実験実習費、施設設備費については、平成 8 年度入学者から適用する。

附則

1　この学則は、平成 9 年 4 月 1 日から施行する。

2　平成 9 年 5 月 30 日をもって衛生学部を廃止する。

3　衛生学部の廃止にともない、第 5 条（学部、学科、専攻）、第 7 条（修業年限及び在学年限）、第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）、第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2、3、第 25 条（教員の免許状の所要資格の取得）及び同条に定める別表 4、第 27 条（卒業の要件及び学士の学位）、第 42 条（入学検定料等）及び第 43 条（学費）に定める別表 6－①、6－②、第 64 条（附属施設）、平成 2 年 4 月 1 日施行の附則第 2 項、平成 6 年 4 月 1 日施行の附則第 5 項から衛生学部関係条項を削除する。

4　第 43 条（学費）に定める別表 6－①の薬学部施設設備費、看護学部授業料、施設設備費については、平成 9 年度入学者から適用する。

附則

1　この学則は、平成 10 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 43 条（学費）に定める別表 6－①の薬学部授業料、海洋生命科学部授業料、理学部授業料、実験実習費、施設設備費、医療衛生学部入学金、授業料、施設設備費については、平成 10 年度入学者から適用する。

附則

1　この学則は、平成 11 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）の規定にかかわらず、平成 11 年度の理学部生物科学科の入学定員は 60 名、収容定員は 240 名とする。

3　第 25 条（教員の免許状の所要資格の取得）に定める別表 4 については、理学部物理学科・化学科・生物科学科の平成 11 年度入学者から適用する。

4　第 42 条（入学検定料等）に定める別表 6－①の入学検定料及び第 43 条（学費）に定める別表 6－③の教職課程履修料については、平成 11 年度入学者から適用する。

附則

1　この学則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる海洋生命科学部海洋生命科学科の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学　科	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
海洋生命科学科	160	320	480	640

3　平成 12 年度より水産学部水産増殖学科、水産食品学科の学生募集を停止する。

4　第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる医療衛生学部の編入学収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学　部	学科・専攻	平成12年度	平成13年度	平成14年度
医療衛生学部	リハビリテーション学科			
	理学療法学専攻	6	10	12
	作業療法学専攻	6	10	12
	言語聴覚療法学専攻	6	10	12
	視覚機能療法学専攻	6	10	12
	計	24	40	48
	医療工学科			
	臨床工学専攻	6	10	12
	診療放射線技術科学専攻	9	15	18
	計	15	25	30
編入学収容定員合計		39	65	78

5　第 43 条（学費）に定める別表 6－①の医学部教育充実費については、平成 12 年度入学者から適用する。

6　平成元年 4 月 1 日施行の附則第 3 項に定める別表 7 を削除し、これに係わる各年の附則の該当箇所を削除する。

附則

1　この学則は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2、3 については平成 13 年度入学者から、第 19 条（履修の方法）第 2 項については薬学部、海洋生命科学部、医療衛生学部にあっては平成 13 年度入学者及び在学者から、理学部にあっては平成 13 年度在学者から適用する。

3　第 25 条（教員の免許状の所要資格の取得）に定める別表 4 の「教職総合演習」については、平成 13 年度入学者及び在学者から適用する。

4　第 43 条（学費）乃至第 45 条（休学期間中の学費）については、平成 13 年度入学者及び在学者から適用する。

附則

1　この学則は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 43 条（学費）に定める別表 6－①の薬学部授業料については、平成 14 年度入学者から適用する。

3　平成 14 年 3 月 31 日薬学部薬学科及び製薬学科の中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状課程の終了にともない、第 25 条（教員の免許状の所要資格の取得）から薬学部薬学科及び製薬学科の関係条項を削除する。

4　第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2、3 及び第 19 条（履修の方法）第 2 項については、看護学部にあっては平成 14 年度入学者及び在学者から適用する。

附則

1　この学則は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

2　平成 15 年 3 月 31 日をもって水産学部水産増殖学科、水産食品学科を廃止する。

3　水産学部水産増殖学科、水産食品学科の廃止にともない、第 5 条（学部、学科、専攻）、第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）、第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2、3、第 25 条（教員の免許状の所要資格の取得）及び同条に定める別表 4、第 26 条（学芸員資格の取得）、第 27 条（卒業の要件及び学士の学位）、平成 11 年 4 月 1 日施行の附則第 5 項、平成 12 年 4 月 1 日施行の附則第 4 項から水産学部水産増殖学科、水産食品学科関係条項を削除する。

附則

1　この学則は、平成 15 年 8 月 1 日から施行する。

2　この学則中第 59 条（名誉学長）、第 60 条（名誉教授）及び第 64 条（附属施設）第 1 項第 6 号については、平成 15 年 8 月 1 日から適用する。

附則

1　この学則は平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 43 条（学費）に定める別表６－①の薬学部授業料、医学部教育充実費については、平成 16 年度入学者から適用する。

3　獣医畜産学部獣医学科の中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状課程並びに学芸員資格を付与する課程を廃止することにともない、第 25 条（教員の免許状の所要資格の取得）及び同条に定める別表４、第 26 条（学芸員資格の取得）及び同条に定める別表 5、第 43 条（学費）に定める別表 6－③、平成 11 年 4 月 1 日施行の附則第 5 項から獣医畜産学部獣医学科関係条項を削除する。

ただし、当該課程は獣医畜産学部獣医学科の履修者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

4　第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2、3 については、医学部にあっては平成 16 年度入学者及び在学者から適用する。

附則

1　この学則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2、3 については、医学部及び海洋生命科学部にあっては平成 17 年度入学者及び在学者から適用する。また、理学部にあっては平成 17 年度入学者から適用し、在学者にも一部適用する。

3　第 30 条（入学の出願、選考、手続き及び許可）第 2 項については平成 17 年度入学者から、第 43 条（学費）第 1 項及び同項に定める別表 6－①、第 45 条（休学期間中の学費）については平成 17 年度入学者及び在学者から適用する。

附則

1　この学則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

2　平成 18 年度より薬学部薬学科（4 年制）、製薬学科の学生募集を停止する。

ただし、薬学部薬学科（4 年制）、製薬学科は、第 5 条（学部、学科、専攻）の規定にかかわらず、当該学科に在学する者が在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

3　医療衛生学部衛生技術学科の学生募集停止の時期は次のとおりとする。

専　攻	臨 床 検 査 学 専 攻				産業衛生学専攻
学生募集停止の時期	１年次	編　入　学			１年次
		２年次	３年次	４年次	
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成18年度

ただし、医療衛生学部衛生技術学科臨床検査学専攻及び産業衛生学専攻は、第 5 条（学部、学科、専攻）の規定にかかわらず、当該学科に在学する者が在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

4　第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる薬学部及び医療衛生学部の編入学収容定員、収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学　部	学科・専攻	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
薬学部	薬学科	260	520	780	1,040	1,290	1,540
	生命創薬科学科	20	40	60	80	95	110
	合　計	280	560	840	1,120	1,385	1,650

学部	学科・専攻		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
医療衛生学部	健康科学科	収容定員	40	80	120	160
	医療検査学科	編入学収容定員	0	2	6	10
		収容定員	90	182	276	370
	医療工学科					
	臨床工学専攻	編入学収容定員	12	12	12	12
		収容定員	140	148	156	164
	診療放射線技術科学専攻	編入学収容定員	15	13	12	12
		収容定員	225	233	242	252
	計	編入学収容定員	27	25	24	24
		収容定員	365	381	398	416
	リハビリテーション学科					
	理学療法学専攻	編入学収容定員	8	6	6	6
		収容定員	136	142	150	158
	作業療法学専攻	編入学収容定員	8	6	6	6
		収容定員	136	142	150	158
	言語聴覚療法学専攻	編入学収容定員	8	6	6	6
		収容定員	96	102	110	118
	視覚機能療法学専攻	編入学収容定員	8	6	6	6
		収容定員	96	102	110	118
	計	編入学収容定員	32	24	24	24
		収容定員	464	488	520	552
	編入学収容定員合計		59	51	54	58
	収容定員合計		959	1,131	1,314	1,498

5　第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2、3 については、医療衛生学部医療工学科及びリハビリテーション学科にあっては平成 18 年度入学者から、看護学部にあっては平成 18 年度入学者及び在学者から適用する。また、医学部、海洋生命科学部、理学部にあっては平成 18 年度入学者から適用し、在学者にも一部適用する。

附則

1　この学則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる獣医学部の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学　科	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
獣医学科	120名	240名	360名	480名	600名	720名
動物資源科学科	120名	240名	360名	480名	480名	480名
生物環境科学科	80名	160名	240名	320名	320名	320名
合　計	320名	640名	960名	1,280名	1,400名	1,520名

3　第 5 条第 1 項の獣医学部生物環境科学科には生態環境コース及び環境修復コースを置く。学生定員は各コースとも一学年あたり 40 名とする。同学科は学科として学生を募集し、3 年次進級の際に各コースに振り分ける。

4　平成 19 年度より獣医畜産学部獣医学科、動物資源科学科、生物生産環境学科の学生募集を停止する。

5　第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2、3 については、薬学部薬学科・生命創薬科学科、海洋生命科学部、理学部にあっては平成 19 年度入学者から、看護学部にあっては平成 19 年度入学者及び在学者から適用する。また医療衛生学部医療検査学科にあっては平成 19 年度入学者から適用し、在学者にも一部適用する。

附則

1　この学則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

2　平成 20 年 4 月 1 日をもって水産学部水産生物科学科の学部学科名称を海洋生命科学部海洋生命科学科に変更し、平成 20 年度入学者から適用する。

ただし、水産学部水産生物科学科は、第 5 条（学部、学科、専攻）の規定にかかわらず、平成 20 年 3 月 31 日に当該学部に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

3　水産学部水産生物科学科の学部学科名称変更にともない、第5条（学部、学科、専攻）、第7条（修業年限及び在学年限）、第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）、第13条（授業科目及び単位数等）に定める別表2、3、第25条（教員の免許状の所要資格の取得）及び同条に定める別表4、第26条（学芸員資格の取得）及び同条に定める別表5、第27条（卒業の要件及び学士の学位）、第42条（入学検定料等）及び第43条（学費）に定める別表6－①、第64条（附属施設）、平成7年4月1日施行の附則第2項、平成10年4月1日施行の附則第2項、平成12年4月1日施行の附則第2項、平成13年4月1日施行の附則第2項、平成17年4月1日施行の附則第3項、平成18年4月1日施行の附則第5項、平成19年4月1日施行の附則第6項の名称を変更する。

4　第13条（授業科目及び単位数等）に定める別表2、3については、薬学部、看護学部、医療衛生学部にあっては平成20年度入学者から、医学部にあっては平成20年度入学者及び在学者から、理学部物理学科、化学科にあっては平成20年度入学者及び在学者（平成18年度以降入学者）から適用する。また、理学部生物科学科にあっては平成20年度入学者から適用し、在学者にも一部適用する。

附則

1　この学則は、平成21年4月1日から施行する。

2　平成21年3月31日をもって医療衛生学部衛生技術学科臨床検査学専攻・産業衛生学専攻を廃止する。

3　医療衛生学部衛生技術学科臨床検査学専攻・産業衛生学専攻の廃止にともない、第5条（学部、学科、専攻）、第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）、第13条（授業科目及び単位数等）に定める別表２、３、第27条（卒業の要件及び学士の学位）、平成12年4月1日施行の附則第5項、平成18年4月1日施行の附則第4項、平成19年4月1日施行の附則第6項から医療衛生学部衛生技術学科臨床検査学専攻・産業衛生学専攻関係条項を削除する。

4　第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる医学部医学科の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学　科	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
医学科	610	620	630	640	650	660

5　第13条（授業科目及び単位数等）に定める別表2、3については、薬学部にあっては平成21年度在学者（平成18年度・19年度入学者）に適用する。獣医学部動物資源科学科にあっては平成21年度入学者から適用し、在学者にも自由科目として一部適用する。海洋生命科学部にあっては、平成21年度入学者から適用し、在学者にも一部適用する。看護学部にあっては平成21年度入学者から適用する。また、理学部にあっては平成21年度入学者及び在学者から適用する。

6　第25条（教員の免許状の所要資格の取得）に定める別表4－②については、平成21年度入学者から適用する。

7　第43条（学費）に定める別表6－③の教職課程履修料については、平成21年度入学者から適用する。

附則

1　この学則は、平成22年4月1日から施行する。

2　平成22年4月1日をもって薬学部薬科学科の学科名称を生命創薬科学科に変更し、平成22年度入学者から適用する。

ただし、薬学部薬科学科は、第5条（学部、学科、専攻）の規定にかかわらず、平成22年3月31日に当該学部に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

3　薬学部薬科学科の学科名称変更にともない、第5条（学部、学科、専攻）、第7条（修業年限及び在学年限）、第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）、第13条（授業科目及び単位数等）に定める別表2、3、第27条（卒業の要件及び学士の学位）、第42条（入学検定料等）及び第43条（学費）に定める別表6－①、平成18年4月1日施行の附則第4項、平成19年4月1日施行の附則第6項の名称を変更する。

4　第8条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる薬学部、医学部及び看護学部の編入学収容定員、収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学　部	学　科	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
薬学部	薬学科	1,290	1,540	1,530	1,520	1,510	1,500
	生命創薬科学科	95	110	125	140	140	140
	合　計	1,385	1,650	1,655	1,660	1,650	1,640

学　部	学　科	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
医　学　部	医　学　科	622	634	646	658	670	672

学　部	学　科		平成22年度	平成23年度	平成24年度
看護学部	看護学科	編入学収容定員	10	20	30
		収容定員	410	420	430

5　第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2、3 については、薬学部、理学部物理学科にあっては平成 22 年度入学者から適用する。

6　第 25 条（教員の免許状の所要資格の取得）に定める別表 4－①「教職実践演習（中等）」及び別表 4－②「教職実践演習（養護）」については、平成 22 年度入学者から適用する。

7　第 42 条（入学検定料等）に定める別表 6－①の薬学部生命創薬科学科入学検定料及び第 43 条（学費）に定める別表 6－①の薬学部生命創薬科学科授業料、施設設備費、実験実習費及び看護学部授業料については、平成 22 年度入学者から適用する。

附則

1　この学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2、3 については、獣医学部動物資源科学科にあっては、平成 23 年度入学者から適用し、在学者にも一部適用する。薬学部、医学部、医療衛生学部健康科学科にあっては、平成 23 年度入学者から適用する。

附則

1　この学則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

2　文部科学大臣に届け出た日をもって薬学部薬学科（4 年制）、製薬学科を廃止する。

3　薬学部薬学科（4 年制）、製薬学科の廃止にともない、第 5 条（学部、学科、専攻）、第 7 条（修業年限及び在学年限）、第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）、第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2、3、第 27 条（卒業の要件及び学士の学位）、平成 17 年 4 月 1 日施行の附則第 2 項、平成 18 年 4 月 1 日施行の附則第 4 項及び第 5 項から薬学部薬学科（4 年制）、製薬学科関係条項を削除する。

4　平成 23 年 4 月 15 日をもって獣医畜産学部動物資源科学科、生物生産環境学科を廃止する。

5　獣医畜産学部動物資源科学科、生物生産環境学科の廃止にともない、第 5 条（学部、学科、専攻）、第 7 条（修業年限及び在学年限）、第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）、第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2、3、第 27 条（卒業の要件及び学士の学位）、第 43 条（学費）に定める別表 6-①、昭和 61 年 4 月 1 日施行の附則第 2 項、平成 8 年 4 月 1 日施行の附則第 2 項、平成 9 年 4 月 1 日施行の附則第 4 項、平成 11 年 4 月 1 日施行の附則第 2・3 項、平成 12 年 4 月 1 日施行の附則第 4 項、平成 14 年 4 月 1 日施行の附則第 2 項、平成 17 年 4 月 1 日施行の附則第 3 項、平成 19 年 4 月 1 日施行の附則第 5 項から獣医畜産学部動物資源科学科、生物生産環境学科関係条項を削除する。

6　文部科学大臣に届け出た日をもって獣医畜産学部を廃止する。

7　獣医畜産学部の廃止にともない、第 5 条（学部、学科、専攻）、第 7 条（修業年限及び在学年限）、第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）、第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2、3、第 27 条（卒業の要件及び学士の学位）、第 43 条（学費）に定める別表 6-①及び 6-②、平成 4 年 4 月 1 日施行の附則第 2 項、平成 9 年 4 月 1 日施行の附則第 4 項、平成 12 年 4 月 1 日施行の附則第 6 項、平成 13 年 4 月 1 日施行の附則第 2 項、平成 16 年 4 月 1 日施行の附則第 2 項、平成 18 年 4 月 1 日施行の附則第 5 項から獣医畜産学部関係条項を削除する。

8　第 26 条（学芸員資格の取得）に定める別表 5 における学芸員資格を付与する課程は平成 24 年度入学者から適用する。

ただし、旧課程は獣医学部動物資源科学科・生物環境科学科及び海洋生命科学部海洋生命科学科における履修者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

9　獣医学部動物資源科学科・生物環境科学科の学芸員養成課程を廃止することにともない、第 26 条（学芸員資格の取得）及び同条に定める別表 5 から獣医学部動物資源科学科・生物環境科学科の文言を削除するとともに、第 43 条（学費）に定める別表 6－③から獣医学部動物資源科学科・生物環境科学科の学芸員養成課程の履修料の記載を削除する。

ただし、当該学科の学芸員養成課程は獣医学部動物資源科学科・生物環境科学科の履修者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

10　第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2、3 については、薬学部、獣医学部、海洋生命科学部、看護学部、理学部にあっては平成 24 年度入学者から、医学部にあっては平成 24 年度入学者及び在学者から適用する。

　また、医療衛生学部にあっては別表 2 は平成 24 年度入学者から、別表 3 は平成 24 年度入学者及び在学者から適用する。

11　第 43 条（学費）に定める別表 6－①の看護学部保健師教育課程指定科目履修料については、平成 24 年度入学者から適用する。

12　第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる医学部の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学　部	学　科	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
医　学　部	医　学　科	651	668	685	692	697	702

附則

1　この学則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる理学部の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学　部	学　科	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
理学部	物理学科	170	180	190	200
	化学科	320	320	320	320
	生物科学科	250	260	270	280

3　第 42 条（入学検定料等）に定める別表 6－①の入学検定料及び第 43 条（学費）に定める別表 6－③の教職課程履修料、別表 6－④に示す臨床検査技師課程履修料については、平成 25 年度入学者から適用する。

4　第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる医学部の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学　部	学　科	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
医学部	医学科	670	689	698	705	712	714

5　第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2 については、薬学部、獣医学部、海洋生命科学部、理学部にあっては平成 25 年度入学者から、医学部、医療衛生学部にあっては平成 25 年度入学者及び在学者から適用する。

6　第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 3 については、薬学部、獣医学部、海洋生命科学部、看護学部、理学部にあっては平成 25 年度入学者から、医学部、医療衛生学部にあっては、平成 25 年度入学者及び在学者から適用する。

附則

1　この学則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表２については、薬学部、獣医学部にあっては平成 26 年度入学者から適用する。

3　第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表３については、薬学部、獣医学部、医療衛生学部にあっては平成 26 年度入学者から適用する。

附則

1　この学則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表２については、薬学部、獣医学部にあっては平成 27 年度入学者から、医学部、医療衛生学部にあっては平成 27 年度入学者及び在学者から適用する。

3　第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表３については、薬学部、獣医学部、理学部生物科学科にあっては平成 27 年度入学者から、医学部、理学部化学科、医療衛生学部にあっては平成 27 年度入学者及び在学者から適用する。

附則

1　この学則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表２については、薬学部、獣医学部、医療衛生学部にあっては平成 28 年度入学者から、医学部にあっては平成 28 年度入学者及び在学者から適用する。

3　第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表３については、薬学部、獣医学部獣医学科・動物資源科学

科、海洋生命科学部、理学部、医療衛生学部にあっては平成 28 年度入学者から、医学部、看護学部にあっては平成 28 年度入学者及び在学者から、獣医学部生物環境科学科にあっては平成 28 年度入学者及び在学者（２年次生）から適用する。

附則

この学則は、平成 28 年 5 月 20 日から施行する。

附則

この学則は、平成 28 年 11 月 1 日から施行する。

附則（北学総第 28-11367 号）

1　この学則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

2　第８条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる薬学部、獣医学部、海洋生命科学部、看護学部、理学部、医療衛生学部の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学部	学科・専攻	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
薬学部	薬学科	1,510名	1,520名	1,530名	1,540名	1,550名	1,560名
	生命創薬科学科	140名	140名	140名	140名	140名	140名
	学部計	1,650名	1,660名	1,670名	1,680名	1,690名	1,700名
獣医学部	獣医学科	720名	720名	720名	720名	720名	720名
	動物資源科学科	490名	500名	510名	520名	520名	520名
	生物環境科学科	330名	340名	350名	360名	360名	360名
	学部計	1,540名	1,560名	1,580名	1,600名	1,600名	1,600名
海洋生命科学部	海洋生命科学科	660名	680名	700名	720名	720名	720名
	学部計	660名	680名	700名	720名	720名	720名
看護学部	看護学科	450名	470名	490名	510名	510名	510名
	学部計	450名	470名	490名	510名	510名	510名
理学部	物理学科	203名	206名	209名	212名	212名	212名
	化学科	320名	320名	320名	320名	320名	320名
	生物科学科	290名	300名	310名	320名	320名	320名
	学部計	813名	826名	839名	852名	852名	852名
医療衛生学部	保健衛生学科	160名	160名	160名	160名	160名	160名
	医療検査学科	381名	392名	405名	420名	420名	420名
	医療工学科	421名	430名	443名	460名	460名	460名
	臨床工学専攻	165名	168名	173名	180名	180名	180名
	診療放射線技術科学専攻	256名	262名	270名	280名	280名	280名
	リハビリテーション学科	557名	562名	567名	580名	580名	580名
	理学療法学専攻	163名	168名	173名	180名	180名	180名
	作業療法学専攻	158名	158名	158名	160名	160名	160名
	言語聴覚療法学専攻	118名	118名	118名	120名	120名	120名
	視覚機能療法学専攻	118名	118名	118名	120名	120名	120名
	学部計	1,519名	1,544名	1,575名	1,620名	1,620名	1,620名

3　第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表２については、獣医学部生物環境科学科、海洋生命科学部、医療衛生学部にあっては平成 29 年度入学者から、薬学部、獣医学部動物資源科学科、医学部、理学部にあっては平成 29 年度入学者及び在学者から適用する。

4　第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表３については、獣医学部生物環境科学科、海洋生命科学部、医療衛生学部にあっては平成 29 年度入学者から、薬学部、獣医学部動物資源科学科、医学部、理学部にあっては平成 29 年度入学者及び在学者から適用する。

附則（北学総第 29-12607 号）

1　この学則は、2017 年 9 月 1 日から施行する。

2　第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表２及び別表３については、医療衛生学部にあっては 2017 年度在学者から適用する。

附則（北学総第 29-9539 号、北学総第 29-12607 号）

1　この学則は、2018 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表２及び別表３については、医学部、理学部にあっては、2018 年度入学者及び一部在学者から、医療衛生学部医療検査学科、医療工学科（全専攻）及びリハビリテーション学科（全専攻）にあっては 2018 年度入学者及び在学者から、薬学部、医療衛生学部保健衛生学科にあっては 2018 年度入学者から適用し、医療衛生学部保健衛生学科の 2018 年度在学者に適用する医療衛生学 4 群科目（保健衛生学科）については、学部において別に定める。

3　第 43 条（学費）に定める別表６－①については、医学部、看護学部にあっては 2018 年度入学者から適用

する。

附則（北学総第 2018-06561 号、北学総第 2018-13684 号）

1　この学則は、2019 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2 及び別表 3 について、医学部にあっては 2019 年度入学者及び一部在学者から、理学部、医療衛生学部医療検査学科、医療工学科（全専攻）及びリハビリテーション学科（全専攻）にあっては 2019 年度入学者及び在学者から、薬学部、看護学部及び医療衛生学部保健衛生学科にあっては 2019 年度入学者から適用し、看護学部の在学者適用及び医療衛生学部保健衛生学科の 2019 年度在学者に適用する医療衛生学 4 群科目（保健衛生学科）については、学部において別に定める。

3　第 20 条（単位の授与及び評価）第 3 項については、2019 年度入学者及び在学者から適用する。

4　第 25 条（教員の免許状の所要資格の取得）に定める別表４－①及び別表４－②については、2019 年度入学者から適用する。

5　第 43 条（学費）に定める別表６－①については、海洋生命科学部及び理学部にあっては 2019 年度入学者から適用する。

6　第 45 条（休学中の学費）については、2019 年度入学者及び在学者から適用する。

附則（北学総第 2019-01219 号、北学総第 2019-03539 号、北学総第 2019-07123 号、北学総第 2019-07444 号、北学総第 2019-13334 号）

1　この学則は、2020 年 4 月 1 日から施行する。

2　第８条（入学定員、編入学定員及び収容定員）の規定にかかわらず、2020 年度から 2021 年度までの医学部の入学定員を 118 名とする。また、2022 年度から 2023 年度までの医学部の入学定員を 109 名とする。

3　第８条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる医学部及び看護学部の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学部	学科	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
医学部	医学科	713名	712名	702名	692名	683名	674名	666名	658名	659名	660名
看護学部	看護学科	505名	500名	495名	500名						

4　第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2 及び別表 3 について、獣医学部動物資源科学科にあっては 2020 年度入学者から、医学部にあっては 2020 年度入学者及び在学者から、理学部及び医療衛生学部にあっては 2020 年度入学者及び一部在学者から適用する。

附則（北学総第 2020-03578 号、北学総第 2020-06214 号）

この学則は、2020 年 7 月 1 日から施行する。

附則（北学総第 2020-07168 号）

この学則は、2020 年 11 月 1 日から施行する。

附則（北学総第 2020-04276 号、北学総第 2020-13397 号）

1　この学則は、2021 年 4 月 1 日から施行する。

2　2021 年 4 月 1 日をもって、医療衛生学部健康科学科を医療衛生学部保健衛生学科に名称変更し、2021 年度入学者及び在学者から適用する。

医療衛生学部保健衛生学科への名称変更に伴い、第２条（教育研究上の目的）に定める別表１、第５条（学部、学科、専攻）、第８条（入学定員、編入学定員及び収容定員）、第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2,3、第 27 条（卒業の要件及び学士の学位）、平成 29 年 4 月 1 日施行の附則第 2 項、2018 年 4 月 1 日施行の附則第 2 項及び 2019 年 4 月 1 日施行の附則第 2 項の名称を変更する。

3　第 10 条（学期）、第 36 条（休学）、第 37 条（休学期間）及び第 38 条（復学）については、2021 年度入学者及び在学者から適用する。

4　第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2,3 については、獣医学部生物環境科学科、海洋生命科学部及び医療衛生学部保健衛生学科にあっては 2021 年度入学者から適用する。ただし、医療衛生学４群科目については、医療衛生学部（全学科）の 2021 年度入学者及び在学者から適用する。

5　第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 3 については、理学部生物科学科にあっては 2021 年度入学者及び一部在学者から適用する。

6　第 15 条（1 年間の授業期間）第 2 項については、2021 年度入学者及び在学者から適用する。

7　第 27 条（卒業の要件及び学士の学位）については、2021 年度入学者及び在学者から適用する。

附則（北学総第 2021-04593 号）

この学則は、2021 年 8 月 1 日から施行する。

附則（北学総第 2021-03403 号、北学総第 2021-04597 号、北学総第 2021-06352 号、北学総第 2021-10214 号、北学総第 2021-11472 号）

1　この学則は、2022 年 4 月 1 日から施行する。

2　第８条（入学定員、編入学定員及び収容定員）の規定にかかわらず、2022 年度の医学部の入学定員を 120 名とする。また、2023 年度の医学部の入学定員を 109 名とする。

3　第８条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる医学部の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学部	学科	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
医学部	医学科	713名	703名	694名	685名	677名	669名	659名	660名

4　第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2,3 については、獣医学部獣医学科及び医学部にあっては 2022 年度入学者及び在学者から、獣医学部生物環境科学科、看護学部及び医療衛生学部にあっては 2022 年度入学者から適用する。ただし、医療衛生学４群科目については、医療衛生学部（全学科）の 2022 年度入学者及び在学者から適用する。

5　第 25 条（教員の免許状の所要資格の取得）に定める別表４－①については、2022 年度入学者から適用する。

6　第 36 条（休学）、第 37 条（休学期間）及び第 45 条（休学期間中の在籍料）については 2022 年度入学者及び在学者から適用する。

7　第 43 条（学費）について、薬学部にあっては 2022 年度入学者から適用する。

附則（北学総第 2022-05067 号、北学総第 2022-15518 号）

1　この学則は、2023 年４月１日から施行する。

2　第８条（入学定員、編入学定員及び収容定員）の規定にかかわらず、2023 年度の医学部の入学定員を 125 名とする。

3　第８条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる医学部及び未来工学部の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学部	学科	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
医学部	医学科	719名	710名	701名	693名	685名	675名	660名
未来工学部	データサイエンス学科	100名	200名	300名	400名			

4　第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表２、３については、医学部にあっては 2023 年度入学者及び在学者から、理学部及び医療衛生学部にあっては 2023 年度入学者から適用する。ただし、医療衛生学４群科目については、医療衛生学部（全学科）の 2023 年度入学者及び在学者から適用する。

附則（北学総第 2023-*****号）

1　この学則は、2024 年４月１日から施行する。

2　第８条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる健康科学部の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学部	学科	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
健康科学部	看護学科	80名	160名	240名	320名
	医療検査学科	80名	160名	240名	320名

別表１　人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

薬学部	**【薬学部】** 薬学部では、最新の薬学的知識・技能のみならず、豊かな人間性と高い倫理観を備え、社会における様々な活動に、「薬」の視点を持って積極的に参加できる人材の育成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 基礎と臨床を両輪としたバランスのとれた薬学教育の展開、(2) 豊かな人間性と倫理観を醸成する教育の推進、(3) コミュニケーション能力を修得させる教育の推進、(4) 基礎と臨床が一体となった研究の展開とします。
	〔薬学科〕 薬学部薬学科では、高度化・細分化された医療の中で、医薬品の適正使用を通して、医療の質を確保するための「薬の専門家」として活躍する薬剤師を養成することを目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 臨床薬学に関連した高度な専門教育と実務教育の充実、(2) 豊かな人間性と医療人としての高い倫理観を醸成する教育の推進、(3) チーム医療に資するためのコミュニケーション能力を修得させる教育の推進、(4) 薬学・医療の進歩と改善に資するための研究遂行意欲と課題発見・問題解決能力を涵養する教育、(5) 生涯にわたる自己研鑽と次世代育成への意欲と態度を培う教育の推進とします。
	〔生命創薬科学科〕 薬学部生命創薬科学科では、薬学関連領域における多様な人材需要に応えるため、薬剤師としてではなく、薬学の基礎的な知識・技能を基盤に、社会の多様な分野で活躍できる人材の育成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 薬学関連領域における基本的な知識・技能を修得させる教育の充実、(2) 豊かな人間性と倫理観を醸成する教育の推進、(3)「考える力」(薬学の進歩と改善に資するための研究遂行意欲と課題発見・問題解決能力)を涵養する教育の推進、(4) 科学的なコミュニケーション能力を修得させる教育の推進、(5) 科学的探究心を向上させる教育の推進とします。
獣医学部	**【獣医学部】** 獣医学部では、動物生命科学を基盤とする高度な専門知識や技術・資格と豊かな人間性を備え、人類の健康と福祉の向上及び持続可能な社会の創生に向け、多様な課題を解決できる人材の養成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 動物の疾病の予防・治療及び生命現象の科学的解明、(2) 動植物資源の利用と開発、(3) 持続型社会を志向した食料生産と環境保全、(4) 公衆衛生の向上、(5) 農と医の学際的領域の知識・技術の習得とします。
	〔獣医学科〕 獣医学部獣医学科では、獣医学に関する高度な知識と技術及び豊かな人間性を身につけ、適切な問題解決能力を備え、動物と人類の健康と福祉の増進に貢献できる人材の養成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 動物生命科学、(2) 各種動物の疾病診断・治療・予防、(3) 伴侶動物の高度先端医療、(4) 人獣共通感染症、食の安全を始めとする公衆衛生、(5) 野生動物・環境保全など広範囲な領域における基礎・応用科学基盤を構築し、真理の深奥を究めることとします。
	〔動物資源科学科〕 獣医学部動物資源科学科では、自然と共生・共栄する人間社会に貢献するための問題解決能力を備え、生命科学や医学と接点を持つ動物資源科学に関する高い専門的能力を身に付けた人材の養成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 動物資源・食料資源の開発・利用を発展させるための専門的能力の習得、(2)「農」と「医」の複眼的視点の獲得と異分野へ転移可能な汎用的能力の習得、(3) 知識、技能、行動から構成される総合的な実践力の習得とします。
	〔生物環境科学科〕 獣医学部生物環境科学科では、野生動物と人との共存環境の創出やビオトープなど環境の保全や修復について具体的な提言や技術提供ができる人材の養成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 持続可能な食料生産環境の確保 (2) 環境保全の推進 (3) 生物多様性の維持など、地球及び地域の環境に調和した生物生産活動と環境保全や環境修復に関する知識・技術とともに環境倫理観の習得とします。
医学部	**【医学部医学科】** 医学部では、広く体系的な知識と確実な技術を持ち、それを深化させるよう最先端の医学知識を意欲的に吸収できるような自己研鑽学習を継続する人材を育成するとともに、開学以来実践されてきた「チーム医療」の実践家となるため、他者に共感し、協働して物事に取り組むことができ、倫理観を持って広く社会に貢献できる人材の育成を目的としています。 そのための教育研究上の目的として、(1) 人間性豊かで優れた医師の養成 (2) 学際領域を含む医学研究の推進 (3) 国際貢献の推進と地域医療への協力 (4) 予防医学の推進、の４項目をあげ、教育の基本理念としています。

海洋生命科学部	**【海洋生命科学部海洋生命科学科】** 海洋生命科学部では、海洋生命科学一般の専門技術とその基盤となる学問領域を理解し、国際的な視野を持ち、これらを基に自らの意見を伝える能力、判断力、実践力を持つ人材の育成を目的とします。 そのための教育研究上の目的は、(1) 多面的思考能力 (2) 自然科学の基礎知識・理論 (3) 専門分野の知識・技術 (4) 問題解決能力 (5) 実務遂行能力 (6) コミュニケーション能力 (7) 技術者倫理 (8) 継続的学習能力の獲得、達成とします。
看護学部	**【看護学部看護学科】** 看護学部では、生命科学系総合大学のなかで他学部との連携のもとに、高度医療、医療安全の確保、予防医療、介護予防など、多様化した保健医療に対する社会の要請に応えうる幅広い知識と技能を備え、看護専門職者としてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、看護職者の具体的能力として、(1) 人間性、(2) 思考力、(3) 表現能力、(4) 看護実践能力、(5) 改革能力の５つを強化することとしています。
理学部	**【理学部】** 理学部では、物理学・化学・生物科学の分野における高水準の知識と実験技術を身に付け、幅広い視野と柔軟な思考力を兼ね備えた研究者・専門技術者・教育者となる人材を育成することを目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 講義、実験、演習を通して、専門分野の高度な研究を遂行するための基礎として必要な知識と実験技術を教授する、(2) 科学的思考力を育成し、研究遂行における課題の設定能力、問題解決能力を身に付けさせることとします。
	〔物理学科〕 理学部物理学科では、自然現象に潜む原理や法則を理解し、多彩な自然現象や物質の性質を解明するための基礎力を身に付け、宇宙論から生命現象まで、さまざまな分野において未知の領域に切り込んでいく力を備えた人材を育成することを目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 多様な物理領域の研究を展開するために必要な基礎知識と技術を教授する、(2) 身に付けた知識と技術を基礎研究、応用研究の場で活用できる能力を育成することとします。
	〔化学科〕 理学部化学科では、実社会における多様な製品の生産基盤である物質の性質とその変化に関する基礎知識（構造、反応、機能、合成）を教授し、実践を通して生命科学や環境科学から医療、教育にわたる幅広い分野での研究・開発で活躍できる人材を育成することを目的とします。そのための教育研究上の目的は、基礎知識の教授（講義）と実践（実習と演習）による (1) 科学的判断力、(2) 多元的な視点から物質を評価する能力、(3) 能動的な立案、実行力を養成することとします。
	〔生物科学科〕 理学部生物科学科では、生命科学についての高度な知識と研究技能を有するとともに、普遍的な生命現象のしくみを理解し、生物学や基礎医学などの多岐にわたる分野で活躍できる科学的思考能力を備えた人材を育成することを目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1) 最先端の専門的研究を開始するために必要な基礎知識、実験能力、思考力、(2) 生命科学の知識や技術に基づいて複雑な生命活動を分子レベルで解明する能力を養うこととします。
医療衛生学部	**【医療衛生学部】** 医療衛生学部では、高度医療現場においては、チーム医療を支えるメディカルスタッフとして、医療現場の外においては、予防医学と健康科学を主とした人の健康を支えるスタッフとして、幅広い教養と豊かな創造性に富む高度な専門知識と技術の実践力を兼ね備えた人材の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1) 高度な知識、技術を有する医療従事者の養成、(2) 学際的スペシャリストの養成、(3) 国際的視野を持ち国際社会に通用する人材の養成です。
	〔保健衛生学科〕 医療衛生学部保健衛生学科では、健康な人を対象に、健康の保持・増進のための健康科学や予防医学の観点から、環境・食・労働・こころと健康の関係についての知識を身に付け、衛生的で安全な環境づくりに向けたマネジメント力を備えた人材の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、 (1) 労働環境その他日常の社会生活の中で起こる種々の健康影響因子のリスク解析やその改善に向けた知識と技術の修得、 (2) 職場及び地域社会における安全衛生管理から地球環境の保全までをマネジメントするための幅広い知識と技術の修得です。
	〔医療検査学科〕 医療衛生学部医療検査学科では、人の健康や医療に関わる専門知識と高度な技術を修得し、医療現場においてはチーム医療を理解し実践でき、検体検査や画像診断によって得られた検査データを正確に医師に提供する臨床検査技師の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1) 幅広い教養と豊かな人間性、確固たる倫理観の修得、(2) 臨床検査の基礎となるバイオサイエンス関連知識と研究技術の修得、(3) 病気の診断に不可欠な臨床検査の理論から実際までの修得、(4) 医療現場におけるチーム医療の一員としての重要性の理解と実践力、(5) 問題解決能力の修得です。

医療衛生学部	**〔医療工学科・臨床工学専攻〕** 医療衛生学部医療工学科臨床工学専攻では、生命維持管理装置を中心とした最先端医療機器の操作及び保守点検を的確に行え、医療及び医療技術の変化に対応し、チーム医療の一員として医療に貢献できる臨床工学技士の養成、及び大学、企業、公共機関等で、研究開発、後進の指導的役割を担える人材の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1) 基礎工学、基礎医学、臨床医学、医療機器学等の学習、(2) 専門知識と技術の修得、(3) チーム医療の一員として必要な知識と技術の修得、(4) 臨床工学の未来に貢献できる研究能力の涵養です。
	〔医療工学科・診療放射線技術科学専攻〕 医療衛生学部医療工学科診療放射線技術科学専攻では、人間の生命や生活の質を理解できる豊かな人間性とともに、専門的職業人としての高度で専門的な画像検査・放射線治療の知識と技術を備え、医療の質を高めるチーム医療、研究開発、教育指導、地域医療に貢献できる診療放射線技師及び医療従事者の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1) 豊かな人間性の涵養、(2) 放射線の性質や人体への影響等の放射線技術の進歩に即応した放射線基礎科学の学習、(3) 地域社会のニーズに対応する画像検査と放射線治療の体系的学習、(4) 臨床実習を通じた実践的な技術とチーム医療等の専門的知識・技術の修得です。
	〔リハビリテーション学科・理学療法学専攻〕 医療衛生学部リハビリテーション学科理学療法学専攻では、医療と福祉の現場のみならず、地域住民の健康増進や疾病予防など高度で多様化した社会的ニーズに対応できる人材の養成を目的としています。そのため教育研究上の目的は、(1) 高い倫理観を身につけ、自ら考え開拓する力、(2) 年齢や障害の有無に関わらず、対象者の生活機能を客観的に評価する力、(3) 科学的根拠に基づいた理学療法を実践する力、を育てることとします。
	〔リハビリテーション学科・作業療法学専攻〕 医療衛生学部リハビリテーション学科作業療法学専攻では、人々の健康と幸福を促進するために、作業療法の専門性を高度に備え、保健・医療・福祉・教育・産業等の分野でリーダーとして貢献できる人材の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1) 人間の「作業（occupation）」の特性と作業的存在としての対象者を理解する力、(2)作業遂行障害を適切に評価・介入する力、(3)高度な臨床的思考能力、(4)多職種連携のチーム医療および国際的視点を持った実践ができる力、(5)発展的自己学習能力と高い人権意識・倫理観を育成することとします。
	〔リハビリテーション学科・言語聴覚療法学専攻〕 医療衛生学部リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻では、言語、聴覚、コミュニケーション、摂食・嚥下などに障害がある人たちが豊かで質の高い生活を送れるように、専門職として支援し、医療・保健福祉・教育に貢献できる言語聴覚士の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1) 関連医学領域、言語学・心理学・音響学等の多彩な専門基礎科目の学習　(2) 適切な評価・介入及び指導を実施するための専門科目の知識・技術の修得です。
	〔リハビリテーション学科・視覚機能療法学専攻〕 医療衛生学部リハビリテーション学科視覚機能療法学専攻では、眼の構造から疾患までの幅広い知識と視機能評価法を修得し、医師と共に適切な治療プログラムを組み、研究を遂行する力を備え、新しい分野の教育・研究ができる視能訓練士の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1) 疾患から最新の研究まで眼の多面的な学習、(2) 視能訓練士に必要な視覚の基礎知識から検査・治療の実践までの段階的修得です。
未来工学部	**【未来工学部データサイエンス学科】** 未来工学部では、「今ここにある問題」のさらに先にある、まだ起きていない未来の課題を工学的手法でいち早く見出し、技術の問題だけにとどまらない複雑で広範囲な社会課題に取り組むとともに、新たな価値を創造する人材の育成を目的とします。 データサイエンス学科では、「現在と過去からの蓄積である様々なデータを読み解き、今ある課題を適切に解決するだけでなく、顕在化していない将来の課題を見出す力」を習得した人材を輩出します。そのためには現在そして将来社会に求められる高度なAI技術の知識と技術、データを解析しモデル化することにより深く理解するだけでなく、新たなデータ解析やモデリングのアイデアをプログラムとして実装する能力を身に付けた人材の育成を目的とします。そのための具体的な教育研究上の目的は、(1)講義、実習、演習を通じ、ライフサイエンスなどの専門分野でのデータサイエンス研究・実務を遂行するための基礎となる知識を習得し、プログラミングをはじめ実験技術を教授する、(2) データサイエンスの数理的背景を理解させ、研究・実務遂行における課題の設定能力、問題解決能力を身に付けさせることとします。

健康科学部	**【健康科学部】** 健康科学部では、社会の要請に応えうる、高度医療現場でチーム医療を支えるメディカルスタッフに必要とされる高度な医療技術、知識を有し、地域医療を展開できる人材の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1) 社会の要請に応えうる幅広い医療知識と技能の修得、(2) チーム医療における高度な実践力の修得としています。
	〔看護学科〕 健康科学部看護学科では、高度医療、地域医療、医療安全の確保、予防医療、介護予防など、多様化した保健医療に対する社会の要請に応えうる幅広い知識と技能を備え、看護専門職者としてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目的とし、「生命科学系 総合大学」という本学の特長を活かして他学部との連携のもとに教育を行っていきます。 そのための教育研究上の目的として、看護職者の具体的能力である (1) 人間性、(2) 思考力、(3) 表現能力、(4) 看護実践能力、(5) 改革能力の 5 つを強化することとしています。
	〔医療検査学科〕 健康科学部医療検査学科では、医学検査を実践するために必要な基礎的・専門的知識と技術を修得し、検体検査や生理検査によって得られた精度の高い検査データを医師に提供するとともに、医療現場でチーム医療を実践し、地域医療に貢献できる臨床検査技師の養成を目的としています。 そのための教育研究上の目的は、(1) 医療人の一員として求められる幅広い教養と豊かな人間性、確固たる倫理観に裏打ちされた使命感の修得、(2) 臨床検査の基盤となるバイオサイエンスの理論や技術の修得、(3) 臨床診断に不可欠な臨床検査技術の理論および実践力の修得、(4) 医療現場におけるチーム医療の一員としての重要性の理解と実践力の修得、(5) 地域・在宅医療にも対応できる臨床検査技術の修得としています。
一般教育部	**【一般教育部】** 一般教育部では、幅広い視野と豊かな人間性を涵養する教養教育と、学部教育へのスムーズな橋渡しを可能にする基礎教育を両立させた教育機能を備え、全人的な教養を身につけた生命科学を志向する学生の育成を目的としています。そのため (1) 自然科学教育の充実、(2) 人間形成の基礎科目の展開、(3) 語学、数学および情報処理などの高度基礎教育の実践、(4) コミュニケーション能力の涵養を目標の一つとする実験、演習系科目の提供を教育研究上の目的とします。

別表２

学部	学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	履修方法	卒業要件単位 必修	卒業要件単位 選択	卒業要件単位 計
薬学部	薬学科	薬学１群科目	15	103	3		15	16	31
		文化の領域		24		文化、社会の領域と総合領域科目の選択科目より８単位選択必修		8	8
		社会の領域		40					
		総合領域	1	2			1		1
		健康の領域		14		健康の領域、教養演習系及び数理・情報系（情報科学A、B、C）の選択科目より４単位選択必修		4	4
		外国語系	4				4		4
		数理・情報系		14				4	4
		自然科学系	10		3	数学または発展数学(A＋B)のいずれか4単位選択必修	10		10
		教養演習系		9					
		薬学２群科目	10				10		10
		薬学３群科目	142	40	7		142	6	148
		薬学４群科目※			4				
		計	167	143	14		167	22	189
							卒業要件189単位以上		
	生命創薬科学科	薬学１群科目	16	102	3		16	16	32
		文化の領域		24		文化、社会の領域と総合領域科目の選択科目より８単位選択必修		8	8
		社会の領域		40					
		総合領域	2	1			2		2
		健康の領域		14		健康の領域、教養演習系及び数理・情報系（情報科学A、B、C）の選択科目より４単位選択必修		4	4
		外国語系	4				4		4
		数理・情報系		14				4	4
		自然科学系	10		3	数学または発展数学(A＋B)のいずれか4単位選択必修	10		10
		教養演習系		9					
		薬学２群科目	10				10		10
		薬学３群科目	71	56			71	17	88
		薬学４群科目※			1				
		計	97	158	4		97	33	130
							卒業要件130単位以上		

※薬学４群科目は本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目を表す。

学部	学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	履修方法	卒業要件単位 必修	卒業要件単位 選択	卒業要件単位 計
獣医学部	獣医学科	獣医学１群科目	14	115	5		14	22	36
		文化の領域		24		選択科目より６単位選択必修		6	6
		社会の領域		40		選択科目より６単位選択必修		6	6
		健康の領域		14		選択科目より２単位選択必修		2	2
		総合領域		3					
		外国語系	4			総合領域、数理・情報系、自然科学系、教養演習系の選択科目より８単位選択必修	4	8	12
		数理・情報系		18	2				
		自然科学系	10	5	3		10		10
		教養演習系		11					
		獣医学２群科目	11	7		選択科目より４単位選択必修	11	4	15
		獣医学３群科目	126	12			126	6	132
		生体機構系	41				41		41
		予防衛生系	31				31		31
		臨床系	38	6		エキゾチックアニマル又はプロダクションメディスンより１単位、小動物参加型臨床実習Ⅰ、Ⅱ及び大動物参加型臨床実習Ⅰ、Ⅱより２単位選択必修	38	3	41
		共通	16	6		選択科目より３単位選択必修	16	3	19
		獣医学４群科目※							
		計	151	134	5		151	32	183
							卒業要件183単位以上		
	動物資源科学科	獣医学１群科目	14	111	12		14	20	34
		文化の領域		24		文化の領域、社会の領域、総合領域から12単位選択必修		12	12
		社会の領域		40					
		健康の領域		14		選択科目より２単位選択必修		2	2
		総合領域		3					
		外国語系	4				4		4
		数理・情報系		20				6	6
		自然科学系	10	5	8	数理・情報系、自然科学系及び教養演習系の選択科目より６単位選択必修	10		10
		教養演習系		5	4				
		獣医学２群科目	18	7		２群、３群の選択科目より27単位選択必修	18		18
		獣医学３群科目	45	42			45		45
								27	27
		獣医学４群科目※							
		計	77	160	12		77	47	124
							卒業要件124単位以上		
	生物環境科学科	獣医学１群科目	23	86	23		23	12	35
		文化の領域		24		選択科目より４単位選択必修		4	4
		社会の領域		40		選択科目より４単位選択必修		4	4
		健康の領域		14		選択科目より２単位選択必修		2	2
		総合領域		3		選択科目より１単位選択必修		1	1
		外国語系	4				4		4
		数理・情報系	4		16		4		4
		自然科学系	15		3		15		15
		教養演習系		5	4	選択科目より１単位選択必修		1	1
		獣医学２群科目	19	3	2	２群、３群の選択科目より22単位選択必修	19		19
		獣医学３群科目	48	34			48		48
								22	22
		獣医学４群科目※							
		計	90	123	25		90	34	124
							卒業要件124単位以上		

※獣医学４群科目は本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目を表す。

学部	学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	履修方法	卒業要件単位 必修	卒業要件単位 選択	卒業要件単位 計
医学部	医学科	医学１群科目	26単位	75単位	5単位		26単位	10単位	36単位
		文化の領域		24単位		文化、社会、健康(健康の科学A、B、C)、総合領域の選択科目より8単位選択必修		8単位	8単位
		社会の領域		40単位					
		健康の領域	2単位	6単位			2単位		2単位
		総合領域		3単位					
		外国語系	4単位				4単位		4単位
		数理・情報系	8単位				8単位		8単位
		自然科学系	12単位			教養演習系科目の言語と文化Ａでは、ドイツ語、フランス語のうち、いずれか一方を選択必修	12単位		12単位
		教養演習系		2単位	5単位			2単位	2単位
		医学２群科目	210時間				210時間		210時間
		医学３群科目	4,026時間	3,939時間		選択科目より6科目606時間選択必修	4,026時間	606時間	4,632時間
		２群・３群　時間数計	4,236時間	3,939時間			4,236時間	606時間	4,842時間
		備考	１群科目は単位数で、２群・３群科目は時間数で表す。						
海洋生命科学部	海洋生命科学科	海洋生命科学１群科目	14	107	16		14	18	32
		文化の領域		24		文化、社会、健康の領域、数理・情報系（数学の基礎）、自然科学系（物理学、物理学実験）、教養演習系（言語と文化Ａ、Ｂを除く）より11単位選択必修			
		社会の領域		40					
		健康の領域		14				11	11
		総合領域		3		総合領域の選択科目より1単位選択必修		1	1
		外国語系	4				4		4
		数理・情報系		16	4	数学または発展数学Ａ、Ｂより４単位、情報科学Ａ、Ｂ、Ｃより２単位選択必修		6	6
		自然科学系	10	5	8		10		10
		教養演習系		5	4				
		海洋生命科学２群科目	41	3		２群、３群の選択科目より18単位選択必修	41		41
		海洋生命科学３群科目	34	32	1		34		34
								18	18
		海洋生命科学４群科目※							
		計	89	142	17		89	36	125
							卒業要件125単位以上		
看護学部	看護学科	看護学１群科目	4	117	8		4	22	26
		文化の領域		24		選択科目より４単位選択必修		4	4
		社会の領域		40		選択科目より４単位選択必修		4	4
		健康の領域		14		選択科目より４単位選択必修		4	4
		外国語系	4				4		4
		数理・情報系		20		選択科目より４単位選択必修		4	4
		自然科学系		12	3	選択科目より４単位選択必修		4	4
		総合領域		3	5	選択科目より２単位選択必修			
		教養演習系		4				2	2
		看護学２群科目	22	13		３群の選択科目より４単位選択必修、その他２群、３群それぞれの選択科目より６単位選択必修	22		22
		看護学３群科目	70	19	34		70		70
								10	10
		看護学４群科目※							
		計	96	149	42		96	32	128
							卒業要件128単位以上		

※海洋生命科学４群科目、看護学４群科目は本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目を表す。

学部	学科	授業科目	単位数			履修方法	卒業要件単位		
			必修	選択	自由		必修	選択	計
理学部	物理学科	理学１群科目	4	96			4	12	16
		文化の領域		24		１群の選択科目より12単位選択必修 12単位のうち、４単位以上は文化、社会、健康、総合領域科目から選択必修		12	12
		社会の領域		40					
		健康の領域		14					
		総合領域		3					
		外国語系	4				4		4
		数理・情報系		6					
		教養演習系		9					
		理学２群科目	14	5		２群、３群の選択科目より24単位選択必修	14		14
		理学３群科目	70	52	2		70		70
								24	24
		理学４群科目※			1				
		計	88	153	3		88	36	124
							卒業要件124単位以上		
	化学科	理学１群科目	4	96			4	12	16
		文化の領域		24		１群の選択科目より12単位選択必修 12単位のうち、４単位以上は文化、社会、健康、総合領域科目から選択必修		12	12
		社会の領域		40					
		健康の領域		14					
		総合領域		3					
		外国語系	4				4		4
		数理・情報系		6					
		教養演習系		9					
		理学２群科目	18	7		２群、３群の選択科目より22単位選択必修	18		18
		理学３群科目	68	46	2		68		68
								22	22
		理学４群科目※			1				
		計	90	149	3		90	34	124
							卒業要件124単位以上		
	生物科学科	理学１群科目	4	96			4	12	16
		文化の領域		24		１群の選択科目より12単位選択必修 12単位のうち、４単位以上は文化、社会、健康、総合領域科目から選択必修		12	12
		社会の領域		40					
		健康の領域		14					
		総合領域		3					
		外国語系	4				4		4
		数理・情報系		6					
		教養演習系		9					
		理学２群科目	16	11		２群、３群の選択科目より26単位選択必修	16		16
		理学３群科目	66	56	2		66		66
								26	26
		理学４群科目※			1				
		計	86	163	3		86	38	124
							卒業要件124単位以上		

※理学４群科目は本大学の他学部他学科他専攻の授業科目、単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目及び総合的な能力を形成する科目を表す。

学部	学科	授業科目	単位数			履修方法	卒業要件単位		
			必修	選択	自由		必修	選択	計
医療衛生学部	保健衛生学科（環境保健学コース）	医療衛生学１群科目	16	100	15		16	17	33
		文化の領域		24		文化の領域、総合領域科目、教養演習系の選択科目より４単位選択必修		4	4
		社会の領域		40		選択科目より４単位選択必修		4	4
		健康の領域		8	6	選択科目より２単位選択必修		2	2
		総合領域		3		文化の領域、総合領域科目、教養演習系の選択科目より４単位選択必修			
		外国語系	4				4		4
		数理・情報系	7	6	6	選択科目より２単位選択必修	7	2	9
		自然科学系	5	10	3	選択科目より５単位選択必修	5	5	10
		教養演習系		9		文化の領域、総合領域科目、教養演習系の選択科目より４単位選択必修			
		医療衛生学２群科目	38	16		2群、3群の選択科目より32単位を選択必修	38		38
		医療衛生学３群科目	25	25	1		25		25
								32	32
		医療衛生学４群科目※			12				
		計	79	141	28		79	49	128
							卒業要件128単位以上		
	保健衛生学科（臨床心理学コース）	医療衛生学１群科目	20	96	15		20	15	35
		文化の領域		24		文化の領域、総合領域科目、教養演習系の選択科目より４単位選択必修		4	4
		社会の領域	4	36		選択科目より２単位選択必修	4	2	6
		健康の領域		8	6	選択科目より２単位選択必修		2	2
		総合領域		3		文化の領域、総合領域科目、教養演習系の選択科目より４単位選択必修			
		外国語系	4				4		4
		数理・情報系	7	6	6	選択科目より２単位選択必修	7	2	9
		自然科学系	5	10	3	選択科目より５単位選択必修	5	5	10
		教養演習系		9		文化の領域、総合領域科目、教養演習系の選択科目より４単位選択必修			
		医療衛生学２群科目	36	24		2群、3群の選択科目より21単位を選択必修	36		36
		医療衛生学３群科目	32	27			32		32
								21	21
		医療衛生学４群科目※			12				
		計	88	147	27		88	36	124
							卒業要件124単位以上		

※医療衛生学４群科目は本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目等を表す。

学部	学科	授業科目	単位数			履修方法	卒業要件単位		
			必修	選択	自由		必修	選択	計
医療衛生学部	医療検査学科	医療衛生学１群科目	12	108	11		12	21	33
		文化の領域		24		選択科目より４単位選択必修		4	4
		社会の領域		40		選択科目より２単位選択必修		2	2
		健康の領域		8	6	選択科目より２単位選択必修		2	2
		総合領域		3		総合領域科目、教養演習系科目の選択科目より２単位選択必修		2	2
		外国語系	4				4		4
		数理・情報系	3	14	2	選択科目より６単位選択必修	3	6	9
		自然科学系	5	10	3	選択科目より５単位選択必修	5	5	10
		教養演習系		9		総合領域科目、教養演習系科目の選択科目より２単位選択必修			
		医療衛生学２群科目	28				28		28
		医療衛生学３群科目	78		7		78		78
		医療衛生学４群科目※			12				
		計	118	108	30		118	21	139
							卒業要件139単位以上		

※医療衛生学４群科目は本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目等を表す。

学部学科	専攻	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	履修方法	卒業要件単位 必修	卒業要件単位 選択	卒業要件単位 計
医療衛生学部医療工学科	臨床工学専攻	医療衛生学１群科目	22	83	28		22	10	32
		文化の領域		24		文化の領域、総合領域科目の選択科目		2	2
		社会の領域		40		選択科目より２単位選択必修		2	2
		健康の領域		8	6	選択科目より２単位選択必修		2	2
		総合領域		3		文化の領域、総合領域科目の選択科目			
		外国語系	4				4		4
		数理・情報系	3	8	10	選択科目より４単位選択必修	3	4	7
		自然科学系	15		3		15		15
		教養演習系			9				
		医療衛生学２群科目	40		4		40		40
		医療衛生学３群科目	64				64		64
		医療衛生学４群科目※			12				
		計	126	83	44		126	10	136
							卒業要件136単位以上		
	診療放射線技術科学専攻	医療衛生学１群科目	7	98	28		7	20	27
		文化の領域		24		文化の領域、総合領域科目の選択科目より２単位選択必修		2	2
		社会の領域		40		選択科目より２単位選択必修		2	2
		健康の領域		8	6	選択科目より２単位選択必修		2	2
		総合領域		3		文化の領域、総合領域科目の選択科目より２単位選択必修			
		外国語系	4				4		4
		数理・情報系	3	8	10	選択科目より４単位選択必修	3	4	7
		自然科学系		15	3	選択科目より10単位選択必修		10	10
		教養演習系			9				
		医療衛生学２群科目	21	3		２群、３群の選択科目より３単位選択必修	21		21
		医療衛生学３群科目	88	4	1		88		88
								3	3
		医療衛生学４群科目※			12				
		計	116	105	41		116	23	139
							卒業要件139単位以上		

※医療衛生学４群科目は本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目等を表す。

学部学科	専攻	授業科目	単位数			履修方法	卒業要件単位		
			必修	選択	自由		必修	選択	計
医療衛生学部リハビリテーション学科	理学療法学専攻	医療衛生学１群科目	16	86	31		16	15	31
		文化の領域		24		文化の領域、総合領域科目、教養演習系科目の選択科目より４単位選択必修		4	4
		社会の領域		40		選択科目より４単位選択必修		4	4
		健康の領域	2		12		2		2
		総合領域		3		文化の領域、総合領域科目、教養演習系科目の選択科目より４単位選択必修			
		外国語系	4				4		4
		数理・情報系	5	8	8	選択科目より２単位選択必修	5	2	7
		自然科学系	5	10	3	選択科目より５単位選択必修	5	5	10
		教養演習系		1	8	文化の領域、総合領域科目、教養演習系科目の選択科目より４単位選択必修			
		医療衛生学２群科目	38	10		選択科目より２単位選択必修	38	2	40
		医療衛生学３群科目	64	7	1	選択科目より３単位選択必修	64	3	67
		医療衛生学４群科目※			12				
		計	118	103	44		118	20	138
							卒業要件138単位以上		
	作業療法学専攻	医療衛生学１群科目	18	100	15		18	14	32
		文化の領域		24		文化の領域、総合領域科目の選択科目より２単位選択必修		2	2
		社会の領域	4	36		選択科目より２単位選択必修	4	2	6
		健康の領域		8	6	選択科目より２単位選択必修		2	2
		総合領域		3		文化の領域、総合領域科目の選択科目より２単位選択必修			
		外国語系	4				4		4
		数理・情報系	9	6	6	選択科目より２単位選択必修	9	2	11
		自然科学系		15	3	選択科目より５単位選択必修		5	5
		教養演習系	1	8		選択科目より１単位選択必修	1	1	2
		医療衛生学２群科目	32	15		選択科目より３単位選択必修	32	3	35
		医療衛生学３群科目	64	4	1	選択科目より２単位選択必修	64	2	66
		医療衛生学４群科目※			12				
		計	114	119	28		114	19	133
							卒業要件133単位以上		

※医療衛生学４群科目は本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目等を表す。

学部学科	専攻	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	履修方法	卒業要件単位 必修	卒業要件単位 選択	卒業要件単位 計
医療衛生学部リハビリテーション学科	言語聴覚療法学専攻	医療衛生学１群科目	9	97	27		9	16	25
		文化の領域		24		文化の領域、総合領域科目、教養演習系科目の選択科目より４単位選択必修		4	4
		社会の領域		40		選択科目より４単位選択必修		4	4
		健康の領域		8	6	選択科目より２単位選択必修		2	2
		総合領域		3		文化の領域、総合領域科目、教養演習系科目の選択科目より４単位選択必修			
		外国語系	4				4		4
		数理・情報系	5	6	10	選択科目より２単位選択必修	5	2	7
		自然科学系		15	3	選択科目より４単位選択必修		4	4
		教養演習系		1	8	文化の領域、総合領域科目、教養演習系科目の選択科目より４単位選択必修			
		医療衛生学２群科目	45	4		選択科目より２単位選択必修	45	2	47
		医療衛生学３群科目	59				59		59
		医療衛生学４群科目※			12				
		計	113	101	39		113	18	131
							卒業要件131単位以上		
	視覚機能療法学専攻	医療衛生学１群科目	14	91	28		14	14	28
		文化の領域		24		文化の領域、総合領域科目の選択科目より２単位選択必修		2	2
		社会の領域		40		選択科目より２単位選択必修		2	2
		健康の領域		8	6	選択科目より２単位選択必修		2	2
		総合領域		3		文化の領域、総合領域科目の選択科目より２単位選択必修			
		外国語系	4				4		4
		数理・情報系	5	8	8	選択科目より４単位選択必修	5	4	9
		自然科学系	5	8	5	選択科目より４単位選択必修	5	4	9
		教養演習系			9				
		医療衛生学２群科目	45		3		45		45
		医療衛生学３群科目	44	20			44	10	54
		医療衛生学４群科目※			12				
		計	103	111	43		103	24	127
							卒業要件127単位以上		

※医療衛生学４群科目は本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目等を表す。

学部	学科	授業科目	単位数			履修方法	卒業要件単位		
			必修	選択	自由		必修	選択	計
未来工学部	データサイエンス学科	未来工学１群科目	24	79	11		24	8	32
		文化の領域		24		1群科目から8単位選択必修 8単位のうち、4単位は文化の領域、社会の領域、健康の領域、総合領域科目から選択必修		8	8
		社会の領域		40					
		健康の領域		8					
		総合領域		3					
		外国語系	4				4		4
		数理・情報系	10	4			10		10
		自然科学系	10		2		10		10
		教養演習系			9				
		未来工学２群科目	20	6		2群、3群の選択科目から28単位選択必修	20		20
		未来工学３群科目	44	39			44		44
								28	28
		未来工学４群科目※							
		計	88	124	11		88	36	124
							卒業要件124単位以上		

※未来工学４群科目は本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目等を表す。

学部学科	専攻	授業科目	単位数			履修方法	卒業要件単位		
			必修	選択	自由		必修	選択	計
健康科学部	看護学科	健康科学１群科目	20	14		選択科目より10単位選択必修。ただし、「北里の世界」または「農医連携論」のどちらかは必ず選択すること。	20	10	30
		健康科学２群科目	23				23		23
		健康科学３群科目	71	9	17		71		71
		健康科学４群科目※							
		計	114	23	17		114	10	124
							卒業要件124単位以上		
	医療検査学科	健康科学１群科目	24	2		「北里の世界」または「農医連携論」のどちらかを選択必修。	24	1	25
		健康科学２群科目	22				22		22
		健康科学３群科目	91		3		91		91
		健康科学４群科目※							
		計	137	2	3		137	1	138
							卒業要件138単位以上		

※健康科学４群科目は本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目等を表す。

別表３

(1) ◎印は必修科目、無印は選択科目、※印は自由科目を表す。

(2) 数字は単位数を表す。（医学３群科目においては時間数を表す。）

(3) 自由科目は卒業単位に含まない。

(4) 履修方法は各学部規則の定めるところによる。

薬学１群科目（薬学科）

人間形成の基礎科目		日本と国際社会Ａ	2	数理・情報系	
文化の領域		日本と国際社会Ｂ	2	数学	4
哲学の楽しみＡ	2	環境を考えるＡ	2	発展数学Ａ	2
哲学の楽しみＢ	2	環境を考えるＢ	2	発展数学Ｂ	2
科学を考えるＡ	2	歴史と人間Ａ	2	情報科学Ａ	2
科学を考えるＢ	2	歴史と人間Ｂ	2	情報科学Ｂ	2
芸術の楽しみＡ	2	心理学Ａ	2	情報科学Ｃ	2
芸術の楽しみＢ	2	心理学Ｂ	2	自然科学系	
倫理学Ａ	2	健康の領域		◎ 物理学	4
倫理学Ｂ	2	健康の科学Ａ	2	◎ 物理学実験	1
文学の楽しみＡ	2	健康の科学Ｂ	2	◎ 生物学	4
文学の楽しみＢ	2	健康の科学Ｃ	2	◎ 生物学実験	1
信仰と救いＡ	2	健康とスポーツ演習	2	※ 物理学要習	1
信仰と救いＢ	2	ライフスポーツ演習Ａ	2	※ 化学要習	1
社会の領域		ライフスポーツ演習Ｂ	2	※ 生物学要習	1
日本国憲法Ａ	2	ライフスポーツ演習Ｃ	2	教養演習系科目	
日本国憲法Ｂ	2	総合領域科目		教養演習系	
法律の役割Ａ	2	総合領域		教養演習Ａ	2
法律の役割Ｂ	2	◎ 北里の世界	1	教養演習Ｂ	1
経済のしくみＡ	2	仕事と人生	1	教養演習Ｃ	1
経済のしくみＢ	2	農医連携論	1	大学基礎演習	1
個人と社会Ａ	2	基礎教育科目		言語と文化Ａ	2
個人と社会Ｂ	2	外国語系		言語と文化Ｂ	2
政治のしくみＡ	2	◎ 英語ＡⅠ	1		
政治のしくみＢ	2	◎ 英語ＡⅡ	1		
文化人類学Ａ	2	◎ 英語ＢⅠ	1	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。	
文化人類学Ｂ	2	◎ 英語ＢⅡ	1		

薬学１群科目（生命創薬科学科）

人間形成の基礎科目		日本と国際社会Ａ	2	数理・情報系	
文化の領域		日本と国際社会Ｂ	2	数学	4
哲学の楽しみＡ	2	環境を考えるＡ	2	発展数学Ａ	2
哲学の楽しみＢ	2	環境を考えるＢ	2	発展数学Ｂ	2
科学を考えるＡ	2	歴史と人間Ａ	2	情報科学Ａ	2
科学を考えるＢ	2	歴史と人間Ｂ	2	情報科学Ｂ	2
芸術の楽しみＡ	2	心理学Ａ	2	情報科学Ｃ	2
芸術の楽しみＢ	2	心理学Ｂ	2	自然科学系	
倫理学Ａ	2	健康の領域		◎ 物理学	4
倫理学Ｂ	2	健康の科学Ａ	2	◎ 物理学実験	1
文学の楽しみＡ	2	健康の科学Ｂ	2	◎ 生物学	4
文学の楽しみＢ	2	健康の科学Ｃ	2	◎ 生物学実験	1
信仰と救いＡ	2	健康とスポーツ演習	2	※ 物理学要習	1
信仰と救いＢ	2	ライフスポーツ演習Ａ	2	※ 化学要習	1
社会の領域		ライフスポーツ演習Ｂ	2	※ 生物学要習	1
日本国憲法Ａ	2	ライフスポーツ演習Ｃ	2	教養演習系科目	
日本国憲法Ｂ	2	総合領域科目		教養演習系	
法律の役割Ａ	2	総合領域		教養演習Ａ	2
法律の役割Ｂ	2	◎ 北里の世界	1	教養演習Ｂ	1
経済のしくみＡ	2	◎ 仕事と人生	1	教養演習Ｃ	1
経済のしくみＢ	2	農医連携論	1	大学基礎演習	1
個人と社会Ａ	2	基礎教育科目		言語と文化Ａ	2
個人と社会Ｂ	2	外国語系		言語と文化Ｂ	2
政治のしくみＡ	2	◎ 英語ＡⅠ	1		
政治のしくみＢ	2	◎ 英語ＡⅡ	1	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。	
文化人類学Ａ	2	◎ 英語ＢⅠ	1		
文化人類学Ｂ	2	◎ 英語ＢⅡ	1		

薬学２群科目（薬学科・生命創薬科学科共通）

◎ 化学	1	◎ 有機化学Ⅰ	1	◎ 英語CⅡ	1
◎ 基礎有機化学	1	◎ 情報リテラシーⅠ	1	◎ 医薬品構造学Ⅰ	1
◎ 代数学	1	◎ 情報リテラシーⅡ	1		
◎ 統計学	1	◎ 英語CⅠ	1		

薬学３群科目（薬学科）

◎	薬学概論	1	◎	薬物治療学Ⅰ	1	文献講読ゼミC	1
◎	薬用植物学	1	◎	医療心理学	1	医療ボランティア実習C	1
◎	薬と仕事Ⅰ	1	◎	臨床検査学Ⅰ	1	◎ 医薬品安全性学Ⅱ	1
◎	解剖学	1	◎	公衆衛生学Ⅰ	1	◎ 医薬関連制度	1
◎	生化学Ⅰ	1	◎	微生物学実習Ⅰ	1	◎ 臨床薬物動態学	1
◎	生理学Ⅰ	1	◎	微生物学実習Ⅱ	1	◎ 薬物治療学Ⅳ	1
◎	チーム医療論	1	◎	物理薬剤学実習	1	◎ 地域医療薬学Ⅲ	1
◎	有機化学Ⅱ	1		薬学英語Ⅰ	1	◎ 医療倫理学	1
◎	分析科学Ⅰ	1		細胞生物学	1	◎ 病院・薬局実習事前実習	4
◎	生薬学Ⅰ	1		構造生命科学	1	薬品製造化学	1
◎	生命物理化学Ⅰ	1		放射薬品学実習	1	臨床試験総論	1
◎	生化学Ⅱ	1		文献講読ゼミA	1	臨床栄養学	1
◎	微生物学Ⅰ	1		医療ボランティア実習A	1	救急治療・臨床中毒学	1
◎	生理学Ⅱ	1	◎	製剤学	1	創薬化学	1
◎	薬理学Ⅰ	1	◎	合成化学Ⅱ	1	リハビリテーション論	1
◎	病理学	1	◎	東洋医学概論	1	文献講読ゼミD	1
◎	薬学統計学	1	◎	生物薬剤学	1	医療ボランティア実習D	1
◎	薬と仕事Ⅱ	1	◎	衛生化学Ⅱ	1	◎ 病院・薬局実習	20
	健康科学	1	◎	臨床医学概論Ⅱ	1	◎ 薬事行政	1
◎	医薬品化学実習	1	◎	疾病解析学	1	臨床統計学	1
◎	有機分析実習	1	◎	薬物治療学Ⅱ	1	ケミカルバイオロジー論	1
◎	定量分析実習	1	◎	調剤学	1	香粧品学	1
◎	社会薬学実習	1	◎	地域医療薬学Ⅰ	1	医薬品マーケティング論	1
◎	有機化学Ⅲ	1	◎	衛生化学実習	1	医療薬学英語	1
◎	分析科学Ⅱ	1	◎	公衆衛生学実習	1	終末期・緩和医療論	1
◎	生薬学Ⅱ	1	◎	薬理学実習Ⅰ	1	生薬・東洋医学精説	1
◎	生命物理化学Ⅱ	1	◎	薬理学実習Ⅱ	1	感染制御学	1
◎	生化学Ⅲ	1		薬学英語Ⅱ	1	◎ 薬物治療学演習Ⅰ	1
◎	微生物学Ⅱ	1		医薬品構造学Ⅱ	1	◎ 薬物治療学演習Ⅱ	1
◎	化学療法学Ⅰ	1		臨床生理学Ⅰ	1	◎ チーム医療演習	1
◎	薬理学Ⅱ	1		臨床生化学	1	医療コミュニケーション演習	1
◎	病態評価学	1		文献講読ゼミB	1	薬局管理学	1
◎	医療コミュニケーション論	1		医療ボランティア実習B	1	臨床検査学Ⅱ	1
◎	ゲノム医学	1	◎	医薬品化学	1	臨床病理学	1
◎	生命物理化学実習	1	◎	薬物速度論	1	◎ 薬学卒業特別実習	10
◎	生薬学実習	1	◎	公衆衛生学Ⅱ	1	◎ 薬学総合演習	20
◎	生化学実習	1	◎	臨床医学概論Ⅲ	1	※ 初級太極拳演習（養生法演習）	1
◎	有機合成実習	1	◎	医薬品安全性学Ⅰ	1	※ 漢方調剤薬局実務演習	1
◎	分析科学Ⅲ	1	◎	医薬品情報学	1	※ 臨床生理学実習	1
◎	合成化学Ⅰ	1	◎	薬事関係法規	1	※ 臨床検査学実習	1
◎	衛生化学Ⅰ	1	◎	薬物治療学Ⅲ	1	※ 臨床化学実習	1
◎	放射薬品学	1	◎	地域医療薬学Ⅱ	1	※ 医用工学概論実習	1
◎	免疫学	1	◎	医療薬学	1	※ 臨床検査総論実習	1
◎	化学療法学Ⅱ	1	◎	プレゼンテーション実習	1		
◎	薬理学Ⅲ	1		看護学	1		
◎	臨床医学概論Ⅰ	1		物理薬剤学Ⅱ	1	※印は自由科目（臨床検査技師課程に関する科目を含む）であり、卒業要件単位に含まない。	
◎	物理薬剤学Ⅰ	1		健康食品論	1		
	臨床心理学入門	1		臨床生理学Ⅱ	1		

薬学４群科目（薬学科）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目					
実践医療薬学Ａ	1	実践医療薬学Ｂ	1	実践医療薬学Ｃ	1
基礎有機化学演習	1				

薬学３群科目（生命創薬科学科）

◎ 薬学概論	1	◎ 衛生化学Ⅰ	1	医薬品化学	1
◎ 薬用植物学	1	◎ 放射薬品学	1	公衆衛生学Ⅱ	1
◎ 創薬科学への招待	1	◎ 免疫学	1	医薬品安全性学Ⅰ	1
◎ 解剖学	1	◎ 化学療法学Ⅱ	1	医薬品情報学	1
◎ 生化学Ⅰ	1	◎ 薬理学Ⅲ	1	薬物速度論	1
◎ 生理学Ⅰ	1	◎ 細胞生物学	1	臨床医学概論Ⅲ	1
◎ 生命創薬科学研究概説	1	◎ 構造生命科学	1	看護学	1
チーム医療論	1	◎ 創薬情報科学	1	物理薬剤学Ⅱ	1
◎ 有機化学Ⅱ	1	◎ 公衆衛生学Ⅰ	1	健康食品論	1
◎ 分析科学Ⅰ	1	◎ 文献講読ゼミA	1	臨床病理学	1
◎ 生薬学Ⅰ	1	◎ 微生物学実習Ⅰ	1	臨床統計学	1
◎ 生命物理化学Ⅰ	1	◎ 微生物学実習Ⅱ	1	ケミカルバイオロジー論	1
◎ 生化学Ⅱ	1	◎ 物理薬剤学実習	1	香粧品学	1
◎ 微生物学Ⅰ	1	物理薬剤学Ⅰ	1	医薬品マーケティング論	1
◎ 生理学Ⅱ	1	薬物治療学Ⅰ	1	生薬・東洋医学精説	1
◎ 薬理学Ⅰ	1	医療心理学	1	感染制御学	1
◎ 薬学統計学	1	臨床医学概論Ⅰ	1	薬物治療学Ⅲ	1
◎ 生命創薬科学Ⅰ	1	薬学英語Ⅰ	1	地域医療薬学Ⅱ	1
病理学	1	放射薬品学実習	1	医療薬学	1
健康科学	1	◎ 合成化学Ⅱ	1	臨床生理学Ⅱ	1
◎ 医薬品化学実習	1	◎ 衛生化学Ⅱ	1	◎ 医薬関連制度	1
◎ 有機分析実習	1	◎ 衛生化学実習	1	医薬品安全性学Ⅱ	1
◎ 定量分析実習	1	◎ 公衆衛生学実習	1	薬品製造化学	1
社会薬学実習	1	◎ 薬理学実習Ⅰ	1	臨床薬物動態学	1
◎ 有機化学Ⅲ	1	◎ 薬理学実習Ⅱ	1	臨床試験総論	1
◎ 分析科学Ⅱ	1	◎ 文献講読ゼミB	1	臨床栄養学	1
◎ 生薬学Ⅱ	1	製剤学	1	救急治療・臨床中毒学	1
◎ 生命物理化学Ⅱ	1	東洋医学概論	1	リハビリテーション論	1
◎ 生化学Ⅲ	1	生物薬剤学	1	薬物治療学Ⅳ	1
◎ 微生物学Ⅱ	1	臨床医学概論Ⅱ	1	地域医療薬学Ⅲ	1
◎ 化学療法学Ⅰ	1	疾病解析学	1	医療倫理学	1
◎ 薬理学Ⅱ	1	薬学英語Ⅱ	1	◎ 生命創薬科学特別演習	2
◎ ゲノム医学	1	医薬品構造学Ⅱ	1	◎ 生命創薬科学卒業特別実習	10
◎ 生命創薬科学Ⅱ	1	臨床生理学Ⅰ	1		
◎ 生命物理化学実習	1	臨床生化学	1		
◎ 生薬学実習	1	理論分子設計学	1		
◎ 生化学実習	1	創薬化学	1		
◎ 有機合成実習	1	薬物治療学Ⅱ	1		
病態評価学	1	調剤学	1		
医療コミュニケーション論	1	地域医療薬学Ⅰ	1		
◎ 分析科学Ⅲ	1	◎ 薬事行政	1		
◎ 合成化学Ⅰ	1	◎ 薬事関係法規	1		

薬学４群科目（生命創薬科学科）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目					
基礎有機化学演習	1				

獣医学１群科目（獣医学科）

人間形成の基礎科目		歴史と人間Ａ	2	情報科学Ｃ	2
文化の領域		歴史と人間Ｂ	2	自然科学系	
哲学の楽しみＡ	2	心理学Ａ	2	物理学	4
哲学の楽しみＢ	2	心理学Ｂ	2	物理学実験	1
科学を考えるＡ	2	健康の領域		◎ 化学	4
科学を考えるＢ	2	健康の科学Ａ	2	◎ 化学実験	1
芸術の楽しみＡ	2	健康の科学Ｂ	2	◎ 生物学	4
芸術の楽しみＢ	2	健康の科学Ｃ	2	◎ 生物学実験	1
倫理学Ａ	2	健康とスポーツ演習	2	※ 物理学要習	1
倫理学Ｂ	2	ライフスポーツ演習Ａ	2	※ 化学要習	1
文学の楽しみＡ	2	ライフスポーツ演習Ｂ	2	※ 生物学要習	1
文学の楽しみＢ	2	ライフスポーツ演習Ｃ	2	教養演習系科目	
信仰と救いＡ	2	総合領域科目		教養演習系	
信仰と救いＢ	2	総合領域		教養演習Ａ	2
社会の領域		北里の世界	1	教養演習Ｂ	1
日本国憲法Ａ	2	仕事と人生	1	教養演習Ｃ	1
日本国憲法Ｂ	2	農医連携論	1	大学基礎演習	1
法律の役割Ａ	2	基礎教育科目		言語と文化Ａ	2
法律の役割Ｂ	2	外国語系		言語と文化Ｂ	2
経済のしくみＡ	2	◎ 英語ＡⅠ	1		
経済のしくみＢ	2	◎ 英語ＡⅡ	1		
個人と社会Ａ	2	◎ 英語ＢⅠ	1		
個人と社会Ｂ	2	◎ 英語ＢⅡ	1		
政治のしくみＡ	2	数理・情報系			
政治のしくみＢ	2	数学	4		
文化人類学Ａ	2	統計学Ａ	4		
文化人類学Ｂ	2	※ 数学の基礎	2		
日本と国際社会Ａ	2	発展数学Ａ	2	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。	
日本と国際社会Ｂ	2	発展数学Ｂ	2		
環境を考えるＡ	2	情報科学Ａ	2		
環境を考えるＢ	2	情報科学Ｂ	2		

獣医学２群科目（獣医学科）

◎ 獣医学入門	1	◎ 獣医専門英語Ⅱ	1	病院経営学	1
◎ 獣医学入門実習	1	◎ 獣医専門英語Ⅲ	1	検定英語	1
◎ 動物分類学	1	◎ 獣医専門英語Ⅳ	1		
◎ 生物統計学	1	動物品種論	1		
◎ 畜産学概論	1	動物育種学	1		
◎ 動物栄養学	1	家畜飼育学	1		
◎ 生命工学	1	畜産物利用学	1		
◎ 獣医専門英語Ⅰ	1	海棲哺乳動物学	1		

獣医学３群科目（獣医学科）

生体機構系科目		◎ 獣医ウィルス学実習	1	◎ 獣医臨床放射線学実習	1.5
◎ 動物遺伝学	1	◎ 獣医免疫学Ⅰ	1	◎ 小動物総合臨床学Ⅰ	2
◎ 動物行動学	1	◎ 獣医免疫学Ⅱ	1	◎ 小動物総合臨床学Ⅱ	2
◎ 獣医解剖学Ⅰ	1	◎ 獣医寄生虫病学Ⅰ	1	◎ 小動物総合臨床学Ⅲ	2
◎ 獣医解剖学Ⅱ	2	◎ 獣医寄生虫病学Ⅱ	2	◎ 小動物総合臨床学実習Ⅰ	1
◎ 獣医解剖学Ⅲ	2	◎ 獣医寄生虫病学実習	1	◎ 小動物総合臨床学実習Ⅱ	1
◎ 獣医解剖学実習Ⅰ	1	◎ 獣医感染症学Ⅰ	1	◎ 小動物総合臨床学実習Ⅲ	1
◎ 獣医解剖学実習Ⅱ	1	◎ 獣医感染症学Ⅱ	1	◎ 小動物病院実習	2
◎ 獣医解剖学実習Ⅲ	1	◎ 獣医感染症学Ⅲ	1	◎ 大動物総合臨床学Ⅰ	2
◎ 獣医生理学Ⅰ	1	◎ 獣医感染症学実習	1	◎ 大動物総合臨床学Ⅱ	2
◎ 獣医生理学Ⅱ	2	◎ 鳥類疾病学	2	◎ 大動物総合臨床学Ⅲ	2
◎ 獣医生理学Ⅲ	2	◎ 鳥類疾病学実習	1	◎ 大動物総合臨床学実習Ⅰ	1
◎ 獣医生理学実習Ⅰ	1	◎ 獣医公衆衛生学総論	1	◎ 大動物総合臨床学実習Ⅱ	1
◎ 獣医生理学実習Ⅱ	1	◎ 食品衛生学	1	◎ 大動物総合臨床学実習Ⅲ	1
◎ 獣医生化学Ⅰ	1	◎ 環境衛生学	1	◎ 大動物病院実習	1
◎ 獣医生化学Ⅱ	2	◎ 獣医公衆衛生学実習Ⅰ	1	エキゾチックアニマル	1
◎ 獣医生化学実習	1	◎ 獣医公衆衛生学実習Ⅱ	1	プロダクションメディスン	1
◎ 分子生物学	1	◎ 獣医衛生学Ⅰ	1	小動物参加型臨床実習Ⅰ	1
◎ 獣医基礎放射線学	1	◎ 獣医衛生学Ⅱ	1	小動物参加型臨床実習Ⅱ	1
◎ 獣医薬理学Ⅰ	1	◎ 獣医衛生学実習	1	大動物参加型臨床実習Ⅰ	1
◎ 獣医薬理学Ⅱ	2	◎ 人獣共通感染症学	1	大動物参加型臨床実習Ⅱ	1
◎ 獣医薬理学実習Ⅰ	1	◎ 獣医疫学	1		
◎ 獣医薬理学実習Ⅱ	1	◎ 魚病学	1	◎ 獣医学概論	1
◎ 獣医病理学Ⅰ	2	◎ 野生動物学	1	共◎ 獣医倫理・動物福祉学	1
◎ 獣医病理学Ⅱ	2	臨床系科目		◎ 獣医畜産関係法規	1
◎ 獣医病理学実習Ⅰ	2	◎ 臨床栄養学	1	◎ 総合獣医学	5
◎ 獣医病理学実習Ⅱ	1	◎ 獣医内科学	2	◎ 卒業論文	8
◎ 実験動物学	2	◎ 獣医内科学実習	1	特定講義Ⅰ	1
◎ 実験動物学実習	1	◎ 獣医外科学	2	特定講義Ⅱ	1
◎ 毒性学	2	◎ 獣医外科学実習	1	特定講義Ⅲ	1
◎ 毒性学実習	1	◎ 麻酔学・救急医療学	1	特定講義Ⅳ	1
予防衛生系科目		◎ 麻酔学・救急医療学実習	0.5	学外実習Ⅰ	1
◎ 獣医微生物学総論Ⅰ	1	◎ 獣医臨床繁殖学	2	学外実習Ⅱ	1
◎ 獣医微生物学総論Ⅱ	1	◎ 獣医臨床繁殖学実習	1		
◎ 獣医細菌学	1	◎ 獣医臨床病理学	1		
◎ 獣医細菌学実習	1	◎ 獣医臨床病理学実習	1		
◎ 獣医ウィルス学	1	◎ 獣医臨床放射線学	2		

獣医学４群科目（獣医学科）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目

獣医学１群科目（動物資源科学科）

人間形成の基礎科目		心理学Ａ	2	◎ 化学	4
文化の領域		心理学Ｂ	2	◎ 化学実験	1
哲学の楽しみＡ	2	健康の領域		◎ 生物学	4
哲学の楽しみＢ	2	健康の科学Ａ	2	◎ 生物学実験	1
科学を考えるＡ	2	健康の科学Ｂ	2	※ 物理学要習	1
科学を考えるＢ	2	健康の科学Ｃ	2	※ 化学要習	1
芸術の楽しみＡ	2	健康とスポーツ演習	2	※ 生物学要習	1
芸術の楽しみＢ	2	ライフスポーツ演習Ａ	2	※ 地学	4
倫理学Ａ	2	ライフスポーツ演習Ｂ	2	※ 地学実験	1
倫理学Ｂ	2	ライフスポーツ演習Ｃ	2	教養演習系科目	
文学の楽しみＡ	2	総合領域科目		教養演習系	
文学の楽しみＢ	2	総合領域		教養演習Ａ	2
信仰と救いＡ	2	北里の世界	1	教養演習Ｂ	1
信仰と救いＢ	2	仕事と人生	1	教養演習Ｃ	1
社会の領域		農医連携論	1	大学基礎演習	1
日本国憲法Ａ	2	基礎教育科目		※ 言語と文化Ａ	2
日本国憲法Ｂ	2	外国語系		※ 言語と文化Ｂ	2
法律の役割Ａ	2	◎ 英語ＡⅠ	1		
法律の役割Ｂ	2	◎ 英語ＡⅡ	1		
経済のしくみＡ	2	◎ 英語ＢⅠ	1		
経済のしくみＢ	2	◎ 英語ＢⅡ	1		
個人と社会Ａ	2	数理・情報系			
個人と社会Ｂ	2	数学	4		
政治のしくみＡ	2	統計学Ａ	4		
政治のしくみＢ	2	数学の基礎	2		
文化人類学Ａ	2	発展数学Ａ	2		
文化人類学Ｂ	2	発展数学Ｂ	2		
日本と国際社会Ａ	2	情報科学Ａ	2		
日本と国際社会Ｂ	2	情報科学Ｂ	2		
環境を考えるＡ	2	情報科学Ｃ	2		
環境を考えるＢ	2	自然科学系		※印は自由科目（教職課程の教科に関する科目を含む）であり、卒業要件単位に含まない。	
歴史と人間Ａ	2	物理学	4		
歴史と人間Ｂ	2	物理学実験	1		

獣医学２群科目（動物資源科学科）

◎ 動物資源科学概論１	2	◎ 分子生物学	2	人と動物関係学	1
◎ 動物資源科学概論２	2	◎ 分子生物学実習	1	動物福祉論	2
◎ 生物有機化学	2	◎ 生物統計学	2	検定英語	1
◎ 家畜品種論	2	◎ 専門英語	2		
◎ 牧場実習	1	野生動物学	2		
◎ 免疫学	2	食と健康関係学	1		

獣医学３群科目（動物資源科学科）

◎ 動物生理学	2	◎ 動物健康情報学実習	1	農医連携特定講義１	1
◎ 動物解剖学	2	◎ 卒業論文	8	農医連携特定講義２	1
◎ 動物解剖学実習	1	草地学	2	生命倫理学	2
◎ 動物飼育管理学	2	飼料学	2	農医連携特定実習１	1
◎ 動物飼育管理学実習	1	家畜飼育管理学各論	2	農医連携特定実習２	1
◎ 食品科学	2	伴侶動物行動学	1	農医連携特定実習３	1
◎ 食品科学実習	1	人工授精・胚移植論	1	農医連携特定実習４	1
◎ 食品機能安全学	2	家畜審査論	1		
◎ 食品機能安全学実習	1	動物検査学	1		
◎ 動物栄養学	2	畜産食品化学	2		
◎ 動物栄養学実習	1	動物微生物学	2		
◎ 分析化学	2	代謝機能学	2		
◎ 動物生殖学	2	家畜病理学	2		
◎ 動物生殖学実習	1	生体情報学	2		
◎ 動物生化学	2	実験動物学	2		
◎ 動物生化学実習	1	発生工学	2		
◎ 動物感染予防学	2	食品衛生学	2		
◎ 動物感染予防学実習	1	応用微生物学	2		
◎ 応用動物行動学	2	生体分子機能学	1		
◎ 応用動物行動学実習	1	食品製造保蔵学	2		
◎ 動物育種学	2	動物資源科学特定講義１	1		
◎ 細胞工学	2	動物資源科学特定講義２	1		
◎ 細胞工学実習	1	インターンシップ	1		

獣医学４群科目（動物資源科学科）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目

獣医学１群科目（生物環境科学科）

人間形成の基礎科目		心理学Ａ	2	◎ 化学	4
文化の領域		心理学Ｂ	2	◎ 化学実験	1
哲学の楽しみＡ	2	健康の領域		◎ 生物学	4
哲学の楽しみＢ	2	健康の科学Ａ	2	◎ 生物学実験	1
科学を考えるＡ	2	健康の科学Ｂ	2	※ 物理学要習	1
科学を考えるＢ	2	健康の科学Ｃ	2	※ 化学要習	1
芸術の楽しみＡ	2	健康とスポーツ演習	2	※ 生物学要習	1
芸術の楽しみＢ	2	ライフスポーツ演習Ａ	2	教養演習系科目	
倫理学Ａ	2	ライフスポーツ演習Ｂ	2	教養演習系	
倫理学Ｂ	2	ライフスポーツ演習Ｃ	2	教養演習Ａ	2
文学の楽しみＡ	2	総合領域科目		教養演習Ｂ	1
文学の楽しみＢ	2	総合領域		教養演習Ｃ	1
信仰と救いＡ	2	北里の世界	1	大学基礎演習	1
信仰と救いＢ	2	仕事と人生	1	※ 言語と文化Ａ	2
社会の領域		農医連携論	1	※ 言語と文化Ｂ	2
日本国憲法Ａ	2	基礎教育科目			
日本国憲法Ｂ	2	外国語系			
法律の役割Ａ	2	◎ 英語ＡⅠ	1		
法律の役割Ｂ	2	◎ 英語ＡⅡ	1		
経済のしくみＡ	2	◎ 英語ＢⅠ	1		
経済のしくみＢ	2	◎ 英語ＢⅡ	1		
個人と社会Ａ	2	数理・情報系			
個人と社会Ｂ	2	◎ 数学	4		
政治のしくみＡ	2	※ 統計学Ａ	4		
政治のしくみＢ	2	※ 数学の基礎	2		
文化人類学Ａ	2	※ 発展数学Ａ	2		
文化人類学Ｂ	2	※ 発展数学Ｂ	2		
日本と国際社会Ａ	2	※ 情報科学Ａ	2		
日本と国際社会Ｂ	2	※ 情報科学Ｂ	2		
環境を考えるＡ	2	※ 情報科学Ｃ	2		
環境を考えるＢ	2	自然科学系			
歴史と人間Ａ	2	◎ 物理学	4	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。	
歴史と人間Ｂ	2	◎ 物理学実験	1		

獣医学２群科目（生物環境科学科）

◎ 生物環境科学概論Ⅰ	2	＊ ◇ 応用力学演習	1		
◎ 生物環境科学概論Ⅱ	2	＊ ◎ 応用統計学	2	※印は教職課程の教科に関する科目であり、卒業要件単位に含まない。	
◎ 環境倫理・法規	2	◎ データサイエンス	2		
◎ 生物環境科学実習	1	◎ データサイエンス実習	1	＊印は測量士補の資格を得る為に必要な測量専修の科目である。	
◎ 基礎生態学	2	◎ 動物科学概論	2		
◎ 植物科学概論	2	◎ 専門英語	1	◇印は修習技術者の資格を得る為に必要な科目である。	
＊ ◇ 応用力学	2	※ 職業指導	2		

獣医学３群科目（生物環境科学科）

＊	◎	水環境学	2	＊	◇	応用数学演習	1			応用動物行動学	2
＊	◎	水環境学実験	1			水棲動物学	1			動物環境衛生学	2
	◎	緑地保全学	2		◎	環境分析学	2		◇	環境ﾏﾃﾘｱﾙ・施工学	2
	◎	緑地保全学実験	1			環境分析学実験	1	＊	◎	生態ﾘﾓｰﾄｾﾝｼﾝｸﾞ	2
＊	◎	測量学Ⅰ	2	＊	◇	測量学Ⅱ	2			気象環境学	2
＊	◎	測量学実習Ⅰ	1	＊	◇	測量学実習Ⅱ	1		◇	環境経済学	1
＊	◇	水理学	2		◇	CAD演習	1		◇	生物環境科学特定講義Ⅰ	1
＊	◎	土壌環境学	2	＊		生態計測学	2		◇	生物環境科学特定講義Ⅱ	1
＊	◎	土壌環境学実験	1		◎	分子生物学	2				
	◎	野生動物学	2	＊	◎	地域資源利用学	2				
	◎	野生動物学実習	1	＊	◇	環境情報解析学演習	1				
	◎	環境情報学	2		◇	インターンシップ	1				
＊	◎	環境計画学	2		◇	災害復興学	1				
＊	◇	土壌物理学	2		◎	卒業論文	8				
＊	◎	環境情報学実験	1			動物生体機構学	2				
	◎	植物生態環境学	2	＊	◇	水理学演習	1				
		環境微生物学	2		◎	狩猟学	2				
＊	◎	水文学	2		◎	動物生態学	2				
＊	◇	土質工学	2		◎	里山生態学	2				
	◎	土壌科学概論	2								

＊印は測量士補の資格を得る為に必要な測量専修の科目である。

◇印は修習技術者の資格を得る為に必要な科目である。

獣医学４群科目（生物環境科学科）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目

医学１群科目（医学科）

人間形成の基礎科目		歴史と人間Ａ	2	教養演習系科目	
文化の領域		歴史と人間Ｂ	2	教養演習系	
哲学の楽しみＡ	2	心理学Ａ	2	※ 教養演習Ａ	2
哲学の楽しみＢ	2	心理学Ｂ	2	※ 教養演習Ｂ	1
科学を考えるＡ	2	健康の領域		※ 教養演習Ｃ	1
科学を考えるＢ	2	健康の科学Ａ	2	※ 大学基礎演習	1
芸術の楽しみＡ	2	健康の科学Ｂ	2	言語と文化Ａ	2
芸術の楽しみＢ	2	健康の科学Ｃ	2		
倫理学Ａ	2	◎ 健康とスポーツ演習	2		
倫理学Ｂ	2	総合領域科目			
文学の楽しみＡ	2	総合領域			
文学の楽しみＢ	2	北里の世界	1		
信仰と救いＡ	2	仕事と人生	1		
信仰と救いＢ	2	農医連携論	1		
社会の領域		基礎教育科目			
日本国憲法Ａ	2	外国語系			
日本国憲法Ｂ	2	◎ 英語ＡⅠ	1		
法律の役割Ａ	2	◎ 英語ＡⅡ	1		
法律の役割Ｂ	2	◎ 英語ＢⅠ	1		
経済のしくみＡ	2	◎ 英語ＢⅡ	1		
経済のしくみＢ	2	数理・情報系			
個人と社会Ａ	2	◎ 数学	4		
個人と社会Ｂ	2	◎ 統計学Ａ	4		
政治のしくみＡ	2	自然科学系			
政治のしくみＢ	2	◎ 物理学	3		
文化人類学Ａ	2	◎ 物理学実験	1		
文化人類学Ｂ	2	◎ 化学	3		
日本と国際社会Ａ	2	◎ 化学実験	1		
日本と国際社会Ｂ	2	◎ 生物学	3		
環境を考えるＡ	2	◎ 生物学実験	1	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。	
環境を考えるＢ	2				

医学２群科目（医学科）（数字は授業時間数）

◎ 医学原論・医学原論演習	47	◎ タンパク質化学	23	◎ 医学英語Ⅱ	39
◎ 生化学序説	18	◎ 放射線健康リスク科学	12		
◎ 細胞生物学	30	◎ 医学英語Ⅰ	41		

医学３群科目（医学科）　（数字は授業時間数）

基礎医学					
（解剖学）		（生理学）		（生化学）	
◎ 組織学	35	◎ 生理学	78	◎ 代謝学	42
◎ 組織学実習	57	◎ 生理学実習	33	◎ 医化学・栄養学	36
◎ 解剖・発生学Ⅰ	30			◎ 分子医化学実習	24
◎ 解剖・発生学Ⅱ	15				
◎ 解剖・発生学Ⅲ	15				
◎ 解剖学実習	138				
◎ 神経解剖学・実習	27				
（微生物学）		（寄生虫学・熱帯医学）		（病理学）	
◎ 微生物学総論・実習	57	◎ 寄生虫学・熱帯医学	24	◎ 病理学総論	24
				◎ 病理学総論実習	24
（薬理学）		（分子遺伝学）		（免疫学）	
◎ 薬理学総論	30	◎ 臨床遺伝学	15	◎ 免疫学総論・実習	39
◎ 薬理学実習	26	◎ 遺伝子学	30		
（実験動物学）					
◎ 実験動物学・実習	15	◎ 統合基礎医学	12		
器官系別総合					
◎ 神経系	36	◎ 老年医学	12	◎ 成長発達系診断・治療学	48
◎ 循環器系	35	◎ 感染症・免疫系診断・治療学	39	◎ 運動器系診断・治療学	17
◎ 呼吸器系	36	◎ 神経系診断・治療学	48	◎ 腎尿路系診断・治療学	27
◎ 消化器系	32	◎ 循環器系診断・治療学	60	◎ 画像・臨床検査診断学	24
◎ 血液造血器系	24	◎ 呼吸器系診断・治療学	38	◎ 精神系診断・治療学	36
◎ 内分泌・代謝系	29	◎ 消化器系診断・治療学	74	◎ 皮膚系診断・治療学	18
◎ 生殖機能妊娠分娩系	24	◎ 血液造血器系診断・治療学	23	◎ 視覚系診断・治療学	24
◎ 運動器系	14	◎ 内分泌・代謝系診断・治療学	35	◎ 耳鼻咽喉・頭頸部系診断・治療学	27
◎ 腎尿路系	26	◎ 生殖機能妊娠分娩系診断・治療学	51	◎ 救急侵襲医療系診断・治療学	32
◎ 基礎腫瘍系	12				
◎ 臨床腫瘍系	23				
社会医学					
（衛生学・公衆衛生学）		（法医学）		（医療安全・管理学）	
◎ 予防医学系	48	◎ 法医学系	38	◎ 医療安全・管理学	12
◎ 衛生・公衆衛生実習	31	法医学実習（選択実習）	101		
公衆衛生実習（選択実習）	101				

臨　床　医　学					
（内科学）		（外科学）		（小児科学）	
◎ 内科学総論(臨床実習入門含)	120	◎ 外科学総論	21	◎ 小児科実習	101
◎ 消化器内科実習	66	◎ 外科実習	136	小児科実習（選択実習）	101
◎ 内分泌・代謝内科実習	66	外科実習（選択実習）	101		
◎ 循環器内科実習	66				
◎ 脳神経内科実習	66				
◎ 血液内科実習	66				
◎ 腎臓内科実習	66				
◎ 呼吸器内科実習	66				
◎ 膠原病・感染内科実習	66				
消化器内科実習(選択実習)	101				
内分泌・代謝内科実習(選択実習)	101				
循環器内科実習(選択実習)	101				
脳神経内科実習(選択実習)	101				
血液内科実習(選択実習)	101				
腎臓内科実習(選択実習)	101				
呼吸器内科実習(選択実習)	101				
膠原病・感染内科実習(選択実習)	101				
（産婦人科学）		（臨床検査診断学）		（形成外科・美容外科学）	
◎ 産婦人科実習	101	◎ 臨床検査診断学実習	31	◎ 形成外科・美容外科実習	31
産婦人科実習（選択実習）	101	臨床検査診断学実習（選択実習）	101	形成外科・美容外科実習（選択実習）	101
（救命救急医学）		（心臓血管外科学）		（呼吸器外科学）	
◎ 救命救急医学実習	31	◎ 心臓血管外科実習	31	◎ 呼吸器外科実習	31
救命救急医学実習（選択実習）	101	心臓血管外科実習（選択実習）	101	呼吸器外科実習（選択実習）	101
（脳神経外科学）		（放射線科学）		（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学）	
◎ 脳神経外科実習	31	◎ 放射線科実習	31	◎ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科実習	31
脳神経外科実習（選択実習）	101	画像診断学実習（選択実習）	101	耳鼻咽喉科・頭頸部外科実習（選択実習）	101
		放射線腫瘍学実習（選択実習）	101		
（眼科学）		（整形外科学）		（泌尿器科学）	
◎ 眼科実習	31	◎ 整形外科実習	31	◎ 泌尿器科実習	31
眼科実習（選択実習）	101	整形外科実習（選択実習）	101	泌尿器科実習（選択実習）	101
（皮膚科学）		（精神科学）		（麻酔科学）	
◎ 皮膚科実習	31	◎ 精神科実習	101	◎ 麻酔科実習	31
皮膚科実習（選択実習）	101	精神科実習（選択実習）	101	麻酔科実習（選択実習）	101
（病理学）		（総合診療医学）		（東洋医学）	
◎ 病理学臨床実習	31	◎ 総合診療医学実習	101	東洋医学実習(選択実習)	101
病理実習（選択実習）	101	総合診療医学実習（選択実習）	101		
（臨床解剖学）		学外実習Ⅰ（選択実習）	101	学外実習Ⅳ（選択実習）	101
臨床解剖学実習(選択実習)	101	学外実習Ⅱ（選択実習）	101	学外実習Ⅴ（選択実習）	101
		学外実習Ⅲ（選択実習）	101	学外実習Ⅵ（選択実習）	101
臨床実習（KMC・北研病院）（選択実習）	101				
◎ 総合講義	195				
関　連　科　目					
◎ テュートリアル教育Ⅰ	18	◎ 医学研究入門Ⅱ	120	◎ 行動科学・医療面接	20
◎ テュートリアル教育Ⅱ	21	◎ 早期体験学習Ⅰ	15	◎ 医用情報学	15
◎ 医学研究入門Ⅰ	15	◎ 早期体験学習Ⅱ	62	◎ チーム医療論	23

海洋生命科学１群科目（海洋生命科学科）

人間形成の基礎科目		心理学Ａ	2	◎ 化学	4
文化の領域		心理学Ｂ	2	◎ 化学実験	1
哲学の楽しみＡ	2	健康の領域		◎ 生物学	4
哲学の楽しみＢ	2	健康の科学Ａ	2	◎ 生物学実験	1
科学を考えるＡ	2	健康の科学Ｂ	2	※ 物理学要習	1
科学を考えるＢ	2	健康の科学Ｃ	2	※ 化学要習	1
芸術の楽しみＡ	2	健康とスポーツ演習	2	※ 生物学要習	1
芸術の楽しみＢ	2	ライフスポーツ演習Ａ	2	※ 地学	4
倫理学Ａ	2	ライフスポーツ演習Ｂ	2	※ 地学実験	1
倫理学Ｂ	2	ライフスポーツ演習Ｃ	2	教養演習系科目	
文学の楽しみＡ	2	総合領域科目		教養演習系	
文学の楽しみＢ	2	総合領域		教養演習Ａ	2
信仰と救いＡ	2	北里の世界	1	教養演習Ｂ	1
信仰と救いＢ	2	仕事と人生	1	教養演習Ｃ	1
社会の領域		農医連携論	1	大学基礎演習	1
日本国憲法Ａ	2	基礎教育科目		※ 言語と文化Ａ	2
日本国憲法Ｂ	2	外国語系		※ 言語と文化Ｂ	2
法律の役割Ａ	2	◎ 英語ＡⅠ	1		
法律の役割Ｂ	2	◎ 英語ＡⅡ	1		
経済のしくみＡ	2	◎ 英語ＢⅠ	1		
経済のしくみＢ	2	◎ 英語ＢⅡ	1		
個人と社会Ａ	2	数理・情報系			
個人と社会Ｂ	2	数学	4		
政治のしくみＡ	2	※ 統計学Ａ	4		
政治のしくみＢ	2	数学の基礎	2		
文化人類学Ａ	2	発展数学Ａ	2		
文化人類学Ｂ	2	発展数学Ｂ	2	※印は自由科目（教職課程の教科に関する科目を含む）であり、卒業要件単位に含まない。	
日本と国際社会Ａ	2	情報科学Ａ	2		
日本と国際社会Ｂ	2	情報科学Ｂ	2		
環境を考えるＡ	2	情報科学Ｃ	2		
環境を考えるＢ	2	自然科学系			
歴史と人間Ａ	2	物理学	4		
歴史と人間Ｂ	2	物理学実験	1		

海洋生命科学２群科目（海洋生命科学科）

◎ 海洋生命科学概論	2	◎ 発生生物学	2	◎ 海洋生命科学実験Ⅲ	3
◎ ラーニング・スキル	1	◎ 遺伝学	1	海洋実習	1
◎ 生物海洋学	2	◎ 免疫学	1	インターンシップ	1
◎ 微生物学	2	◎ 生物統計学	2	ＰＣ演習	1
◎ 有機化学	2	◎ プレゼンテーション	1		
◎ 分子生物学	2	◎ 科学英語ＩＡ	1		
◎ 無脊椎動物学	2	◎ 科学英語ＩＢ	1		
◎ 魚類学	2	◎ 科学英語ⅡＡ	1		
◎ 分析化学	2	◎ 科学英語ⅡＢ	1		
◎ 解剖生理学	2	◎ 海洋生命科学実験Ⅰ	3		
◎ 生化学	2	◎ 海洋生命科学実験Ⅱ	3		

海洋生命科学３群科目（海洋生命科学科）

◎ 水族生理学	2	海洋分子内分泌学	1	特別講義Ⅱ	1
◎ 環境科学	2	水族育種学	1	体験実習	1
◎ 水圏植物学	2	食品安全学	1	※ 水産学特論	1
◎ 浮遊生物学	2	食品微生物学	1		
◎ 海洋生物利用学	2	海洋生物資源化学	1		
◎ 水圏生態学	2	食品機能成分論	1		
◎ 栄養科学	1	魚病学	1		
◎ 食品衛生学	2	資源解析学	2		
◎ 水族増殖学	2	海洋生命工学	2		
◎ 海洋生物化学	2	魚類栄養学	1		
◎ 技術者倫理	1	有毒有害生物論	1		
◎ 海洋生命科学演習	4	持続的資源利用論	2		
◎ 卒業論文	10	深海生物学	1		
漁業学	2	水産物流通論	1		
水生動物行動学	1	水産経済学	1	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。	
海産哺乳動物学	1	水産法規	1		
海洋化学生態学	1	国際海洋政策	1		
病原微生物学	2	環境修復論	1		
魚類行動生理学	1	特別講義Ⅰ	1		

海洋生命科学４群科目（海洋生命科学科）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目

看護学１群科目（看護学科）

人間形成の基礎科目		環境を考えるＢ	2	情報科学Ａ	2
文化の領域		歴史と人間Ａ	2	情報科学Ｂ	2
哲学の楽しみＡ	2	歴史と人間Ｂ	2	情報科学Ｃ	2
哲学の楽しみＢ	2	心理学Ａ	2	自然科学系	
科学を考えるＡ	2	心理学Ｂ	2	物理学	4
科学を考えるＢ	2	健康の領域		化学	4
芸術の楽しみＡ	2	健康の科学Ａ	2	生物学	4
芸術の楽しみＢ	2	健康の科学Ｂ	2	※ 物理学要習	1
倫理学Ａ	2	健康の科学Ｃ	2	※ 化学要習	1
倫理学Ｂ	2	健康とスポーツ演習	2	※ 生物学要習	1
文学の楽しみＡ	2	ライフスポーツ演習Ａ	2	教養演習系科目	
文学の楽しみＢ	2	ライフスポーツ演習Ｂ	2	教養演習系	
信仰と救いＡ	2	ライフスポーツ演習Ｃ	2	教養演習Ａ	2
信仰と救いＢ	2	総合領域科目		教養演習Ｂ	1
社会の領域		総合領域		教養演習Ｃ	1
日本国憲法Ａ	2	北里の世界	1	※ 大学基礎演習	1
日本国憲法Ｂ	2	仕事と人生	1	※ 言語と文化Ａ	2
法律の役割Ａ	2	農医連携論	1	※ 言語と文化Ｂ	2
法律の役割Ｂ	2	基礎教育科目			
経済のしくみＡ	2	外国語系			
経済のしくみＢ	2	◎ 英語ＡⅠ	1		
個人と社会Ａ	2	◎ 英語ＡⅡ	1		
個人と社会Ｂ	2	◎ 英語ＢⅠ	1		
政治のしくみＡ	2	◎ 英語ＢⅡ	1		
政治のしくみＢ	2	数理・情報系			
文化人類学Ａ	2	数学	4		
文化人類学Ｂ	2	統計学Ａ	4		
日本と国際社会Ａ	2	数学の基礎	2		
日本と国際社会Ｂ	2	発展数学Ａ	2	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。	
環境を考えるＡ	2	発展数学Ｂ	2		

看護学２群科目（看護学科）

◎ 看護機能形態学Ⅰ	2	◎ 健康情報分析学	1	教育心理学	2
◎ 看護機能形態学Ⅱ	2	◎ 臨床薬理学	2	教育原論	2
◎ 看護機能形態学Ⅲ	2	◎ 症候・病態疾病論Ⅱ	2	疫学	2
◎ 看護機能形態学Ⅳ	2	◎ 症候・病態疾病論Ⅲ	2	教育相談論	2
◎ 看護機能形態学実験	1	◎ 環境保健科学	2	保健医療福祉行政論	1
◎ 症候・病態疾病論Ⅰ	2	臨床心理学	2	先端医療論	1
◎ 看護福祉政策論	2	専門英語演習	1		

看護学３群科目（看護学科）

◎ 看護学原論	2	◎ 国際看護論	1	公衆衛生看護学Ⅰ	2
◎ 基礎看護技術Ⅰ	1	◎ 健康教育学	1	看護キャリア開発論	1
◎ 基礎看護技術Ⅱ	1	◎ 看護倫理	1	助産学概論	1
◎ 基礎看護技術Ⅲ	1	◎ 看護マネジメント論	1	学校保健学	1
◎ 看護過程演習	1	◎ チーム医療論演習Ⅱ	1	女性の健康援助論	1
◎ 感染看護学	2	◎ 災害看護学	1	基礎助産学	1
◎ 生涯発達看護学	1	◎ 課題研究	2	国際看護論演習	2
◎ 看護課題解決技法演習	1	◎ 看護基礎実習Ⅰ	1	感染管理論	1
◎ 地域ケアシステム論	1	◎ 看護基礎実習Ⅱ	2	地域アセスメント論Ⅰ	1
◎ フィジカルアセスメント演習	1	◎ 感染看護学実習	1	創造的看護論	1
◎ 慢性期看護学	2	◎ 慢性期看護学実習	3	臨床看護総習	2
◎ 精神保健学	2	◎ 急性期看護学実習	3	※ 公衆衛生看護学Ⅱ	2
◎ 健康相談論	1	◎ 生涯発達看護学実習	1	※ 地域アセスメント論Ⅱ	2
◎ 緩和ケア看護論	2	◎ 小児生涯発達看護学演習	1	※ 公衆衛生看護学実習	4
◎ 家族看護論	1	◎ 小児生涯発達看護学実習	2	※ 助産診断・技術学Ⅰ	2
◎ 看護研究論	1	◎ 母性生涯発達看護学演習	1	※ 助産診断・技術学Ⅱ	2
◎ 臨床看護技術演習Ⅰ	1	◎ 母性生涯発達看護学実習	2	※ 助産診断・技術学演習	1
◎ 臨床看護技術演習Ⅱ	1	◎ 老年生涯発達看護学実習	3	※ 助産管理学	1
◎ 急性期看護学	2	◎ 精神看護学実習	3	※ 助産学実習Ⅰ	1
◎ 小児生涯発達看護学	2	◎ 在宅看護学実習	2	※ 助産学実習Ⅱ	10
◎ 母性生涯発達看護学	2	◎ 統合実習	2	※ 養護概説	2
◎ 老年生涯発達看護学	2	チーム医療論演習Ⅰ	1	※ 養護実習	5
◎ 精神看護学	2	看護コミュニケーション論	2	※ 教職実践演習（養護）	2
◎ 在宅看護学	2	女性の健康科学	2		

※印は自由科目（教職課程の教科に関する科目を含む）であり、卒業要件単位に含まない。

看護学４群科目（看護学科）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目

理学１群科目（物理学科）

人間形成の基礎科目		日本と国際社会Ａ	2	数理・情報系	
文化の領域		日本と国際社会Ｂ	2	情報科学Ａ	2
哲学の楽しみＡ	2	環境を考えるＡ	2	情報科学Ｂ	2
哲学の楽しみＢ	2	環境を考えるＢ	2	情報科学Ｃ	2
科学を考えるＡ	2	歴史と人間Ａ	2	教養演習系科目	
科学を考えるＢ	2	歴史と人間Ｂ	2	教養演習系	
芸術の楽しみＡ	2	心理学Ａ	2	教養演習Ａ	2
芸術の楽しみＢ	2	心理学Ｂ	2	教養演習Ｂ	1
倫理学Ａ	2	健康の領域		教養演習Ｃ	1
倫理学Ｂ	2	健康の科学Ａ	2	大学基礎演習	1
文学の楽しみＡ	2	健康の科学Ｂ	2	言語と文化Ａ	2
文学の楽しみＢ	2	健康の科学Ｃ	2	言語と文化Ｂ	2
信仰と救いＡ	2	健康とスポーツ演習	2		
信仰と救いＢ	2	ライフスポーツ演習Ａ	2		
社会の領域		ライフスポーツ演習Ｂ	2		
日本国憲法Ａ	2	ライフスポーツ演習Ｃ	2		
日本国憲法Ｂ	2	総合領域科目			
法律の役割Ａ	2	総合領域			
法律の役割Ｂ	2	北里の世界	1		
経済のしくみＡ	2	仕事と人生	1		
経済のしくみＢ	2	農医連携論	1		
個人と社会Ａ	2	基礎教育科目			
個人と社会Ｂ	2	外国語系			
政治のしくみＡ	2	◎ 英語ＡⅠ	1		
政治のしくみＢ	2	◎ 英語ＡⅡ	1		
文化人類学Ａ	2	◎ 英語ＢⅠ	1		
文化人類学Ｂ	2	◎ 英語ＢⅡ	1		

理学２群科目（物理学科）

◎ 基礎化学Ⅰ	2	◎ 英語ＣⅠ	1	地学	2
◎ 基礎化学Ⅱ	2	◎ 英語ＣⅡ	1	地学実験	1
◎ 基礎化学実験	1	◎ 基礎生物学実験	1	統計学	2
◎ 基礎生物学Ⅰ	2	◎ 科学英語Ⅰ	1		
◎ 基礎生物学Ⅱ	2	◎ 科学英語Ⅱ	1		

理学３群科目（物理学科）

◎ 線形代数Ⅰ	2	◎ 理学特別講義	2	プログラミング演習Ⅱ-B	1
◎ 線形代数Ⅱ	2	◎ ゼミナール	4	反応機構学Ⅰ	2
◎ 力学Ⅰ	2	◎ 卒業研究	8	量子化学Ⅰ	2
◎ 力学Ⅱ	2	◎ 生物物理学序論	2	生物化学Ⅰ	2
◎ 情報科学	2	◎ 電磁気学Ⅱ	2	生物化学Ⅱ	2
◎ 微分積分Ⅰ	2	◎ 電磁気学演習Ⅱ	2	量子化学Ⅱ	2
◎ 微分積分Ⅱ	2	◎ 解析力学	2	分子構造学	2
◎ 力学演習Ⅰ	2	◎ 熱統計力学演習	2	放射化学	2
◎ 力学演習Ⅱ	1	◎ 量子力学演習Ⅰ	2	地球化学	2
◎ 物理学概論	1	生物物理学Ⅰ	2	進化系統学	2
◎ 物理計測入門	1	物理数学Ⅱ	2	分子生物学	2
◎ 電磁気学Ⅰ	2	熱統計力学Ⅱ	2	細胞生物学Ⅰ	2
◎ 熱統計力学Ⅰ	2	量子力学Ⅱ	2	生体機能学	2
◎ 物理数学Ⅰ	2	量子エレクトロニクス	2	※ 知的財産論	2
◎ 物質科学Ⅰ	2	物質科学Ⅱ	2		
◎ 現代物理学	2	相対性理論	2		
◎ 電磁気学演習Ⅰ	2	固体物理学	2		
◎ プログラミング演習Ⅰ	2	生物物理化学	2		
◎ 物理実験学	2	生物物理学Ⅱ	2		
◎ 物理学実験A	2	量子力学演習Ⅱ	2		
◎ 量子力学Ⅰ	2	生物システム学演習Ⅰ	2	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含めない。	
◎ 物理学実験B	3	生物システム学演習Ⅱ	2		
◎ 物理学実験演習	2	プログラミング演習Ⅱ-A	1		

理学４群科目（物理学科）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目、単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目及び総合的な能力を形成する科目	
※ 海外短期留学プログラム　1	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含めない。

理学１群科目（化学科）

人間形成の基礎科目		日本と国際社会Ａ	2	数理・情報系	
文化の領域		日本と国際社会Ｂ	2	情報科学Ａ	2
哲学の楽しみＡ	2	環境を考えるＡ	2	情報科学Ｂ	2
哲学の楽しみＢ	2	環境を考えるＢ	2	情報科学Ｃ	2
科学を考えるＡ	2	歴史と人間Ａ	2	教養演習系科目	
科学を考えるＢ	2	歴史と人間Ｂ	2	教養演習系	
芸術の楽しみＡ	2	心理学Ａ	2	教養演習Ａ	2
芸術の楽しみＢ	2	心理学Ｂ	2	教養演習Ｂ	1
倫理学Ａ	2	健康の領域		教養演習Ｃ	1
倫理学Ｂ	2	健康の科学Ａ	2	大学基礎演習	1
文学の楽しみＡ	2	健康の科学Ｂ	2	言語と文化Ａ	2
文学の楽しみＢ	2	健康の科学Ｃ	2	言語と文化Ｂ	2
信仰と救いＡ	2	健康とスポーツ演習	2		
信仰と救いＢ	2	ライフスポーツ演習Ａ	2		
社会の領域		ライフスポーツ演習Ｂ	2		
日本国憲法Ａ	2	ライフスポーツ演習Ｃ	2		
日本国憲法Ｂ	2	総合領域科目			
法律の役割Ａ	2	総合領域			
法律の役割Ｂ	2	北里の世界	1		
経済のしくみＡ	2	仕事と人生	1		
経済のしくみＢ	2	農医連携論	1		
個人と社会Ａ	2	基礎教育科目			
個人と社会Ｂ	2	外国語系			
政治のしくみＡ	2	◎ 英語ＡⅠ	1		
政治のしくみＢ	2	◎ 英語ＡⅡ	1		
文化人類学Ａ	2	◎ 英語ＢⅠ	1		
文化人類学Ｂ	2	◎ 英語ＢⅡ	1		

理学２群科目（化学科）

◎ 基礎数学Ⅰ	2	◎ 基礎物理学実験	1	地学	2
◎ 基礎数学Ⅱ	2	◎ 基礎生物学実験	1	地学実験	1
◎ 基礎物理学Ⅰ	2	◎ 英語Ｃ Ⅰ	1	基礎物理学Ⅲ	2
◎ 基礎物理学Ⅱ	2	◎ 英語Ｃ Ⅱ	1	統計学	2
◎ 基礎生物学Ⅰ	2	◎ 科学英語Ⅰ	1		
◎ 基礎生物学Ⅱ	2	◎ 科学英語Ⅱ	1		

理学３群科目（化学科）

◎ 物理化学概論	2	◎ 分子機能化学	2	天然物化学	2
◎ 物質化学概論	2	◎ 分子構造学	2	量子力学Ⅰ	2
◎ 基礎化学演習	2	◎ 機器分析学演習	1	熱統計力学Ⅰ	2
◎ 物理化学Ⅰ	2	◎ 物理化学演習	2	熱統計力学Ⅱ	2
◎ 有機化学Ⅰ	2	◎ 無機化学演習	2	生物物理学序論	2
◎ 無機化学Ⅰ	2	◎ 物理化学実験	2	生物物理学Ⅱ	2
◎ 化学実験	1	◎ 機器分析実践演習	2	量子エレクトロニクス	2
◎ 物理化学Ⅱ	2	◎ 理学特別講義	2	分子生物学	2
◎ 量子化学Ⅰ	2	◎ ゼミナール	4	遺伝子工学	2
◎ 反応機構学Ⅰ	2	◎ 卒業研究	8	分子発生学Ⅰ	2
◎ 機器分析学	2	放射化学	2	生体防御学	2
◎ 有機化学Ⅱ	2	地球化学	2	生体機能学	2
◎ 無機化学Ⅱ	2	基礎情報科学演習	2	※ 知的財産論	2
◎ 分子構築学	2	有機光化学	2		
◎ 生物化学Ⅰ	2	構造有機化学	2		
◎ 有機化学演習	2	錯体化学	2		
◎ 無機化学実験	2	界面化学	2		
◎ 有機化学実験	2	高分子化学	2		
◎ 合成有機化学	2	微生物化学	2		
◎ 生物化学Ⅱ	2	量子化学Ⅱ	2	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含めない。	
◎ 反応機構学Ⅱ	2	物理化学Ⅲ	2		

理学４群科目（化学科）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目、単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目及び総合的な能力を形成する科目	
※ 海外短期留学プログラム　1	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含めない。

理学１群科目（生物科学科）

人間形成の基礎科目		日本と国際社会Ａ	2	数理・情報系	
文化の領域		日本と国際社会Ｂ	2	情報科学Ａ	2
哲学の楽しみＡ	2	環境を考えるＡ	2	情報科学Ｂ	2
哲学の楽しみＢ	2	環境を考えるＢ	2	情報科学Ｃ	2
科学を考えるＡ	2	歴史と人間Ａ	2	教養演習系科目	
科学を考えるＢ	2	歴史と人間Ｂ	2	教養演習系	
芸術の楽しみＡ	2	心理学Ａ	2	教養演習Ａ	2
芸術の楽しみＢ	2	心理学Ｂ	2	教養演習Ｂ	1
倫理学Ａ	2	健康の領域		教養演習Ｃ	1
倫理学Ｂ	2	健康の科学Ａ	2	大学基礎演習	1
文学の楽しみＡ	2	健康の科学Ｂ	2	言語と文化Ａ	2
文学の楽しみＢ	2	健康の科学Ｃ	2	言語と文化Ｂ	2
信仰と救いＡ	2	健康とスポーツ演習	2		
信仰と救いＢ	2	ライフスポーツ演習Ａ	2		
社会の領域		ライフスポーツ演習Ｂ	2		
日本国憲法Ａ	2	ライフスポーツ演習Ｃ	2		
日本国憲法Ｂ	2	総合領域科目			
法律の役割Ａ	2	総合領域			
法律の役割Ｂ	2	北里の世界	1		
経済のしくみＡ	2	仕事と人生	1		
経済のしくみＢ	2	農医連携論	1		
個人と社会Ａ	2	基礎教育科目			
個人と社会Ｂ	2	外国語系			
政治のしくみＡ	2	◎ 英語ＡⅠ	1		
政治のしくみＢ	2	◎ 英語ＡⅡ	1		
文化人類学Ａ	2	◎ 英語ＢⅠ	1		
文化人類学Ｂ	2	◎ 英語ＢⅡ	1		

理学２群科目（生物科学科）

◎ 基礎数学Ⅰ	2	◎ 基礎物理学実験	1	基礎物理学Ⅲ	2
◎ 基礎数学Ⅱ	2	◎ 基礎化学実験	1	現代化学Ⅰ	2
◎ 基礎物理学Ⅰ	2	◎ 英語Ｃ Ⅰ	1	現代化学Ⅱ	2
◎ 基礎物理学Ⅱ	2	◎ 英語Ｃ Ⅱ	1	統計学	2
◎ 基礎化学Ⅰ	2	地学	2		
◎ 基礎化学Ⅱ	2	地学実験	1		

理学３群科目（生物科学科）

◎ 生物科学入門Ⅰ	2	◎ 生体機能学	2	生物物理学Ⅱ	2
◎ 生物科学入門Ⅱ	2	◎ 免疫学Ⅰ	2	化学熱力学	2
◎ 生物化学	2	◎ 免疫学Ⅱ	2	反応機構学Ⅰ	2
◎ 微生物学	2	◎ 遺伝子工学実験	1	有機化学Ⅰ	2
◎ 生物科学原著講読Ⅰ	2	◎ 分子発生学実験Ⅱ	1	有機化学Ⅱ	2
◎ 生物科学原著講読Ⅱ	2	◎ 生体防御学実験Ⅱ	1	分子構築学	2
◎ 分子発生学Ⅰ	2	◎ 細胞生物学実験	1	構造有機化学	2
◎ 分子発生学Ⅱ	2	◎ 理学特別講義	2	機器分析学	2
◎ 細胞生物学Ⅰ	2	◎ ゼミナール	4	放射化学	2
◎ 分子生物学	2	◎ 卒業研究	8	地球化学	2
◎ 遺伝子工学	2	遺伝学	2	分子構造学	2
◎ 生体防御学	2	進化系統学	2	高分子化学	2
◎ 生物化学実験	1	生理学	2	錯体化学	2
◎ 分子生物学実験	1	基礎情報科学演習	2	界面化学	2
◎ 分子発生学実験Ⅰ	1	生物科学特別講義Ⅰ	2	微生物化学	2
◎ 生体防御学実験Ⅰ	1	生物科学特別講義Ⅱ	2	※ 知的財産論	2
◎ 生物科学原著講読Ⅲ	2	生物科学特別講義Ⅲ	2		
◎ 生物科学原著講読Ⅳ	2	生物科学特別講義Ⅳ	2		
◎ 転写制御学	2	代謝学Ⅰ	2		
◎ ゲノム進化学	2	代謝学Ⅱ	2		
◎ 細胞生物学Ⅱ	2	神経生物学	2		
◎ 発生工学	2	生物物理学序論	2	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含めない。	
◎ ゲノム発生学	2	生物物理学Ⅰ	2		

理学４群科目（生物科学科）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目、単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目及び総合的な能力を形成する科目	
※ 海外短期留学プログラム　1	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含めない。

医療衛生学１群科目（保健衛生学科 環境保健学コース）

人間形成の基礎科目		経済のしくみA	2	※ 数学の基礎	2
文化の領域		経済のしくみB	2	◎ 統計学ＢⅠ	2
哲学の楽しみA	2	個人と社会A	2	情報科学A	2
哲学の楽しみB	2	個人と社会B	2	情報科学B	2
科学を考えるA	2	政治のしくみA	2	情報科学C	2
科学を考えるB	2	政治のしくみB	2	◎ 情報演習	1
芸術の楽しみA	2	健康の領域		自然科学系	
芸術の楽しみB	2	健康の科学A	2	物理学	4
文学の楽しみA	2	健康の科学B	2	物理学実験	1
文学の楽しみB	2	健康の科学C	2	◎ 化学	4
信仰と救いA	2	健康とスポーツ演習	2	◎ 化学実験	1
信仰と救いB	2	※ ライフスポーツ演習A	2	生物学	4
倫理学A	2	※ ライフスポーツ演習B	2	生物学実験	1
倫理学B	2	※ ライフスポーツ演習C	2	※ 物理学要習	1
社会の領域		総合領域科目		※ 化学要習	1
心理学A（心理学概論）	2	総合領域		※ 生物学要習	1
心理学B	2	北里の世界	1	教養演習系科目	
歴史と人間A	2	仕事と人生	1	教養演習系	
歴史と人間B	2	農医連携論	1	教養演習A	2
文化人類学A	2	基礎教育科目		教養演習B	1
文化人類学B	2	外国語系		教養演習C	1
日本と国際社会A	2	◎ 英語ＡⅠ	1	大学基礎演習	1
日本と国際社会B	2	◎ 英語ＡⅡ	1	言語と文化A	2
環境を考えるA	2	◎ 英語ＢⅠ	1	言語と文化B	2
環境を考えるB	2	◎ 英語ＢⅡ	1		
日本国憲法A	2	数理・情報系			
日本国憲法B	2	◎ 数学	4	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。	
法律の役割A	2	※ 発展数学A	2		
法律の役割B	2	※ 発展数学B	2		

医療衛生学２群科目（保健衛生学科 環境保健学コース）

◎ 解剖学Ⅰ	2	◎ 有機化学	2	
◎ 解剖学Ⅱ	2	◎ 微生物学	2	
◎ 解剖学実習	1	◎ 微生物学実習	1	
◎ 生理学Ⅰ	2	血液･免疫学	2	
◎ 生理学Ⅱ	2	◎ 食品衛生学	2	
◎ 生理学実習	1	◎ 労働生理学	2	
病理学	2	リスク管理学	2	
◎ 生化学	2	保健栄養学	2	
◎ 生化学実習	1	◎ 衛生統計学	2	
◎ 公衆衛生学Ⅰ	2	食品衛生法規	2	
◎ 公衆衛生学Ⅱ	2	サスティナビリティ学入門	2	
◎ 公衆衛生学実習	1	医療学概論	2	
◎ 労働衛生学Ⅰ	2	発達心理学	2	
◎ 労働衛生学Ⅱ	2	◎ 精神保健学	1	
◎ 分析化学	2			
◎ 環境保健学概論	2			

医療衛生学３群科目（保健衛生学科 環境保健学コース）

◎ 労働行政	2	※ インターンシップ	1		
◎ 作業環境管理学	2	環境予防医学	2		
◎ 産業衛生管理学	2	環境予防医学実習	1		
◎ 産業衛生管理学実習	1	生命医科学	2		
◎ 環境衛生学Ⅰ	2	生体分子情報学	2		
◎ 環境衛生学Ⅱ	2	分子生物学入門	2		
環境工学Ⅰ	2	◎ 卒業研究Ⅰ	4		
◎ チーム医療論(演習含)	1	◎ 卒業研究Ⅱ	8		
薬理・毒性学	2				
健康食品学	2				
健康食品学実習	1				
環境工学Ⅱ	2				
生物･生態環境工学	2				
生物･生態環境工学実習	1				
◎ 環境衛生学･工学実習	1				
障害者・障害児心理学	2			※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。	
臨床心理学概論	2				

医療衛生学４群科目（保健衛生学科 環境保健学コース）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目					
※ ディープラーニング演習Ⅰ	1	※ 医療に利用される最新科学	1	※ 医用治療機器学特論	2
※ ディープラーニング演習Ⅱ	1	※ 生体表面電位計測概論	1	※ 臨床検査技師国家試験基礎講座	1
※ 生体医用光学概論	1	※ 生命科学	1	※ 初学者のための生体防御のしくみ	1
※ ボランティア社会学	1	※ くすりと毒の歴史と生理学	1		

医療衛生学１群科目（保健衛生学科 臨床心理学コース）

人間形成の基礎科目		経済のしくみA	2	※ 数学の基礎	2
文化の領域		経済のしくみB	2	◎ 統計学ＢⅠ	2
哲学の楽しみA	2	個人と社会A	2	情報科学A	2
哲学の楽しみB	2	個人と社会B	2	情報科学B	2
科学を考えるA	2	政治のしくみA	2	情報科学C	2
科学を考えるB	2	政治のしくみB	2	◎ 情報演習	1
芸術の楽しみA	2	健康の領域		自然科学系	
芸術の楽しみB	2	健康の科学A	2	物理学	4
文学の楽しみA	2	健康の科学B	2	物理学実験	1
文学の楽しみB	2	健康の科学C	2	◎ 化学	4
信仰と救いA	2	健康とスポーツ演習	2	◎ 化学実験	1
信仰と救いB	2	※ ライフスポーツ演習A	2	生物学	4
倫理学A	2	※ ライフスポーツ演習B	2	生物学実験	1
倫理学B	2	※ ライフスポーツ演習C	2	※ 物理学要習	1
社会の領域		総合領域科目		※ 化学要習	1
◎ 心理学A（心理学概論）	2	総合領域		※ 生物学要習	1
◎ 心理学B（知覚・認知心理学）	2	北里の世界	1	教養演習系科目	
歴史と人間A	2	仕事と人生	1	教養演習系	
歴史と人間B	2	農医連携論	1	教養演習A	2
文化人類学A	2	基礎教育科目		教養演習B	1
文化人類学B	2	外国語系		教養演習C	1
日本と国際社会A	2	◎ 英語ＡⅠ	1	大学基礎演習	1
日本と国際社会B	2	◎ 英語ＡⅡ	1	言語と文化A	2
環境を考えるA	2	◎ 英語ＢⅠ	1	言語と文化B	2
環境を考えるB	2	◎ 英語ＢⅡ	1		
日本国憲法A	2	数理・情報系			
日本国憲法B	2	◎ 数学	4	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。	
法律の役割A	2	※ 発展数学A	2		
法律の役割B	2	※ 発展数学B	2		

医療衛生学２群科目（保健衛生学科 臨床心理学コース）

◎ 生理学Ⅰ	2	サスティナビリティ学入門	2	
◎ 生理学Ⅱ	2	医療学概論	2	
病理学	2	◎ 発達心理学	2	
生化学	2	◎ 感情･人格心理学	2	
公衆衛生学Ⅰ	2	◎ 神経･生理心理学	2	
公衆衛生学Ⅱ	2	◎ 社会･集団･家族心理学	2	
◎ 労働衛生学Ⅰ	2	◎ 公認心理師の職責	2	
◎ 労働衛生学Ⅱ	2	◎ 心理学実験（卒業研究Ⅱ）	2	
微生物学	2	◎ 学習･言語心理学	2	
血液・免疫学	2	◎ 関係行政論	2	
食品衛生学	2	◎ 人体の構造と機能及び疾病Ⅰ	2	
◎ 労働生理学	2	◎ 人体の構造と機能及び疾病Ⅱ	2	
リスク管理学	2	◎ 心理学研究法（卒業研究Ⅰ）	2	
◎ 心理学統計法	2	◎ 精神疾患とその治療	2	
食品衛生法規	2			

医療衛生学３群科目（保健衛生学科 臨床心理学コース）

◎ 労働行政	2	環境予防医学	2		
◎ 作業環境管理学	2	心理実習Ⅱ	1		
◎ 産業衛生管理学	2	◎ 心理的アセスメント	2		
◎ 産業衛生管理学実習	1	◎ 心理学的支援法	2		
環境衛生学Ⅰ	2	心理演習	2		
環境衛生学Ⅱ	2	◎ 健康・医療心理学	2		
環境工学Ⅰ	2	◎ 福祉心理学	2		
◎ チーム医療論(演習含)	1	◎ 教育・学校心理学	2		
薬理・毒性学	2	◎ 司法・犯罪心理学	2		
健康食品学	2	環境予防医学実習	1		
心理実習Ⅰ	1	生命医科学	2		
環境工学Ⅱ	2	生体分子情報学	2		
生物・生態環境工学	2	分子生物学入門	2		
◎ 卒業研究Ⅲ	6				
◎ 障害者・障害児心理学	2				
◎ 臨床心理学概論	2			※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。	
◎ 産業・組織心理学	2				

医療衛生学４群科目（保健衛生学科 臨床心理学コース）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目					
※ ディープラーニング演習Ⅰ	1	※ 医療に利用される最新科学	1	※ 医用治療機器学特論	2
※ ディープラーニング演習Ⅱ	1	※ 生体表面電位計測概論	1	※ 臨床検査技師国家試験基礎講座	1
※ 生体医用光学概論	1	※ 生命科学	1	※ 初学者のための生体防御のしくみ	1
※ ボランティア社会学	1	※ くすりと毒の歴史と生理学	1		

医療衛生学１群科目（医療検査学科）

人間形成の基礎科目		経済のしくみA	2	※ 数学の基礎	2
文化の領域		経済のしくみB	2	◎ 統計学ＢⅠ	2
哲学の楽しみA	2	個人と社会A	2	情報科学A	2
哲学の楽しみB	2	個人と社会B	2	情報科学B	2
科学を考えるA	2	政治のしくみA	2	情報科学C	2
科学を考えるB	2	政治のしくみB	2	◎ 情報演習	1
芸術の楽しみA	2	健康の領域		自然科学系	
芸術の楽しみB	2	健康の科学A	2	物理学	4
文学の楽しみA	2	健康の科学B	2	物理学実験	1
文学の楽しみB	2	健康の科学C	2	化学	4
信仰と救いA	2	健康とスポーツ演習	2	化学実験	1
信仰と救いB	2	※ ライフスポーツ演習A	2	◎ 生物学	4
倫理学A	2	※ ライフスポーツ演習B	2	◎ 生物学実験	1
倫理学B	2	※ ライフスポーツ演習C	2	※ 物理学要習	1
社会の領域		総合領域科目		※ 化学要習	1
心理学A	2	総合領域		※ 生物学要習	1
心理学B	2	北里の世界	1	教養演習系科目	
歴史と人間A	2	仕事と人生	1	教養演習系	
歴史と人間B	2	農医連携論	1	教養演習A	2
文化人類学A	2	基礎教育科目		教養演習B	1
文化人類学B	2	外国語系		教養演習C	1
日本と国際社会A	2	◎ 英語ＡⅠ	1	大学基礎演習	1
日本と国際社会B	2	◎ 英語ＡⅡ	1	言語と文化A	2
環境を考えるA	2	◎ 英語ＢⅠ	1	言語と文化B	2
環境を考えるB	2	◎ 英語ＢⅡ	1		
日本国憲法A	2	数理・情報系			
日本国憲法B	2	数学	4	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。	
法律の役割A	2	発展数学A	2		
法律の役割B	2	発展数学B	2		

医療衛生学２群科目（医療検査学科）

◎ 英語C	2	◎ 生化学	4	◎ 医用工学実習	1
◎ 医療学概論	2	◎ 生化学実習	1	◎ 保健医療福祉総論	1
◎ 解剖学	2	◎ 組織細胞学	2	◎ 臨床検査学概論	1
◎ 解剖学実習	1	◎ 組織細胞学実習	1	◎ 薬理学	2
◎ 生理学Ⅰ	2	◎ 公衆衛生学Ⅰ	1		
◎ 生理学Ⅱ(実習含)	2	◎ 公衆衛生学Ⅱ(実習含)	1		
◎ 病理学(演習含)	1	◎ 医用工学概論(演習含)	1		

医療衛生学３群科目（医療検査学科）

◎ 病理検査学	2	◎ 臨床化学Ⅰ	2	◎ 医療安全管理学	1
◎ 病理検査学実習	1	◎ 臨床化学Ⅱ	2	◎ 臨床実習	11
◎ 寄生虫検査学(実習含)	2	◎ 臨床化学実習	1	◎ テュートリアル教育	1
◎ 一般検査学	2	◎ 免疫検査学Ⅰ	2	◎ 卒業研究	5
◎ 臨床検査学特論Ⅱ	8	◎ 免疫検査学Ⅱ	2	◎ チーム医療論(演習含)	1
◎ 一般検査学実習	1	◎ 免疫検査学実習	1	◎ 医療安全管理学演習	1
◎ 遺伝子・染色体検査学	2	◎ 臨床生理学ＩＡ	2	◎ 臨床検査学特論Ⅰ	1
◎ 微生物検査学	4	◎ 臨床生理学ＩＢ	2	◎ 臨床実習前実技確認(演習含)	1
◎ 微生物検査学実習	1	◎ 臨床生理学Ⅱ(画像検査学含)	2	◎ 遺伝子・染色体検査学実習	1
◎ 放射線科学(実習含)	1	◎ 臨床生理学実習	1	※ 細胞検査士コース	5
◎ 臨床病態学	4	◎ 検査機器学	1	※ 学術国際交流プログラムA	2
◎ 血液学Ⅰ	2	◎ 検査管理学	1		
◎ 血液学Ⅱ	2	◎ 臨床細胞学	2	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。	
◎ 血液学実習	1	◎ 臨床細胞学実習	1		

医療衛生学４群科目（医療検査学科）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目					
※ ディープラーニング演習Ⅰ	1	※ 医療に利用される最新科学	1	※ 医用治療機器学特論	2
※ ディープラーニング演習Ⅱ	1	※ 生体表面電位計測概論	1	※ 臨床検査技師国家試験基礎講座	1
※ 生体医用光学概論	1	※ 生命科学	1	※ 初学者のための生体防御のしくみ	1
※ ボランティア社会学	1	※ くすりと毒の歴史と生理学	1		

医療衛生学１群科目（医療工学科　臨床工学専攻）

人間形成の基礎科目		経済のしくみA	2	※ 数学の基礎	2
文化の領域		経済のしくみB	2	◎ 統計学ＢⅠ	2
哲学の楽しみA	2	個人と社会A	2	※ 統計学ＢⅡ	2
哲学の楽しみB	2	個人と社会B	2	※ 情報科学A	2
科学を考えるA	2	政治のしくみA	2	※ 情報科学B	2
科学を考えるB	2	政治のしくみB	2	※ 情報科学C	2
芸術の楽しみA	2	健康の領域		◎ 情報演習	1
芸術の楽しみB	2	健康の科学A	2	自然科学系	
文学の楽しみA	2	健康の科学B	2	◎ 物理学	4
文学の楽しみB	2	健康の科学C	2	◎ 物理学実験	1
信仰と救いA	2	健康とスポーツ演習	2	◎ 化学	4
信仰と救いB	2	※ ライフスポーツ演習A	2	◎ 化学実験	1
倫理学A	2	※ ライフスポーツ演習B	2	◎ 生物学	4
倫理学B	2	※ ライフスポーツ演習C	2	◎ 生物学実験	1
社会の領域		総合領域科目		※ 物理学要習	1
心理学A	2	総合領域		※ 化学要習	1
心理学B	2	北里の世界	1	※ 生物学要習	1
歴史と人間A	2	仕事と人生	1	教養演習系科目	
歴史と人間B	2	農医連携論	1	教養演習系	
文化人類学A	2	基礎教育科目		※ 教養演習A	2
文化人類学B	2	外国語系		※ 教養演習B	1
日本と国際社会A	2	◎ 英語ＡⅠ	1	※ 教養演習C	1
日本と国際社会B	2	◎ 英語ＡⅡ	1	※ 大学基礎演習	1
環境を考えるA	2	◎ 英語ＢⅠ	1	※ 言語と文化A	2
環境を考えるB	2	◎ 英語ＢⅡ	1	※ 言語と文化B	2
日本国憲法A	2	数理・情報系			
日本国憲法B	2	数学	4	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。	
法律の役割A	2	発展数学A	2		
法律の役割B	2	発展数学B	2		

医療衛生学２群科目（医療工学科　臨床工学専攻）

◎ 解剖学Ⅰ	2	◎ 応用数学Ⅰ	2	◎ 情報処理工学Ⅱ(演習含)	2
◎ 解剖学Ⅱ	2	◎ 応用数学Ⅱ(演習含)	1	◎ システム工学	2
◎ 生理学Ⅰ	2	◎ 電気工学Ⅰ	2	◎ システム工学実習	1
◎ 生理学Ⅱ(演習含)	1	◎ 電気工学Ⅱ	2	※ 医療情報学	4
◎ 解剖学実習	1	◎ 電気工学実習	1		
◎ 生理学実習	1	◎ 電子工学Ⅰ	2		
◎ 公衆衛生学	2	◎ 電子工学Ⅱ	2		
◎ 病理学	2	◎ 電子工学実習	1		
◎ 生化学	2	◎ 医用機械工学	3	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。	
◎ 薬理学	2	◎ 情報処理工学Ⅰ	2		

医療衛生学３群科目（医療工学科　臨床工学専攻）

◎ 英語C	2	◎ 医用治療機器学	4	◎ 機器安全管理学実習	1
◎ 英語D	1	◎ 医用治療機器学実習	1	◎ 医療ケア安全管理学	2
◎ 医用工学総論	2	◎ 生体機能代行装置学Ⅰ	4	◎ 臨床医療学Ⅰ	4
◎ 計測工学	2	◎ 生体機能代行装置学Ⅱ	4	◎ 臨床医療学特論	2
◎ 物性･材料工学	4	◎ 生体機能代行装置学Ⅲ	4	◎ 臨床工学総合演習	1
◎ 医用機器学Ⅰ（演習含）	1	◎ 生体機能代行装置学実習Ⅰ	1	◎ 臨床実習	7
◎ 医用機器学Ⅱ（演習含）	1	◎ 生体機能代行装置学実習Ⅱ	1	◎ 卒業研究	6
◎ 生体計測装置学（演習含）	2	◎ 生体機能代行装置学実習Ⅲ	1	◎ チーム医療論(演習含)	1
◎ 生体計測装置学実習	1	◎ 機器安全管理学	4		

医療衛生学４群科目（医療工学科　臨床工学専攻）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目					
※ ディープラーニング演習Ⅰ	1	※ 医療に利用される最新科学	1	※ 医用治療機器学特論	2
※ ディープラーニング演習Ⅱ	1	※ 生体表面電位計測概論	1	※ 臨床検査技師国家試験基礎講座	1
※ 生体医用光学概論	1	※ 生命科学	1	※ 初学者のための生体防御のしくみ	1
※ ボランティア社会学	1	※ くすりと毒の歴史と生理学	1		

医療衛生学１群科目（医療工学科　診療放射線技術科学専攻）

人間形成の基礎科目		経済のしくみA	2	※ 数学の基礎	2
文化の領域		経済のしくみB	2	◎ 統計学ＢⅠ	2
哲学の楽しみA	2	個人と社会A	2	※ 統計学ＢⅡ	2
哲学の楽しみB	2	個人と社会B	2	※ 情報科学A	2
科学を考えるA	2	政治のしくみA	2	※ 情報科学B	2
科学を考えるB	2	政治のしくみB	2	※ 情報科学C	2
芸術の楽しみA	2	健康の領域		◎ 情報演習	1
芸術の楽しみB	2	健康の科学A	2	自然科学系	
文学の楽しみA	2	健康の科学B	2	物理学	4
文学の楽しみB	2	健康の科学C	2	物理学実験	1
信仰と救いA	2	健康とスポーツ演習	2	化学	4
信仰と救いB	2	※ ライフスポーツ演習A	2	化学実験	1
倫理学A	2	※ ライフスポーツ演習B	2	生物学	4
倫理学B	2	※ ライフスポーツ演習C	2	生物学実験	1
社会の領域		総合領域科目		※ 物理学要習	1
心理学A	2	総合領域		※ 化学要習	1
心理学B	2	北里の世界	1	※ 生物学要習	1
歴史と人間A	2	仕事と人生	1	教養演習系科目	
歴史と人間B	2	農医連携論	1	教養演習系	
文化人類学A	2	基礎教育科目		※ 教養演習A	2
文化人類学B	2	外国語系		※ 教養演習B	1
日本と国際社会A	2	◎ 英語ＡⅠ	1	※ 教養演習C	1
日本と国際社会B	2	◎ 英語ＡⅡ	1	※ 大学基礎演習	1
環境を考えるA	2	◎ 英語ＢⅠ	1	※ 言語と文化A	2
環境を考えるB	2	◎ 英語ＢⅡ	1	※ 言語と文化B	2
日本国憲法A	2	数理・情報系			
日本国憲法B	2	数学	4	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。	
法律の役割A	2	発展数学A	2		
法律の役割B	2	発展数学B	2		

医療衛生学２群科目（医療工学科　診療放射線技術科学専攻）

◎ 英語C	1	◎ 応用数学Ⅰ	2	
◎ 解剖学Ⅰ	2	◎ 医用工学	2	
◎ 解剖学Ⅱ	1	◎ 医用工学実習	1	
◎ 生理学Ⅰ	2	◎ 臨床医療学Ⅰ	4	
◎ 生理学Ⅱ（演習含）	1	◎ 放射線臨床病態薬理学	1	
◎ 病理学	2	医療学概論	2	
◎ 生化学	2	情報処理工学	1	

医療衛生学３群科目（医療工学科　診療放射線技術科学専攻）

◎ 診療放射線技術科学概論	2	◎ 核医学技術学・放射化学実習	1	◎ チーム医療論(演習含)	1
◎ 診療技術英語	1	◎ 放射線腫瘍学	2	放射線基礎講義Ⅰ	1
◎ 放射線物理学	4	◎ 放射線治療機器学	1	◎ 画像検査技術学	1
◎ 医用物理学	1	◎ 放射線治療技術学Ⅰ	2	放射線治療物理学	1
◎ 放射線生物学Ⅰ	2	◎ 放射線治療技術学Ⅱ	2	放射線基礎講義Ⅱ	2
◎ 放射線生物学Ⅱ	1	◎ 放射線治療技術学実習	1	※ 学術国際交流プログラムＢ	1
◎ 放射線計測学Ⅰ	2	◎ 画像工学	2		
◎ 放射線計測学Ⅱ	1	◎ 医療情報工学	2		
◎ 放射化学	2	◎ 医療画像処理	1		
◎ 画像解剖学	2	◎ 画像情報学	1		
◎ 画像診断学	4	◎ 放射線管理学	2		
◎ 診療画像技術学Ⅰ	2	◎ 放射線管理学・計測学実習	1		
◎ 診療画像技術学Ⅱ	2	◎ 放射線関係法規	1		
◎ 診療画像技術学Ⅲ	2	◎ 臨床実習Ⅰ	1		
◎ 診療画像技術学Ⅳ	2	◎ 臨床実習Ⅱ	1		
◎ 画像診断機器工学Ⅰ	2	◎ 臨床実習Ⅲ	10		
◎ 画像診断機器工学Ⅱ	1	◎ 実践臨床画像学	2		
◎ 画像診断機器工学実習	1	◎ 医療安全管理学	2		
◎ 核医学技術学Ⅰ	2	◎ 診療放射線技術科学総合演習	7		
◎ 核医学技術学Ⅱ	2	◎ 卒業研究	6		

医療衛生学４群科目（医療工学科　診療放射線技術科学専攻）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目					
※ ディープラーニング演習Ⅰ	1	※ 医療に利用される最新科学	1	※ 医用治療機器学特論	2
※ ディープラーニング演習Ⅱ	1	※ 生体表面電位計測概論	1	※ 臨床検査技師国家試験基礎講座	1
※ 生体医用光学概論	1	※ 生命科学	1	※ 初学者のための生体防御のしくみ	1
※ ボランティア社会学	1	※ くすりと毒の歴史と生理学	1		

医療衛生学１群科目（リハビリテーション学科　理学療法学専攻）

人間形成の基礎科目		経済のしくみA	2	※ 数学の基礎	2
文化の領域		経済のしくみB	2	◎ 統計学A	4
哲学の楽しみA	2	個人と社会A	2	※ 情報科学A	2
哲学の楽しみB	2	個人と社会B	2	※ 情報科学B	2
科学を考えるA	2	政治のしくみA	2	※ 情報科学C	2
科学を考えるB	2	政治のしくみB	2	◎ 情報演習	1
芸術の楽しみA	2	健康の領域		自然科学系	
芸術の楽しみB	2	※ 健康の科学A	2	◎ 物理学	4
文学の楽しみA	2	※ 健康の科学B	2	◎ 物理学実験	1
文学の楽しみB	2	◎ 健康の科学C	2	化学	4
信仰と救いA	2	※ 健康とスポーツ演習	2	化学実験	1
信仰と救いB	2	※ ライフスポーツ演習A	2	生物学	4
倫理学A	2	※ ライフスポーツ演習B	2	生物学実験	1
倫理学B	2	※ ライフスポーツ演習C	2	※ 物理学要習	1
社会の領域		総合領域科目		※ 化学要習	1
心理学A	2	総合領域		※ 生物学要習	1
心理学B	2	北里の世界	1	教養演習系科目	
歴史と人間A	2	仕事と人生	1	教養演習系	
歴史と人間B	2	農医連携論	1	※ 教養演習A	2
文化人類学A	2	基礎教育科目		※ 教養演習B	1
文化人類学B	2	外国語系		※ 教養演習C	1
日本と国際社会A	2	◎ 英語ＡⅠ	1	大学基礎演習	1
日本と国際社会B	2	◎ 英語ＡⅡ	1	※ 言語と文化A	2
環境を考えるA	2	◎ 英語ＢⅠ	1	※ 言語と文化B	2
環境を考えるB	2	◎ 英語ＢⅡ	1		
日本国憲法A	2	数理・情報系			
日本国憲法B	2	数学	4	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。	
法律の役割A	2	発展数学A	2		
法律の役割B	2	発展数学B	2		

医療衛生学２群科目（リハビリテーション学科　理学療法学専攻）

◎ 解剖学Ⅰ	2	◎ 医療学概論	2	◎ 医療統計学	2
◎ 解剖学Ⅱ	2	◎ 臨床医療学Ⅰ	4	◎ 薬理学	2
◎ 解剖学実習Ⅰ	1	◎ 臨床医療学Ⅱ	1	◎ 社会系医療学	1
◎ 解剖学実習Ⅱ	1	◎ 臨床医療学Ⅲ	1	臨床心理学Ⅰ	2
◎ 生理学Ⅰ	2	◎ 整形外科学	1	医療情報学	2
◎ 生理学Ⅱ	2	◎ 臨床心理学Ⅱ	2	公衆衛生学	2
◎ 生理学実習	1	◎ 発達心理学	2	心理学測定法	2
◎ 病理学	2	◎ 生体運動分析学	1	学習・認知心理学	2
◎ リハビリテーション概論	1	◎ 生体運動分析学実習	2		
◎ リハビリテーション医学	2	◎ 臨床運動学(実習含)	1		

医療衛生学３群科目（リハビリテーション学科　理学療法学専攻）

◎ 理学療法学概論	2	◎ 日常生活活動学	1	◎ 臨床実習Ⅰ	1
◎ 基礎理学療法学(実習含)	2	◎ 日常生活活動学実習	1	◎ 臨床実習Ⅱ	1
◎ 理学療法研究法	2	◎ 物理療法学（実習含）	2	◎ 臨床実習Ⅲ	1
◎ 理学療法評価学	1	◎ 整形外科系理学療法学	2	◎ 臨床実習Ⅳ	17
◎ 理学療法評価学実習	2	◎ 整形外科系理学療法学実習	1	◎ 卒業研究	5
◎ 高次脳機能学	1	◎ 内部障害系理学療法学	2	◎ チーム医療論(演習含)	1
◎ 高次脳機能障害理学療法学(実習含)	1	◎ 内部障害系理学療法学実習	1	生体運動学特論	1
◎ 臨床理学療法学Ⅰ(実習含)	1	◎ 中枢神経系理学療法学	1	小児理学療法学特論(実習含)	1
◎ 臨床理学療法学Ⅱ	2	◎ 中枢神経系理学療法学実習	1	整形外科系理学療法学特論(実習含)	1
◎ 臨床理学療法学Ⅱ実習	2	◎ 理学療法管理学	1	内部障害系理学療法学特論	1
◎ 小児理学療法学	2	◎ 理学療法学特論(実習含)	1	中枢神経系理学療法学特論	1
◎ 小児理学療法学実習	1	◎ 老年理学療法学	1	老年理学療法学特論(実習含)	1
◎ 義肢装具学	1	◎ 老年理学療法学実習	1	地域理学療法学特論(実習含)	1
◎ 義肢装具学実習	1	◎ 地域理学療法学	1	※ 学術国際交流プログラムＢ	1

医療衛生学４群科目（リハビリテーション学科　理学療法学専攻）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目					
※ ディープラーニング演習Ⅰ	1	※ 医療に利用される最新科学	1	※ 医用治療機器学特論	2
※ ディープラーニング演習Ⅱ	1	※ 生体表面電位計測概論	1	※ 臨床検査技師国家試験基礎講座	1
※ 生体医用光学概論	1	※ 生命科学	1	※ 初学者のための生体防御のしくみ	1
※ ボランティア社会学	1	※ くすりと毒の歴史と生理学	1		

医療衛生学１群科目（リハビリテーション学科　作業療法学専攻）

人間形成の基礎科目		経済のしくみA	2	※ 数学の基礎	2
文化の領域		経済のしくみB	2	◎ 統計学A	4
哲学の楽しみA	2	個人と社会A	2	情報科学A	2
哲学の楽しみB	2	個人と社会B	2	情報科学B	2
科学を考えるA	2	政治のしくみA	2	情報科学C	2
科学を考えるB	2	政治のしくみB	2	◎ 情報演習	1
芸術の楽しみA	2	健康の領域		自然科学系	
芸術の楽しみB	2	健康の科学A	2	物理学	4
文学の楽しみA	2	健康の科学B	2	物理学実験	1
文学の楽しみB	2	健康の科学C	2	化学	4
信仰と救いA	2	健康とスポーツ演習	2	化学実験	1
信仰と救いB	2	※ ライフスポーツ演習A	2	生物学	4
倫理学A	2	※ ライフスポーツ演習B	2	生物学実験	1
倫理学B	2	※ ライフスポーツ演習C	2	※ 物理学要習	1
社会の領域		総合領域科目		※ 化学要習	1
◎ 心理学A	2	総合領域		※ 生物学要習	1
◎ 心理学B	2	北里の世界	1	教養演習系科目	
歴史と人間A	2	仕事と人生	1	教養演習系	
歴史と人間B	2	農医連携論	1	教養演習A	2
文化人類学A	2	基礎教育科目		教養演習B	1
文化人類学B	2	外国語系		教養演習C	1
日本と国際社会A	2	◎ 英語ＡⅠ	1	◎ 大学基礎演習	1
日本と国際社会B	2	◎ 英語ＡⅡ	1	言語と文化A	2
環境を考えるA	2	◎ 英語ＢⅠ	1	言語と文化B	2
環境を考えるB	2	◎ 英語ＢⅡ	1		
日本国憲法A	2	数理・情報系			
日本国憲法B	2	◎ 数学	4	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。	
法律の役割A	2	※ 発展数学A	2		
法律の役割B	2	※ 発展数学B	2		

医療衛生学２群科目（リハビリテーション学科　作業療法学専攻）

◎ 解剖学Ⅰ	2	◎ リハビリテーション概論	1	公衆衛生学	2
◎ 解剖学Ⅱ	2	◎ リハビリテーション医学	2	社会系医療学	1
◎ 解剖学実習Ⅰ	1	◎ 作業療法概論	2	発達心理学	2
◎ 解剖学実習Ⅱ	1	◎ 医療学概論	2	心理学測定法	2
◎ 生理学Ⅰ	2	◎ 臨床医療学Ⅰ	4	学習・認知心理学	2
◎ 生理学Ⅱ	2	◎ 臨床医療学Ⅱ	1	医療情報学	2
◎ 生理学実習	1	◎ 臨床医療学Ⅲ	1	医療統計学	2
◎ 病理学	2	◎ 整形外科学	1		
◎ 臨床心理学Ⅰ	2	◎ 精神医学	1		
◎ 臨床心理学Ⅱ	2	薬理学	2		

医療衛生学３群科目（リハビリテーション学科　作業療法学専攻）

◎ 基礎作業学	1	◎ 老年期作業療法学実習	1	◎ 作業療法管理学Ⅰ	1
◎ 基礎作業学実習	1	◎ 生活活動学	1	◎ 作業療法管理学Ⅱ	1
◎ 作業療法評価学	2	◎ 生活活動学実習	1	◎ 臨床実習Ⅰ	1
◎ 作業療法評価学実習	1	◎ 生活環境調整学	1	◎ 臨床実習Ⅱ	2
◎ 運動学	2	◎ 生活環境調整学実習	1	◎ 臨床実習Ⅲ	4
◎ 運動学実習	1	◎ 高次脳機能学	1	◎ 臨床実習Ⅳ	16
◎ 身体障害作業療法学	2	◎ 高次脳機能作業療法学	1	◎ 卒業研究	6
◎ 身体障害作業療法学実習	1	◎ 地域作業療法学	1	◎ チーム医療論(演習含)	1
◎ 精神保健作業療法学	2	◎ 地域作業療法学実習	1	作業療法技術論Ⅰ	1
◎ 精神保健作業療法学実習	1	◎ 職業活動学	1	作業療法技術論Ⅱ	1
◎ 発達障害作業療法学	2	◎ 職業活動学実習	1	作業療法技術論Ⅲ	1
◎ 発達障害作業療法学実習	1	◎ 作業療法研究法	1	作業療法技術論Ⅳ	1
◎ 老年期作業療法学	1	◎ 作業療法学総合	2	※ 学術国際交流プログラムB	1

医療衛生学４群科目（リハビリテーション学科　作業療法学専攻）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目					
※ ディープラーニング演習Ⅰ	1	※ 医療に利用される最新科学	1	※ 医用治療機器学特論	2
※ ディープラーニング演習Ⅱ	1	※ 生体表面電位計測概論	1	※ 臨床検査技師国家試験基礎講座	1
※ 生体医用光学概論	1	※ 生命科学	1	※ 初学者のための生体防御のしくみ	1
※ ボランティア社会学	1	※ くすりと毒の歴史と生理学	1		

医療衛生学１群科目（リハビリテーション学科　言語聴覚療法学専攻）

人間形成の基礎科目		経済のしくみA	2	数学の基礎	2
文化の領域		経済のしくみB	2	◎ 統計学A	4
哲学の楽しみA	2	個人と社会A	2	※ 情報科学A	2
哲学の楽しみB	2	個人と社会B	2	※ 情報科学B	2
科学を考えるA	2	政治のしくみA	2	※ 情報科学C	2
科学を考えるB	2	政治のしくみB	2	◎ 情報演習	1
芸術の楽しみA	2	健康の領域		自然科学系	
芸術の楽しみB	2	健康の科学A	2	物理学	4
文学の楽しみA	2	健康の科学B	2	物理学実験	1
文学の楽しみB	2	健康の科学C	2	化学	4
信仰と救いA	2	健康とスポーツ演習	2	化学実験	1
信仰と救いB	2	※ ライフスポーツ演習A	2	生物学	4
倫理学A	2	※ ライフスポーツ演習B	2	生物学実験	1
倫理学B	2	※ ライフスポーツ演習C	2	※ 物理学要習	1
社会の領域		総合領域科目		※ 化学要習	1
心理学A	2	総合領域		※ 生物学要習	1
心理学B	2	北里の世界	1	教養演習系科目	
歴史と人間A	2	仕事と人生	1	教養演習系	
歴史と人間B	2	農医連携論	1	※ 教養演習A	2
文化人類学A	2	基礎教育科目		※ 教養演習B	1
文化人類学B	2	外国語系		※ 教養演習C	1
日本と国際社会A	2	◎ 英語ＡⅠ	1	大学基礎演習	1
日本と国際社会B	2	◎ 英語AⅡ	1	※ 言語と文化A	2
環境を考えるA	2	◎ 英語ＢⅠ	1	※ 言語と文化B	2
環境を考えるB	2	◎ 英語ＢⅡ	1		
日本国憲法A	2	数理・情報系			
日本国憲法B	2	数学	4	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。	
法律の役割A	2	※ 発展数学A	2		
法律の役割B	2	※ 発展数学B	2		

医療衛生学２群科目（リハビリテーション学科　言語聴覚療法学専攻）

◎ 解剖学Ⅰ	2	◎ 歯科・口腔外科学	1	◎ 音響学演習	2
◎ 解剖学Ⅱ	2	◎ 音声言語医学	1	◎ 言語発達学	1
◎ 生理学Ⅰ	2	◎ 聴覚医学	1	◎ 社会系医療学	1
◎ 生理学Ⅱ	2	◎ 高次脳機能学	1	薬理学	2
◎ 病理学	2	◎ 臨床心理学Ⅰ	2	医療統計学	2
◎ 医療学概論	2	◎ 臨床心理学Ⅱ	2		
◎ リハビリテーション概論	1	◎ 発達心理学	2		
◎ リハビリテーション医学	2	◎ 心理学測定法	2		
◎ 臨床医療学Ⅰ	4	◎ 学習・認知心理学	2		
◎ 臨床医療学Ⅲ	1	◎ 言語学	2		
◎ 耳鼻咽喉科学	1	◎ 音声学演習	2		
◎ 形成外科学	1	◎ 聴覚心理学	1		

医療衛生学３群科目（リハビリテーション学科　言語聴覚療法学専攻）

◎ 言語聴覚療法学概論(実習含) 3	◎ 重複障害学 1	◎ 聴覚障害学 2
◎ 基礎言語聴覚療法学（実習含） 1	◎ 構音障害学Ⅰ(実習含) 3	◎ 聴覚障害学実習 1
◎ 地域言語聴覚療法学 1	◎ 構音障害学Ⅱ(実習含) 2	◎ 補聴器・人工内耳(実習含) 2
◎ 言語聴覚療法学総合演習 3	◎ 音声障害学（実習含） 2	◎ 臨床実習Ⅰ 1
◎ 失語・高次脳機能障害学 3	◎ 嚥下障害学（実習含） 2	◎ 臨床言語聴覚療法学実習 2
◎ 失語・高次脳機能障害学実習 3	◎ 吃音学(実習含) 2	◎ 臨床実習Ⅱ 12
◎ 言語発達障害学 3	◎ 聴覚検査学 1	◎ 卒業研究 4
◎ 言語発達障害学実習 3	◎ 聴覚検査学実習 1	◎ チーム医療論(演習含) 1

医療衛生学４群科目（リハビリテーション学科　言語聴覚療法学専攻）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目		
※ ディープラーニング演習Ⅰ 1	※ 医療に利用される最新科学 1	※ 医用治療機器学特論 2
※ ディープラーニング演習Ⅱ 1	※ 生体表面電位計測概論 1	※ 臨床検査技師国家試験基礎講座 1
※ 生体医用光学概論 1	※ 生命科学 1	※ 初学者のための生体防御のしくみ 1
※ ボランティア社会学 1	※ くすりと毒の歴史と生理学 1	

医療衛生学１群科目（リハビリテーション学科　視覚機能療法学専攻）

人間形成の基礎科目		経済のしくみA	2	※ 数学の基礎	2
文化の領域		経済のしくみB	2	◎ 統計学A	4
哲学の楽しみA	2	個人と社会A	2	※ 情報科学A	2
哲学の楽しみB	2	個人と社会B	2	※ 情報科学B	2
科学を考えるA	2	政治のしくみA	2	※ 情報科学C	2
科学を考えるB	2	政治のしくみB	2	◎ 情報演習	1
芸術の楽しみA	2	健康の領域		自然科学系	
芸術の楽しみB	2	健康の科学A	2	◎ 物理学	4
文学の楽しみA	2	健康の科学B	2	◎ 物理学実験	1
文学の楽しみB	2	健康の科学C	2	化学	4
信仰と救いA	2	健康とスポーツ演習	2	※ 化学実験	1
信仰と救いB	2	※ ライフスポーツ演習A	2	生物学	4
倫理学A	2	※ ライフスポーツ演習B	2	※ 生物学実験	1
倫理学B	2	※ ライフスポーツ演習C	2	※ 物理学要習	1
社会の領域		総合領域科目		※ 化学要習	1
心理学A	2	総合領域		※ 生物学要習	1
心理学B	2	北里の世界	1	教養演習系科目	
歴史と人間A	2	仕事と人生	1	教養演習系	
歴史と人間B	2	農医連携論	1	※ 教養演習A	2
文化人類学A	2	基礎教育科目		※ 教養演習B	1
文化人類学B	2	外国語系		※ 教養演習C	1
日本と国際社会A	2	◎ 英語A Ⅰ	1	※ 大学基礎演習	1
日本と国際社会B	2	◎ 英語A Ⅱ	1	※ 言語と文化A	2
環境を考えるA	2	◎ 英語B Ⅰ	1	※ 言語と文化B	2
環境を考えるB	2	◎ 英語B Ⅱ	1		
日本国憲法A	2	数理・情報系			
日本国憲法B	2	数学	4	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。	
法律の役割A	2	発展数学A	2		
法律の役割B	2	発展数学B	2		

医療衛生学２群科目（リハビリテーション学科　視覚機能療法学専攻）

◎ 英語C Ⅰ (TOEIC basic)	2	◎ 臨床医療学 Ⅰ	4	◎ 視覚機能療法学概論 Ⅰ	2
◎ 眼科英語	1	◎ 臨床医療学Ⅲ	1	◎ 視覚機能療法学概論 Ⅱ	2
◎ 解剖学 Ⅰ	2	◎ 臨床心理学 Ⅰ	2	◎ 視覚機能療法学概論Ⅲ	2
◎ 解剖学Ⅱ	2	◎ 発達心理学	2	◎ 視覚矯正工学	2
◎ 生理学 Ⅰ	2	◎ 社会系医療学	1	※ 英語C Ⅱ (TOEIC intermediate)	1
◎ 生理学Ⅱ	2	◎ 医療統計学	2	※ 学習・認知心理学	2
◎ 病理学	2	◎ 基礎医療情報学	2		
◎ リハビリテーション概論	1	◎ 社会福祉実習	1		
◎ 医療学概論	2	◎ 保育	2	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。	
◎ 薬理学	2	◎ 保育実習	2		

医療衛生学３群科目（リハビリテーション学科　視覚機能療法学専攻）

◎ 基礎生理光学	2	◎ 生理光学	2	◎ 視能矯正学特論実習Ⅱ	2
◎ 視器解剖・病理学	2	◎ 生理光学実習	1	◎ 臨床実習Ⅰ	1
◎ 視器解剖・病理学実習	1	◎ 視能訓練学	2	◎ 卒業研究	6
◎ 視覚臨床生理学	2	◎ 視能矯正学総論Ⅰ	2	◎ チーム医療論(演習含)	1
◎ 視覚臨床生理学実習	1	◎ 視能矯正学総論Ⅱ	2	視覚科学(Visual science)	1
◎ 眼科学Ⅰ	1	◎ 視能矯正学総論実習Ⅰ	1	視覚科学演習(Visual science)	1
◎ 眼科学Ⅱ	2	◎ 視能矯正学総論実習Ⅱ	2	臨床実習Ⅱ(Orthoptics)	10
◎ 眼科薬理学	1	◎ 視能矯正学各論Ⅰ	2	臨床実習Ⅱ(Visual science)	8
◎ 眼科臨床機器学	1	◎ 視能矯正学各論Ⅱ	2		
◎ 神経眼科学	2	◎ 視能矯正学特論	2		
◎ 神経眼科学実習	1	◎ 視能矯正学特論実習Ⅰ	1		

医療衛生学４群科目（リハビリテーション学科　視覚機能療法学専攻）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目					
※ ディープラーニング演習Ⅰ	1	※ 医療に利用される最新科学	1	※ 医用治療機器学特論	2
※ ディープラーニング演習Ⅱ	1	※ 生体表面電位計測概論	1	※ 臨床検査技師国家試験基礎講座	1
※ 生体医用光学概論	1	※ 生命科学	1	※ 初学者のための生体防御のしくみ	1
※ ボランティア社会学	1	※ くすりと毒の歴史と生理学	1		

未来工学1群科目（データサイエンス学科）

人間形成の基礎科目		経済のしくみA	2	情報科学C	2
文化の領域		経済のしくみB	2	自然科学系	
哲学の楽しみA	2	個人と社会A	2	◎ 物理学	4
哲学の楽しみB	2	個人と社会B	2	◎ 物理学実験	1
科学を考えるA	2	政治のしくみA	2	◎ 生物学	4
科学を考えるB	2	政治のしくみB	2	◎ 生物学実験	1
芸術の楽しみA	2	健康の領域		※ 物理学要習	1
芸術の楽しみB	2	健康の科学A	2	※ 生物学要習	1
文学の楽しみA	2	健康の科学B	2	教養演習系科目	
文学の楽しみB	2	健康の科学C	2	教養演習系	
信仰と救いA	2	健康とスポーツ演習	2	※ 教養演習A	2
信仰と救いB	2	総合領域科目		※ 教養演習B	1
倫理学A	2	総合領域		※ 教養演習C	1
倫理学B	2	北里の世界	1	※ 大学基礎演習	1
社会の領域		仕事と人生	1	※ 言語と文化A	2
心理学A	2	農医連携論	1	※ 言語と文化B	2
心理学B	2	基礎教育科目			
歴史と人間A	2	外国語系			
歴史と人間B	2	◎ 英語AⅠ	1		
文化人類学A	2	◎ 英語AⅡ	1		
文化人類学B	2	◎ 英語BⅠ	1		
日本と国際社会A	2	◎ 英語BⅡ	1		
日本と国際社会B	2	数理・情報系			
環境を考えるA	2	◎ 微分積分学A	2		
環境を考えるB	2	◎ 微分積分学B	2		
日本国憲法A	2	◎ ベクトルと行列	2		
日本国憲法B	2	◎ 統計学BⅠ	2	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。	
法律の役割A	2	統計学BⅡ	2		
法律の役割B	2	◎ 情報科学A	2		

未来工学2群科目（データサイエンス学科）

◎ 未来工学データサイエンス概論	2	◎ 情報倫理学	2	線形代数演習	2
◎ データサイエンスイノベーション演習	2	◎ 人工知能・機械学習入門	2	◎ 情報セキュリティ	2
◎ 情報の基礎	2	◎ 科学英語Ⅰ	1	◎ 科学英語Ⅱ	1
◎ プログラミングⅠ	3	歴史から見るデータサイエンス	2		
◎ プログラミングⅡ	3	線形代数	2		

未来工学3群科目（データサイエンス学科）

《データサイエンティストを支える教養とスキル》		《データのモデリング》		《ライフサイエンスの基礎科学》	
IoT電子工作実習	1	◎ データハンドリングと可視化	2	◎ ライフサイエンスⅠ	2
◎ プログラミングⅢ	3	◎ データエンジニアリング演習	2	◎ ライフサイエンスⅡ	2
インターンシップ	1	◎ データ解析とその数理Ⅰ	3	物質科学	2
プログラミングⅣ	3	◎ データ解析とその数理Ⅱ	3	生命系の情報理論	2
データサイエンス教育法	2	◎ シミュレーションの基礎	2	生命科学データ測定技術	2
アントレプレナーシップ	1	ネットワーク科学	2	統計の物理学	2
◎ データサイエンス研究入門	1	データモデリング演習	2	イメージングと画像解析	2
				ケモインフォマティクス	2
				神経系の情報処理	2
				立体構造予測	2
《データサイエンスのための数理》		《医療データの取扱い》		《データサイエンティストとしての価値の創造》	
◎ 確率の数理	2	◎ 医学・医療概論	2	◎ 未来工学特別講義	2
◎ アルゴリズム	2	医療の質・安全管理論	2	◎ 輪講（ゼミナール）	4
微分方程式と力学系	2	医療統計分類論	2	◎ 卒業研究	8
◎ バイオインフォマティクス	2	メディカルインフォマティクス	2		
◎ 深層学習入門	2				
テキストマイニング	1				
尤度とモデリングの数理	2				

未来工学4群科目（データサイエンス学科）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目

健康科学１群科目（看護学科）

◎ 情報処理Ⅰ	1	数学	1	◎ 日本国憲法	2
情報処理Ⅱ	1	基礎化学	1	◎ まちづくり論	2
情報処理Ⅲ	1	基礎生物学	1	◎ ボランティア活動論	2
◎ データサイエンス基礎	2	基礎物理学	1	国際交流論	1
◎ 生命倫理学	1	基礎分析化学実習	1	◎ 生涯発達論	2
◎ 心理学	1	スポーツと健康Ⅰ	1	◎ コミュニケーション演習	2
◎ 英語Ⅰ	2	スポーツと健康Ⅱ	1	北里の世界	1
英語Ⅱ	2	◎ 教育学	1	農医連携論	1
◎ 医療英語	1	◎ 対人関係論	1		

健康科学２群科目（看護学科）

◎ 看護形態機能学Ⅰ	2	◎ 症候・疾病論Ⅰ	2	◎ 公衆衛生学	2
◎ 看護形態機能学Ⅱ	2	◎ 症候・疾病論Ⅱ	2	◎ 看護関係法規	2
◎ 看護形態機能学Ⅲ	2	◎ 症候・疾病論Ⅲ	2	◎ 社会保障と社会福祉	1
◎ 栄養学	1	◎ 症候・疾病論Ⅳ	1	◎ ヘルスプロモーション	1
◎ 臨床栄養学	1	◎ 臨床薬理学	2		

健康科学３群科目（看護学科）

◎ 看護学原論	2	◎ 成人看護学概論	2	◎ 成人看護学実習Ⅱ(慢性期)	2
◎ 基礎技術演習Ⅰ	1	◎ 成人看護学Ⅰ	2	◎ 集中治療ケア実習	1
◎ 基礎技術演習Ⅱ	1	◎ 成人看護学Ⅱ	2	◎ 老年看護学実習	2
◎ 基礎技術演習Ⅲ	1	◎ 老年看護学概論	2	◎ NICU/PICU実習	1
◎ 看護過程演習	1	◎ 老年看護学	2	◎ 小児看護学実習	1
◎ フィジカルアセスメントⅠ	1	◎ 小児看護学概論	2	◎ 母性看護学実習	2
◎ フィジカルアセスメントⅡ	1	◎ 小児看護学各論	2	◎ 精神看護学実習	2
◎ 感染看護学	1	◎ 母性看護学概論	2	◎ 統合実習	4
◎ 地域アセスメント演習	1	◎ 母性看護学各論	2	◎ 地域実習	2
◎ チーム医療論演習Ⅰ	1	◎ 精神看護学概論	2	※ 公衆衛生看護支援技術Ⅰ	2
◎ 緩和ケア	1	◎ 精神看護方法論	2	※ 公衆衛生看護支援技術Ⅱ	2
◎ 地域・在宅看護概論	1	◎ 看護管理・政策論	1	※ 公衆衛生看護対象論Ⅰ	1
◎ 地域・在宅看護総論	2	◎ 医療安全	1	※ 公衆衛生看護対象論Ⅱ	1
◎ 地域・在宅援助技術Ⅰ	1	◎ 災害看護	1	※ 公衆衛生看護展開論	2
◎ 地域・在宅援助技術Ⅱ	1	◎ チーム医療論演習Ⅱ	1	※ 公衆衛生看護管理論	1
◎ 地域の健康と看護	1	◎ 課題研究Ⅰ	1	※ 地域健康危機管理論	1
疫学	2	◎ 課題研究Ⅱ	2	※ 学校保健・産業保健	1
保健統計学	2	◎ 看護基礎実習Ⅰ	1	※ 保健医療福祉行政論Ⅱ	1
公衆衛生看護学概論	2	◎ 看護基礎実習Ⅱ	2	※ 公衆衛生看護学実習	5
健康政策論	2	◎ 在宅看護学実習	2		
保健医療福祉行政論Ⅰ	1	◎ 成人看護学実習Ⅰ(急性期)	2	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。	

健康科学４群科目（看護学科）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目

健康科学１群科目（医療検査学科）

◎ 情報処理Ⅰ	1	◎ 数学	1	◎ 日本国憲法	2
◎ 情報処理Ⅱ	1	◎ 基礎化学	1	◎ まちづくり論	2
◎ 情報処理Ⅲ	1	◎ 基礎生物学	1	◎ 国際交流論	1
◎ 生命倫理学	1	◎ 基礎物理学	1	北里の世界	1
◎ 心理学	1	◎ 基礎分析化学実習	1	農医連携論	1
◎ 英語Ⅰ	2	◎ スポーツと健康Ⅰ	1		
◎ 英語Ⅱ	2	◎ スポーツと健康Ⅱ	1		
◎ 専門英語	2	◎ コミュニケーション学	1		

健康科学２群科目（医療検査学科）

◎ 医療学概論	2	◎ 分子細胞生物学	1	◎ 保健看護学概論	1
◎ 解剖学Ⅰ	1	◎ 薬理学	1	◎ 医用工学概論	1
◎ 解剖学Ⅱ	1	◎ 臨床栄養学	1	◎ 医用工学実習	1
◎ 生理学Ⅰ	1	◎ 病理学	1	◎ 検査機器学	1
◎ 生理学Ⅱ	1	◎ 微生物学	1	◎ 在宅医療論	1
◎ 解剖生理学実習	1	◎ 臨床検査基礎実習	1		
◎ 生化学Ⅰ	1	◎ 公衆衛生学Ⅰ	1		
◎ 生化学Ⅱ	1	◎ 公衆衛生学Ⅱ	1		

健康科学３群科目（医療検査学科）

◎ 臨床医学総論	1	◎ 免疫検査学Ⅰ	2	◎ 画像検査学実習	1
◎ 臨床病態学Ⅰ	2	◎ 免疫検査学Ⅱ	2	◎ 検査管理学	1
◎ 臨床病態学Ⅱ	2	◎ RI検査学	1	◎ 精度保証管理学	1
◎ チーム医療論	1	◎ 遺伝子染色体検査学	2	◎ 医療統計学	1
◎ 血液検査学Ⅰ	2	◎ 遺伝子染色体検査学実習	1	◎ 医療安全管理学	2
◎ 血液検査学Ⅱ	2	◎ 輸血移植検査学Ⅰ	2	◎ 臨地実習	11
◎ 血液検査学実習	1	◎ 輸血移植検査学Ⅱ	1	◎ 臨床検査総合実習	1
◎ 凝固止血検査学実習	1	◎ 輸血移植検査学実習	1	◎ テュートリアル教育	1
◎ 病理細胞検査学Ⅰ	2	◎ 臨床微生物学Ⅰ	2	◎ 臨床検査学特論	8
◎ 病理細胞検査学Ⅱ	2	◎ 臨床微生物学Ⅱ	2	◎ 卒業研究	5
◎ 病理細胞検査学実習Ⅰ	1	◎ 臨床微生物学実習Ⅰ	1	◎ データサイエンス概論	1
◎ 病理細胞検査学実習Ⅱ	1	◎ 臨床微生物学実習Ⅱ	1	◎ 在宅検査演習	1
◎ 臨床基礎検査学	1	◎ 生理機能検査学Ⅰ	2	※ 食品機能学	2
◎ 臨床基礎検査学実習	1	◎ 生理機能検査学Ⅱ	2	※ 食品関連法規	1
◎ 寄生虫学	1	◎ 生理機能検査学Ⅲ	2		
◎ 臨床化学Ⅰ	2	◎ 生理機能検査学Ⅳ	2		
◎ 臨床化学Ⅱ	2	◎ 生理機能検査学実習Ⅰ	1	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。	
◎ 生体分析化学実習Ⅰ	1	◎ 生理機能検査学実習Ⅱ	1		
◎ 生体分析化学実習Ⅱ	1	◎ 画像検査学	2		

健康科学４群科目（医療検査学科）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目

別表４－①

教職課程（獣医学部動物資源科学科・生物環境科学科、海洋生命科学部、理学部、未来工学部）

教育の基礎的理解に関する科目等　　単位数はすべて必修

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			本大学の授業科目	
科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理Ⅰ	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職概論	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育原理Ⅱ	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育概論	1
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論	2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法＜中学校教諭のみ＞	中10 高8	道徳教育論	2
	総合的な学習の時間の指導法　＊		特別活動及び総合的な学習の時間指導論（※理学部・海洋生命科学部・未来工学部必修）	＊2
	特別活動の指導法　＊			
	総合的な学習の時間の指導法　＊		総合的な学習の指導論（獣医学部必修）	＊1
	特別活動の指導法　＊		特別活動論（獣医学部必修）	＊1
	教育の方法及び技術		教育方法論	1
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		ＩＣＴ活用の理論と方法	1
	生徒指導の理論及び方法		生徒指導論	2
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談・進路指導論	2
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			
教育実践に関する科目	教育実習	中5 高3	教育実習講義	1
			教育実習(動物資源科学科・海洋生命科学部・理学部必修)	4
			教育実習(生物環境科学科・未来工学部必修)	2
	教職実践演習	2	教職実践演習（中・高）	2

＊は、学部によって履修科目が異なる

教職課程（獣医学部動物資源科学科、海洋生命科学部、理学部）

教科及び教科の指導法に関する科目

・中学校教諭一種免許状（理科）　　単位数はすべて必修

免許教科		授　業　科　目	単　位　数
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	物理学	それぞれ1単位以上 計20単位以上
		物理学実験（コンピュータ活用を含む。）	
		化学	
		化学実験（コンピュータ活用を含む。）	
		生物学	
		生物学実験（コンピュータ活用を含む。）	
		地学	
		地学実験（コンピュータ活用を含む。）	
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		－
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		8単位

教職課程（獣医学部動物資源科学科、海洋生命科学部、理学部）

教科及び教科の指導法に関する科目

・高等学校教諭一種免許状（理科）　　単位数はすべて必修

免許教科		授　業　科　目	単　位　数
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	物理学	それぞれ1単位以上 計20単位以上
		化学	
		生物学	
		地学	
		物理学実験（コンピュータ活用を含む。）、化学実験（コンピュータ活用を含む。）、生物学実験（コンピュータ活用を含む。）、地学実験（コンピュータ活用を含む。）	
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		－
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		8単位

教職課程（獣医学部生物環境科学科）

教科及び教科の指導法に関する科目

・高等学校教諭一種免許状（農業）　　単位数はすべて必修

免許教科		授　業　科　目	単　位　数
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	農業の関係科目	それぞれ1単位以上 計20単位以上
		職業指導	
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		－
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		4単位

教職課程（未来工学部）

教科及び教科の指導法に関する科目

・高等学校教諭一種免許状（情報）　　単位数はすべて必修

免許教科		授　業　科　目	単　位　数
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	情報社会・情報倫理	それぞれ1単位以上 計20単位以上
		コンピュータ・情報処理（実習を含む。）	
		情報システム（実習を含む。）	
		情報通信ネットワーク（実習を含む。）	
		マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）	
		情報と職業	
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目		－
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		4単位

別表４－②

教職課程（看護学部）

教育の基礎的理解に関する科目等　　単位数はすべて必修

教育職員免許法施行規則に定める科目区分等			本大学の授業科目	単位数
科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	8	教育原論	2 (*)
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職概論	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		（教育原論）	(*)
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育概論	1
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		カリキュラム論	1
道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	6	道徳の理論並びに特別活動及び総合的な学習の時間の指導論	2
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		教育方法論	1
	生徒指導の理論及び方法		生徒指導論	1
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談論	2
教育実践に関する科目	養護実習	5	養護実習	5
	教職実践演習	2	教職実践演習（養護）	2

*教育原論は、「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」と「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）」を含む科目

養護に関する科目　　単位数はすべて必修

教育職員免許法施行規則に定める科目	単位数
衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）	4
学校保健	2
養護概説	2
健康相談活動の理論・健康相談活動の方法	2
栄養学（食品学を含む。）	2
解剖学・生理学	2
「微生物学、免疫学、薬理概論」	2
精神保健	2
看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）	10

別表５

学芸員資格を付与する課程（海洋生命科学部海洋生命科学科）

単位数はすべて必修

博物館法施行規則に定める博物館に関する科目・単位数		本大学の授業科目	
科　　目	単位数	授 業 科 目	単位数
生涯学習概論	2	生涯学習概論	2
博物館概論	2	博物館概論	2
博物館経営論	2	博物館経営論	2
博物館資料論	2	博物館資料論	2
博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2
博物館展示論	2	博物館展示論	2
博物館教育論	2	博物館教育論	2
博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2
博物館実習	3	博物館実習Ⅰ	1
		博物館実習Ⅱ	2

別表６－①　入学検定料及び学費（※は初年度のみ納入を表す。）

薬　学　部		
	薬学科	生命創薬科学科
入学検定料	35,000 円	35,000 円
※入　学　金	400,000 円	400,000 円
授　業　料	1,100,000 円	850,000 円
施設設備費 （２年次以降）	850,000 円 （ 950,000 円）	820,000 円

獣 医 学 部			
	獣医学科	動物資源科学科	生物環境科学科
入学検定料	33,000 円	33,000 円	33,000 円
※入　学　金	300,000 円	250,000 円	250,000 円
授　業　料 （２年次以降）	1,500,000 円	830,000 円 （ 930,000円）	830,000 円 （ 930,000円）
施設設備費 （２年次以降）	530,000 円 （ 630,000 円）	270,000 円 （ 370,000 円）	270,000 円 （ 370,000 円）

医　学　部	
入学検定料	60,000 円
※入　学　金	1,500,000 円
授　業　料 （１年次９月入学） （２年次以降）	3,000,000 円 1,750,000 円 （ 3,500,000 円）
施設設備費 （１年次９月入学） （２年次以降）	1,000,000 円 580,000 円 （ 1,200,000 円）
教育充実費 （１年次９月入学） （２年次以降） （４年次以降）	3,500,000 円 2,040,000 円 （ 1,700,000 円） （ 1,000,000 円）

海 洋 生 命 科 学 部	
入学検定料	33,000 円
※入　学　金	300,000 円
授　業　料 （２年次以降）	900,000 円 （ 1,080,000 円）
施設設備費 （２年次以降）	200,000 円 （ 370,000 円）

看　護　学　部	
入学検定料	33,000 円
※入　学　金	400,000 円
授　業　料 （２年次以降）	1,200,000 円 （ 1,400,000 円）
施設設備費	300,000 円
助産師教育課程指定科目履修料 （履修者のみ）	350,000 円
保健師教育課程指定科目履修料 （履修者のみ）	80,000 円

理　学　部			
	物理学科	化学科	生物科学科
入学検定料	33,000 円	33,000 円	33,000 円
※入　学　金	200,000 円	200,000 円	200,000 円
授　業　料 （２年次以降）	1,012,500 円 （1,062,500 円）	1,012,500 円 （1,062,500 円）	1,062,500 円 （1,162,500 円）
施設設備費	450,000 円	450,000 円	450,000 円

医 療 衛 生 学 部	
入学検定料	33,000 円
※入　学　金	300,000 円
授　業　料 （２年次以降）	950,000 円 （1,200,000 円）
施設設備費	550,000 円
細胞検査士コース履修料 (医療検査学科･履修者のみ)	150,000 円

未 来 工 学 部	
入学検定料	33,000 円
※入　学　金	250,000 円
授　業　料 （２年次以降）	950,000 円 （1,150,000 円）
施設設備費 （２年次以降）	450,000 円 （450,000 円）

健 康 科 学 部		
	看護学科	医療検査学科
入学検定料	33,000 円	33,000 円
※入　学　金	300,000 円	300,000 円
授　業　料	1,300,000 円	1,200,000 円
施設設備費	200,000 円	200,000 円

別表６－②　科目等履修生の審査料及び学費

	薬学部	獣医学部	医学部	海洋生命科学部	看護学部	理学部	医療衛生学部	未来工学部	健康科学部
審査料	15,000 円	15,000 円	50,000 円	15,000 円	15,000 円	15,000 円	15,000 円	15,000 円	15,000 円
登録料	25,000 円	25,000 円	50,000 円	25,000 円	25,000 円	25,000 円	25,000 円	25,000 円	25,000 円
科目等履修料	1単位 25,000 円	1単位 25,000 円	1単位 50,000 円	1単位 25,000 円	1単位 25,000 円	1単位 25,000 円	1単位 25,000 円	1単位 25,000 円	1単位 25,000 円

本大学卒業生の科目等履修料は1単位あたり 20,000円とする。ただし、医学部を除く。

別表６－③　教職課程及び学芸員養成課程履修料

学部等 課　程	獣医学部		海洋生命科学部	看護学部	理学部	未来工学部
	動物資源科学科	生物環境科学科				
教職課程	50,000 円	30,000 円	50,000 円	100,000 円	100,000 円	30,000 円
学芸員養成課程			50,000 円			

学則の変更事項を記載した書類

１．健康科学部の設置に伴い、以下の条文、別表において健康科学部について新たに規定する。

・第 2 条（教育研究上の目的）に定める別表 1
・第 5 条（学部、学科、専攻）
・第 7 条（修業年限及び在学年限）
・第 8 条（入学定員、編入学定員及び収容定員）
・第 13 条（授業科目及び単位数等）に定める別表 2，3
・第 27 条（卒業の要件及び学士の学位）
・第 36 条（休学）
・第 42 条（入学検定料等）、第 43 条（学費）及び第 47 条（科目等履修生）に定める別表 6－①,6－②
・第 64 条（附属施設）※健康科学部図書館について追加

２．附則に施行年月日（2024 年 4 月 1 日）及び健康科学部の収容定員の学年進行について規定する。

以上

2024年度（新）	2023年度（旧）
北里大学学則 **第１章　総　　則** （目　　的） 第１条　本大学は、北里柴三郎博士の精神に則り、生命科学及び医療科学分野における学術研究と人材育成を通して、広く社会の発展のために寄与することを目的とする。 （教育研究上の目的） 第２条　本大学は、学部、学科又は課程ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を定めるものとする。 ２　前項の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は別表１のとおりとする。 ＜略＞ （学部、学科、専攻） 第５条　本大学に次の学部、学科、専攻を置く。 薬　　学　　部……薬学科、生命創薬科学科 獣　医　学　部……獣医学科、動物資源科学科、生物環境科学科 医　　学　　部……医学科 海洋生命科学部……海洋生命科学科 看　護　学　部……看護学科 理　　学　　部……物理学科、化学科、生物科学科 医療衛生学部…… 保健衛生学科 医療検査学科 医療工学科　臨床工学専攻、診療放射線技術科学専攻 リハビリテーション学科　理学療法学専攻、作業療法学専攻、 言語聴覚療法学専攻、視覚機能療法学専攻 未 来 工 学 部……データサイエンス学科 健 康 科 学 部……看護学科、医療検査学科 ２　本大学における一般教育を円滑に実施するため、本大学に一般教育部を置く。一般教育部は自然科学教育センター、人間科学教育センター、基礎教育センターをもって組織する。一般教育部に関する規程は別に定める。 ＜略＞ （修業年限及び在学年限） 第７条　本大学の修業年限は、薬学部生命創薬科学科、獣医学部動物資源科学科・生物環境科学科、海洋生命科学部、看護学部、理学部、医療衛生学部、未来工学部、健康科学部においては４年、薬学部薬学科、獣医学部獣医学科、医学部においては６年とする。 ２　卒業までの在学年限は、各学部とも前項の修業年限の２倍を超えることができない。 ただし、編入学、転入学、再入学の場合には、在学すべき年数の２倍を超えることができないものとする。	北里大学学則 **第１章　総　　則** （目　　的） 第１条　本大学は、北里柴三郎博士の精神に則り、生命科学及び医療科学分野における学術研究と人材育成を通して、広く社会の発展のために寄与することを目的とする。 （教育研究上の目的） 第２条　本大学は、学部、学科又は課程ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を定めるものとする。 ２　前項の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は別表１のとおりとする。 ＜略＞ （学部、学科、専攻） 第５条　本大学に次の学部、学科、専攻を置く。 薬　　学　　部……薬学科、生命創薬科学科 獣　医　学　部……獣医学科、動物資源科学科、生物環境科学科 医　　学　　部……医学科 海洋生命科学部……海洋生命科学科 看　護　学　部……看護学科 理　　学　　部……物理学科、化学科、生物科学科 医療衛生学部…… 保健衛生学科 医療検査学科 医療工学科　臨床工学専攻、診療放射線技術科学専攻 リハビリテーション学科　理学療法学専攻、作業療法学専攻、 言語聴覚療法学専攻、視覚機能療法学専攻 未 来 工 学 部……データサイエンス学科 ２　本大学における一般教育を円滑に実施するため、本大学に一般教育部を置く。一般教育部は自然科学教育センター、人間科学教育センター、基礎教育センターをもって組織する。一般教育部に関する規程は別に定める。 ＜略＞ （修業年限及び在学年限） 第７条　本大学の修業年限は、薬学部生命創薬科学科、獣医学部動物資源科学科・生物環境科学科、海洋生命科学部、看護学部、理学部、医療衛生学部、未来工学部においては４年、薬学部薬学科、獣医学部獣医学科、医学部においては６年とする。 ２　卒業までの在学年限は、各学部とも前項の修業年限の２倍を超えることができない。

３　薬学部、獣医学部、医学部、海洋生命科学部、医療衛生学部、未来工学部、健康科学部においては、原則として同一学科同一学年における在学年数を２年以内とする。

（入学定員、編入学定員及び収容定員）

第８条　学生の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科・専攻	入学定員	（編入学定員）			編入学収容定員	収容定員
			２年次編入	３年次編入	４年次編入		
薬学部	薬学科	260名					1,560名
	生命創薬科学科	35名					140名
	学部計	295名					1,700名
獣医学部	獣医学科	120名					720名
	動物資源科学科	130名					520名
	生物環境科学科	90名					360名
	学部計	340名					1,600名
医学部	医学科	110名					660名
	学部計	110名					660名
海洋生命科学部	海洋生命科学科	180名					720名
	学部計	180名					720名
看護学部	看護学科	125名					500名
	学部計	125名					500名
理学部	物理学科	53名					212名
	化学科	80名					320名
	生物科学科	80名					320名
	学部計	213名					852名
医療衛生学部	保健衛生学科	40名					160名
	医療検査学科	105名					420名
	医療工学科	115名					460名
	臨床工学専攻	45名					180名
	診療放射線技術科学専攻	70名					280名
	リハビリテーション学科	145名					580名
	理学療法学専攻	45名					180名
	作業療法学専攻	40名					160名
	言語聴覚療法学専攻	30名					120名
	視覚機能療法学専攻	30名					120名
	学部計	405名					1,620名
未来工学部	データサイエンス学科	100名					400名
	学部計	100名					400名
健康科学部	看護学科	80名					320名
	医療検査学科	80名					320名
	学部計	160名					640名
計		1,928名					8,692名

＜略＞

（授業科目及び単位数等）

第 13 条　授業科目及び単位数等は別表２、３のとおりとする。

２　年間の履修登録単位数は 50 単位未満とする。

３　前項に規定する履修登録単位数の上限を緩和する場合については、別に定める。

ただし、編入学、転入学、再入学の場合には、在学すべき年数の２倍を超えることができないものとする。

３　薬学部、獣医学部、医学部、海洋生命科学部、医療衛生学部、未来工学部においては、原則として同一学科同一学年における在学年数を２年以内とする。

（入学定員、編入学定員及び収容定員）

第８条　学生の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科・専攻	入学定員	（編入学定員）			編入学収容定員	収容定員
			2年次編入	3年次編入	4年次編入		
薬学部	薬学科	260名					1,560名
	生命創薬科学科	35名					140名
	学部計	295名					1,700名
獣医学部	獣医学科	120名					720名
	動物資源科学科	130名					520名
	生物環境科学科	90名					360名
	学部計	340名					1,600名
医学部	医学科	110名					660名
	学部計	110名					660名
海洋生命科学部	海洋生命科学科	180名					720名
	学部計	180名					720名
看護学部	看護学科	125名					500名
	学部計	125名					500名
理学部	物理学科	53名					212名
	化学科	80名					320名
	生物科学科	80名					320名
	学部計	213名					852名
医療衛生学部	保健衛生学科	40名					160名
	医療検査学科	105名					420名
	医療工学科	115名					460名
	臨床工学専攻	45名					180名
	診療放射線技術科学専攻	70名					280名
	リハビリテーション学科	145名					580名
	理学療法学専攻	45名					180名
	作業療法学専攻	40名					160名
	言語聴覚療法学専攻	30名					120名
	視覚機能療法学専攻	30名					120名
	学部計	405名					1,620名
未来工学部	データサイエンス学科	100名					400名
	学部計	100名					400名
計		1,768名					8,052名

＜略＞

（授業科目及び単位数等）

第 13 条　授業科目及び単位数等は別表２、３のとおりとする。

２　年間の履修登録単位数は 50 単位未満とする。

３　前項に規定する履修登録単位数の上限を緩和する場合については、別に定める。

＜略＞	＜略＞
（卒業の要件及び学士の学位）	（卒業の要件及び学士の学位）
第 27 条　本大学の薬学部生命創薬科学科、獣医学部動物資源科学科・生物環境科学科、海洋生命科学部、看護学部、理学部、医療衛生学部、未来工学部、健康科学部に原則４年（編入学、転入学、再入学の場合は在学すべき年数。以下同じ。）以上在学し、若しくは薬学部薬学科、獣医学部獣医学科に原則６年以上在学し、別表２に定める単位を修得した者、又は医学部に原則６年以上在学し、別表２に定める単位を修得し、総合試験、共用試験医学系臨床実習後 OSCE に合格した者は卒業とし、次の学士の学位を授与する。	第 27 条　本大学の薬学部生命創薬科学科、獣医学部動物資源科学科・生物環境科学科、海洋生命科学部、看護学部、理学部、医療衛生学部、未来工学部に原則４年（編入学、転入学、再入学の場合は在学すべき年数。以下同じ。）以上在学し、若しくは薬学部薬学科、獣医学部獣医学科に原則６年以上在学し、別表２に定める単位を修得した者、又は医学部に原則６年以上在学し、別表２に定める単位を修得し、総合試験、共用試験医学系臨床実習後 OSCE に合格した者は卒業とし、次の学士の学位を授与する。
薬学部　薬学科　学士（薬学） 生命創薬科学科　学士（薬科学） 獣医学部　獣医学科　学士（獣医学） 動物資源科学科　学士（農学） 生物環境科学科　学士（農学） 医学部　医学科　学士（医学） 海洋生命科学部海洋生命科学科　学士（水産学） 看護学部　看護学科　学士（看護学） 理学部　物理学科　学士（理学） 化学科　学士（理学） 生物科学科　学士（理学） 医療衛生学部　保健衛生学科　学士（保健衛生学） 医療検査学科　学士（医療検査学） 医療工学科 臨床工学専攻　学士（臨床工学） 診療放射線技術科学専攻　学士（診療放射線技術科学） リハビリテーション学科 理学療法学専攻　学士（理学療法学） 作業療法学専攻　学士（作業療法学） 言語聴覚療法学専攻　学士（言語聴覚療法学） 視覚機能療法学専攻　学士（視覚機能療法学） 未来工学部　データサイエンス学科　学士（工学） 健康科学部　看護学科　学士（看護学） 医療検査学科　学士（医療検査学）	薬学部　薬学科　学士（薬学） 生命創薬科学科　学士（薬科学） 獣医学部　獣医学科　学士（獣医学） 動物資源科学科　学士（農学） 生物環境科学科　学士（農学） 医学部　医学科　学士（医学） 海洋生命科学部海洋生命科学科　学士（水産学） 看護学部　看護学科　学士（看護学） 理学部　物理学科　学士（理学） 化学科　学士（理学） 生物科学科　学士（理学） 医療衛生学部　保健衛生学科　学士（保健衛生学） 医療検査学科　学士（医療検査学） 医療工学科 臨床工学専攻　学士（臨床工学） 診療放射線技術科学専攻　学士（診療放射線技術科学） リハビリテーション学科 理学療法学専攻　学士（理学療法学） 作業療法学専攻　学士（作業療法学） 言語聴覚療法学専攻　学士（言語聴覚療法学） 視覚機能療法学専攻　学士（視覚機能療法学） 未来工学部　データサイエンス学科　学士（工学）
２　第 1 項の規定により卒業の要件として修得すべき単位数のうち、第 16 条第 2 項の授業の方法により、修得する単位数は 60 単位を超えないものとする。 ただし、各学部において 124 単位を超える単位数を卒業の要件としている場合は、同条第 1 項の授業方法によって 64 単位以上の修得がなされていれば、同条第 2 項の授業の方法によって修得する単位数については、60 単位を超えることができるものとする。	２　第 1 項の規定により卒業の要件として修得すべき単位数のうち、第 16 条第 2 項の授業の方法により、修得する単位数は 60 単位を超えないものとする。 ただし、各学部において 124 単位を超える単位数を卒業の要件としている場合は、同条第 1 項の授業方法によって 64 単位以上の修得がなされていれば、同条第 2 項の授業の方法によって修得する単位数については、60 単位を超えることができるものとする。
＜略＞	＜略＞

（休　　学） 第 36 条　薬学部、獣医学部、海洋生命科学部、看護学部、理学部、医療衛生学部、未来工学部、健康科学部においては、病気その他やむを得ない事由により、次の各号の一に該当する者は、休学願に保証人連署のうえ学長に願い出て、許可を受けなければならない。ただし、疾病の場合は、医師の診断書を添付するものとする。 　医学部においては、病気その他やむを得ない事由により、第 1 号、第 3 号及び第 4 号に該当する者は、休学願に保証人連署のうえ学長に願い出て、許可を受けなければならない。ただし、疾病の場合は、医師の診断書を添付するものとする。 （1）　学年初めから学年末まで１年間就学することができない者 （2）　学年初めから引き続き後期授業開始日の前日まで就学することができない者 （3）　学年末まで引き続き６ヵ月以上就学することができない者 （4）　外国人留学生で出身国における兵役等に就く必要がある者 ２　　第１項第１号により休学をした者は、願い出により許可を得て第２号による休学に変更することができる。 ３　　第１項第２号により休学した者が復学後に改めて休学を願い出た場合は、許可を得て後期授業開始日から第３号により休学するものとする。 ４　本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が休学期間中に第 21 条及び第 22 条に定める大学等において修得した単位を、60 単位を超えない範囲で卒業に必要な単位として認定することができる。 ５　第１項第４号による休学を希望する場合は、兵役等に就く事実及び期間を確認できる書類を休学願に添付するものとする。 ＜略＞ （入学検定料等） 第 42 条　入学検定料等は、別表６－①及び６－②に示すとおりとする。 （学　　費） 第 43 条　学費は別表６－①に示す入学金、授業料、施設設備費、教育充実費及び別表６－②に示す登録料、科目等履修料、別表６－③に示す教職課程及び学芸員養成課程履修料のとおりとする。 ２　いったん納入した学費は、別に定める場合を除き、一切返還しない。 ３　学費は、社会情勢により、次の年度に進むとき変更することがある。 ＜略＞ （科目等履修生） 第 47 条　本大学は、本大学の学生以外の者で第 29 条第 1 項に該当する者が本大学の授業科目の一又は複数の科目の履修を願い出たときは、正規の学生の学修に支障のない限り、教授会の議を経て、科目等履修生としてこれを許可することができる。 ２　科目等履修生は、別表６－②に示す審査料及び学費を所定の期日までに納入しなければならない。 ３　科目等履修生に対する単位の授与については、第 20 条の規定を準用する。又、願い出があったときは単 ＜略＞ （附属施設） 第 64 条　本大学に次の附属施設を置く。	（休　　学） 第 36 条　薬学部、獣医学部、海洋生命科学部、看護学部、理学部、医療衛生学部、未来工学部においては、病気その他やむを得ない事由により、次の各号の一に該当する者は、休学願に保証人連署のうえ学長に願い出て、許可を受けなければならない。ただし、疾病の場合は、医師の診断書を添付するものとする。 　医学部においては、病気その他やむを得ない事由により、第 1 号、第 3 号及び第 4 号に該当する者は、休学願に保証人連署のうえ学長に願い出て、許可を受けなければならない。ただし、疾病の場合は、医師の診断書を添付するものとする。 （1）　学年初めから学年末まで１年間就学することができない者 （2）　学年初めから引き続き後期授業開始日の前日まで就学することができない者 （3）　学年末まで引き続き６ヵ月以上就学することができない者 （4）　外国人留学生で出身国における兵役等に就く必要がある者 ２　　第１項第１号により休学をした者は、願い出により許可を得て第２号による休学に変更することができる。 ３　　第１項第２号により休学した者が復学後に改めて休学を願い出た場合は、許可を得て後期授業開始日から第３号により休学するものとする。 ４　本大学は、教育上有益と認めるときは、学生が休学期間中に第 21 条及び第 22 条に定める大学等において修得した単位を、60 単位を超えない範囲で卒業に必要な単位として認定することができる。 ５　第１項第４号による休学を希望する場合は、兵役等に就く事実及び期間を確認できる書類を休学願に添付するものとする。 ＜略＞ （入学検定料等） 第 42 条　入学検定料等は、別表６－①及び６－②に示すとおりとする。 （学　　費） 第 43 条　学費は別表６－①に示す入学金、授業料、施設設備費、教育充実費及び別表６－②に示す登録料、科目等履修料、別表６－③に示す教職課程及び学芸員養成課程履修料のとおりとする。 ２　いったん納入した学費は、別に定める場合を除き、一切返還しない。 ３　学費は、社会情勢により、次の年度に進むとき変更することがある。 ＜略＞ （科目等履修生） 第 47 条　本大学は、本大学の学生以外の者で第 29 条第 1 項に該当する者が本大学の授業科目の一又は複数の科目の履修を願い出たときは、正規の学生の学修に支障のない限り、教授会の議を経て、科目等履修生としてこれを許可することができる。 ２　科目等履修生は、別表６－②に示す審査料及び学費を所定の期日までに納入しなければならない。 ３　科目等履修生に対する単位の授与については、第 20 条の規定を準用する。又、願い出があったときは単 ＜略＞ （附属施設） 第 64 条　本大学に次の附属施設を置く。

北里大学附属施設	各学部等附属施設
北里大学病院	薬学部附属薬用植物園
北里大学北里研究所病院	薬学部附属医薬研究施設
北里大学メディカルセンター	薬学部附属臨床薬学研究・教育センター
北里大学図書館	薬学部附属環境管理センター
北里大学白金図書館	薬学部附属東洋医学総合研究所
北里大学獣医学部図書館	獣医学部附属動物病院
北里大学医学図書館	獣医学部附属フィールドサイエンスセンター
北里大学海洋生命科学部図書館	十和田農場
北里大学看護学部図書館	八雲牧場
北里大学理学部図書館	獣医学部附属獣医臨床試験センター
北里大学健康科学部図書館	医学部附属遺伝子高次機能解析センター
北里大学教養図書館	医学部附属バイオイメージング研究センター
北里大学大村智記念研究所	医学部附属医学教育研究開発センター
北里大学感染制御教育研究センター	医学部附属臨床研究センター
北里大学入学センター	医学部附属新世紀医療開発センター
北里大学健康管理センター	海洋生命科学部附属三陸臨海教育研究センター
北里大学高等教育開発センター	理学部附属疾患プロテオミクス・センター
北里大学農医連携教育研究センター	医療衛生学部附属再生医療・細胞デザイン研究施設
北里大学教職課程センター	
北里大学看護キャリア開発･研究センター	
北里大学附属臨床心理相談センター	
北里大学八雲総合実習所	

2　附属施設に関する規程は別に定める。

＜略＞

附則

1　この学則は、昭和 54 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 43 条（学費）並びに第 47 条第 2 項については、昭和 54 年度入学者から適用する。

＜略＞

附則（北学総第 2023-*****号）

1　この学則は、2024 年４月１日から施行する。

2　第８条（入学定員、編入学定員及び収容定員）に掲げる健康科学部の収容定員の学年進行については、次のとおりとする。

学部	学科	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
健康科学部	看護学科	80名	160名	240名	320名
	医療検査学科	80名	160名	240名	320名

北里大学附属施設	各学部等附属施設
北里大学病院	薬学部附属薬用植物園
北里大学北里研究所病院	薬学部附属医薬研究施設
北里大学メディカルセンター	薬学部附属臨床薬学研究・教育センター
北里大学図書館	薬学部附属環境管理センター
北里大学白金図書館	薬学部附属東洋医学総合研究所
北里大学獣医学部図書館	獣医学部附属動物病院
北里大学医学図書館	獣医学部附属フィールドサイエンスセンター
北里大学海洋生命科学部図書館	十和田農場
北里大学看護学部図書館	八雲牧場
北里大学理学部図書館	獣医学部附属獣医臨床試験センター
北里大学教養図書館	医学部附属遺伝子高次機能解析センター
北里大学大村智記念研究所	医学部附属バイオイメージング研究センター
北里大学感染制御教育研究センター	医学部附属医学教育研究開発センター
北里大学入学センター	医学部附属臨床研究センター
北里大学健康管理センター	医学部附属新世紀医療開発センター
北里大学高等教育開発センター	海洋生命科学部附属三陸臨海教育研究センター
北里大学農医連携教育研究センター	理学部附属疾患プロテオミクス・センター
北里大学教職課程センター	医療衛生学部附属再生医療・細胞デザイン研究施設
北里大学看護キャリア開発･研究センター	
北里大学附属臨床心理相談センター	
北里大学八雲総合実習所	

2　附属施設に関する規程は別に定める。

＜略＞

附則

1　この学則は、昭和 54 年 4 月 1 日から施行する。

2　第 43 条（学費）並びに第 47 条第 2 項については、昭和 54 年度入学者から適用する。

＜略＞

2024年度(新)

別表1　人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

薬学部	【薬学部】 薬学部では、最新の薬学的知識・技能のみならず、豊かな人間性と高い倫理観を備え、社会における様々な活動に、「薬」の視点を持って積極的に参加できる人材の育成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1)基礎と臨床を両輪としたバランスのとれた薬学教育の展開、(2)豊かな人間性と倫理観を醸成する教育の推進、(3)コミュニケーション能力を修得させる教育の推進、(4)基礎と臨床が一体となった研究の展開とします。
	〔薬学科〕 薬学部薬学科では、高度化・細分化された医療の中で、医薬品の適正使用を通して、医療の質を確保するための「薬の専門家」として活躍する薬剤師を養成することを目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1)臨床薬学に関連した高度な専門教育と実務教育の充実、(2)豊かな人間性と医療人としての高い倫理観を醸成する教育の推進、(3)チーム医療に資するためのコミュニケーション能力を修得させる教育の推進、(4)薬学・医療の進歩と改善に資するための研究遂行意欲と課題発見・問題解決能力を涵養する教育、(5)生涯にわたる自己研鑽と次世代育成への意欲と態度を培う教育の推進とします。
	〔生命創薬科学科〕 薬学部生命創薬科学科では、薬学関連領域における多様な人材需要に応えるため、薬剤師としてではなく、薬学の基礎的な知識・技能を基盤に、社会の多様な分野で活躍できる人材の育成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1)薬学関連領域における基本的な知識・技能を修得させる教育の充実、(2)豊かな人間性と倫理観を醸成する教育の推進、(3)「考える力」(薬学の進歩と改善に資するための研究遂行意欲と課題発見・問題解決能力)を涵養する教育の推進、(4)科学的なコミュニケーション能力を修得させる教育の推進、(5)科学的探究心を向上させる教育の推進とします。

2023年度(旧)

別表1　人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

薬学部	【薬学部】 薬学部では、最新の薬学的知識・技能のみならず、豊かな人間性と高い倫理観を備え、社会における様々な活動に、「薬」の視点を持って積極的に参加できる人材の育成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1)基礎と臨床を両輪としたバランスのとれた薬学教育の展開、(2)豊かな人間性と倫理観を醸成する教育の推進、(3)コミュニケーション能力を修得させる教育の推進、(4)基礎と臨床が一体となった研究の展開とします。
	〔薬学科〕 薬学部薬学科では、高度化・細分化された医療の中で、医薬品の適正使用を通して、医療の質を確保するための「薬の専門家」として活躍する薬剤師を養成することを目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1)臨床薬学に関連した高度な専門教育と実務教育の充実、(2)豊かな人間性と医療人としての高い倫理観を醸成する教育の推進、(3)チーム医療に資するためのコミュニケーション能力を修得させる教育の推進、(4)薬学・医療の進歩と改善に資するための研究遂行意欲と課題発見・問題解決能力を涵養する教育、(5)生涯にわたる自己研鑽と次世代育成への意欲と態度を培う教育の推進とします。
	〔生命創薬科学科〕 薬学部生命創薬科学科では、薬学関連領域における多様な人材需要に応えるため、薬剤師としてではなく、薬学の基礎的な知識・技能を基盤に、社会の多様な分野で活躍できる人材の育成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1)薬学関連領域における基本的な知識・技能を修得させる教育の充実、(2)豊かな人間性と倫理観を醸成する教育の推進、(3)「考える力」(薬学の進歩と改善に資するための研究遂行意欲と課題発見・問題解決能力)を涵養する教育の推進、(4)科学的なコミュニケーション能力を修得させる教育の推進、(5)科学的探究心を向上させる教育の推進とします。

2024年度(新)		2023年度(旧)	
獣医学部	【獣医学部】 獣医学部では、動物生命科学を基盤とする高度な専門知識や技術・資格と豊かな人間性を備え、人類の健康と福祉の向上及び持続可能な社会の創生に向け、多様な課題を解決できる人材の養成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1)動物の疾病の予防・治療及び生命現象の科学的解明、(2)動植物資源の利用と開発、(3)持続型社会を志向した食料生産と環境保全、(4)公衆衛生の向上、(5)農と医の学際的領域の知識・技術の習得とします。	獣医学部	【獣医学部】 獣医学部では、動物生命科学を基盤とする高度な専門知識や技術・資格と豊かな人間性を備え、人類の健康と福祉の向上及び持続可能な社会の創生に向け、多様な課題を解決できる人材の養成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1)動物の疾病の予防・治療及び生命現象の科学的解明、(2)動植物資源の利用と開発、(3)持続型社会を志向した食料生産と環境保全、(4)公衆衛生の向上、(5)農と医の学際的領域の知識・技術の習得とします。
	〔獣医学科〕 獣医学部獣医学科では、獣医学に関する高度な知識と技術及び豊かな人間性を身につけ、適切な問題解決能力を備え、動物と人類の健康と福祉の増進に貢献できる人材の養成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1)動物生命科学、(2)各種動物の疾病診断・治療・予防、(3)伴侶動物の高度先端医療、(4)人獣共通感染症、食の安全を始めとする公衆衛生、(5)野生動物・環境保全など広範囲な領域における基礎・応用科学基盤を構築し、真理の深奥を究めることとします。		〔獣医学科〕 獣医学部獣医学科では、獣医学に関する高度な知識と技術及び豊かな人間性を身につけ、適切な問題解決能力を備え、動物と人類の健康と福祉の増進に貢献できる人材の養成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1)動物生命科学、(2)各種動物の疾病診断・治療・予防、(3)伴侶動物の高度先端医療、(4)人獣共通感染症、食の安全を始めとする公衆衛生、(5)野生動物・環境保全など広範囲な領域における基礎・応用科学基盤を構築し、真理の深奥を究めることとします。
	〔動物資源科学科〕 獣医学部動物資源科学科では、自然と共生・共栄する人間社会に貢献するための問題解決能力を備え、生命科学や医学と接点を持つ動物資源科学に関する高い専門的能力を身に付けた人材の養成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1)動物資源・食料資源の開発・利用を発展させるための専門的能力の習得、(2)「農」と「医」の複眼的視点の獲得と異分野へ転移可能な汎用的能力の習得、(3)知識、技能、行動から構成される総合的な実践力の習得とします。		〔動物資源科学科〕 獣医学部動物資源科学科では、自然と共生・共栄する人間社会に貢献するための問題解決能力を備え、生命科学や医学と接点を持つ動物資源科学に関する高い専門的能力を身に付けた人材の養成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1)動物資源・食料資源の開発・利用を発展させるための専門的能力の習得、(2)「農」と「医」の複眼的視点の獲得と異分野へ転移可能な汎用的能力の習得、(3)知識、技能、行動から構成される総合的な実践力の習得とします。
	〔生物環境科学科〕 獣医学部生物環境科学科では、野生動物と人との共存環境の創出やビオトープなど環境の保全や修復について具体的な提言や技術提供ができる人材の養成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1)持続可能な食料生産環境の確保(2)環境保全の推進(3)生物多様性の維持など、地球及び地域の環境に調和した生物生産活動と環境保全や環境修復に関する知識・技術とともに環境倫理観の習得とします。		〔生物環境科学科〕 獣医学部生物環境科学科では、野生動物と人との共存環境の創出やビオトープなど環境の保全や修復について具体的な提言や技術提供ができる人材の養成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1)持続可能な食料生産環境の確保(2)環境保全の推進(3)生物多様性の維持など、地球及び地域の環境に調和した生物生産活動と環境保全や環境修復に関する知識・技術とともに環境倫理観の習得とします。

2024年度(新)	
医学部	【医学部医学科】 医学部では、広く体系的な知識と確実な技術を持ち、それを深化させるよう最先端の医学知識を意欲的に吸収できるような自己研鑽学習を継続する人材を育成するとともに、開学以来実践されてきた「チーム医療」の実践家となるため、他者に共感し、協働して物事に取り組むことができ、倫理観を持って広く社会に貢献できる人材の育成を目的としています。 そのための教育研究上の目的として、(1)人間性豊かで優れた医師の養成 (2)学際領域を含む医学研究の推進 (3)国際貢献の推進と地域医療への協力 (4)予防医学の推進、の4項目をあげ、教育の基本理念としています。
海洋生命科学部	【海洋生命科学部海洋生命科学科】 海洋生命科学部では、海洋生命科学一般の専門技術とその基盤となる学問領域を理解し、国際的な視野を持ち、これらを基に自らの意見を伝える能力、判断力、実践力を持つ人材の育成を目的とします。 そのための教育研究上の目的は、(1)多面的思考能力(2)自然科学の基礎知識・理論(3)専門分野の知識・技術(4)問題解決能力(5)実務遂行能力(6)コミュニケーション能力(7)技術者倫理(8)継続的学習能力の獲得、達成とします。
看護学部	【看護学部看護学科】 看護学部では、生命科学系総合大学のなかで他学部との連携のもとに、高度医療、医療安全の確保、予防医療、介護予防など、多様化した保健医療に対する社会の要請に応えうる幅広い知識と技能を備え、看護専門職者としてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、看護職者の具体的能力として、(1)人間性、(2)思考力、(3)表現能力、(4)看護実践能力、(5)改革能力の5つを強化することとしています。

2023年度(旧)	
医学部	【医学部医学科】 医学部では、広く体系的な知識と確実な技術を持ち、それを深化させるよう最先端の医学知識を意欲的に吸収できるような自己研鑽学習を継続する人材を育成するとともに、開学以来実践されてきた「チーム医療」の実践家となるため、他者に共感し、協働して物事に取り組むことができ、倫理観を持って広く社会に貢献できる人材の育成を目的としています。 そのための教育研究上の目的として、(1)人間性豊かで優れた医師の養成 (2)学際領域を含む医学研究の推進 (3)国際貢献の推進と地域医療への協力 (4)予防医学の推進、の4項目をあげ、教育の基本理念としています。
海洋生命科学部	【海洋生命科学部海洋生命科学科】 海洋生命科学部では、海洋生命科学一般の専門技術とその基盤となる学問領域を理解し、国際的な視野を持ち、これらを基に自らの意見を伝える能力、判断力、実践力を持つ人材の育成を目的とします。 そのための教育研究上の目的は、(1)多面的思考能力(2)自然科学の基礎知識・理論(3)専門分野の知識・技術(4)問題解決能力(5)実務遂行能力(6)コミュニケーション能力(7)技術者倫理(8)継続的学習能力の獲得、達成とします。
看護学部	【看護学部看護学科】 看護学部では、生命科学系総合大学のなかで他学部との連携のもとに、高度医療、医療安全の確保、予防医療、介護予防など、多様化した保健医療に対する社会の要請に応えうる幅広い知識と技能を備え、看護専門職者としてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目的とします。そのための教育研究上の目的は、看護職者の具体的能力として、(1)人間性、(2)思考力、(3)表現能力、(4)看護実践能力、(5)改革能力の5つを強化することとしています。

2024年度(新)		2023年度(旧)	
理学部	【理学部】 理学部では、物理学・化学・生物科学の分野における高水準の知識と実験技術を身に付け、幅広い視野と柔軟な思考力を兼ね備えた研究者・専門技術者・教育者となる人材を育成することを目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1)講義、実験、演習を通して、専門分野の高度な研究を遂行するための基礎として必要な知識と実験技術を教授する、(2)科学的思考力を育成し、研究遂行における課題の設定能力、問題解決能力を身に付けさせることとします。	理学部	【理学部】 理学部では、物理学・化学・生物科学の分野における高水準の知識と実験技術を身に付け、幅広い視野と柔軟な思考力を兼ね備えた研究者・専門技術者・教育者となる人材を育成することを目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1)講義、実験、演習を通して、専門分野の高度な研究を遂行するための基礎として必要な知識と実験技術を教授する、(2)科学的思考力を育成し、研究遂行における課題の設定能力、問題解決能力を身に付けさせることとします。
	〔物理学科〕 理学部物理学科では、自然現象に潜む原理や法則を理解し、多彩な自然現象や物質の性質を解明するための基礎力を身に付け、宇宙論から生命現象まで、さまざまな分野において未知の領域に切り込んでいく力を備えた人材を育成することを目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1)多様な物理領域の研究を展開するために必要な基礎知識と技術を教授する、(2)身に付けた知識と技術を基礎研究、応用研究の場で活用できる能力を育成することとします。		〔物理学科〕 理学部物理学科では、自然現象に潜む原理や法則を理解し、多彩な自然現象や物質の性質を解明するための基礎力を身に付け、宇宙論から生命現象まで、さまざまな分野において未知の領域に切り込んでいく力を備えた人材を育成することを目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1)多様な物理領域の研究を展開するために必要な基礎知識と技術を教授する、(2)身に付けた知識と技術を基礎研究、応用研究の場で活用できる能力を育成することとします。
	〔化学科〕 理学部化学科では、実社会における多様な製品の生産基盤である物質の性質とその変化に関する基礎知識(構造、反応、機能、合成)を教授し、実践を通して生命科学や環境科学から医療、教育にわたる幅広い分野での研究・開発で活躍できる人材を育成することを目的とします。そのための教育研究上の目的は、基礎知識の教授(講義)と実践(実習と演習)による(1)科学的判断力、(2)多元的な視点から物質を評価する能力、(3)能動的な立案、実行力を養成することとします。		〔化学科〕 理学部化学科では、実社会における多様な製品の生産基盤である物質の性質とその変化に関する基礎知識(構造、反応、機能、合成)を教授し、実践を通して生命科学や環境科学から医療、教育にわたる幅広い分野での研究・開発で活躍できる人材を育成することを目的とします。そのための教育研究上の目的は、基礎知識の教授(講義)と実践(実習と演習)による(1)科学的判断力、(2)多元的な視点から物質を評価する能力、(3)能動的な立案、実行力を養成することとします。
	〔生物科学科〕 理学部生物科学科では、生命科学についての高度な知識と研究技能を有するとともに、普遍的な生命現象のしくみを理解し、生物学や基礎医学などの多岐にわたる分野で活躍できる科学的思考能力を備えた人材を育成することを目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1)最先端の専門的研究を開始するために必要な基礎知識、実験能力、思考力、(2)生命科学の知識や技術に基づいて複雑な生命活動を分子レベルで解明する能力を養うこととします。		〔生物科学科〕 理学部生物科学科では、生命科学についての高度な知識と研究技能を有するとともに、普遍的な生命現象のしくみを理解し、生物学や基礎医学などの多岐にわたる分野で活躍できる科学的思考能力を備えた人材を育成することを目的とします。そのための教育研究上の目的は、(1)最先端の専門的研究を開始するために必要な基礎知識、実験能力、思考力、(2)生命科学の知識や技術に基づいて複雑な生命活動を分子レベルで解明する能力を養うこととします。

2024年度(新)		2023年度(旧)	
医療衛生学部	【医療衛生学部】 医療衛生学部では、高度医療現場においては、チーム医療を支えるメディカルスタッフとして、医療現場の外においては、予防医学と健康科学を主とした人の健康を支えるスタッフとして、幅広い教養と豊かな創造性に富む高度な専門知識と技術の実践力を兼ね備えた人材の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1)高度な知識、技術を有する医療従事者の養成、(2)学際的スペシャリストの養成、(3)国際的視野を持ち国際社会に通用する人材の養成です。	医療衛生学部	【医療衛生学部】 医療衛生学部では、高度医療現場においては、チーム医療を支えるメディカルスタッフとして、医療現場の外においては、予防医学と健康科学を主とした人の健康を支えるスタッフとして、幅広い教養と豊かな創造性に富む高度な専門知識と技術の実践力を兼ね備えた人材の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1)高度な知識、技術を有する医療従事者の養成、(2)学際的スペシャリストの養成、(3)国際的視野を持ち国際社会に通用する人材の養成です。
	〔保健衛生学科〕 医療衛生学部保健衛生学科では、健康な人を対象に、健康の保持・増進のための健康科学や予防医学の観点から、環境・食・労働・こころと健康の関係についての知識を身に付け、衛生的で安全な環境づくりに向けたマネジメント力を備えた人材の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1)労働環境その他日常の社会生活の中で起こる種々の健康影響因子のリスク解析やその改善に向けた知識と技術の修得、(2)職場及び地域社会における安全衛生管理から地球環境の保全までをマネジメントするための幅広い知識と技術の修得です。		〔保健衛生学科〕 医療衛生学部保健衛生学科では、健康な人を対象に、健康の保持・増進のための健康科学や予防医学の観点から、環境・食・労働・こころと健康の関係についての知識を身に付け、衛生的で安全な環境づくりに向けたマネジメント力を備えた人材の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1)労働環境その他日常の社会生活の中で起こる種々の健康影響因子のリスク解析やその改善に向けた知識と技術の修得、(2)職場及び地域社会における安全衛生管理から地球環境の保全までをマネジメントするための幅広い知識と技術の修得です。
	〔医療検査学科〕 医療衛生学部医療検査学科では、人の健康や医療に関わる専門知識と高度な技術を修得し、医療現場においてはチーム医療を理解し実践でき、検体検査や画像診断によって得られた検査データを正確に医師に提供する臨床検査技師の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1)幅広い教養と豊かな人間性、確固たる倫理観の修得、(2)臨床検査の基礎となるバイオサイエンス関連知識と研究技術の修得、(3)病気の診断に不可欠な臨床検査の理論から実際までの修得、(4)医療現場におけるチーム医療の一員としての重要性の理解と実践力、(5)問題解決能力の修得です。		〔医療検査学科〕 医療衛生学部医療検査学科では、人の健康や医療に関わる専門知識と高度な技術を修得し、医療現場においてはチーム医療を理解し実践でき、検体検査や画像診断によって得られた検査データを正確に医師に提供する臨床検査技師の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1)幅広い教養と豊かな人間性、確固たる倫理観の修得、(2)臨床検査の基礎となるバイオサイエンス関連知識と研究技術の修得、(3)病気の診断に不可欠な臨床検査の理論から実際までの修得、(4)医療現場におけるチーム医療の一員としての重要性の理解と実践力、(5)問題解決能力の修得です。
	〔医療工学科・臨床工学専攻〕 医療衛生学部医療工学科臨床工学専攻では、生命維持管理装置を中心とした最先端医療機器の操作及び保守点検を的確に行え、医療及び医療技術の変化に対応し、チーム医療の一員として医療に貢献できる臨床工学技士の養成、及び大学、企業、公共機関等で、研究開発、後進の指導的役割を担える人材の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1)基礎工学、基礎医学、臨床医学、医療機器学等の学習、(2)専門知識と技術の修得、(3)チーム医療の一員として必要な知識と技術の修得、(4)臨床工学の未来に貢献できる研究能力の涵養です。		〔医療工学科・臨床工学専攻〕 医療衛生学部医療工学科臨床工学専攻では、生命維持管理装置を中心とした最先端医療機器の操作及び保守点検を的確に行え、医療及び医療技術の変化に対応し、チーム医療の一員として医療に貢献できる臨床工学技士の養成、及び大学、企業、公共機関等で、研究開発、後進の指導的役割を担える人材の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1)基礎工学、基礎医学、臨床医学、医療機器学等の学習、(2)専門知識と技術の修得、(3)チーム医療の一員として必要な知識と技術の修得、(4)臨床工学の未来に貢献できる研究能力の涵養です。
	〔医療工学科・診療放射線技術科学専攻〕 医療衛生学部医療工学科診療放射線技術科学専攻では、人間の生命や生活の質を理解できる豊かな人間性とともに、専門的職業人としての高度で専門的な画像検査・放射線治療の知識と技術を備え、医療の質を高めるチーム医療、研究開発、教育指導、地域医療に貢献できる診療放射線技師及び医療従事者の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1)豊かな人間性の涵養、(2)放射線の性質や人体への影響等の放射線技術の進歩に即応した放射線基礎科学の学習、(3)地域社会のニーズに対応する画像検査と放射線治療の体系的学習、(4)臨床実習を通じた実践的な技術とチーム医療等の専門的知識・技術の修得です。		〔医療工学科・診療放射線技術科学専攻〕 医療衛生学部医療工学科診療放射線技術科学専攻では、人間の生命や生活の質を理解できる豊かな人間性とともに、専門的職業人としての高度で専門的な画像検査・放射線治療の知識と技術を備え、医療の質を高めるチーム医療、研究開発、教育指導、地域医療に貢献できる診療放射線技師及び医療従事者の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1)豊かな人間性の涵養、(2)放射線の性質や人体への影響等の放射線技術の進歩に即応した放射線基礎科学の学習、(3)地域社会のニーズに対応する画像検査と放射線治療の体系的学習、(4)臨床実習を通じた実践的な技術とチーム医療等の専門的知識・技術の修得です。

2024年度(新)		2023年度(旧)	
医療衛生学部	〔リハビリテーション学科・理学療法学専攻〕 医療衛生学部リハビリテーション学科理学療法学専攻では、医療と福祉の現場のみならず、地域住民の健康増進や疾病予防など高度で多様化した社会的ニーズに対応できる人材の養成を目的としています。そのため教育研究上の目的は、(1)高い倫理観を身につけ、自ら考え開拓する力、(2)年齢や障害の有無に関わらず、対象者の生活機能を客観的に評価する力、(3)科学的根拠に基づいた理学療法を実践する力、を育てることとします。	医療衛生学部	〔リハビリテーション学科・理学療法学専攻〕 医療衛生学部リハビリテーション学科理学療法学専攻では、医療と福祉の現場のみならず、地域住民の健康増進や疾病予防など高度で多様化した社会的ニーズに対応できる人材の養成を目的としています。そのため教育研究上の目的は、(1)高い倫理観を身につけ、自ら考え開拓する力、(2)年齢や障害の有無に関わらず、対象者の生活機能を客観的に評価する力、(3)科学的根拠に基づいた理学療法を実践する力、を育てることとします。
	〔リハビリテーション学科・作業療法学専攻〕 医療衛生学部リハビリテーション学科作業療法学専攻では、人々の健康と幸福を促進するために、作業療法の専門性を高度に備え、保健・医療・福祉・教育・産業等の分野でリーダーとして貢献できる人材の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1)人間の「作業(occupation)」の特性と作業的存在としての対象者を理解する力、(2)作業遂行障害を適切に評価・介入する力、(3)高度な臨床的思考能力、(4)多職種連携のチーム医療および国際的視点を持った実践ができる力、(5)発展的自己学習能力と高い人権意識・倫理観を育成することとします。		〔リハビリテーション学科・作業療法学専攻〕 医療衛生学部リハビリテーション学科作業療法学専攻では、人々の健康と幸福を促進するために、作業療法の専門性を高度に備え、保健・医療・福祉・教育・産業等の分野でリーダーとして貢献できる人材の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1)人間の「作業(occupation)」の特性と作業的存在としての対象者を理解する力、(2)作業遂行障害を適切に評価・介入する力、(3)高度な臨床的思考能力、(4)多職種連携のチーム医療および国際的視点を持った実践ができる力、(5)発展的自己学習能力と高い人権意識・倫理観を育成することとします。
	〔リハビリテーション学科・言語聴覚療法学専攻〕 医療衛生学部リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻では、言語、聴覚、コミュニケーション、摂食・嚥下などに障害がある人たちが豊かで質の高い生活を送れるように、専門職として支援し、医療・保健福祉・教育に貢献できる言語聴覚士の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1)関連医学領域、言語学・心理学・音響学等の多彩な専門基礎科目の学習 (2)適切な評価・介入及び指導を実施するための専門科目の知識・技術の修得です。		〔リハビリテーション学科・言語聴覚療法学専攻〕 医療衛生学部リハビリテーション学科言語聴覚療法学専攻では、言語、聴覚、コミュニケーション、摂食・嚥下などに障害がある人たちが豊かで質の高い生活を送れるように、専門職として支援し、医療・保健福祉・教育に貢献できる言語聴覚士の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1)関連医学領域、言語学・心理学・音響学等の多彩な専門基礎科目の学習 (2)適切な評価・介入及び指導を実施するための専門科目の知識・技術の修得です。
	〔リハビリテーション学科・視覚機能療法学専攻〕 医療衛生学部リハビリテーション学科視覚機能療法学専攻では、眼の構造から疾患までの幅広い知識と視機能評価法を修得し、医師と共に適切な治療プログラムを組み、研究を遂行する力を備え、新しい分野の教育・研究ができる視能訓練士の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1)疾患から最新の研究まで眼の多面的な学習、(2)視能訓練士に必要な視覚の基礎知識から検査・治療の実践までの段階的修得です。		〔リハビリテーション学科・視覚機能療法学専攻〕 医療衛生学部リハビリテーション学科視覚機能療法学専攻では、眼の構造から疾患までの幅広い知識と視機能評価法を修得し、医師と共に適切な治療プログラムを組み、研究を遂行する力を備え、新しい分野の教育・研究ができる視能訓練士の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1)疾患から最新の研究まで眼の多面的な学習、(2)視能訓練士に必要な視覚の基礎知識から検査・治療の実践までの段階的修得です。

2024年度(新)		2023年度(旧)	
未来工学部	【データサイエンス学科】 未来工学部では、「今ここにある問題」のさらに先にある、まだ起きていない未来の課題を工学的手法でいち早く見出し、技術の問題だけにとどまらない複雑で広範囲な社会課題に取り組むとともに、新たな価値を創造する人材の育成を目的とします。 データサイエンス学科では、「現在と過去からの蓄積である様々なデータを読み解き、今ある課題を適切に解決するだけでなく、顕在化していない将来の課題を見出す力」を習得した人材を輩出します。そのためには現在そして将来社会に求められる高度なAI技術の知識と技術、データを解析しモデル化することにより深く理解するだけでなく、新たなデータ解析やモデリングのアイデアをプログラムとして実装する能力を身に付けた人材の育成を目的とします。そのための具体的な教育研究上の目的は、(1)講義、実習、演習を通じ、ライフサイエンスなどの専門分野でのデータサイエンス研究・実務を遂行するための基礎となる知識を習得し、プログラミングをはじめ実験技術を教授する、(2)データサイエンスの数理的背景を理解させ、研究・実務遂行における課題の設定能力、問題解決能力を身に付けさせることとします。	未来工学部	【データサイエンス学科】 未来工学部では、「今ここにある問題」のさらに先にある、まだ起きていない未来の課題を工学的手法でいち早く見出し、技術の問題だけにとどまらない複雑で広範囲な社会課題に取り組むとともに、新たな価値を創造する人材の育成を目的とします。 データサイエンス学科では、「現在と過去からの蓄積である様々なデータを読み解き、今ある課題を適切に解決するだけでなく、顕在化していない将来の課題を見出す力」を習得した人材を輩出します。そのためには現在そして将来社会に求められる高度なAI技術の知識と技術、データを解析しモデル化することにより深く理解するだけでなく、新たなデータ解析やモデリングのアイデアをプログラムとして実装する能力を身に付けた人材の育成を目的とします。そのための具体的な教育研究上の目的は、(1)講義、実習、演習を通じ、ライフサイエンスなどの専門分野でのデータサイエンス研究・実務を遂行するための基礎となる知識を習得し、プログラミングをはじめ実験技術を教授する、(2)データサイエンスの数理的背景を理解させ、研究・実務遂行における課題の設定能力、問題解決能力を身に付けさせることとします。
健康科学部	【健康科学部】 健康科学部では、社会の要請に応えうる、高度医療現場でチーム医療を支えるメディカルスタッフに必要とされる高度な医療技術、知識を有し、地域医療を展開できる人材の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1)社会の要請に応えうる幅広い医療知識と技能の修得、(2)チーム医療における高度な実践力の修得としています。		
	〔看護学科〕 健康科学部看護学科では、高度医療、地域医療、医療安全の確保、予防医療、介護予防など、多様化した保健医療に対する社会の要請に応えうる幅広い知識と技能を備え、看護専門職者としてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目的とし、「生命科学系 総合大学」という本学の特長を活かして他学部との連携のもとに教育を行っていきます。 そのための教育研究上の目的として、看護職者の具体的能力である(1)人間性、(2)思考力、(3)表現能力、(4)看護実践能力、(5)改革能力の5つを強化することとしています。		
	〔医療検査学科〕 健康科学部医療検査学科では、医学検査を実践するために必要な基礎的・専門的知識と技術を修得し、検体検査や生理検査によって得られた精度の高い検査データを医師に提供するとともに、医療現場でチーム医療を実践し、地域医療に貢献できる臨床検査技師の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1)医療人の一員として求められる幅広い教養と豊かな人間性、確固たる倫理観に裏打ちされた使命感の修得、(2)臨床検査の基盤となるバイオサイエンスの理論や技術の修得、(3)臨床診断に不可欠な臨床検査技術の理論および実践力の修得、(4)医療現場におけるチーム医療の一員としての重要性の理解と実践力の修得、(5)地域・在宅医療にも対応できる臨床検査技術の修得としています。		
一般教育部	【一般教育部】 一般教育部では、幅広い視野と豊かな人間性を涵養する教養教育と、学部教育へのスムーズな橋渡しを可能にする基礎教育を両立させた教育機能を備え、全人的な教養を身につけた生命科学を志向する学生の育成を目的としています。そのため(1)自然科学教育の充実、(2)人間形成の基礎科目の展開、(3)語学、数学および情報処理などの高度基礎教育の実践、(4)コミュニケーション能力の涵養を目標の一つとする実験、演習系科目の提供を教育研究上の目的とします。	一般教育部	【一般教育部】 一般教育部では、幅広い視野と豊かな人間性を涵養する教養教育と、学部教育へのスムーズな橋渡しを可能にする基礎教育を両立させた教育機能を備え、全人的な教養を身につけた生命科学を志向する学生の育成を目的としています。そのため(1)自然科学教育の充実、(2)人間形成の基礎科目の展開、(3)語学、数学および情報処理などの高度基礎教育の実践、(4)コミュニケーション能力の涵養を目標の一つとする実験、演習系科目の提供を教育研究上の目的とします。

2024年度(新)

別表２

学部学科	専攻	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	履修方法	卒業要件単位 必修	卒業要件単位 選択	卒業要件単位 計
健康科学部	看護学科	健康科学１群科目	20	14		選択科目より10単位選択必修。ただし、「北里の世界」または「農医連携論」のどちらかは必ず選択すること。	20	10	30
		健康科学２群科目	23				23		23
		健康科学３群科目	71	9	17		71		71
		健康科学４群科目※							
		計	114	23	17		114	10	124
							卒業要件124単位以上		
	医療検査学科	健康科学１群科目	24	2		「北里の世界」または「農医連携論」のどちらかを選択必修。	24	1	25
		健康科学２群科目	22				22		22
		健康科学３群科目	91		3		91		91
		健康科学４群科目※							
		計	137	2	3		137	1	138
							卒業要件138単位以上		

※健康科学４群科目は本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目等を表す。

2023年度(旧)

別表２

2024年度(新)	2023年度(旧)

別表3

(1) ◎印は必修科目、無印は選択科目、※印は自由科目を表す。
(2) 数字は単位数を表す。(医学3群科目においては時間数を表す。)
(3) 自由科目は卒業単位に含まない。
(4) 履修方法は各学部規則の定めるところによる。

健康科学１群科目（看護学科）

◎ 情報処理Ⅰ	1	数学	1	◎ 日本国憲法	2
情報処理Ⅱ	1	基礎化学	1	◎ まちづくり論	2
情報処理Ⅲ	1	基礎生物学	1	◎ ボランティア活動論	2
◎ データサイエンス基礎	2	基礎物理学	1	国際交流論	1
◎ 生命倫理学	1	基礎分析化学実習	1	◎ 生涯発達論	2
◎ 心理学	1	スポーツと健康Ⅰ	1	◎ コミュニケーション演習	2
◎ 英語Ⅰ	2	スポーツと健康Ⅱ	1	北里の世界	1
英語Ⅱ	2	◎ 教育学	1	農医連携論	1
◎ 医療英語	1	◎ 対人関係論	1		

健康科学２群科目（看護学科）

◎ 看護形態機能学Ⅰ	2	◎ 症候・疾病論Ⅰ	2	◎ 公衆衛生学	2
◎ 看護形態機能学Ⅱ	2	◎ 症候・疾病論Ⅱ	2	◎ 看護関係法規	2
◎ 看護形態機能学Ⅲ	2	◎ 症候・疾病論Ⅲ	2	◎ 社会保障と社会福祉	1
◎ 栄養学	1	◎ 症候・疾病論Ⅳ	1	◎ ヘルスプロモーション	1
◎ 臨床栄養学	1	◎ 臨床薬理学	2		

北里大学学則〔新旧対照表〕
－ 健康科学部看護学科 －

2024年度(新)	2023年度(旧)

別表3

健康科学３群科目（看護学科）

◎ 看護学原論	2	◎ 成人看護学概論	2	◎ 成人看護学実習Ⅱ(慢性期)	2		
◎ 基礎技術演習Ⅰ	1	◎ 成人看護学Ⅰ	2	◎ 集中治療ケア実習	1		
◎ 基礎技術演習Ⅱ	1	◎ 成人看護学Ⅱ	2	◎ 老年看護学実習	2		
◎ 基礎技術演習Ⅲ	1	◎ 老年看護学概論	2	◎ NICU/PICU実習	1		
◎ 看護過程演習	1	◎ 老年看護学	2	◎ 小児看護学実習	1		
◎ フィジカルアセスメントⅠ	1	◎ 小児看護学概論	2	◎ 母性看護学実習	2		
◎ フィジカルアセスメントⅡ	1	◎ 小児看護学各論	2	◎ 精神看護学実習	2		
◎ 感染看護学	1	◎ 母性看護学概論	2	◎ 統合実習	4		
◎ 地域アセスメント演習	1	◎ 母性看護学各論	2	◎ 地域実習	2		
◎ チーム医療論演習Ⅰ	1	◎ 精神看護学概論	2	※ 公衆衛生看護支援技術Ⅰ	2		
◎ 緩和ケア	1	◎ 精神看護方法論	2	※ 公衆衛生看護支援技術Ⅱ	2		
◎ 地域・在宅看護概論	1	◎ 看護管理・政策論	1	※ 公衆衛生看護対象論Ⅰ	1		
◎ 地域・在宅看護総論	2	◎ 医療安全	1	※ 公衆衛生看護対象論Ⅱ	1		
◎ 地域・在宅援助技術Ⅰ	1	◎ 災害看護	1	※ 公衆衛生看護展開論	2		
◎ 地域・在宅援助技術Ⅱ	1	◎ チーム医療論演習Ⅱ	1	※ 公衆衛生看護管理論	1		
◎ 地域の健康と看護	1	◎ 課題研究Ⅰ	1	※ 地域健康危機管理論	1		
疫学	2	◎ 課題研究Ⅱ	2	※ 学校保健・産業保健	1		
保健統計学	2	◎ 看護基礎実習Ⅰ	1	※ 保健医療福祉行政論Ⅱ	1		
公衆衛生看護学概論	2	◎ 看護基礎実習Ⅱ	2	※ 公衆衛生看護学実習	5		
健康政策論	2	◎ 在宅看護学実習	2				
保健医療福祉行政論Ⅰ	1	◎ 成人看護学実習Ⅰ(急性期)	2	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。			

健康科学４群科目（看護学科）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目

2024年度(新)

別表3

(1) ◎印は必修科目、無印は選択科目、※印は自由科目を表す。
(2) 数字は単位数を表す。(医学3群科目においては時間数を表す。)
(3) 自由科目は卒業単位に含まない。
(4) 履修方法は各学部規則の定めるところによる。

健康科学１群科目（医療検査学科）

◎ 情報処理Ⅰ	1	◎ 数学	1	◎ 日本国憲法	2
◎ 情報処理Ⅱ	1	◎ 基礎化学	1	◎ まちづくり論	2
◎ 情報処理Ⅲ	1	◎ 基礎生物学	1	◎ 国際交流論	1
◎ 生命倫理学	1	◎ 基礎物理学	1	北里の世界	1
◎ 心理学	1	◎ 基礎分析化学実習	1	農医連携論	1
◎ 英語Ⅰ	2	◎ スポーツと健康Ⅰ	1		
◎ 英語Ⅱ	2	◎ スポーツと健康Ⅱ	1		
◎ 専門英語	2	◎ コミュニケーション学	1		

健康科学２群科目（医療検査学科）

◎ 医療学概論	2	◎ 分子細胞生物学	1	◎ 保健看護学概論	1
◎ 解剖学Ⅰ	1	◎ 薬理学	1	◎ 医用工学概論	1
◎ 解剖学Ⅱ	1	◎ 臨床栄養学	1	◎ 医用工学実習	1
◎ 生理学Ⅰ	1	◎ 病理学	1	◎ 検査機器学	1
◎ 生理学Ⅱ	1	◎ 微生物学	1	◎ 在宅医療論	1
◎ 解剖生理学実習	1	◎ 臨床検査基礎実習	1		
◎ 生化学Ⅰ	1	◎ 公衆衛生学Ⅰ	1		
◎ 生化学Ⅱ	1	◎ 公衆衛生学Ⅱ	1		

2023年度(旧)

2024年度(新)

別表3

健康科学３群科目（医療検査学科）

◎ 臨床医学総論 1	◎ 免疫検査学Ⅰ 2	◎ 画像検査学実習 1
◎ 臨床病態学Ⅰ 2	◎ 免疫検査学Ⅱ 2	◎ 検査管理学 1
◎ 臨床病態学Ⅱ 2	◎ RI検査学 1	◎ 精度保証管理学 1
◎ チーム医療論 1	◎ 遺伝子染色体検査 2	◎ 医療統計学 1
◎ 血液検査学Ⅰ 2	◎ 遺伝子染色体検査 1	◎ 医療安全管理学 2
◎ 血液検査学Ⅱ 2	◎ 輸血移植検査学Ⅰ 2	◎ 臨地実習 11
◎ 血液検査学実習 1	◎ 輸血移植検査学Ⅱ 1	◎ 臨床検査総合実習 1
◎ 凝固止血検査学実習 1	◎ 輸血移植検査学実習 1	◎ テュートリアル教育 1
◎ 病理細胞検査学Ⅰ 2	◎ 臨床微生物学Ⅰ 2	◎ 臨床検査学特論 8
◎ 病理細胞検査学Ⅱ 2	◎ 臨床微生物学Ⅱ 2	◎ 卒業研究 5
◎ 病理細胞検査学実習Ⅰ 1	◎ 臨床微生物学実習Ⅰ 1	◎ データサイエンス概論 1
◎ 病理細胞検査学実習Ⅱ 1	◎ 臨床微生物学実習Ⅱ 1	◎ 在宅検査演習 1
◎ 臨床基礎検査学 1	◎ 生理機能検査学Ⅰ 2	※ 食品機能学 2
◎ 臨床基礎検査学実習 1	◎ 生理機能検査学Ⅱ 2	※ 食品関連法規 1
◎ 寄生虫学 1	◎ 生理機能検査学Ⅲ 2	
◎ 臨床化学Ⅰ 2	◎ 生理機能検査学Ⅳ 2	
◎ 臨床化学Ⅱ 2	◎ 生理機能検査学実習Ⅰ 1	※印は自由科目であり、卒業要件単位に含まない。
◎ 生体分析化学実習Ⅰ 1	◎ 生理機能検査学実習Ⅱ 1	
◎ 生体分析化学実習Ⅱ 1	◎ 画像検査学 2	

健康科学４群科目（医療検査学科）

本大学の他学部他学科他専攻の授業科目及び単位互換協定に基づく単位互換科目・共同授業科目

2023年度(旧)

北里大学学則新旧対照表

2024年度(新)

別表6－①　入学検定料及び学費(※は初年度のみ納入を表す。)

薬　学　部		
	薬学科	生命創薬科学科
入学検定料	35,000円	35,000円
※入　学　金	400,000円	400,000円
授　業　料	1,100,000円	850,000円
施設設備費 (2年次以降)	850,000円 (950,000円)	820,000円

獣 医 学 部			
	獣医学科	動物資源科学科	生物環境科学科
入学検定料	33,000円	33,000円	33,000円
※入　学　金	300,000円	250,000円	250,000円
授　業　料 (2年次以降)	1,500,000円	830,000円 (930,000円)	830,000円 (930,000円)
施設設備費 (2年次以降)	530,000円 (630,000円)	270,000円 (370,000円)	270,000円 (370,000円)

医　学　部	
入学検定料	60,000円
※入　学　金	1,500,000円
授　業　料 (1年次9月入学) (2年次以降)	3,000,000円 (1,750,000円) (3,500,000円)
施設設備費 (1年次9月入学) (2年次以降)	1,000,000円 (580,000円) (1,200,000円)
教育充実費 (1年次9月入学) (2年次以降) (4年次以降)	3,500,000円 (2,040,000円) (1,700,000円) (1,000,000円)

海 洋 生 命 科 学 部	
入学検定料	33,000円
※入　学　金	300,000円
授　業　料 (2年次以降)	900,000円 (1,080,000円)
施設設備費 (2年次以降)	200,000円 (370,000円)

2023年度(旧)

別表6－①　入学検定料及び学費(※は初年度のみ納入を表す。)

薬　学　部		
	薬学科	生命創薬科学科
入学検定料	35,000円	35,000円
※入　学　金	400,000円	400,000円
授　業　料	1,100,000円	850,000円
施設設備費 (2年次以降)	850,000円 (950,000円)	820,000円

獣 医 学 部			
	獣医学科	動物資源科学科	生物環境科学科
入学検定料	33,000円	33,000円	33,000円
※入　学　金	300,000円	250,000円	250,000円
授　業　料 (2年次以降)	1,500,000円	830,000円 (930,000円)	830,000円 (930,000円)
施設設備費 (2年次以降)	530,000円 (630,000円)	270,000円 (370,000円)	270,000円 (370,000円)

医　学　部	
入学検定料	60,000円
※入　学　金	1,500,000円
授　業　料 (1年次9月入学) (2年次以降)	3,000,000円 (1,750,000円) (3,500,000円)
施設設備費 (1年次9月入学) (2年次以降)	1,000,000円 (580,000円) (1,200,000円)
教育充実費 (1年次9月入学) (2年次以降) (4年次以降)	3,500,000円 (2,040,000円) (1,700,000円) (1,000,000円)

海 洋 生 命 科 学 部	
入学検定料	33,000円
※入　学　金	300,000円
授　業　料 (2年次以降)	900,000円 (1,080,000円)
施設設備費 (2年次以降)	200,000円 (370,000円)

北里大学学則新旧対照表

2024年度(新)

看 護 学 部	
入学検定料	33,000円
※入 学 金	400,000円
授 業 料 (2年次以降)	1,200,000円 (1,400,000円)
施設設備費	300,000円
助産師教育課程指定科目履修料 (履修者のみ)	350,000円
保健師教育課程指定科目履修料 (履修者のみ)	80,000円

理 学 部			
	物理学科	化学科	生物科学科
入学検定料	33,000円	33,000円	33,000円
※入 学 金	200,000円	200,000円	200,000円
授 業 料 (2年次以降)	1,012,500円 (1,062,500円)	1,012,500円 (1,062,500円)	1,062,500円 (1,162,500円)
施設設備費	450,000円	450,000円	450,000円

医 療 衛 生 学 部	
入学検定料	33,000円
※入 学 金	300,000円
授 業 料 (2年次以降)	950,000円 (1,200,000円)
施設設備費	550,000円
細胞検査士コース履修料 (医療検査学科・履修者のみ)	150,000円

未 来 工 学 部	
入学検定料	33,000 円
※入 学 金	250,000 円
授 業 料 (２年次以降)	950,000 円 (1,150,000 円)
施設設備費 (２年次以降)	450,000 円 (450,000 円)

健 康 科 学 部		
	看護学科	医療検査学科
入学検定料	33,000 円	33,000 円
※入 学 金	300,000 円	300,000 円
授 業 料	1,300,000 円	1,200,000 円
施設設備費	200,000 円	200,000 円

2023年度(旧)

看 護 学 部	
入学検定料	33,000円
※入 学 金	400,000円
授 業 料 (2年次以降)	1,200,000円 (1,400,000円)
施設設備費	300,000円
助産師教育課程指定科目履修料 (履修者のみ)	350,000円
保健師教育課程指定科目履修料 (履修者のみ)	80,000円

理 学 部			
	物理学科	化学科	生物科学科
入学検定料	33,000円	33,000円	33,000円
※入 学 金	200,000円	200,000円	200,000円
授 業 料 (2年次以降)	1,012,500円 (1,062,500円)	1,012,500円 (1,062,500円)	1,062,500円 (1,162,500円)
施設設備費	450,000円	450,000円	450,000円

医 療 衛 生 学 部	
入学検定料	33,000円
※入 学 金	300,000円
授 業 料 (2年次以降)	950,000円 (1,200,000円)
施設設備費	550,000円
細胞検査士コース履修料 (医療検査学科・履修者のみ)	150,000円

未 来 工 学 部	
入学検定料	33,000 円
※入 学 金	250,000 円
授 業 料 (２年次以降)	950,000 円 (1,150,000 円)
施設設備費 (２年次以降)	450,000 円 (450,000 円)

北里大学学則新旧対照表

2024年度(新)

別表6－②　科目等履修生の審査料及び学費

	薬学部	獣医学部	医学部	海洋生命科学部	看護学部	理学部	医療衛生学部	未来工学部	健康科学部
審査料	15,000円	15,000円	50,000円	15,000円	15,000円	15,000円	15,000円	15,000円	15,000円
登録料	25,000円	25,000円	50,000円	25,000円	25,000円	25,000円	25,000円	25,000円	25,000円
科目等履修料	1単位 25,000円	1単位 25,000円	1単位 50,000円	1単位 25,000円	1単位 25,000円	1単位 25,000円	1単位 25,000円	1単位 25,000円	1単位 25,000円

本大学卒業生の科目等履修料は1単位あたり 20,000円とする。ただし、医学部を除く。

別表6－③　教職課程及び学芸員養成課程履修料

学部等／課程	獣医学部		海洋生命科学部	看護学部	理学部	未来工学部
	動物資源科学科	生物環境科学科				
教職課程	50,000円	30,000円	50,000円	100,000円	50,000円	30,000円
学芸員養成課程			50,000円			

2023年度(旧)

別表6－②　科目等履修生の審査料及び学費

	薬学部	獣医学部	医学部	海洋生命科学部	看護学部	理学部	医療衛生学部	未来工学部
審査料	15,000円	15,000円	50,000円	15,000円	15,000円	15,000円	15,000円	15,000円
登録料	25,000円	25,000円	50,000円	25,000円	25,000円	25,000円	25,000円	25,000円
科目等履修料	1単位 25,000円	1単位 25,000円	1単位 50,000円	1単位 25,000円	1単位 25,000円	1単位 25,000円	1単位 25,000円	1単位 25,000円

本大学卒業生の科目等履修料は1単位あたり 20,000円とする。ただし、医学部を除く。

別表6－③　教職課程及び学芸員養成課程履修料

学部等／課程	獣医学部		海洋生命科学部	看護学部	理学部	未来工学部
	動物資源科学科	生物環境科学科				
教職課程	50,000円	30,000円	50,000円	100,000円	50,000円	30,000円
学芸員養成課程			50,000円			

学則の変更の趣旨等を記載した書類

目次

ア　学則変更（収容定員変更）の内容..... 2

イ　学則変更（収容定員変更）の必要性..... 3
(ｱ) 収容定員変更の背景..... 3
(ｲ) 収容定員変更の必要性..... 3

ウ　学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容..... 4
(ｱ) 教育課程の変更内容..... 4
(ｲ) 教育方法及び履修指導方法..... 4
１）教育方法 4
２）履修指導方法..... 8
(ｳ) 教員組織の変更..... 8
(ｴ) 施設・設備の変更内容..... 9

ア　学則変更（収容定員変更）の内容

本学では、令和 6 年度から健康科学部を新たに開設する。健康科学部では、看護学科（入学定員 80 名、収容定員 320 名）と医療検査学科（入学定員 80 名、収容定員 320 名）を展開する。それに伴い、大学の収容定員を以下の通り変更する。

学部	学科・専攻	変更前			変更後	
		入学定員	収容定員		入学定員	収容定員
薬学部	薬学科	260 名	1,560 名	→	260 名	1,560 名
	生命創薬科学科	35 名	140 名	→	35 名	140 名
獣医学部	獣医学科	120 名	720 名	→	120 名	720 名
	動物資源科学科	130 名	520 名	→	130 名	520 名
	生物環境科学科	90 名	360 名	→	90 名	360 名
医学部	医学科 ※	110 名	660 名	→	110 名	660 名
海洋生命科学部	海洋生命科学科	180 名	720 名	→	180 名	720 名
看護学部	看護学科	125 名	500 名	→	125 名	500 名
理学部	物理学科	53 名	212 名	→	53 名	212 名
	化学科	80 名	320 名	→	80 名	320 名
	生物科学科	80 名	320 名	→	80 名	320 名
医療衛生学部	保健衛生学科	40 名	160 名	→	40 名	160 名
	医療検査学科	105 名	420 名	→	105 名	420 名
	医療工学科	115 名	460 名	→	115 名	460 名
	臨床工学専攻	45 名	180 名	→	45 名	180 名
	診療放射線技術科学専攻	70 名	280 名	→	70 名	280 名
	リハビリテーション学科	145 名	580 名	→	145 名	580 名
	理学療法学専攻	45 名	180 名	→	45 名	180 名
	作業療法学専攻	40 名	160 名	→	40 名	160 名
	言語聴覚療法学専攻	30 名	120 名	→	30 名	120 名
	視覚機能療法学専攻	30 名	120 名	→	30 名	120 名
未来工学部	データサイエンス学科	100 名	400 名	→	100 名	400 名
健康科学部（新設）	看護学科	－	－	→	80 名	320 名
	医療検査学科	－	－	→	80 名	320 名
計		1,768 名	8,052 名	→	1,928 名	8,692 名

※本表では医学部地域枠に係る臨時定員については考慮していない。

イ　学則変更（収容定員変更）の必要性

（ｱ）収容定員変更の背景

学校法人北里研究所　北里大学（以下、本学）は、世界的な細菌学者であり、我が国の近代医学と衛生行政の発展に多大な貢献を果たした北里柴三郎を学祖と仰ぎ、1962（昭和 37）年に北里研究所創立 50 周年を記念して創設された。北里柴三郎の業績は、「科学者としての真の学問追求」、「社会事業家としての国創」、「教育者としての人材育成」に集約される。北里は常々、「事を処してパイオニアたれ。人に交わって恩を思え。そして叡智をもって実学の人として、不撓不屈の精神を貫け。」と門下生に説いており、本学は、北里柴三郎が成した学統を受け継ぎ、顕現した「開拓」「報恩」「叡智と実践」「不撓不屈」を建学の精神としている。本学は、北里柴三郎の精神に則り、生命科学及び医療科学分野における学術研究と人材育成を通して、広く社会の発展のために寄与することを目的としており、「いのちを尊（たっと）び、生命の真理を探究し、実学の精神をもって社会に貢献する。」を法人・大学の理念とし、現在、創立 60 年を迎え 8 学部 16 学科（大学院 6 研究科 1 学府）と同一法人内に 2 併設校を設置している。

2 併設校の 1 校である 2 併設校の 1 校である北里大学保健衛生専門学院（1994（平成 6）年 4 月に北里大学附属北里保健衛生学院から名称変更）は、1982（昭和 57）年 4 月新潟県南魚沼市に開設し、北里柴三郎の精神に則り、40 年間にわたり多くの有能な医療と健康のスペシャリストを社会に送り出し、地域の発展に貢献してきた。ゲノム解析の進歩や ICT を基盤とするビッグデータ蓄積と分析技術の進歩などの今日の急速な医療分野を含む科学技術の発展やインターネットを介したグローバル化により、我が国そして世界の医療環境が急速に大きく変化しており、本学では現在が、未来社会に向けた大きな変革期にあたると考えている。この状況を見据えて、新たな社会を支える有能な人材を育成するためには既存の枠組みの下での従来の教育内容の更新では対応はできない。また、近年の受験生ならびにその家族も時代の変革期にあることを感じ、将来を見据えた新たな視点による高度で専門性の高い教育を望んでいると推測される。今回、本学が同学院から健康科学部という新たな学部とする理由は、この大きな変革と未来の課題に積極的に取り組むため、大学化して教育レベルを高めると共に、本学医学部、看護学部、医療衛生学部ならびに附属病院である北里大学病院、北里研究所病院、北里大学メディカルセンターとの連携を基盤に高度な実践能力を兼ね備えた地域医療を担う人材の養成を目指した教育を提供するためである。

さらに、新たな時代の地域医療に対応すべく、新たに設置する健康科学部においては、2023（令和 5）年 4 月に新設された未来工学部と連携し STEAM 教育に力を入れたカリキュラムを提供する。また、キャンパスの所在地を活かし、本学で推進している農医連携に関わることを目指す。

（ｲ）収容定員変更の必要性

健康科学部には、看護学科と医療検査学科の 2 学科を設置する。その理由は、厚生労働省

が令和７（2025）年に向けて策定を行っている「地域医療構想」に関する会議において、人口減少、過疎化のなかにあっても、高齢化、在宅医療の推進、医師の働き方改革の影響により医師、看護師、臨床検査技師の要請が増してくことが予想されていること、そして、現時点でも魚沼地域を含む中越地域における新潟県内においては医師、看護師、臨床検査技師が充足されていないことから、地域の医療を維持、発展させるためには両学科の設置が必要であると考えるためである。なお、医師不足の課題に関しては、本学において 2023（令和 3）年度より医学部で推薦型選抜試験（地域枠指定校）に新潟県枠３名（佐渡市、村上市、南魚沼市各１名）を設けて対応を始めている。

我が国そして世界の医療環境が急速に大きく変化しているなかで、現在は未来社会に向けた大きな変革期にあたると考えている。そのなかで、魚沼地域を含む中越地域を中心に、新潟県における医療の発展に貢献するために健康科学部を設置し、高度な知識・技術を持った看護師及び臨床検査技師の輩出を目指す。このような未来の地域医療を展開できる人材の養成を行うことについては、新潟県及び南魚沼市からの要望書において強く求められている。また、新潟県看護協会と新潟県臨床検査技師会からの要望書においては、新潟県内での看護師及び臨床検査技師の養成に期待が示されている。このことから、新潟県に健康科学部を設置することは必要であると判断した【資料１】

ウ　学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

（ｱ）教育課程の変更内容

この度の収容定員変更は健康科学部の設置に伴うものであり、同学部はこれまでに本学の学部・学科を展開していない新潟キャンパスに設ける。そのため、一部の科目を除き健康科学部の教育は新潟キャンパス内で完結することを前提に構成している。

上記の一部の科目としては、医療系の資格取得を目的とした「学外実習科目」に加え、本学の全学共通科目の一部である「北里の世界」と「農医連携論」、チーム医療に関する基本的知識を修得することを目標とする「チーム医療論」が該当する。そのうち、「北里の世界」、「農医連携論」、「チーム医療論」については、基本的に相模原キャンパスにおいて講義を行っているが、健康科学部においては同講義をオンラインにより実施する計画であるため、既設学部の授業運営に影響を与えることはない。

なお、健康科学部では看護学科と医療検査学科を展開するが、各学科の教育課程については、大学全体のカリキュラム・ポリシー及び健康科学部のカリキュラム・ポリシーに基づいて構成している【資料２】。

（ｲ）教育方法及び履修指導方法

１）教育方法

①授業形式

本学の教育課程は、大きく「1 群科目（一般教育科目)」「2 群科目（基礎的知識・技術を形成する科目群)」「3 群科目（高度の専門的知識・技術を形成する科目群)」と「教職科目に関する科目群」の 4 つの区分で構成し、それぞれ講義科目、演習科目、実習科目によって実施される。

②講義、演習、実験・実習の考え方

講義科目は、座学にて理論の修得を目指すことを基本とするが、授業の性質によりアクティブ・ラーニング手法を積極的に用い、効果的な授業を展開する。

演習科目は、座学だけでは習得できない知識や技術を定着させることを目的として、学生・教員又は学生同士が双方向にコミュニケーションをとりながら「教え教わる」環境を醸成し、学習効果を高める。

実験・実習科目は、学内外において自らの体験と行動を通して、学習の結果をより確実に定着させることを目的としている。とりわけ、医療系学部である健康科学部の臨地実習は、学内で習得した専門的知識と技術を実践の場面に適用・展開する能力を養う重要な位置づけとなっている。

③学生数設定

講義科目については、看護学科、医療検査学科ともに教育目標、教育効果、授業の目的、内容の難易度などを考慮し、学生数 80 名を対象として実施する。一部科目は、健康科学部の共通科目として、看護学科、医療検査学科合同で最大 160 名を対象として行う。

〔看護学科〕

演習科目は、参加・双方向による授業展開を念頭に、紙上事例の展開などは 5～6 名程度を 1 グループとして実施し、実技演習は、学生同士で実施する内容や看護実習モデル人形を使用して実施する内容、注射針などを使用するような危険度の高い内容等により 1 グループの人数を変動させ、学生の学習効果が十分得られ、かつ安全に学習できるような設定とし、それぞれに教員を配置する。「実習形式」の科目については、臨床実習は 1 ブロック 13，14 名とし、各領域をローテーションする編成とする。臨地の実習施設の状況に応じて 1 ブロック 13，14 名の学生を 2～6 名の小グループに分け、各実習先に配置する。

〔医療検査学科〕

演習科目は、参加・双方向による授業展開を念頭に履修学生の半数を上限として実施する。また、密なコミュニケーションを行うことが必要と思われる演習では、1 教員あたり 10～20 名を配置する。学内実習は、協同して授業が展開できるよう８名の学生で 10 グループを編成する。臨地実習は、学生の希望と実習施設の状況を踏まえ、各施設１～７名を配置し、施設毎に１～数名のグループで部門毎の実習を行う。

④配当年次

〔看護学科〕

授業の内容は、順序性については概論(講義)－各論(講義)－技術(演習)－実習の順に配置した。看護に必要な知識や看護技術の原理・原則、科学的根拠に基づく看護実践を導くための臨床判断、臨床推論の能力を高める知識を学ぶ科目については、「講義形式」とし、実際の臨床現場での看護実践の方法について体験的に学ぶ科目は「演習形式」、実際の臨床現場で既習の理論と技術を統合し、看護援助を実践する科目は「実習形式」とした。授業科目の配当年次は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに従って定めた。

＜1 年次＞

1 群科目基礎分野の「科学的思考の基盤」「人間と生活・社会の理解」などの科目群は、将来医療従事者として働く際に必要な教養を早期に身に着けられるよう、1 年次に配置した。また、看護専門教育の基盤となる能力を養成するために、2 群科目専門基礎分野の「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」などの科目群は、1 年次に配置した。

健康科学部では地域医療に貢献できる人材を養成することから、1 年次早期に地域アセスメント演習、地域実習を配置した。また、地域貢献の視点を醸成するために「まちづくり論」「ボランティア活動論」を必修とし、学生が主体的に学習に取り組めるように講義・演習内容を設定した。

＜2 年次＞

看護専門職に必要な知識と技術を身につけられるよう、2 群科目専門基礎分野の「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」、3 群科目専門分野の「地域・在宅看護論 」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」について、専門科目の順次性・体系性に基づき、各分野の概論を中心とした科目を配置した。演習科目においては、実際に臨床現場で使用されている医療機器、看護学実習モデル人形、シミュレーターや模擬患者を用いて授業を展開し、実際の臨床現場に近い形で演習ができるようにする。

＜3 年次＞

基礎から応用へと体系的な学びが可能となるよう 3 群科目専門分野の「地域・在宅看護論 」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」について、各論、方法論を配置した。また、3 年次後期には各領域の臨地実習を配置し、実際の臨床現場で既習の理論と技術を統合できるようにする。また、研究によって看護実践上の課題を明らかにするための基本的知識、態度、技術を修得できるよう、課題研究Ⅰを後期に配置する。

＜4 年次＞

既習の知識と臨地実習で得た学びをふまえ、チーム医療の構成員として自身の専門性を活かし、より安全で質の高い医療を実践できるように、統合科目であるチーム医療論演習Ⅱを配置する。また、多重課題への対応、多様な状況下の看護、チーム医療における看護職の役割、倫理的問題への対応、看護管理の視点について学ぶために、4年生前期に統合実習を配置した。

問題発見、問題分析、問題探究・調査、倫理的思考などの能力を身に着け、研究を実践するための基礎的な思考力を養い、看護の対象者の問題を解決するために、課題研究を4年次通年科目として配置する。

〔医療検査学科〕

＜1年次＞

豊かな人間性と高い倫理観を兼ね備えた人材の育成を目的とした一般教養科目を展開する。数理情報ならびに自然科学系科目の基礎科目から専門科目への接続を考慮して学習を行う。また、早期から専門科目を学ぶことで、臨床検査技師として職業観の醸成と、基礎科目に対する学習の動機づけを目指す。さらに「医療学概論」では、各医療系職種についての授業により、チーム医療に対する早期の理解を図る。

＜2・3年次＞

臨床検査技師としての専門的な知識と技術、臨床の現場における安全管理などの実践的な考え方を修得することを目的とし、主に臨床検査技師学校養成所指定規則による専門科目を学習する。また、4年次の臨地実習への接続を考慮し、これらの科目を網羅的に理解することを目指す。さらに、「保健看護学概論」、「在宅医療論」、「臨床栄養学」、「薬理学」では、チーム医療における他職種への理解や臨床検査技師の役割、将来の高齢化社会における臨床検査技師としての在宅医療への参画に関する理解を深めることを目指す。

＜4年次＞

3年間の学習を通じて修得した臨床検査の専門的知識・技術、チーム医療と他職種への理解を基盤として臨地実習でその実践を学ぶ。生理機能検査や採血における患者への接遇や臨床検査部門の精度保証については、臨床検査技師としての業務をとおして、その重要性の理解を深める。

卒業研究では、約10名ずつのグループに分かれ、8つの研究室に配属する。各研究分野のテーマに基づき、これまで修得した知識、技術の定着を図るとともに、問題解決能力、科学的コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力などを育成する。

なお、これら教育方法は、大学全体の方針を踏まえた上で、新たに設置する健康科学部内で行うことから、本学既設学部へ与える影響はない。

２）履修指導方法

①指導体制

学年ごとに学年主任及びクラス担任を配置することで、学生に対して履修指導や学修支援、進学・就職に関するキャリアアドバイスを行う。学年主任及びクラス担任は、専任教員のなかから学年の特性を考慮した上で、教授会において選定する。また、学部事務室には専属の職員を配置し、大学生活全般に関する相談にも対応できるよう、教職員が一体となって学生を支援できるよう体制を整備する。

②シラバス

シラバスには授業の目的、教育内容、授業方法、講義の内容、到達目標、評価基準、準備学習、関連科目、参考文献の各情報を明記する。学生に対しては、年度ごとに冊子の配布もしくは Web サイトにおいて常時閲覧ができるよう整備するとともに、学部事務室に学修要項を常備し、いつでも学生が確認・相談ができるよう、環境を整える。

また、シラバスをはじめとする授業に関する質問・相談などについて、教員と自由に懇談することを目的に、オフィスアワー制度も導入する。

③オリエンテーション，ガイダンスの実施

学年進行に合わせて、各年度の開始時にガイダンスを実施し、学生生活をはじめ履修等に関する指導を行う。特に、1 年次については、単位選択及び履修登録に慣れていない学生が多いため、オリエンテーション期間を設け、大学生活全般における諸注意点なども含めて、説明・レクチャーを行い支援する。

2～4 年次については、学部学科の各ポリシーの確認や、専門科目の関連性、実験・実習科目の注意点、研究テーマの選択、卒業後の進路選択など、学年にあった指導をガイダンスを通じて行う。

以上の履修指導については、健康科学部の専任教員及びそれを補佐する学部事務職員が実施する。そのため、健康科学部を設置することにおいて本学既設学部へ与える影響はない。

（ｳ）教員組織の変更

健康科学部では、各学科で養成する人材像や教育課程の編成の特色を行い学生の学修効果が向上するように講義―演習―実習を段階的に組み立てている。それらを円滑に実行するために、看護学科及び医療検査学科それぞれの専門領域や担当科目の配置について、学位（博士、修士）の保有状況、当該分野の臨床経験や教育経験、研究業績、社会貢献活動等を考慮し配置している。また、各学科で配置している教授については、全員が博士の学位を有する者で構成している。

完成年度時点における専任教員数については、看護学科で 15 人、医療検査学科で 16 人としており、大学設置基準上の必要専任教員数を超えていることを前提に、教育課程を展開する上で支障のない配置としている。このほか、看護学科に助手 4 人、医療検査学科に助手

1 人を配置する計画としている。

健康科学部は、新たに新潟キャンパスで教育を展開する。新潟キャンパスでは本学の既設学部・学科はなく、健康科学部のみを展開する。したがって、教育課程についても新潟キャンパス内で完結することを前提に構成している。なお、上記（ｱ）教育課程の変更内容で記載の通り、本学の既設学部も含めた一部の共通科目（「北里の世界」、「農医連携論」、「チーム医療論」）は、オンラインによる実施の上、健康科学部の教員がサポートを行う。以上より、健康科学部の設置に伴う本学既設学部の教員組織への影響はないと考えている。

（ｴ）施設・設備の変更内容

この度の収容定員変更は健康科学部の設置に伴うものであり、同学部の教育研究は新潟キャンパス（新潟県南魚沼市黒土新田）で展開する。新潟キャンパスは、校舎面積 86,230.00 ㎡（内訳：校舎敷地面積 84,926.45 ㎡、体育館敷地 1,303.55 ㎡）と運動場敷地 16,864.0 ㎡、その他 46,432.22 ㎡を有する。近隣には他教育機関や公園、美術館が点在しているように、自然豊かで、とても静かな環境であるため、教育・研究を行うに相応しい環境であると言える。キャンパス内は、自然豊かな環境を生かして緑地を設けるとともに、学生が休息できるようベンチを適切に配置している。

キャンパス内には食堂（782.71 ㎡ 361 席）、売店をそれぞれ設けているほか、学生ラウンジ及び談話室を教育施設内に整備している。これらに加え、学生が自由に利用できる多目的ルームも開放していることから、学生が学習及び大学生活を過ごすうえで、十分な環境を整備していると考えている。

また運動場については、敷地内の総合グラウンド（15,694 ㎡）とテニスコート（1,152 ㎡）があり、主に授業及び学校行事、課外活動で使用するほか、空き時間は学生に開放している。なお、新潟キャンパスへは最寄り駅である JR 浦佐駅よりスクールバスを運行し、学生の移動に伴う負担をできる限り軽減している。

校舎については健康科学部の設置に伴い、新潟キャンパスの既設校舎を段階的に改修する。同キャンパスは、既設の学校として北里大学保健衛生専門学院（令和 6（2024）年度から募集を停止し、令和 9（2027）年度に廃止予定）が設置されているが、元来潤沢な教育環境を有していることから、健康科学部開設に伴う校舎の増築は行わず、段階的に既存の講義室、実習室及び研究室等を整備改修する。さらに健康科学部の占有スペースを学年進行に伴い拡大することで、教育課程の点解上、学生教育に支障がないよう配慮する。

研究室については、教授には各々個室（20.25 ㎡～38.06 ㎡）を、准教授以下については 22 室の共同研究室を準備し、十分な広さを確保するとともに、教員の希望や研究分野の特性に合わせてレイアウトを施し、教育・研究に集中できるよう環境整備を行う。

健康科学部の教育に必要な機器・器具は、既に北里大学保健衛生専門学院が養成所指定規則ならびに養成所指導ガイドラインに定められた教育上必要な機械器具、標本及び模型に関して学生数に応じた必要量を完備していることから、継承し、有効的に利用する。

また、施設の整備改修に併せて、学生用の机・椅子、更衣室のロッカー、講義室のホワイトボード、プロジェクター、カメラ及びスクリーン等を新調するとともに、インターネット環境を整備し、教育研究環境について更に充実させる。キャンパス内の施設・設備の整備については、学生の修学環境の維持向上及び安全面に配慮した上で、今後も行っていく。

以上は新潟キャンパスの整備についてであるが、大学全体でみると、既設の各学部・学科及び研究科の教育研究上必要となる施設・設備については白金キャンパス、相模原キャンパス、十和田キャンパスの各キャンパスでも管理体制を構築しており、十分な整備を施していると考えている。従って、健康科学部の新潟キャンパスでの設置を行っても、大学全体の施設・設備への影響は一切ない。

学則の変更の趣旨等を記載した書類（資料）

目次

【資料１】　要望書　P. 2

【資料２】　健康科学部看護学科の教育課程　P. 6
健康科学部医療検査学科の教育課程

北里大学「健康科学部（仮称）」の設置に関する要望書

新潟県は県民の健康寿命が延伸し、すべての世代が生き生きと暮らせる「健康立県」の実現を目指すことを基本理念として保健（健康）・医療、福祉等の施策を推進してきたところです。

しかし、一方で少子高齢化の急速な進行、医療技術の進歩や高度化、疾病構造など、本県の保健医療を取り巻く環境は大きく変化しています。そうした中で、多様化する県民の保健医療ニーズに的確に対応してくためには、保健医療分野における優秀な人材の確保が必要不可欠であり、とりわけ、看護職員については、今後、在宅医療のニーズが高まる中で需要が見込まれる訪問看護に従事する者など、その確保に加え、専門性の高い看護職員の育成に向け、様々な取組を実施しているところです。

このたび、本県に「健康科学部（仮称）」の設置を計画している北里大学は、系列校である北里大学保健衛生専門学院（新潟県南魚沼市）の 1982 年の開学以来、医療保健分野において多くの優秀な人材を輩出し、地域に多大なる貢献をしております。

同大学では、「健康科学部（仮称）」において、医療現場でチーム医療を支える高度な医療技術と知識を備え、さらに地域医療を展開できる人材養成に取り組んでいくとしていることから、本県が進める政策と方向性を同じくするものと考えております。また、看護職員や臨床検査技師等に対し、年々求められる知識や技能の専門化・高度化が進む中、４年制教育課程の設置は有意義であり、患者の多岐にわたるニーズに対応することができると考えております。

つきましては、医療人の育成に長年の実績を有する北里大学が本県に設置する「健康科学部（仮称）」に関し、計画どおりの設置に特段のご配慮を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和５年５月 26 日

新潟県知事　花角　英世

文部科学大臣　永岡 桂子　様

南魚企画第 22 号
令和 5 年 5 月 17 日

学校法人北里研究所
　理事長　小林　弘祐　様

南魚沼市長　　林　　茂 男

北里大学健康科学部（仮称）設置に係る要望について

謹啓　時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび貴法人におかれましては、新学部（健康科学部）設置計画を発表され、医療現場でチーム医療を支える高度な医療技術と知識を備え、さらに地域医療を展開できる人材の養成を目的とした 4 年制学部として看護師･保健師、臨床検査技師養成に取り組まれることは非常に有意義であり、当市といたしましても大いに期待を寄せています。

当市におきましては、今後も進む高齢化社会を踏まえ、医療・介護・福祉などが連携した継続可能なまちづくりのため、安定的な医療提供体制の構築に向け検討を重ねており、今後ますます多様化する保健医療に対しリーダーシップを存分に発揮できる人物的にも魅力あふれる人材が必要不可欠であります。

このたびの新学部（健康科学部）設置計画につきましては、当市が進める政策と方向性を同じくするものであり、目指すべき地域医療を担う質の高い人材を養成していくことの重要性を鑑みましても大いに歓迎するものであります。何卒ご尽力を賜りますようお願いいたします。

以　上

新看協第　89　号
令和５年６月１日

学校法人北里研究所
理事長　　小林　弘祐　様

公益社団法人新潟県看護協会
会　長　　斎藤　有子

北里大学健康科学部看護学科（仮称）の開設に向けて

このたび、貴法人では、南魚沼市に北里大学健康科学部看護学科（仮称）を開設する計画を進めていると伺いました。多様化した保健医療に対する社会の要請に応えることができる知識と技能を備え、健康社会の実現に向けて病院や地域・在宅の現場で質の高い医療に貢献できる人材の養成を目的に掲げておられ、当協会といたしましても、その実現に大いに賛同し、期待するものであります。

当協会は、人々の人間としての尊厳を維持し、健康で幸福でありたいという普遍的なニーズに応え、人々の健康な生活の実現に貢献することを使命としています。

そのために「看護の質の向上」、「安心して働き続けられる環境づくり」、「県民のニーズに応える看護領域の開発・展開」を基に、重点目標を掲げ事業を展開しています。

重点目標は、「地域の人々の健康と療養を支える看護の機能強化と連携」、「地域の健康危機管理体制の構築」、「看護職が働き続けられる勤務環境づくりの推進」、「看護施策を推進するための持続可能な基盤強化」で、多様化・高度化が進む人々の医療・看護ニーズに応える取り組みを進めております。

貴法人が、これまで長きにわたり、看護教育の発展にご尽力されており、このたびあらたに生命科学系総合大学の特長を活かした学士教育を新潟県で展開されることは、これからまさに求められる看護職の知識・技能を習得することができると考えております。

新潟県では、地域の医療体制の再構築の議論が進み、看護職が人々の健康と生活を地域で支え、健康に関わる新たなニーズに対して、役割を発揮していくことが期待されています。

ぜひとも看護学科開設計画の実現化に向けて、ご尽力くださいますようお願いします。

新臨技発第 25 号
令和 5 年 5 月 24 日

学校法人北里研究所
　理事長　小林　弘祐　様

一般社団法人　新潟県臨床検査技師会
会長　渡邊　博昭

北里大学健康科学部の設置計画について（要望）

謹啓　時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび貴学におかれましては、新学部である健康科学部に医療検査学科を設置し、臨床検査技師の 4 年制教育に取り組まれる計画について伺いました。

医療の高度化や検査機器の技術進歩に伴い、臨床検査技師に求められる知識や技術はこれまで以上に高度専門化しております。また、医療現場における働き方改革の鍵とされるタスク・シフト／シェアの推進により新たに 10 行為が認められ、専門職業人としての質向上がますます求められております。高度なチーム医療を実践でき、人間性豊かで高い倫理観、創造性を発揮し、科学的に問題を解決する能力を備えた医療人を育成するためには、4 年制教育を展開することが必須であると考えます。貴学は長年にわたり医療従事者の教育に尽力されており、新学部設置により、さらなる優秀な人材を医療業界に輩出することを期待するところです。

超高齢化社会を迎えている今日、これからの臨床検査技師は在宅医療および認知症医療への参画が必要不可欠とされており、それぞれワーキンググループにて種々検討がなされております。業務範囲の拡大、さらなる医療の高度化、これらに応えられる若い人材の養成が求められております。

このようなことから、本会は貴学の新学部設置を大いに歓迎いたしますので、設置実現に向けて鋭意ご尽力いただきますよう要望いたします。

謹白

【資料2－1】
健康科学部看護学科の教育課程

別記様式第2号（その2の1）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（健康科学部看護学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
1群科目	情報処理Ⅰ	1前	1				○				1				
	情報処理Ⅱ	1後		1			○							兼1	
	情報処理Ⅲ	2前		1			○							兼1	
	データサイエンス基礎	1後	2			○					1				
	生命倫理学	1前	1			○								兼1	
	心理学	1前	1			○								兼1	
	英語Ⅰ	1前	2			○					1				
	英語Ⅱ	1後		2		○								兼1	
	医療英語	1後	1			○					1				
	数学	1前		1		○					1				
	基礎化学	1前		1		○								兼1	
	基礎生物学	1前		1		○								兼1	
	基礎物理学	1前		1		○								兼1	
	基礎分析化学実習	1前		1				○						兼4	共同
	スポーツと健康Ⅰ	1前		1			○							兼1	
	スポーツと健康Ⅱ	1後		1			○							兼1	
	教育学	1前	1			○								兼1	
	対人関係論	1前	1			○			1						
	日本国憲法	1前	2			○								兼1	
	まちづくり論	1通	2			○			1						
	ボランティア活動論	1前	2				○		1						
	国際交流論	2後		1		○			3	1	2				オムニバス・共同（一部）
	生涯発達論	1前	2			○			3						オムニバス
	コミュニケーション演習	2後	2				○		1						
	北里の世界	1前		1		○			1					兼6	オムニバス・共同（一部）・メディア
	農医連携論	1後		1		○			1					兼8	オムニバス・共同（一部）・メディア
	小　計　（26科目）	－	20	14	0	－			5	1	4	0	0	兼25	－

【資料2－1】
健康科学部看護学科の教育課程

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
2群科目	看護形態機能学Ⅰ	1前	2			○			2						オムニバス
	看護形態機能学Ⅱ	1後	2			○			2						オムニバス
	看護形態機能学Ⅲ	1後	2			○			2						オムニバス
	栄養学	1前	1			○					1				
	臨床栄養学	1後	1			○			1						
	症候・疾病論Ⅰ	2前	2			○			1						
	症候・疾病論Ⅱ	2後	2			○			1						
	症候・疾病論Ⅲ	2後	2			○			1						
	症候・疾病論Ⅳ	2後	1			○			1						
	臨床薬理学	2後	2			○			1						
	公衆衛生学	2前	2			○			1		1				オムニバス
	看護関係法規	2前	2			○			1		2				オムニバス
	社会保障と社会福祉	2前	1			○			1						
	ヘルスプロモーション	3前	1			○			1		2	1			オムニバス・共同（一部）
	小　計（14科目）	－	23	0	0	－			4	0	3	1	0	0	－

【資料2－1】
健康科学部看護学科の教育課程

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備　考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
3群科目	看護学原論	1前	2			○			2					オムニバス
	基礎技術演習Ⅰ	1前	1				○		3		3	1	3	オムニバス・共同（一部）
	基礎技術演習Ⅱ	1後	1				○		3		3	1	3	オムニバス・共同（一部）
	基礎技術演習Ⅲ	1後	1				○		3		3	1	3	オムニバス・共同（一部）
	看護過程演習	1後	1				○		3		3	1	3	オムニバス・共同（一部）
	フィジカルアセスメントⅠ	1後	1				○		4		3	1	3	オムニバス・共同（一部）
	フィジカルアセスメントⅡ	2前	1				○		4	1	4	1	3	オムニバス・共同（一部）
	感染看護学	2前	1			○			2					オムニバス
	地域アセスメント演習	1前	1				○		1		1	1		オムニバス・共同（一部）
	チーム医療論演習Ⅰ	1後	1				○							兼16 オムニバス・共同（一部）・メディア
	緩和ケア	2後	1			○			4					オムニバス
	地域・在宅看護概論	2後	1			○			1					
	地域・在宅看護総論	3前	2			○			1		2			オムニバス
	地域・在宅援助技術Ⅰ	3前	1				○		1		2	1		オムニバス・共同（一部）
	地域・在宅援助技術Ⅱ	3前	1				○		2		1			オムニバス
	地域の健康と看護	2後	1			○			1		2	1		オムニバス・共同（一部）
	疫学	4前		2		○								兼1
	保健統計学	4前		2		○								兼1
	公衆衛生看護学概論	3後		2		○			1		1			オムニバス
	健康政策論	4前		2		○			1		1	1		オムニバス・共同（一部）
	保健医療福祉行政論Ⅰ	4前		1		○			1		1			オムニバス
	成人看護学概論	2前	2			○			2					オムニバス
	成人看護学Ⅰ	2後	2			○			1					
	成人看護学Ⅱ	2後	2			○			1		1			オムニバス・共同（一部）
	老年看護学概論	2前	2			○			1		1			オムニバス・共同（一部）
	老年看護学	3前	2			○			1		1			オムニバス
	小児看護学概論	2後	2			○			1	1	1			オムニバス
	小児看護学各論	3前	2			○			1		1			オムニバス
	母性看護学概論	2後	2			○			1		1			オムニバス
	母性看護学各論	3前	2			○			1		1			オムニバス・共同（一部）
	精神看護学概論	2後	2			○			1					
	精神看護方法論	3前	2			○			1					
	看護管理・政策論	4前	1			○			1					
	医療安全	4前	1			○			3		1			オムニバス・共同（一部）
	災害看護	3前	1			○			2					オムニバス
	チーム医療論演習Ⅱ	4前	1				○		1					
	課題研究Ⅰ	3後	1			○			4					オムニバス
	課題研究Ⅱ	4通	2				○		6	1	4	1	3	共同
	看護基礎実習Ⅰ	1後	1					○	2		3		3	共同
	看護基礎実習Ⅱ	2前	2					○	2	1	4		3	共同
	在宅看護学実習	3後	2					○	1		2	1	3	共同
	成人看護学実習Ⅰ（急性期）	3後	2					○	1		1		3	共同
	成人看護学実習Ⅱ（慢性期）	3後	2					○	1		1		3	共同
	集中治療ケア実習	3前	1					○	1		1		3	共同
	老年看護学実習	3後	2					○	1		1		3	共同
	NICU/PICU実習	3前	1					○	1	1	1		3	共同
	小児看護学実習	3前	1					○	1	1	1		3	共同
	母性看護学実習	3後	2					○	1	1	1		3	共同
	精神看護学実習	3後	2					○	1		1	1	3	共同
	統合実習	4前	4					○	5	1	5		3	共同
	地域実習	1前	2					○	4		3		3	共同

【資料２－１】
健康科学部看護学科の教育課程

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
3群科目	公衆衛生看護支援技術Ⅰ	3後			2	○			1		2	1			オムニバス・共同（一部）
	公衆衛生看護支援技術Ⅱ	3後			2	○			1		1	1			オムニバス・共同（一部）
	公衆衛生看護対象論Ⅰ	3後			1	○			1		1				オムニバス
	公衆衛生看護対象論Ⅱ	3後			1	○			1		1				オムニバス
	公衆衛生看護展開論	4前			2	○			1		2	1			オムニバス・共同（一部）
	公衆衛生看護管理論	4前			1	○			1		1				オムニバス
	地域健康危機管理論	4前			1	○			1		1	1			オムニバス・共同（一部）
	学校保健・産業保健	4前			1	○			1		1				オムニバス
	保健医療福祉行政論Ⅱ	4後			1	○			1		1				オムニバス
	公衆衛生看護学実習	4前			5			○	1		2	1	3		共同
	小　計　（61科目）	－	71	9	17	－			6	1	5	1	3	兼17	－
合　計　（101科目）		－	114	23	17	－			6	1	7	1	3	兼41	－

学位又は称号	学士（看護学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（看護学関係）

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
○卒業要件 本学部に４年以上在学し、所定の単位を修得した者は卒業とし、所定の学位を授与する。（合計124単位） ○履修方法 １．1群科目は20単位必修、選択科目14単位のうち10単位を選択必修。ただし、「北里の世界」または「農医連携論」のどちらかは必ず選択すること。 ２．2群科目は23単位必修。 ３．3群科目は71単位必修。 ４．保健師選択希望者は上記1～3に加え、3群科目の選択科目（「疫学」「保健統計学」「公衆衛生看護学概論」「健康政策論」「保健医療福祉行政論Ⅰ」）を選択必修、かつ、3群科目の全自由科目（10科目17単位）を修得すること。 （履修科目の登録の上限：49単位（年間））	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

【資料2－2】
健康科学部医療検査学科の教育課程

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（健康科学部医療検査学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
1群科目	情報処理Ⅰ	1前	1				○							兼1	
	情報処理Ⅱ	1後	1				○					1			
	情報処理Ⅲ	2前	1				○					1			
	生命倫理学	1前	1			○								兼1	
	心理学	1前	1			○								兼1	
	英語Ⅰ	1前	2			○								兼1	
	英語Ⅱ	1後	2			○								兼1	
	専門英語	3前	2			○			2						オムニバス
	数学	1前	1			○								兼1	
	基礎化学	1前	1			○			1						
	基礎生物学	1前	1			○			1						
	基礎物理学	1前	1			○						1			
	基礎分析化学実習	1前	1					○	2			2			共同
	スポーツと健康Ⅰ	1前	1				○							兼1	
	スポーツと健康Ⅱ	1後	1				○							兼1	
	コミュニケーション学	1後	1			○								兼2	オムニバス
	日本国憲法	1前	2			○								兼1	
	まちづくり論	1通	2			○								兼1	
	国際交流論	2後	1			○								兼6	オムニバス・共同（一部）
	北里の世界	1前		1		○								兼7	オムニバス・共同（一部）・メディア
	農医連携論	1後		1		○								兼9	オムニバス・共同（一部）・メディア
	小　計　（21科目）	－	24	2	0	－			2	0	0	3	0	兼29	－

【資料2－2】
健康科学部医療検査学科の教育課程

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（健康科学部医療検査学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
2群科目	医療学概論	1前	2			○			2		1			兼10	オムニバス
	解剖学Ⅰ	1前	1			○			1						
	解剖学Ⅱ	1後	1			○			1						
	生理学Ⅰ	1前	1			○						2			共同
	生理学Ⅱ	1後	1			○						2			共同
	解剖生理学実習	1前	1					○	1			3	1		オムニバス・共同（一部）
	生化学Ⅰ	2前	1			○			1						
	生化学Ⅱ	2後	1			○			1						
	分子細胞生物学	2後	1			○			2						共同
	薬理学	3後	1			○								兼1	
	臨床栄養学	3後	1			○						1			
	病理学	2後	1			○			1				1		
	微生物学	2後	1			○			1						
	臨床検査基礎実習	1前	1					○	4		3	2	1		オムニバス・共同（一部）
	公衆衛生学Ⅰ	1後	1			○			1						
	公衆衛生学Ⅱ	2前	1			○			1						
	保健看護学概論	3前	1			○					1				
	医用工学概論	2前	1			○						1			
	医用工学実習	2後	1					○	1		1	2			共同
	検査機器学	1前	1			○						1			
	在宅医療論	3前	1			○								兼2	オムニバス
	小　計（21科目）	－	22	0	0	－			8	0	4	5	1	兼13	－

【資料２－２】
健康科学部医療検査学科の教育課程

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（健康科学部医療検査学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
３群科目	臨床医学総論	2前	1			○								兼1
	臨床病態学Ⅰ	2後	2			○								兼3　オムニバス
	臨床病態学Ⅱ	4前	2			○								兼4　オムニバス
	チーム医療論	3後	1			○								兼16　オムニバス・共同（一部）・メディア
	血液検査学Ⅰ	1後	2			○					1			
	血液検査学Ⅱ	2前	2			○					1			
	血液検査学実習	2前	1					○			1	1	1	共同
	凝固止血検査学実習	2後	1					○			1	1	1	共同
	病理細胞検査学Ⅰ	1後	2			○			1				1	
	病理細胞検査学Ⅱ	2前	2			○			1				1	
	病理細胞検査学実習Ⅰ	1後	1					○	1			1	1	共同
	病理細胞検査学実習Ⅱ	2前	1					○	1			1	1	兼2　オムニバス・共同（一部）
	臨床基礎検査学	1後	1			○					1			
	臨床基礎検査学実習	1後	1					○			1	1	1	兼1　オムニバス・共同（一部）
	寄生虫学	1後	1			○					1			
	臨床化学Ⅰ	3前	2			○			1					
	臨床化学Ⅱ	3後	2			○			1					
	生体分析化学実習Ⅰ	3前	1					○	3			3		オムニバス・共同（一部）
	生体分析化学実習Ⅱ	3後	1					○	3			3		オムニバス・共同（一部）
	免疫検査学Ⅰ	2前	2			○			1					
	免疫検査学Ⅱ	2後	2			○			1			1		共同
	RI検査学	3前	1			○			1					
	遺伝子染色体検査学	3前	2			○			1					
	遺伝子染色体検査学実習	3前	1					○	2			1		兼1　オムニバス・共同（一部）
	輸血移植検査学Ⅰ	3前	2			○			1					
	輸血移植検査学Ⅱ	3後	1			○			1			1		共同
	輸血移植検査学実習	3前	1					○	1		1	1		共同
	臨床微生物学Ⅰ	3前	2			○			1					
	臨床微生物学Ⅱ	3後	2			○			1					
	臨床微生物学実習Ⅰ	3前	1					○	2		1	1		共同
	臨床微生物学実習Ⅱ	3後	1					○	2		1	1		共同
	生理機能検査学Ⅰ	1後	2			○			1		1			オムニバス・共同（一部）
	生理機能検査学Ⅱ	2前	2			○					1			
	生理機能検査学Ⅲ	2後	2			○			1		1			オムニバス・共同（一部）
	生理機能検査学Ⅳ	2後	2			○			1		2			オムニバス・共同（一部）
	生理機能検査学実習Ⅰ	2前	1					○	1		2		1	共同
	生理機能検査学実習Ⅱ	2後	1					○	1		2			共同
	画像検査学	3後	2			○					1			兼1　オムニバス
	画像検査学実習	3後	1					○	1		2			共同
	検査管理学	2前	1			○								兼1
	精度保証管理学	2後	1			○					1			
	医療統計学	2前	1			○					1			
	医療安全管理学	3前	2			○			2		1			兼3　オムニバス
	臨地実習	4前	11					○	7		4	5	1	共同
	臨床検査総合実習	4前	1					○	7		4	5	1	共同
	テュートリアル教育	3後	1				○		8		4	5	1	共同
	臨床検査学特論	4後	8			○			6		3	2	1	兼1　オムニバス・共同（一部）
	卒業研究	4通	5				○		7		1			共同
	データサイエンス概論	3後	1			○					1			
	在宅検査演習	3後	1				○		4		4	1		共同

【資料2－2】
健康科学部医療検査学科の教育課程

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（健康科学部医療検査学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	食品機能学	3前			2	○			1			2			共同
	食品関連法規	3前			1	○			1			2			共同
	小　計（52科目）	－	91	0	3	－			8	0	4	5	1	兼29	－
合　計　（94科目）		－	137	2	3	－			8	0	4	5	1	兼65	－

学位又は称号	学士（医療検査学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係（看護学関係及びﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ関係を除く。）

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
○卒業要件 本学部に4年以上在学し、所定の単位を修得した者は卒業とし、所定の学位を授与する。（合計138単位） ○履修方法 １．1群科目は24単位必修、「北里の世界」と「農医連携論」から1単位選択必修。 ２．2群科目は22単位必修。 ３．3群科目は91単位必修。健康食品管理士認定試験受験希望者は「食品機能学」2単位と「食品関連法規」1単位を自由選択。 （履修科目の登録の上限：49単位（年間）） １学年の学期区分：2学期 １学期の授業期間：15週 １時限の授業時間：90分		

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

（１）学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況..... 2
ア　本学の現状把握・分析 2
イ　地域・社会的動向等の現状把握・分析..... 3
ウ　設置する学部の趣旨目的、教育内容、定員設定等..... 4
A. 健康科学部の趣旨目的と教育内容..... 4
B. 健康科学部の地域・社会への貢献..... 6
C. 定員設定 8
D. 健康科学部が必要とされる理由..... 8
E. 健康科学部の入学金、授業料等の学生納付金の額と設定根拠..... 9
エ　学生確保の見通し 9
A. 学生確保の見通しの調査結果 9
B. 新設学部等の分野の動向 12
C. 中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向等..... 13
D. 競合校の状況 14
E. 既設学部等の学生確保の状況 15
F. その他、申請者において検討・分析した事項..... 15
オ　学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果..... 16
A. 広報媒体の活用 16
B. Web サイトでの情報発信..... 16
C. オープンキャンパス・進学相談会の実施..... 17
D. 学外における説明会・相談会の実施参加..... 17
E. 高校への訪問活動 17
F. 出張講義の実施 18
（２）人材需要の動向等社会の要請..... 18
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）..... 18
② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠 19

（１）学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア　本学の現状把握・分析

学校法人北里研究所　北里大学（以下、本学）は、世界的な細菌学者であり、我が国の近代医学と衛生行政の発展に多大な貢献を果たした北里柴三郎を学祖と仰ぎ、1962（昭和 37）年に北里研究所創立 50 周年を記念して創設された。北里柴三郎の業績は、「科学者としての真の学問追求」、「社会事業家としての国創」、「教育者としての人材育成」に集約される。北里は常々、「事を処してパイオニアたれ。人に交わって恩を思え。そして叡智をもって実学の人として、不撓不屈の精神を貫け。」と門下生に説いており、本学は、北里柴三郎が成した学統を受け継ぎ、顕現した「開拓」「報恩」「叡智と実践」「不撓不屈」を建学の精神としている。本学は、北里柴三郎の精神に則り、生命科学及び医療科学分野における学術研究と人材育成を通して、広く社会の発展のために寄与することを目的としており、「いのちを尊（たっと）び、生命の真理を探究し、実学の精神をもって社会に貢献する。」を法人・大学の理念とし、現在、創立 60 年を迎え 8 学部 16 学科（大学院 6 研究科 1 学府）と同一法人内に 2 併設校を設置している。

2 併設校の 1 校である北里大学保健衛生専門学院（1994（平成 6）年 4 月に北里大学附属北里保健衛生学院から名称変更）は、1982（昭和 57）年 4 月新潟県南魚沼市に開設し、北里柴三郎の精神に則り、40 年間にわたり多くの有能な医療と健康のスペシャリストを社会に送り出し、地域の発展に貢献してきた。

ゲノム解析の進歩や ICT を基盤とするビッグデータ蓄積と分析技術の進歩などの今日の急速な医療分野を含む科学技術の発展やインターネットを介したグローバル化により、我が国そして世界の医療環境が急速に大きく変化しており、本学では現在が、未来社会に向けた大きな変革期にあたると考えている。この状況を見据えて、新たな社会を支える有能な人材を育成するためには既存の枠組みの下での従来の教育内容の更新では対応はできない。また、近年の受験生ならびにその家族も時代の変革期にあることを感じ、将来を見据えた新たな視点による高度で専門性の高い教育を望んでいると推測される。

今回、本学が同学院から健康科学部という新たな学部とする理由は、この大きな変革と未来の課題に積極的に取り組むため、大学化して教育レベルを高めると共に、本学医学部、看護学部、医療衛生学部ならびに附属病院である北里大学病院、北里研究所病院、北里大学メディカルセンターとの連携を基盤に高度な実践能力を兼ね備えた地域医療を担う人材の養成を目指した教育を提供するためである。

さらに、新たな時代の地域医療に対応すべく、新たに設置する健康科学部においては、2023（令和 5）年 4 月に新設された未来工学部と連携し STEAM 教育に力を入れたカリキュラムを提供する。また、キャンパスの所在地を活かし、本学で推進している農医連携に関わることを目指す。

健康科学部には、看護学科と医療検査学科の 2 学科を設置する。その理由は、厚生労働省が 2025（令和 7）年に向けて策定を行っている「地域医療構想」に関する会議において、人口減少、過疎化のなかにあっても、高齢化、在宅医療の推進、医師の働き方改革の影響により医師、看護師、臨床検査技師の要請が増していくことが予想されていること、そして、現時点でも魚沼地域を含む中越地域における新潟県内においては医師、看護師、臨床検査技師が充足されていないことから、地域の医療を維持、発展させるためには両学科の設置が必要であると考えるためである。なお、医師不足の課題に関しては、本学において 2023（令和 5）年度より医学部で推薦型選抜試験（地域枠指定校）に新潟県枠 3 名（佐渡市、村上市、南魚沼市各 1 名）を設けて対応を始めている。

イ　地域・社会的動向等の現状把握・分析

地域社会の活力の低下や多極分散型の国家形成の必要性を踏まえ、近年、地域における大学の役割に注目が集まっている。「経済財政運営と改革の基本方針 （2020（令和 2）年 7 月 17 日閣議決定)」には「魅力ある学びの場と地域産業を地方に創り、若者の地方定着を推進するため、理工系の女性を含む STEAM 人材の育成等に必要な、地方国立大学を含めた定員増や地域雇用向けの地元枠の設定、若手・実務家教員の別枠定員での登用、大学間のオンライン教育での連携等、魅力的な地方大学の実現等のための改革パッケージを年内に策定する」と記載されている。以後、政府全体で地方創生に資する魅力ある地方大学の実現について議論が行われ、中央教育審議会大学分科会では、地域における大学の在り方について検討が重ねられ、2021（令和 3）年 12 月に「これからの時代の地域における大学の在り方について－地方の活性化と地域の中核となる大学の実現－（審議まとめ） 」が示されている。この中で、地域における大学の衰退は、地域の成長の駆動力を失うことにつながりかねず、地方に存在する大学には、地域における人材育成や地域産業の発展、シンクタンクとしての機能など幅広い観点での貢献が期待されると記述されている。

北里柴三郎の精神に則り、「いのちを尊（たっと）び、生命の真理を探究し、実学の精神をもって社会に貢献する。」ことを理念とする本学は、「生命科学の総合大学」として併設している医学部、薬学部、看護学部、医療衛生学部、未来工学部等の学部ならびに附属病院である北里大学病院、北里研究所病院、北里大学メディカルセンターと連携を図れる環境が強みと言える。その結果、前述の社会のニーズに応え、地域における医療人材育成や地域医療の発展、シンクタンクとしての機能などより幅広い観点での貢献をめざす取組の実現が可能である。

教員および学生が他の学部、施設病院とこれまで以上に密接な交流・連携をとるためには、保健衛生専門学院から新たに大学の学部へ移行することが必要である。

そして、新たに設置する健康科学部では魚沼地域を含む中越地域における地域社会活性化の駆動力となるだけでなく、全国に多数存在する当地域と同じ環境の地域の活性化のモ

デルケースとなることを目指す。

ウ　設置する学部の趣旨目的、教育内容、定員設定等

A. 健康科学部の趣旨目的と教育内容

１）健康科学部の趣旨目的

ゲノム解析の進歩や ICT を基盤とするビッグデータ蓄積と分析技術の進歩などの今日の急速な医療分野を含む科学技術の発展やインターネットを介したグローバル化により、我が国そして世界の医療環境が急速に大きく変化しており、本学では現在が、未来社会に向けた大きな変革期にあたると考えている。この状況を見据えて、新たな社会を支える有能な人材を育成するためには既存の枠組みの下での従来の教育内容の更新では対応はできない。また、近年の受験生ならびにその家族も時代の変革期にあることを感じ、将来を見据えた新たな視点による高度で専門性の高い教育を望んでいると推測される。これら社会の要請に応えうる、高度医療現場でチーム医療を支えるメディカルスタッフに必要とされる高度な医療技術、知識を有し、地域医療を展開できる人材の養成を目的とし、健康科学部（看護学科、医療検査学科）を設置する。

２）健康科学部の教育内容

大学及び学士課程単位では、以下のとおり定めたポリシーに沿って、教育を展開する。

【大学】

北里大学は、本学各学部、各研究科・学府の入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に則って入学してきた学生が、卒業、修了時までに各学部、各研究科・学府の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に定める能力・資質を修得できるように、体系的に教育課程を編成・実施する。教育課程の編成にあたっては、生命科学の総合大学としての特色を活かした学びを取り入れる。

学士課程にあっては、幅広い視野と豊かな人間性を形成する一般教育科目群（１群科目）、専門の基礎的知識・技術を形成する科目群（２群科目）、高度の専門的知識・技術を形成する科目群（３群科目）、総合的な能力を形成する科目群（４群科目）により、各専門分野の特性に応じて、順次性をもたせ、かつ有機的に関連付けた体系的な教育課程を編成・実施する。

健康科学部としては、学部・学科単位で以下のとおり定める。

【健康科学部】

健康科学部では、学位授与方針を達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成する。

(1) 初年次に行われる１群科目には、英語、数学、理科系科目（化学・生物・物理）の学力差を解消し、さらに専門科目への理解を深めるための科目を配置する。

(2) ICT、データサイエンスに関する知識の理解を深化させ、自らが扱うための技術として定着させるための情報科学の数理的基礎に関する科目を配置する。また、情報を扱う上で必要な倫理観と社会での役割について理解する科目も配置する。

(3) 初年次には自己を深く理解するとともに他者及び地域社会への高い関心を醸成し、豊かな人間性を形成するために、文化・社会・健康などの多様な科目も配置する。また、両学科合同の科目を配置し、学生が学科間で交流を深めることができるように配慮する。

(4) ２年次以降は各学科の専門科目を基礎的な科目から段階的に実践的な科目へと移行し、習熟度を向上させ、自らの力で課題を解決する能力を身につけるために演習・実習科目を配置する。

(5) ４年次には修得した知識・技術を統合し、課題を解決する能力を身につけるための科目を配置する。

(6) 専門性の高い科目や医療の現場の状況をリアルタイムで教授することが、知識・技能の向上に有益である科目に関しては、本学医学部、薬学部、看護学部、医療衛生学部等の学部ならびに北里大学病院、北里研究所病院、北里大学メディカルセンターの附属医療施設の協力を得て教育を行う。

(7) 学習成果の評価は、科目ごとのシラバスに記載する成績評価の方法と基準により設定し、筆記及び実技の試験に加え、授業で課すレポート、発表、プレゼンテーションを含める多面的な評価を実施する。また、学修ポートフォリオにより学習成果を可視化し、適切な教育指導を行う。

〔看護学科〕

健康科学部看護学科では、学位授与方針を達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成する。

(1) 地域に暮らす人々と協働し、人々が住み慣れた場所でその人らしく生きることを支援する能力を養うために、1 年次からまちづくりや地域で暮らす人々にふれるための科目群を配置し教育を行う。

(2) 看護の基盤となる豊かな人間性と深く幅広い教養を身につけ、人々との関係性を築く能力を培うために、一般教養科目を必修科目にするとともに、文化・社会・健康などの多様な科目を配置し、自らが目標をもって主体的に学ぶ機会を提供する。

(3) 1 年次から講義・演習・実習のつながりをもたせ、人々の多様な生き方や価値観を理解し、尊厳と権利を擁護した倫理観を養うための教育を行う。

(4) 社会や医療のニーズを理解し、科学的根拠に基づいた看護を提供するための臨床判断能力を養うための教育を行う。
(5) 看護専門職として自ら学び続け、研究的視点をもち、ICT 等を活用しながら看護の質向上を図るための基礎的能力を養うために、ICT、データサイエンスに関する知識や技術の基本的知識を修得するための教育を行う。
(6) 保健・医療・福祉などあらゆる場において、看護専門職としてチーム医療を推進する基礎的能力を養うために、他学科と共通プログラムで教育を行うなかで、早期から多職種を理解し、チーム医療の基礎を学ぶための教育を行う。

〔医療検査学科〕

健康科学部医療検査学科では、学位授与方針を達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施する。

(1) 豊かな人間性と高い倫理観を兼ね備えた人材の育成を目的とし、幅広い分野の一般教育科目を必修科目にするとともに、異なる医療職種の理解に繋がるよう、他学科の学生と一部合同で教育を受ける機会を提供する。
(2) グローバル社会に適応できる人材の育成を目的とし、異国文化について学び、多様な背景や異なる価値観を理解する機会を提供する。
(3) ICT 教育を充実させ、情報処理能力およびプレゼンテーション能力を強化するとともに、データサイエンスならびに医療 AI 関連の基本的知識を修得する教育を行う。
(4) 専門的知識および実践的技術を体系的に学べるような科目配置とし、職業意識を早期に醸成する目的で、1 年次より専門科目群を配置した教育を行う。
(5) 進行する高齢化に伴い必要性が高まる在宅医療の場において、チームケアの一員として患者や家族が抱える問題を理解し、在宅検査が実践できる臨床検査技師を目指し教育を行う。
(6) チーム医療の実践に必要な専門的知識および多職種連携に必要な能力を修得するための教育を行う。
(7) 修得した医療および臨床検査に関する専門知識・技術を活用し、課題解決に繋げられる能力を修得するための教育を行う。

B. 健康科学部の地域・社会への貢献

健康科学部の地域・社会への貢献について、両学科の役割と特色を踏まえて記述する。

〔看護学科〕

1）役割

(1) 地域医療を担う看護職者の育成

看護の対象となる人々の地域での暮らしを支援すること、暮らしの視点は「地域」にあることを 1 年次から意識し理解できるように、1年次早期から「まちづくり論」「ボランティア活動論」を配置し、実習科目として病院での看護実践だけでなく、多様な人々が生活する地域を理解することを目的とした「地域実習」を配置した。

(2) チーム医療の一員として専門性を発揮できる看護職者の育成

1年次から3年次の医療や多様な療養の場での実習において、早期から多職種を理解し、チーム医療の基礎を学ぶことができるように、1年次に「チーム医療論演習Ⅰ」を、4年次に「チーム医療論演習Ⅱ」を配置した。北里大学は生命科学系総合大学として8学部を有するため、早期から全学の関連する職種と連携・協働しながら講義・演習をすることで、多様な状況におけるチーム医療のあり方について学修することができる。また、「統合実習」は、講義で学んだ知識を活用し、チーム医療について実際的に学ぶ実習として配置した。

(3) 医療の ICT 化に対応した教育の実践

各教室・実習室に無線 LAN によるインターネット環境やプロジェクター等の教育資材を整備し、PC やタブレット等の情報端末を活用した授業を展開する。今後、ICT を活用した医療がさらに進展することを考慮し、在学中より ICT ツールに習熟させ、ICT 化よる医療変革に対応でき、看護ケアの質向上に寄与する人材を育成する。また、デジタル教科書や ICT 教育支援システムを導入し、学生―教員間の双方向型授業を展開し、学生のアクティブ・ラーニングを促し、学びを深める。

2）特色

看護学科では、看護学部、医学部、未来工学部と連携し、看護の実践に必要な知識と技術を身につけることができます。また、地域医療を展開できる人材の養成を目指し、臨地実習では北里大学病院、北里研究所病院、北里大学メディカルセンターなどの特定機能病院をはじめ、新潟県下のさまざまな地域医療支援病院で看護実践を学ぶことができる。また、地域保健を担う人材を育成するため、保健師課程では保健所、市町村保健センター、母子健康センター、地域包括支援センター、老人福祉施設等での実践的な実習を配置している。

〔医療検査学科〕

1）役割

近年の医療供給体制は、高齢者人口の増加や感染症の発生、AI 技術の進化などの急速な変化に直面しています。このような状況の中で、臨床検査技師の役割も従来の職責に加えて、多方面での医療支援への参画が求められている。医療検査学科では、地域の医療に貢献するとともに、ICT と AI の活用にも対応できる臨床検査技師の育成を目指す。

2）特色

医療検査学科は、医療衛生学部、薬学部、未来工学部と連携し、医学検査の実践に必要な知識と技術を身につけると同時に、臨床検査技師のデータ処理とデータサイエンスス

キル、多職種連携を実践するチーム医療の一員としてのコミュニケーション能力の修得、地域医療に貢献する在宅医療の理解と在宅検査の実践を目指すことを特長としている。また、臨地実習では北里大学病院、北里研究所病院、北里大学メディカルセンターをはじめ、新潟県および東北、関東を中心に 60 余りの施設で医療現場における臨床検査の実践を学ぶことができる。

以上を踏まえて、健康科学部が当該地域・社会に十分貢献できると言える。

C. 定員設定

健康科学部は看護学科と医療検査学科の２学科で構成する。両学科とも、入学定員を 80 名、収容定員を 320 名とした。入学定員・収容定員については、両学科が養成する人材像を達成する上で展開する教育研究に対する教員配置や施設等の教育環境整備とその収支計画に加え、学生確保の実現性を考慮した上で設定した。

専任教員数は看護学科で 15 人、医療検査学科で 16 人としており、入学定員ベースで学生 5 人に 1 人の教員配置としている。また、健康科学部の施設は本学の併設校である北里大学保健衛生専門学院を利活用する。同学院の施設の一部を改修するなど、健康科学部の教育研究を展開する上で十分な環境を整備する。

また、学生における納付金設定については後述の通りであるが、4 年間の負担も考慮する必要があると考えている。これら教育環境の整備や学生に求める納付金など、開設後の収支バランスを鑑みた結果、この度の定員設定となった。

なお、この定員設定における学生確保については、後述するアンケート調査結果等から、問題はないと考えている。

D. 健康科学部が必要とされる理由

本学既存の看護学部、医療衛生学部は、高度医療現場でチーム医療を支えるメディカルスタッフに必要とされる高度な医療技術、知識を有し、高度医療現場で実践できる人材の養成を役割としている。

これに対し、新たに設置する健康科学部は社会の要請に応えうる、高度医療現場でチーム医療を支えるメディカルスタッフに必要とされる高度な医療技術、知識を有し、とりわけ地域医療を展開できる人材の養成を役割としている。このため、「生命科学の総合大学」としての本学の特徴を活かして、薬学部、医学部、看護学部、医療衛生学部、未来工学部等の学部ならびに附属病院である北里大学病院、北里研究所病院、北里大学メディカルセンターや実習先である地域の医療機関と連携をとって、高度医療から地域医療まで幅広く学ぶことができることが特色であるがゆえ、当該地域において必要であると考える。

本学では 1982（昭和 57）年に北里大学保健衛生専門学院を設置して以来、新潟県内に多くの医療人材を輩出してきた。前述のとおり、社会の変化と医療の高度化に伴い、教育レベルをより高め、高度な実践能力を兼ね備えた地域医療を担う人材の養成を目指すため、大学の学部として新たに健康科学部を設置する。

このような未来の地域医療を展開できる人材の養成を行うことについては、新潟県及び南魚沼市からの要望書において強く求められている。また、新潟県看護協会と新潟県臨床検査技師会からの要望書においては、新潟県内での看護師及び臨床検査技師の養成に期待が示されている【資料１】。

以上より、この度の健康科学部の設置は地域から必要とされていると考えている。

E. 健康科学部の入学金、授業料等の学生納付金の額と設定根拠

健康科学部の各学科の初年度の学生納付金は以下の通りである。

学　科　名	入　学　金（初年度のみ）	授　業　料	施設設備費	初年度合計
看護学科	300,000 円	1,300,000 円	200,000 円	1,800,000 円
医療検査学科	300,000 円	1,200,000 円	200,000 円	1,700,000 円

上記各学科の納付金は、私立大学である本学の財務状況・収支バランスと、他の近隣競合大学の学生納付金の設定額、そして入学生・在学生への経済的負担を配慮し、設定した。また、新潟県を中心とした近隣競合私立大学の初年度納付金の平均は看護師養成大学で 1,857,639 円（8 大学平均）、臨床検査技師養成大学で 1,838,003 円（4 大学平均）であることから、本学のこの度の設定額は妥当であると考えている【資料２】。

エ　学生確保の見通し

A. 学生確保の見通しの調査結果

健康科学部における学生確保の具体的な見通しを把握するため、受験対象者に対して健康科学部への進学意向調査（アンケート調査）を第三者機関の委託のもと、実施した【資料３】。調査対象は健康科学部を設置する新潟県に加え、秋田県、山形県、福島県、群馬県、富山県、長野県に所在し、本学（併設校である北里大学保健衛生専門学院含む）への進学実績がある高校とした。ただし、既設学部である看護学部看護学科及び医療衛生学部医療検査学科（ともに神奈川県相模原市）と区別するため、両学科における進学実績が多い南関東地域については対象高校から除外している。調査の概要及び分析結果は以下の通りである。

≪調査の概要≫

調査目的	北里大学が 2024（令和 6）年度に設置構想中の健康科学部「医療検査学科、看護学科（仮称）」（以下、「当該学部学科」と記す）における学生確保の見通しを第三者機関によりアンケート調査を用いて計ることを目的とする。
調査対象	2023（令和 5）年度に大学入試を受験する可能性が最も高い高校生（2024（令和 6）年卒業予定者）をアンケートの対象とした。調査対象となった学年は、調査時期が 2023（令和 5）年 2 月から 5 月であったため、回答者の学年が 2022（令和 4）年度高校 2 年生と 2023（令和 5）年度高校 3 年生であるが、どちらも 2024（令和 6）年卒業予定者であり、調査対象として適切であるといえる。また回答者の重複が起きないように、学年が異なる場合、同じ高校内でアンケートを実施しないようにした。 調査対象とする高校は大学進学実績等を考慮して抽出し 336 件に依頼、合計 216 校 21,937 件の回答を得た。
調査内容	● 問 1～2：回答者の基本情報（性別、居住地） ● 問 3～4：高校卒業後の希望進路、関心のある学問分野 ● 問 5：当該学部学科の教育の特色に対する興味・関心 ● 問 6：当該学部学科への受験意欲 ● 問 7：当該学部学科への入学意欲 ● 問 8：当該学部学科を受験しない理由 以上、全 8 問で選択肢式
調査時期	2023（令和 5）年 2 月～2023（令和 5）年 5 月
調査方法	アンケート調査実施の了承が得られた高校にアンケート用紙及び概要説明プリント（必要部数）を送付。教職員から調査対象者にアンケート調査用紙を配布し回答を得た。
回答件数	有効回答数 21,937 件 ◆アンケート対象者（学年）数 2022（令和 4）年度高校 2 年生：211 校 21,900 件 2023（令和 5）年度高校 3 年生：5 校 37 件

≪実施高校≫

都道府県	2022（令和 4）年度 高校 2 年生	2023（令和 5）年度 高校 3 年生	総計
秋田県	20 校	－	20 校
山形県	24 校	－	24 校
福島県	22 校	－	22 校
群馬県	34 校	－	34 校
新潟県	57 校	5 校	62 校
富山県	18 校	－	18 校
長野県	36 校	－	36 校
総計	211 校	5 校	216 校

≪アンケートの結果≫

高校卒業後の希望進路として、「大学」を選択したのは、回答者 21,997 人のうち 62.4%にあたる 13,687 人であった。また、関心のある学問分野において、本学健康科学部と同分野である「医療（看護学、臨床検査学含む）」を選択したのは、21,937 人のうち 21.3%にあたる 4,670 人であった。なお、高校の希望進路として「大学」を選択し、かつ、関心のある学問分野で「医療（看護学、臨床検査学含む）」を選択したのは、合計で 3,268 人であった。

この 3,268 人のうち、本学の「看護学科を受験したい」と回答したのは 427 人で、さらに受験し合格した場合に「入学したい」と回答したのは 98 人であった。

同様に、3,268 人のうち、「医療検査学科を受験したい」と回答したのは 323 人で、そのうち 103 人が受験し合格した場合「入学したい」と回答している。なお、受験に関する質問（問 6）については、「医療検査学科を受験したい」「看護学科を受験したい」「受験しない」という選択肢とし、1 つの学科しか選択できないように設定していることから、受験・入学に関する回答者の重複はない。

以下の表は上記で説明した「希望進路」「関心のある学問分野」「受験意欲」「入学意欲」を学科ごとに区分したものである。

◆看護学科（仮称）

＜問3＞ 大学	＜問4＞ 医療(看護学、臨床検査学含む)	＜問6＞ 受験したい	＜問7＞ 入学したい
13,687 人	3,268 人	427 人	98 人

◆医療検査学科（仮称）

＜問3＞ 大学	＜問4＞ 医療(看護学、臨床検査学含む)	＜問6＞ 受験したい	＜問7＞ 入学したい
13,687 人	3,268 人	323 人	103 人

本学の看護学科及び医療検査学科の入学定員はそれぞれ 80 人であり、本アンケートにおいて両学科とも入学定員を上回る回答結果を得ることができた。この通り、アンケート調査の各回答結果を分析した結果、健康科学部（看護学科、医療検査学科）を設置しても、問題なく学生確保が可能であると考えている。

B. 新設学部等の分野の動向

健康科学部は、看護師・保健師を養成する看護学科と、臨床検査技師を養成する医療検査学科で構成する。各分野の動向について、日本私立学校振興・共済事業団が毎年度公表する「私立大学・短期大学等入学志願動向」を用いて調べてみた。

「私立大学・短期大学等入学志願動向」における学部系統区分より、本学健康科学部の看護学科・医療検査学科は、「保健系」に含まれる。「保健系」における過去 10 年間（2013 年～2022 年）の推移を見てみると、学部数は 161 学部（2013 年）から 266 学部（2022 年）と 105 学部の増加となっており、10 年間で急速に増えた分野と言える。学部数が増えたことにより、入学定員についても 24,734 人（2013 年）から 39,789 人（2022 年）と、10 年間で 1.5 万人以上も増加している。それに比例するように志願者についても 157,627 人（2013 年）から 184,961 人（2022 年）と 27,334 人の増加となっており、学部数及び入学定員が増加する状況にあっても、志願者の確保は堅調に推移している。併せて入学定員充足率についても 2020 年まで 100%以上で推移しており、安定的な学生確保がなされてきた。なお、直近 2 年間については未充足となっているが、いずれも 99%台であることから、「保健系」は引き続き安定的な推移であると言える【資料４】。

続いて、「看護学部」について見てみる。「看護学部」は 2013 年の 58 学部から 2022 年の 107 学部と、10 年間でほぼ倍増している。その結果入学定員についても 5,302 人（2013 年）から 9,723 人（2022 年）と大幅な増加となっている。志願者もそれに比例するように 2013 年から 2022 年の 10 年間で 1.5 万人以上の増加（35,827 人→51,399 人）となっていることに加え、入学定員充足率も過去 10 年間で充足状況が続いており、非常に安定した学生確保ができている分野であると言える【資料５】。

次に臨床検査技師養成系学部について調べた。なお、臨床検査技師養成系学部については近隣他私立大学の事例を踏まえ、「保健系」のうち「医療技術学部」及び「医療保健学部」を抽出し、2 学部の合計値を算出した。「医療技術学部」及び「医療保健学部」は 2013 年の 9 学部から 2022 年の 15 学部と、10 年間で 6 学部の増加となっている。入学定員についても学部数の増加に伴い 2013 年から 2022 年の 10 年間で 1,065 人（2,940 人→4,005 人）の増加となっている。志願者数を見ると直近 5 年間は 2 万人前後と安定的に推移している状況である。入学定員充足率は直近 5 年間で 98%～99%で推移しており、100%に満たないまでも安定した推移と言える【資料６】。

以上の状況から、健康科学部が設置する各学科の分野は、増加傾向でありながらも安定した学生確保がなされている状況であることが分かる。

C. 中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向等

我が国の 18 歳人口は今後減少することが確実であり、文部科学省が公表する学校基本調査の「大学年齢別入学者」から、令和 4 年度における私立大学への入学者 502,006 人のうち 82.2%にあたる 412,890 人が 18 歳である状況を考慮すると、本学及び健康科学部の学生確保への影響は少なくないと考えている。

健康科学部の 1 期生の募集対象学年にあたる 2023 年の 18 歳人口を軸に、その後 5 年間の 18 歳人口の推計を算出したところ、全国規模の場合、2027 年までに 1.20 ポイントの減少となっている。2023 年から 2024 年にかけての減少が 3.09 ポイントと目立っているが、2025 年以降は微減が続いている。一方で、健康科学部を設置する新潟県を見ると、2023 年から 2027 年までに 4.28 ポイントの減少となっており、全国規模と比べて減少スピードが速いことが把握できる【資料７】。

将来的に 18 歳人口の減少が予測される新潟県の大学等への進学状況について、新潟県が公表する『令和 4 年度　大学等進学状況調査』より見てみる。新潟県における高等学校及び中等教育学校の卒業者数は 2014（平成 26）年の 20,091 人から 2020（令和 2）年の 18,854 人と、既に減少傾向となっている。大学等進学率については、全国の 55%前後と比べ低い水準で推移しているが、2017（平成 29）年以降は 3 年連続で増加している（46.3%→47.4%→47.9%→49.5%）。特に 2020（令和 2）年については前年から 1.6 ポイントも上昇しており、県内高校生における進学意欲が高まっている傾向にある。また、県内県外別の推移（2014（平成 26）年～2020（令和 2）年）を見ると、新潟県の高等学校及び中等教育学校卒業者のうち、大学等への志願者総数は 1.1 万人程度で推移しているなかで、県内志願者数は 4,400～4,500 人と横ばいの推移であるのに対し、県外志願者数は 2017（平成 29）年まで 7,000 人台が続いていたものの、2018（平成 30）年以降は 6,000 人台と減少傾向にある。また、進学者数についてもほぼ同様の推移となっている【資料８】。

以上の状況から、18 歳人口の減少が県内大学等進学者数の減少に必ずしも直結していな

いことが把握できる。ただし、新潟県内の 18 歳人口の減少は全国よりも速いことは前述の通りで、将来的には県内大学等進学者数にも影響が出ると考えられる。そのために、後述する取組から進学時に選択される大学を目指すとともに、生命科学の総合大学である本学の強みを生かして、大学全体で募集活動について強化していく。

D. 競合校の状況

健康科学部は、看護師を養成する看護学科と、臨床検査技師を養成する医療検査学科を新潟キャンパスに設置する。そのため、新潟県内にある看護師及び臨床検査技師の資格取得を目指せる私立大学を競合校として設定した。ただし、後述する臨床検査技師については、新潟県内に 1 大学（2023 年度より 2 大学となったが、本書類作成時点で情報の取得が困難であったため、1 大学とする）のみであるため、参考としてアクセスが良く、かつ既設校として募集を行っていた北里大学保健衛生専門学院への志願者・入学者として群馬県出身者が一定数いたことから、群馬県の大学も対象とした。

まず、看護学科の競合校の状況から見てみる。2022 年度時点における新潟県内の看護師養成私立大学は 3 大学あり、各大学の一般選抜入試と共通テスト利用入試の合計数を過去 5 年間（2018 年～2022 年）にわたり抽出した【資料９】。2018 年から 2022 年までの 3 大学を合計した志願者数は 971 人→1,027 人→891 人→991 人→854 人で推移しており、5 年間の平均は 947 人であった。実質倍率（受験者数／合格者数）も平均で 2 倍前後の推移となっていることから、一定の水準において選抜がなされていることが把握できる。また、近年は多様な大学入試選抜が行われている状況を鑑み、各大学の学生募集の状況を具体的に把握することを目的に、入学定員及び収容定員における充足率を調べた【資料 10】。その結果、3 大学のうち 2 大学は入学定員と収容定員ともに充足している一方で、1 大学については未充足であることがわかった。未充足の要因としては、当該大学が単科大学であることが大きいと考えている（充足する 2 大学については、他の学部・学科を展開している）。本学は今回設置する健康科学部のほか、生命科学に関する様々な学部を展開しており、大学の総合力をもって受験生確保に取り組む。

次に、医療検査学科の競合校の状況を見てみる。前述の通り、2022 年度時点における新潟県内の臨床検査技師養成私立大学は 1 大学のみであるため、群馬県内の私立 2 大学を加えた 3 大学の一般選抜入試と共通テスト利用入試の合計数を、過去 5 年間（2018 年～2022 年）にわたり抽出した【資料 11】。まず、新潟県の 1 大学のみを見ると、2018 年から 2022 年までの志願者数は平均 431 人で推移しており、実質倍率（受験者数／合格者数）も平均で 2.67 倍と、高い水準の選抜が行われていることが分かる。群馬県を見てみると、2021 年に新たに募集する大学が増えている。その影響もあり、2021 年の受験者数（志願者数が非公表となっているため、受験者数を使用）の合計が 467 人（331 人と 136 人の合計）に対して、2022 年の合計が 475 人（312 人と 163 人の合計）と、若干ではあるが増加傾向となってい

る。これは県内の臨床検査技師の知名度が上がったことに加え、受験生にとって受験機会が増加したことが要因であると考えられる。各大学の入学定員及び収容定員の充足率について見てみる【資料 12】。群馬県については 1 大学が充足、1 大学が未充足となっている。未充足となっている大学は入学定員が 95.0%と、収容定員を上回る充足率であることから改善傾向と言える。また、新潟県の 1 大学は入学定員・収容定員ともに充足していることから、安定的な学生募集がなされていることが把握できる。

なお、今回設置する看護学科及び医療検査学科の定員はそれぞれ 80 人としているが、競合校と比べて低いもしくは同規模といえる範囲内であり、大半の大学において充足状況となっていることから、それぞれの学生確保については、問題なく充足できると考えている。

E. 既設学部等の学生確保の状況

本学では、2023（令和 5）年度時点で 8 学部 16 学科を設置しており、白金キャンパス（東京都港区）、相模原キャンパス（神奈川県相模原市）、十和田キャンパス（青森県十和田市）の 3 つのキャンパスにおいて教育を展開している。この度設置を行う健康科学部は、学部・学科を設置しているキャンパスとしては 4 つ目となる新潟キャンパス（新潟県南魚沼市）で教育・研究を展開する。

過去 5 年間（2019 年度から 2023 年度）における既設学部の充足状況から、本学では安定的な学生確保が行われていると言えよう。募集は一部の専攻を含めた 20 の学科・専攻で行なっており、そのうち 18 学科・専攻は 5 年平均の充足率が 100%を超えている状況である。2023 年度より新たに設置した未来工学部データサイエンス学科の初年度の募集状況は志願者 451 人、充足率 105.0%となり、本学の特色・魅力が受験生に十分に理解されている結果が示されたと認識している。

なお、5 年平均の充足率において未充足となっている獣医学部の 2 学科（動物資源科学科と生物環境科学科）については、新型コロナウイルス感染症に伴う受験対象者との接触の減少もあり、近年は苦戦が続いている。特に生物環境科学科については、過去 3 年間で未充足が続くのみならず、2 年間で充足率が 50%台となっていることから、早急な対応が必要であると認識している。具体的な対応として、キャンパス移転とともに、社会的に強く求められる GX（グリーン・トランスフォーメーション）・DX（デジタル・トランスフォーメーション）に関連する学科への改組を行う計画である。また、動物資源科学科についても学内での調整後に、定員設定の見直しを行う。両学科の対応については、2023 年度から 2024 年度にかけて実施する予定である【資料 13】【資料 14】。

F. その他、申請者において検討・分析した事項

新潟キャンパスでは、この度の健康科学部設置を行う以前から、併設校として北里大学保

健衛生専門学院を運営しており、保健看護科及び臨床検査技師養成科を含む3つの科と1専攻科を展開するとともに、多くの学生を受け入れてきた。健康科学部を設置するにあたり、養成する人材像を頂点とする各ポリシーや教育課程、入試方式などを刷新しているため、入学者層についても変化すると考えている。一方で、これまでに北里大学保健衛生専門学院が築き上げてきた高等学校等とのネットワークは学生確保戦略において極めて重要であると考えており、後述する取組とともに更なる関係構築を目指す必要がある。

北里大学保健衛生専門学院の保健看護科及び臨床検査技師養成科では、キャンパスがある新潟県をはじめ、様々な地域から入学者を受け入れてきた。保健看護科及び臨床検査技師養成科における過去5年間の入学者を見ると、保健看護科では6割の入学生が「新潟県」出身者ともっとも多く、その他では10%弱の「長野県」と「山形県」に加えて、「福島県」「群馬県」「東京都」から入学してきている。臨床検査技師養成科では、4割弱の「新潟県」に加えて「長野県」からの入学者が多い。また、その他に「秋田県」「山形県」「福島県」「群馬県」「富山県」からの入学も目立っている。臨床検査技師養成科の入学実績が保健看護科と比べて多くの地域に分散している最たる原因は、臨床検査技師の養成校が少ないことだと考えている。このように、これまで北里大学保健衛生専門学院では新潟県に加えて多くの地域から学生を受け入れてきた実績があり、このネットワークは健康科学部となっても継承し、学生確保につなげていく【資料15】。

オ　学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

A. 広報媒体の活用

本学では大学及び各学部・学科等の特色や魅力についてわかりやすく説明するために、『大学ガイドブック』を毎年度作成し、受験生を中心に配布を行っている。2022年度は11万5千部を発行するとともに、本学の入試情報Webサイトでもデジタルパンフレットとしていつでも閲覧が可能となっている。一方で、同ガイドブックの目的は大学の全体像をイメージしてもらうこととしているため、学部学科の詳細な情報については別冊のリーフレットや学部専用のガイドブックを作成している。

健康科学部については、認可までは“構想中”と明記するなど受験生に対して表現に十分に注意した上でリーフレットを配布し、これまでに約4万7千部を配布した。認可後については、受験生からの認知度向上並びに教育内容やキャンパスライフについて具体的なイメージを持ってもらうことを目的に、健康科学部独自のガイドブック作成を予定している。

B. Webサイトでの情報発信

本学の Web サイトに健康科学部の特設サイトを立ち上げ、情報発信を行っている。特設サイトでは、資料請求とともに健康科学部に設置する看護学科及び医療検査学科の「養成する人材像」、「主な授業科目」、「取得可能な資格・免許」、「特色」、「卒業後の進路」、「設置予定地」等について、“構想中で変更となる場合がある”旨の案内とともに掲載している。2023 年 5 月末時点で約 7 万件（延べ数）のアクセス状況となっており、今後も進学イベントやオープンキャンパス等の情報を積極的に発信することで、引き続き受験生の確保につなげる。

C. オープンキャンパス・進学相談会の実施

オープンキャンパスでは、本学の紹介や学部・学科の紹介、キャンパス案内、施設見学、模擬授業、入試に関する説明会、在籍学生との座談会など、時期に応じて適宜プログラムを組み、受験生等に対して本学における教育環境を紹介している。また、オープンキャンパスでは、受験生や保護者の受験・進学における疑問や不安に対応できるように、個別相談会場を設けている。

健康科学部における 2023 年度のオープンキャンパスの実施は 5 回を予定している。また、本学の既設学部が集まっている相模原キャンパスで行う際も、健康科学部の専用相談ブースを設け、学部学科の案内を行うとともに、個人相談会の機会を設け受験生確保に向けて周知を図っていく。

D. 学外における説明会・相談会の実施参加

受験生に本学をより深く理解してもらうことを目的に、学外の進学説明会・相談会に多数参加している。説明会・相談会では、本学専用のブースを設け、受験生・保護者等に対して本学の特色や入試等について説明を行う。また、オープンキャンパス同様に個別相談にも対応している。

2022 年度は主に 5 月から 10 月にかけて、北海道・東北地区、関東・首都圏地区、北陸・甲信越地区、東海地区、近畿地区、中国・四国地区、九州地区の各主要都市で開催された 36 日程の説明会・相談会に参加した。2023 年度も大学全体及び健康科学部への理解を深めてもらい、その後の受験につなげられるよう同数の参加を予定している。

また上記のほか、2023 年度は健康科学部に特化した説明会・相談会を甲信越地区、東北地区、関東地区を中心に 60 日程予定している。

E. 高校への訪問活動

健康科学部の教育内容や入試情報の認知向上を目的に、高校への訪問活動を予定している。訪問は各高校の進路指導部へ赴き、健康科学部の紹介に加え、募集に関する案内を行う

とともに、当該高校の生徒に興味を持ってもらえるようポスターやリーフレット、ガイドブックの配架依頼を行っている。訪問活動は複数名の人員を配置し、新潟県内の高校に加え、本学既設学部・学科等への進学実績がある高校を中心に訪問を予定する。具体的計画としては、2023 年度は 150 校への訪問を予定している。

F. 出張講義の実施

本学では「生命科学の総合大学」として、生命科学の魅力を伝えることを目的に、高校生を対象とした出張講義を実施している。講義テーマは高校の要望に詳細に対応できるよう、学部学科ごとに定め、2023 年 6 月時点では 100 テーマ程度の講義が提供可能となっている。出張講義は高校生や高校教員に対して、本学の教員が専門分野における講義を直接行うことは本学での学びを体感してもらう機会と捉えていることから、健康科学部においても、生命科学や医療科学のテーマを中心に、積極的に実施する計画である。

（２）人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

健康科学部では、学部・学科単位で以下のとおり定める。

【健康科学部】

健康科学部では、社会の要請に応えうる、高度医療現場でチーム医療を支えるメディカルスタッフに必要とされる高度な医療技術、知識を有し、地域医療を展開できる人材の養成を目的としています。そのための教育研究上の目的は、(1) 社会の要請に応えうる幅広い医療知識と技能の修得、(2) チーム医療における高度な実践力の修得としています。

〔看護学科〕

健康科学部看護学科では、高度医療、地域医療、医療安全の確保、予防医療、介護予防など、多様化した保健医療に対する社会の要請に応えうる幅広い知識と技能を備え、看護専門職者としてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目的とし、「生命科学系 総合大学」という本学の特長を活かして他学部との連携のもとに教育を行っていきます。

そのための教育研究上の目的として、看護職者の具体的能力である (1) 人間性、(2) 思考力、(3) 表現能力、(4) 看護実践能力、(5) 改革能力の 5 つを強化することとしています。

〔医療検査学科〕

健康科学部医療検査学科では、医学検査を実践するために必要な基礎的・専門的知識と技術を修得し、検体検査や生理検査によって得られた精度の高い検査データを医師に提供するとともに、医療現場でチーム医療を実践し、地域医療に貢献できる臨床検査技師の養成を目的としています。

そのための教育研究上の目的は、(1) 医療人の一員として求められる幅広い教養と豊かな人間性、確固たる倫理観に裏打ちされた使命感の修得、(2) 臨床検査の基盤となるバイオサイエンスの理論や技術の修得、(3) 臨床診断に不可欠な臨床検査技術の理論および実践力の修得、(4) 医療現場におけるチーム医療の一員としての重要性の理解と実践力の修得、(5) 地域・在宅医療にも対応できる臨床検査技術の修得としています。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

ア　外部資料及び統計資料における人材需要

１）看護学科

日本看護協会によると、我が国の看護師数は 2011 年（1,495,572 人）から 2019 年（1,683,295 人）にかけて 12.6 ポイント、18.7 万人増加している。新潟県においても新潟県福祉保健部 医師・看護職員確保対策課による『令和 4 年度　新潟県看護関係者の現状』より、2012（平成 24）年の 19,797 人から 2020（令和 2）年には 23,390 人と、8 年間で 3,493 人が増えていて、全国同様に増加傾向となっている【資料 16】。

看護師が増加傾向であるなかで、新潟県では 2020 年 3 月に『看護職員需給見通し』を公表しており、引き続きの看護職員の確保及び育成に取り組む方針を打ち出している。同見通しでは、新潟県の看護職員の状況として、①「人口 10 万人当たりの看護職員数は全国平均を上回っているものの、職員の高齢化及び地域間の偏在が見られる状況」、②「県内病院における募集人数に対する採用人数の割合は 7～8 割程度であるほか、ナースセンターにおける看護職員の求人倍率は全国平均と比べ高くなっている。（略）現時点では看護職員は不足している状況」、③「病院によっても看護職員の確保状況に差が生じている」と 3 つの課題について指摘している。また、2025 年（令和 7 年）に向けた需給については、ワークライフバランスの充実度合いによるシナリオ毎（①超過勤務 10 時間以内／月、有給休暇取得日数 5 日以上／年、②超過勤務 10 時間以内／月、有給休暇取得日数 10 日以上／年　※現状に近い想定、③超過勤務 0 時間以内／月、有給休暇取得日数 20 日以上／年）で想定して示されており、2018 年（平成 30 年）時点ではいずれのシナリオでも大幅に不足、2025 年（令和 7 年）では③の場合に不足する、としている。ただし、前回の需給見通しの状況からは 1,000 人以上不足していること、領域別及び地域別の偏在がある、訪問看護や介護分野における看護ニーズが大きく増加することが見込まれることを踏まえ、今後も看護職員の確保が必要であると結論付けている【資料 17】。

また、本学の健康科学部看護学科では、保健師についても養成を行う。『看護職員需給見通し』では、主に保健師が求められる「保健所、市町村、学校養成所等」の需給数も上記看護職員と同様のシナリオ毎に提示しており、3 つすべてのシナリオにおいて不足であるとしている【資料 18】。

本学の健康科学部看護学科で養成する人材は上記の通りであるが、『看護職員需給見通し』において指摘される訪問看護などにも対応できるよう、カリキュラムも工夫した上で構成している。従って、本学が輩出する人材は、地域において需要が続くと考えている。

２）医療検査学科

厚生労働省が公表する『医療施設・病院報告』より、病院における臨床検査技師（常勤換算従事者数）は 2011（平成 23）年の 49,772.1 人から 2020（令和 2）年の 55,169.8 人と、約 10 年間で 5,397.7 人の増加となっている。特に一般病院及び医育機関での増加が目立っている【資料 19】。併せて厚生労働省が取りまとめている『一般職業紹介状況（職業安定業務統計)』より、臨床検査技師を含む「医療技術者」の有効求人倍率の推移を見てみると、2018（平成 30）年度で 2.85 倍、2019（令和元）年度で 3.07 倍となっており、1.4 倍前後で推移する職業全体と比較しても高い水準で推移していることから、医療技術職の社会的需要が高いと考えられる【資料 20】。

我が国では少子高齢化が進展しており、いまから約 40 年後の 2065（令和 47）年には、我が国の 2.6 人に 1 人が 65 歳以上の者となる社会が到来すると推計されている。そのような社会を迎えるなかで医療体制は大きな変革が求められているが、一般社団法人日本臨床衛生検査技師会では『臨床検査技師による在宅医療推進のための提言書』を 2021（令和 3）年 3 月に公表し、臨床検査技師の在宅医療へのシフトと、その際に求められる能力について言及している。そのなかで、臨床検査技師が在宅医療を行う上で必要となる在宅スキルに加え、「チーム医療（多職種との連携)」、「コミュニケーション能力」の重要性、さらには成功例として「IT 技術の駆使」を挙げている【資料 21】。医療検査学科で養成する人材は上記の通りであるが、これからの地域医療の発展を考慮して、「在宅検査演習」の科目を配置している。また、本学では 3 つの附属病院を運営していることもあり、かねてからチーム医療の重要性を踏まえ、2006（平成 18）年以降、医療系学部においてチーム医療に関する科目を必修で配置している。同科目では、各学部をバランスよく配置した 10 人前後のグループに分かれ、講義・演習を踏まえてチームディスカッション及び発表などを実施し、技術に留まらず、シチュエーション別での考え方や行動について多職種間で共有しあっている。この度設置する健康科学部においても同様に配置をしている。また、「コミュニケーション」や「IT 技術」の向上を目的に、「コミュニケーション学」「まちづくり論」「情報処理」「データサイエンス概論」を配置しており、同提言書において指摘されている医療体制の変革に対応できる地域で活躍する人材を養成する。以上から、医療検査学科を卒業する人材の需要は、非常に高いものと考えている。

イ　アンケート調査結果を踏まえた人材需要

健康科学部で養成する人材について社会からの需要がどの程度あるかを把握するため、採用需要に関するアンケート調査を行った【資料 22】。アンケートは健康科学部の卒業後の

就職先として想定される医療施設等の人事・採用担当者を対象とし、69 件の回答（配布 228 件／回収率 30.3%）を得た。

健康科学部が養成する人材の地域的・社会的ニーズがあるかの質問に対して、「ニーズは極めて高い」に 43 件（69 件のうち 62.3%）、「ニーズはある程度高い」に 26 件（同 37.7%）が回答しており、すべての事業所が本学健康科学部への社会的なニーズの高さが認められる結果となった。

看護学科の卒業生に対する採用意向については、46 件より「採用したい」の回答が得られた。この 46 件には、採用可能な人数についても質問しており、その合計人数は 114 人であった。同様に医療検査学科の卒業生に対する採用意向については、36 件より「採用したい」の回答が得られた。この 36 件における採用可能な人数の合計は 93 人であった。

看護学科、医療検査学科の入学定員はそれぞれ 80 人であり、両学科において 80 人を上回る採用意向を示す回答が得られた。

本アンケート調査では、健康科学部が養成する人材は社会的ニーズが極めて高いとの回答と、各学科の入学定員を上回る採用意向を得ていることから、社会的な人材需要の動向等を踏まえたものであると考えている。

学生の確保の見通し等を記載した書類（資料）

目次

【資料１】	要望書	P. 2
【資料２】	近隣競合校における学生納付金一覧	P. 6
【資料３】	高校生アンケート調査報告書	P. 7
【資料４】	私立大学における「保健系」学部の入学志願動向	P.28
【資料５】	私立大学「看護学部」の入学志願動向	P.29
【資料６】	私立大学「医療技術・医療保健系学部」の入学志願動向	P.30
【資料７】	18 歳人口の将来推計	P.31
【資料８】	新潟県『令和４年度　大学等進学状況調査』　※抜粋	P.32
【資料９】	看護学科の近隣競合校による一般選抜の募集状況	P.34
【資料 10】	看護学科の近隣競合校の充足状況	P.35
【資料 11】	医療検査学科の近隣競合校による一般選抜の募集状況	P.36
【資料 12】	医療検査学科の近隣競合校の充足状況	P.37
【資料 13】	本学既設学部・学科の学生募集の状況	P.38
【資料 14】	本学既設学部・学科の志願者数（実数）	P.42
【資料 15】	北里大学保健衛生専門学院の都道府県別入学者数	P.46
【資料 16】	看護師数の推移（全国／新潟県）	P.47
【資料 17】	新潟県看護職員需給見通しについて　※抜粋	P.48
【資料 18】	保健師の需要予測（新潟県看護職員需給見通しより抜粋）	P.53
【資料 19】	臨床検査技師の従事者数推移（病院／一般診療所）	P.54
【資料 20】	医療技術者の有効求人倍率推移	P.55
【資料 21】	医療検査技師による在宅医療推進のための提言書　※抜粋	P.56
【資料 22】	人材需要アンケート調査報告書	P.61

【資料１】要望書（4件）

北里大学「健康科学部（仮称）」の設置に関する要望書

新潟県は県民の健康寿命が延伸し、すべての世代が生き生きと暮らせる「健康立県」の実現を目指すことを基本理念として保健（健康）・医療、福祉等の施策を推進してきたところです。

しかし、一方で少子高齢化の急速な進行、医療技術の進歩や高度化、疾病構造など、本県の保健医療を取り巻く環境は大きく変化しています。そうした中で、多様化する県民の保健医療ニーズに的確に対応してくためには、保健医療分野における優秀な人材の確保が必要不可欠であり、とりわけ、看護職員については、今後、在宅医療のニーズが高まる中で需要が見込まれる訪問看護に従事する者など、その確保に加え、専門性の高い看護職員の育成に向け、様々な取組を実施しているところです。

このたび、本県に「健康科学部（仮称）」の設置を計画している北里大学は、系列校である北里大学保健衛生専門学院（新潟県南魚沼市）の 1982 年の開学以来、医療保健分野において多くの優秀な人材を輩出し、地域に多大なる貢献をしております。

同大学では、「健康科学部（仮称）」において、医療現場でチーム医療を支える高度な医療技術と知識を備え、さらに地域医療を展開できる人材養成に取り組んでいくとしていることから、本県が進める政策と方向性を同じくするものと考えております。また、看護職員や臨床検査技師等に対し、年々求められる知識や技能の専門化・高度化が進む中、４年制教育課程の設置は有意義であり、患者の多岐にわたるニーズに対応することができると考えております。

つきましては、医療人の育成に長年の実績を有する北里大学が本県に設置する「健康科学部（仮称）」に関し、計画どおりの設置に特段のご配慮を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和５年５月 26 日

新潟県知事　花角　英世

文部科学大臣　永岡 桂子　様

南魚企画第 22 号
令和 5 年 5 月 17 日

学校法人北里研究所
　理事長　小林　弘祐　様

南魚沼市長　　林　　茂 男

北里大学健康科学部（仮称）設置に係る要望について

謹啓　時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび貴法人におかれましては、新学部（健康科学部）設置計画を発表され、医療現場でチーム医療を支える高度な医療技術と知識を備え、さらに地域医療を展開できる人材の養成を目的とした 4 年制学部として看護師・保健師、臨床検査技師養成に取り組まれることは非常に有意義であり、当市といたしましても大いに期待を寄せています。

当市におきましては、今後も進む高齢化社会を踏まえ、医療・介護・福祉などが連携した継続可能なまちづくりのため、安定的な医療提供体制の構築に向け検討を重ねており、今後ますます多様化する保健医療に対しリーダーシップを存分に発揮できる人物的にも魅力あふれる人材が必要不可欠であります。

このたびの新学部（健康科学部）設置計画につきましては、当市が進める政策と方向性を同じくするものであり、目指すべき地域医療を担う質の高い人材を養成していくことの重要性を鑑みましても大いに歓迎するものであります。何卒ご尽力を賜りますようお願いいたします。

以　上

新看協第　89　号
令和５年６月１日

学校法人北里研究所
理事長　　小林　弘祐　様

公益社団法人新潟県看護協会
会　長　　斎藤　有子

北里大学健康科学部看護学科（仮称）の開設に向けて

このたび、貴法人では、南魚沼市に北里大学健康科学部看護学科（仮称）を開設する計画を進めていると伺いました。多様化した保健医療に対する社会の要請に応えることができる知識と技能を備え、健康社会の実現に向けて病院や地域・在宅の現場で質の高い医療に貢献できる人材の養成を目的に掲げておられ、当協会といたしましても、その実現に大いに賛同し、期待するものであります。

当協会は、人々の人間としての尊厳を維持し、健康で幸福でありたいという普遍的なニーズに応え、人々の健康な生活の実現に貢献することを使命としています。

そのために「看護の質の向上」、「安心して働き続けられる環境づくり」、「県民のニーズに応える看護領域の開発・展開」を基に、重点目標を掲げ事業を展開しています。

重点目標は、「地域の人々の健康と療養を支える看護の機能強化と連携」、「地域の健康危機管理体制の構築」、「看護職が働き続けられる勤務環境づくりの推進」、「看護施策を推進するための持続可能な基盤強化」で、多様化・高度化が進む人々の医療・看護ニーズに応える取り組みを進めております。

貴法人が、これまで長きにわたり、看護教育の発展にご尽力されており、このたびあらたに生命科学系総合大学の特長を活かした学士教育を新潟県で展開されることは、これからまさに求められる看護職の知識・技能を習得することができると考えております。

新潟県では、地域の医療体制の再構築の議論が進み、看護職が人々の健康と生活を地域で支え、健康に関わる新たなニーズに対して、役割を発揮していくことが期待されています。

ぜひとも看護学科開設計画の実現化に向けて、ご尽力くださいますようお願いします。

新臨技発第 25 号
令和 5 年 5 月 24 日

学校法人北里研究所
　理事長　小林　弘祐　様

一般社団法人　新潟県臨床検査技師会
会長　渡邊　博昭

北里大学健康科学部の設置計画について（要望）

謹啓　時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび貴学におかれましては、新学部である健康科学部に医療検査学科を設置し、臨床検査技師の 4 年制教育に取り組まれる計画について伺いました。

医療の高度化や検査機器の技術進歩に伴い、臨床検査技師に求められる知識や技術はこれまで以上に高度専門化しております。また、医療現場における働き方改革の鍵とされるタスク・シフト／シェアの推進により新たに 10 行為が認められ、専門職業人としての質向上がますます求められております。高度なチーム医療を実践でき、人間性豊かで高い倫理観、創造性を発揮し、科学的に問題を解決する能力を備えた医療人を育成するためには、4 年制教育を展開することが必須であると考えます。貴学は長年にわたり医療従事者の教育に尽力されており、新学部設置により、さらなる優秀な人材を医療業界に輩出することを期待するところです。

超高齢化社会を迎えている今日、これからの臨床検査技師は在宅医療および認知症医療への参画が必要不可欠とされており、それぞれワーキンググループにて種々検討がなされております。業務範囲の拡大、さらなる医療の高度化、これらに応えられる若い人材の養成が求められております。

このようなことから、本会は貴学の新学部設置を大いに歓迎いたしますので、設置実現に向けて鋭意ご尽力いただきますよう要望いたします。

謹白

１（書類等の題名）

〇近隣競合校における学生納付金一覧　（本文９ページ、資料６ページ【資料２】）

２（出典）

〇株式会社旺文社、各大学 Web サイト

３（引用範囲）

〇『大学受験パスナビ』　および　各大学 HP の情報公開から、

新潟県を中心とした計 12 大学について、2023 年度初年度納付金を引用した。

【資料3】高校生アンケート調査報告書

北里大学
健康科学部 医療検査学科、看護学科（仮称）
学生確保の見通し調査
【設置構想についての高校生アンケート調査】
報告書

2023（令和 5）年 6 月 1 日

株式会社高等教育総合研究所

目　次

１.「設置構想についての高校生アンケート調査」概要 2
２.「設置構想についての高校生アンケート調査」集計結果 4
３.「設置構想についての高校生アンケート調査」集計結果のポイント 7
４.「設置構想についての高校生アンケート調査」集計結果の分析 12

添付資料 14

1.「設置構想についての高校生アンケート調査」概要

調査目的	北里大学が 2024（令和 6）年度に設置構想中の健康科学部「医療検査学科、看護学科（仮称）」（以下、「当該学部学科」と記す）における学生確保の見通しを第三者機関によりアンケート調査を用いて計ることを目的とする。
調査対象	2023（令和 5）年度に大学入試を受験する可能性が最も高い高校生（2024（令和 6）年卒業予定者）をアンケートの対象とした。調査対象となった学年は、調査時期が 2023（令和 5）年 2 月から 5 月であったため、回答者の学年が 2022（令和 4）年度高校 2 年生と 2023（令和 5）年度高校 3 年生であるが、どちらも 2024（令和 6）年卒業予定者であり、調査対象として適切であるといえる。また回答者の重複が起きないように、学年が異なる場合、同じ高校内でアンケートを実施しないようにした。 調査対象とする高校は大学進学実績等を考慮して抽出し 336 件に依頼、合計 216 校 21,937 件の回答を得た。 ◆アンケート対象者の内訳 2022（令和 4）年度高校 2 年生：211 校 21,900 件 2023（令和 5）年度高校 3 年生：5 校 37 件
調査内容	● 問 1～2：回答者の基本情報（性別、居住地） ● 問 3～4：高校卒業後の希望進路、関心のある学問分野 ● 問 5：当該学部学科の教育の特色に対する興味・関心 ● 問 6：当該学部学科への受験意欲 ● 問 7：当該学部学科への入学意欲 ● 問 8：当該学部学科を受験しない理由 以上、全 8 問で選択肢式
調査時期	2023（令和 5）年 2 月～2023（令和 5）年 5 月
調査方法	アンケート調査実施の了承が得られた高校にアンケート用紙及び概要説明プリント（必要部数）を送付。教職員から調査対象者にアンケート調査用紙を配布し回答を得た。
回答件数	有効回答数 21,937 件 ◆アンケート対象者（学年）数 2022（令和 4）年度高校 2 年生：211 校 21,900 件 2023（令和 5）年度高校 3 年生：5 校 37 件

◆アンケート実施高校（都道府県・学年別）

都道府県	2022（令和 4）年度 高校 2 年生	2023（令和 5）年度 高校 3 年生	総計
秋田県	20 校	－	20 校
山形県	24 校	－	24 校
福島県	22 校	－	22 校
群馬県	34 校	－	34 校
新潟県	57 校	5 校	62 校
富山県	18 校	－	18 校
長野県	36 校	－	36 校
総計	211 校	5 校	216 校

2.「設置構想についての高校生アンケート調査」集計結果

※「構成比(%)」はいずれも、少数点第二位を四捨五入。

問１　あなたの性別を教えてください。

選択肢	回答件数	構成比
女性	10,968	50.0%
男性	9,845	44.9%
その他	276	1.3%
無回答	848	3.9%
合計	21,937	100.0%

問２　あなたのお住まいの都道府県を教えてください。

選択肢	回答件数	構成比	選択肢	回答件数	構成比
北海道	9	0.0%	滋賀県	4	0.0%
青森県	5	0.0%	京都府	4	0.0%
岩手県	2	0.0%	大阪府	12	0.1%
宮城県	3	0.0%	兵庫県	4	0.0%
秋田県	1,744	8.0%	奈良県	5	0.0%
山形県	1,966	9.0%	和歌山県	0	0.0%
福島県	2,548	11.6%	鳥取県	2	0.0%
茨城県	4	0.0%	島根県	4	0.0%
栃木県	31	0.1%	岡山県	0	0.0%
群馬県	4,393	20.0%	広島県	1	0.0%
埼玉県	39	0.2%	山口県	0	0.0%
千葉県	2	0.0%	徳島県	2	0.0%
東京都	15	0.1%	香川県	1	0.0%
神奈川県	6	0.0%	愛媛県	0	0.0%
新潟県	5,671	25.9%	高知県	0	0.0%
富山県	1,061	4.8%	福岡県	0	0.0%
石川県	1	0.0%	佐賀県	1	0.0%
福井県	1	0.0%	長崎県	2	0.0%
山梨県	4	0.0%	熊本県	0	0.0%
長野県	4,333	19.8%	大分県	0	0.0%
岐阜県	0	0.0%	宮崎県	0	0.0%
静岡県	4	0.0%	鹿児島県	1	0.0%
愛知県	3	0.0%	沖縄県	22	0.1%
三重県	1	0.0%	無回答	26	0.1%
合計				21,937	100.0%

問３　高校卒業後の希望進路について教えてください。

選択肢	回答件数	構成比
大学	13,687	62.4%
短期大学	791	3.6%
専門学校	4,010	18.3%
就職	2,815	12.8%
その他	315	1.4%
無回答	319	1.5%
合計	21,937	100.0%

問４　あなたが関心のある学問分野を教えてください。（あてはまるもの全てにマーク）

選択肢	回答件数	回答率
医療（看護学、臨床検査学含む）	4,670	21.3%
医学・歯学・薬学	2,061	9.4%
理学・工学・情報	5,073	23.1%
教育・保育	2,895	13.2%
スポーツ・体育	2,560	11.7%
文学・歴史・心理	2,610	11.9%
経済・経営・ビジネス	4,073	18.6%
法学・政治	1,173	5.3%
社会・社会福祉・観光	1,788	8.2%
外国語・国際関係	1,830	8.3%
栄養・家政	1,496	6.8%
芸術	2,186	10.0%
その他	2,683	12.2%

※複数回答項目のため、回答数は延べ。回答率＝回答件数/21,937 件

問５　本学が構想中の「健康科学部（仮称）」の特色は以下の通りです。あなたが興味・関心を感じる特色を教えてください。
（あてはまるもの全てにマーク）

選択肢	回答件数	回答率
医療職に関する資格・免許の取得を目指せる	10,091	46.0%
地域社会で求められる医療の知識・技術を修得できる	3,906	17.8%
複数の医療職と連携し、チーム医療を学ぶことができる	4,379	20.0%
附属 3 病院や地域の病院との連携で、臨床教育が充実している	3,739	17.0%
「生命科学」の総合大学という特色を生かした他学部との連携がある	2,292	10.4%
資格取得や就職に向けたサポートが充実している	9,561	43.6%

※複数回答項目のため、回答数は延べ。回答率＝回答件数/21,937 件

問６　あなたは本学が構想中の「健康科学部（仮称）」を受験したいと思いますか。

選択肢	回答件数	構成比
医療検査学科（仮称）を受験したい	508	2.3%
看護学科（仮称）を受験したい	663	3.0%
受験しない	19,848	90.5%
無回答	918	4.2%
合計	21,937	100.0%

以下の問７は、問６で「医療検査学科（仮称）を受験したい」または
「看護学科（仮称）を受験したい」と回答した合計 1,171 人が対象である。

問７　あなたは問６で「受験したい」と回答した学科を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。

選択肢	回答件数	構成比
入学したい	327	27.9%
併願校の結果によっては入学したい	827	70.6%
無回答	17	1.5%
合計	1,171	100.0%

以下の問８は、問６で「受験しない」と回答した 19,848 人が対象である。

問８　あなたは本学が構想中の「健康科学部（仮称）」を受験しないと回答された理由をお答えください。
（あてはまるもの全てにマーク）

選択肢	回答件数	回答率
興味・関心のある分野ではないから	14,072	70.9%
興味・関心のある分野だが、他大学への進学を希望しているから	2,747	13.8%
興味・関心のある分野だが、さらに詳細を知った上で検討したいから	1,061	5.3%
通学が不便そうだから	1,491	7.5%
学費が高いから	1,994	10.0%
その他	1,444	7.3%

※複数回答項目のため、回答数は延べ。回答率＝回答件数/19,848 件

3.「設置構想についての高校生アンケート調査」集計結果のポイント

※「構成比(%)」はいずれも、少数点第二位を四捨五入。

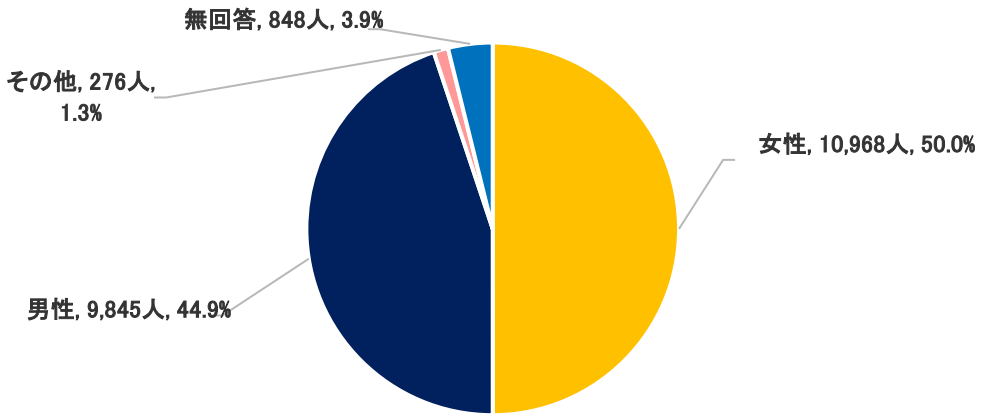
● 回答者の居住地は、新潟県を中心にキャンパスにアクセスしやすい 3 県の合計が 65.6%

北里大学が 2024（令和 6）年度に設置構想中の健康科学部「医療検査学科、看護学科（仮称）」に係る「設置構想についての高校生アンケート調査」において、有効回答 21,937 件の集計を行った。

回答者の性別は「女性」が 10,968 人（50.0%）、「男性」が 9,845 人（44.9%）、「その他」が 276 人（1.3%）から回答を得た。

回答者の居住地については、当該学部学科が所在する「新潟県」が 5,671 人（25.9%）で最も多かった。また、新潟県に隣接し、かつキャンパスである南魚沼市へのアクセスが良い「群馬県」が 4,393 人（20.0%）、「長野県」が 4,333 人（19.8%）で、3 県の合計は 14,397 人（65.6%）であった。

【グラフ】回答者の性別について＜問 1 の結果より＞



【表】回答者の居住地について＜問 2 の結果より＞

選択肢	件数	構成比	選択肢	件数	構成比	選択肢	件数	構成比	選択肢	件数	構成比
北海道	9	0.0%	埼玉県	39	0.2%	静岡県	4	0.0%	広島県	1	0.0%
青森県	5	0.0%	千葉県	2	0.0%	愛知県	3	0.0%	徳島県	2	0.0%
岩手県	2	0.0%	東京都	15	0.1%	三重県	1	0.0%	香川県	1	0.0%
宮城県	3	0.0%	神奈川県	6	0.0%	滋賀県	4	0.0%	佐賀県	1	0.0%
秋田県	1,744	8.0%	新潟県	5,671	25.9%	京都府	4	0.0%	長崎県	2	0.0%
山形県	1,966	9.0%	富山県	1,061	4.8%	大阪府	12	0.1%	鹿児島	1	0.0%
福島県	2,548	11.6%	石川県	1	0.0%	兵庫県	4	0.0%	沖縄県	22	0.1%
茨城県	4	0.0%	福井県	1	0.0%	奈良県	5	0.0%	無回答	26	0.1%
栃木県	31	0.1%	山梨県	4	0.0%	鳥取県	2	0.0%			
群馬県	4,393	20.0%	長野県	4,333	19.8%	島根県	4	0.0%			
合計										21,937	100.0%

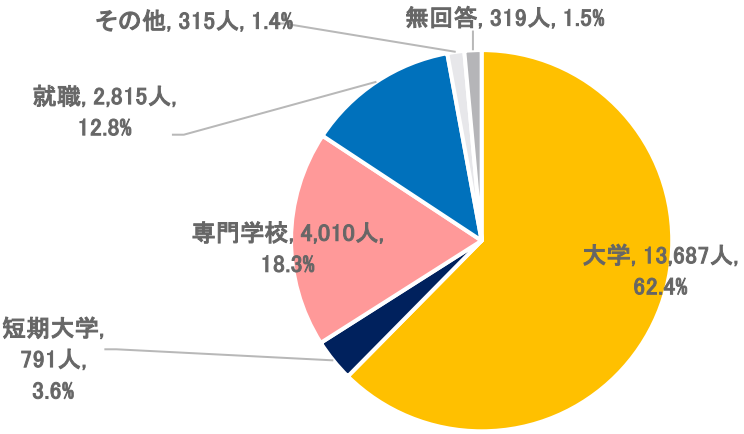
※回答のあった都道府県のみ記載

● 大学への進学希望が 62.4%、当該学部学科に関連する学問分野「医療(看護学、臨床検査学含む)」に興味のある者は 21.3%となり、需要が示された

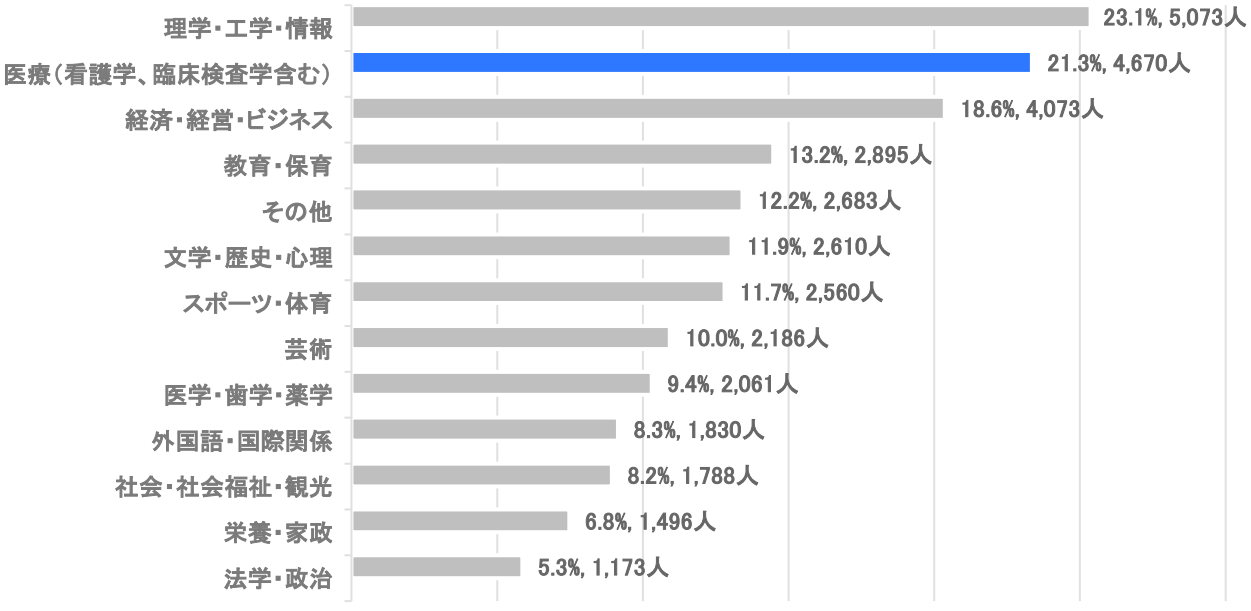
高校卒業後の希望進路については、「大学」が 13,687 人（62.4%）で最も多く、次いで「専門学校」が 4,010 人（18.3%）、「就職」が 2,815 人（12.8%）、「短期大学」が 791 人（3.6%）であった。

関心のある学問分野（複数選択可能）については、当該学部学科に関連する学問分野の「医療（看護学、臨床検査学含む）」が、4,670 人（21.3%）であり、「理学・工学・情報」の 5,073 人（23.1%）に次いで 2 番目に関心が多い結果であった。

【グラフ】高校卒業後の希望進路について＜問 3 の結果より＞



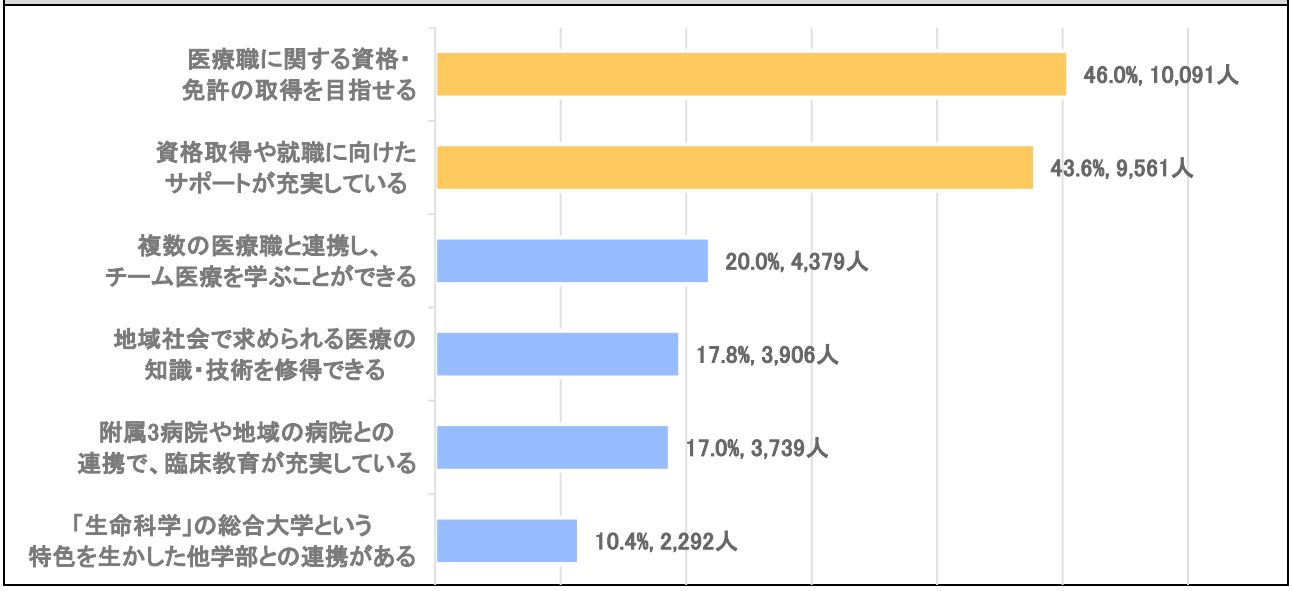
【グラフ】関心のある学問分野について＜問 4 の結果より＞（回答の多い順）



● 当該学部学科の教育の特色「医療職に関する資格・免許の取得を目指せる」と「資格取得や就職に向けたサポートが充実している」の 2 つが 40%以上の回答を得た

当該学部学科の教育の特色に対する興味・関心（複数選択可能）については、医療職に関する資格・免許の取得を目指せる」が 10,091 人（46.0%）で最も多く、次いで「資格取得や就職に向けたサポートが充実している」が 9,561 人（43.6%）であった、「医療職に関する資格・免許の取得を目指せる」と「資格取得や就職に向けたサポートが充実している」の 2 つの回答がそれぞれ 40%を超えており、他の選択肢よりも目立つ結果となった。

【グラフ】当該学部学科の教育の特色に対する興味・関心について＜問 5 の結果より＞（回答の多い順）

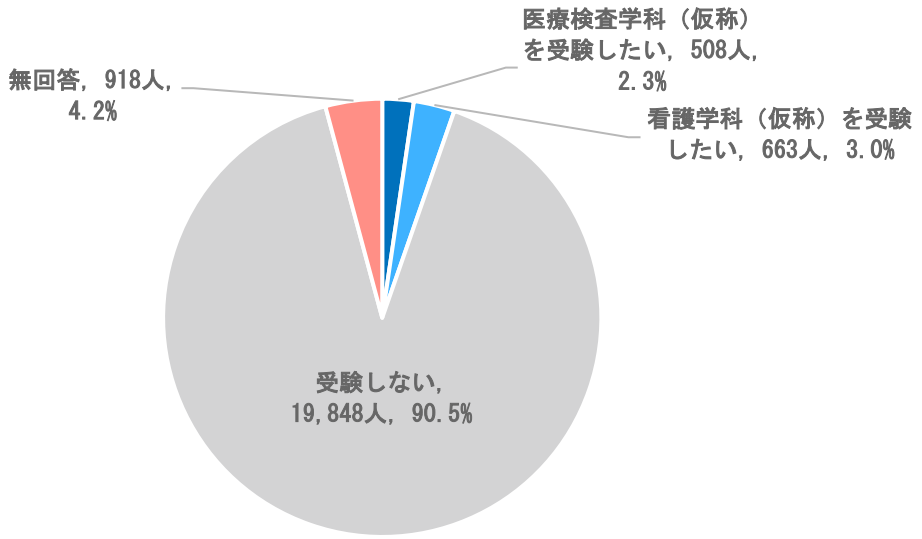


● 予定している入学定員(各学科 80 名)を上回る受験・入学意欲が出現

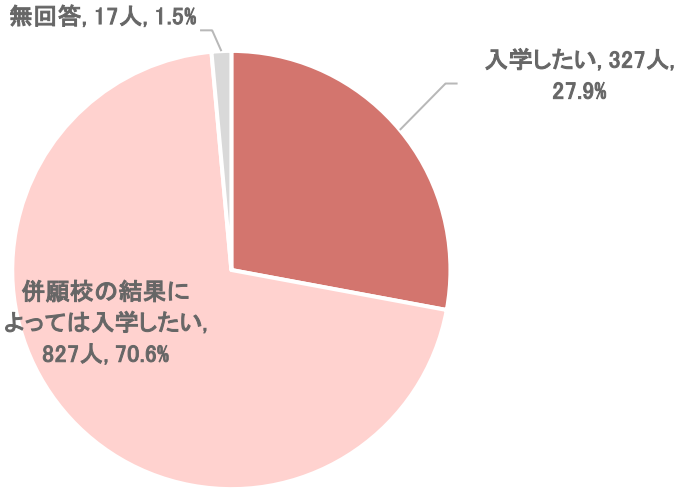
当該学部学科の概要を示した上で、医療検査学科（仮称）と看護学科（仮称）への受験意向について回答を求めた。

その結果、「医療検査学科（仮称)」を受験したい」が 508 人（2.3%)、「看護学科（仮称）を受験したい」が 663 人（3.0%）であった。医療検査学科（仮称）と看護学科（仮称）に受験意欲を示した合計 1,171 人に対し、入学意欲を問う設問では、強い入学意欲を持つと考えられる「合格した場合、入学したい」とする回答は 327 人（27.9%※1,171 人に対する割合）であった。また、「合格した場合、併願校の結果によっては入学したい」とする回答は、827 人（70.6%※1,171 人に対する割合）であった。

【グラフ】当該学部学科への受験意欲について＜問 6 の結果より＞



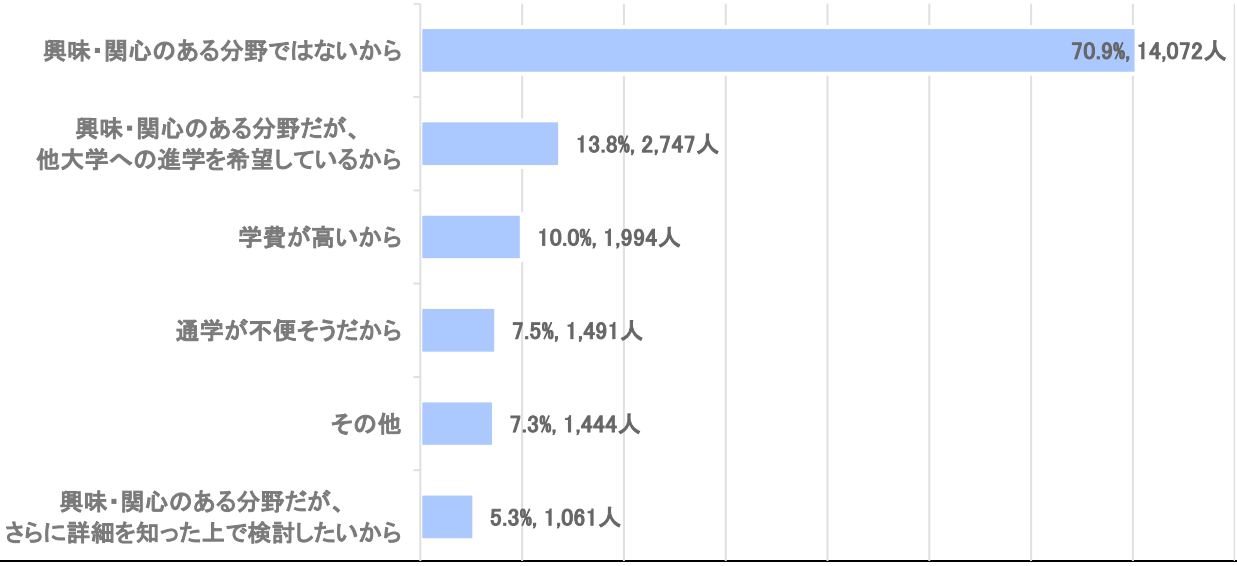
【グラフ】当該学部学科への入学意欲について＜問 7 の結果より＞



● 当該学部学科を受験しない理由は、「興味・関心のある分野ではないから」が 70.9%

問 6 で当該学部学科を「受験しない」と回答した 19,848 人に、当該学部学科を受験しない理由についての質問では、「興味・関心のある分野ではないから」が 14,072 人（70.9%※19,848 人に対する割合）で最も多く、「興味・関心のある分野だが、他大学への進学を希望しているから」が 2,747 人（13.8%※19,848 人に対する割合）であった。

【グラフ】当該学部学科を受験しない理由について＜問 8 の結果より＞（回答の多い順）



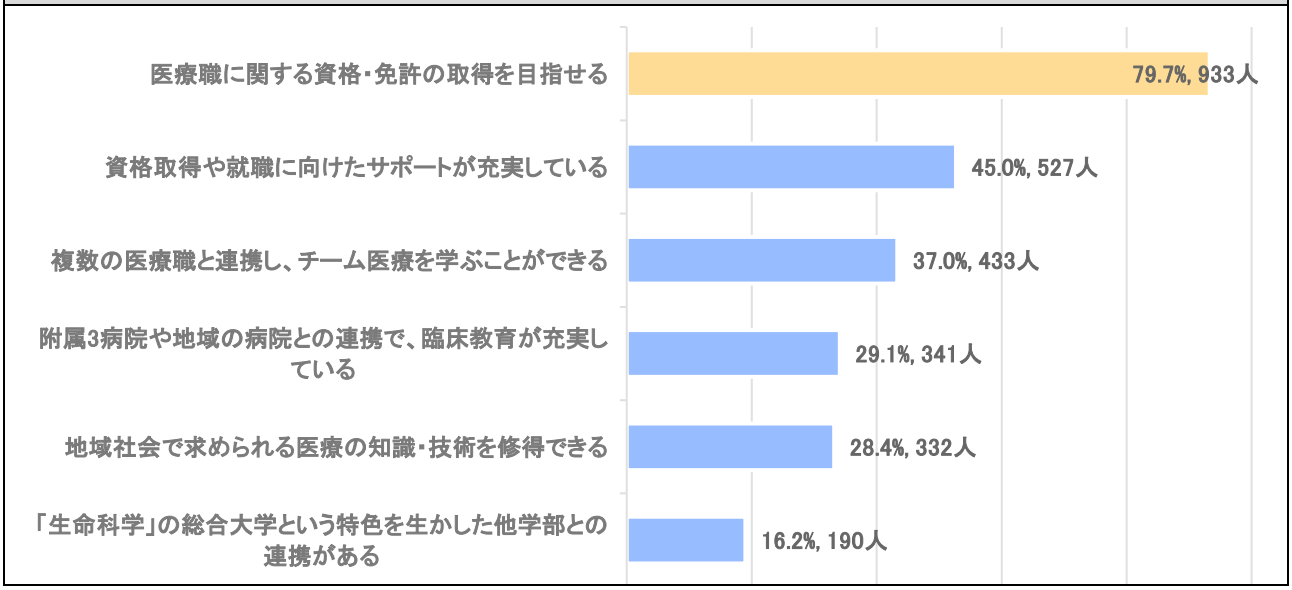
4.「設置構想についての高校生アンケート調査」集計結果の分析

【１】受験希望者と当該学部学科の教育の特色のクロス集計結果

問６で「医療検査学科（仮称）を受験したい」と「看護学科（仮称）を受験したい」を選択した合計 1,171 人と問５の当該学部学科の教育の特色をクロス集計した結果、「医療職に関する資格・免許の取得を目指せる」が 933 人（79.7%※1,171 人に対する割合）で最も多い結果となった。次いで「資格取得や就職に向けたサポートが充実している」が 527 件（45.0%※1,171 人に対する割合）であった。

教育の特色のうち、「複数の医療職と連携し、チーム医療を学ぶことができる」は、単純集計において回答者のうち２割が選択していたが、受験意欲を示した 1,171 人とのクロス集計では約４割（433 人（37.0%※1,171 人に対する割合））であり、受験希望者がより重要視していることが分かった。

【グラフ】受験希望者＜問６＞と当該学部学科の教育の特色＜問５＞についてのクロス集計結果（回答の多い順）



【２】学科別の受験意欲・入学意欲のクロス集計結果

医療検査学科（仮称）と看護学科（仮称）の受験意欲＜問６＞と入学意欲＜問７＞の結果は以下の表の通りである。問７の入学意欲の結果が、医療検査学科（仮称）と看護学科（仮称）の入学定員 80 名を上回る結果となった。

	＜問6＞ 受験したい	＜問7＞ 入学したい	＜問7＞ 併願校の結果によっては入学したい
医療検査学科　定員 80 名	508 人	158 人	342 人
看護学科　定員 80 名	663 人	167 人	482 人

※学科名はいずれも仮称である。

【３】希望進路と学問分野、受験・入学意欲のクロス集計結果

次に、当該学部学科への受験・入学意欲がある者のうち、問３の希望進路で「大学」を選択し、かつ、問４の学問分野で「医療（看護学、臨床検査学含む)」を選択した者をクロス集計した結果は、以下の通りである。医療検査学科（仮称）は 103 人、看護学科（仮称）は 98 人で、各学科が予定する入学定員の 80 名を超える結果となった。

◆医療検査学科（仮称）

＜問3＞ 大学	＜問4＞ 医療(看護学、臨床検査学含む)	＜問6＞ 受験したい	＜問7＞ 入学したい
13,687 人	3,268 人	323 人	103 人

◆看護学科（仮称）

＜問3＞ 大学	＜問4＞ 医療(看護学、臨床検査学含む)	＜問6＞ 受験したい	＜問7＞ 入学したい
13,687 人	3,268 人	427 人	98 人

■まとめ

北里大学が 2024（令和 6）年 4 月に設置構想する健康科学部「医療検査学科、看護学科（仮称)」の学生確保の見通し調査の対象を 2023（令和 5）年度に大学入試を受験する可能性が最も高い高校生（2024（令和 6）年卒業予定者）とした。

調査報告書の概要（P.2）に示した通り、調査時期が 2023（令和 5）年 2 月から 5 月であるため、調査対象となった学年は 2022（令和 4）年度高校 2 年生と 2023（令和 5）年度高校 3 年生と異なる。そのため、回答者の重複が起こらないように、学年が異なる場合は同じ高校内で実施しないようにした。以上のことから、調査対象として適切であるといえる。

高校生アンケート調査の結果より、問３の希望進路において「大学」、問４の学問分野で「医療（看護学、臨床検査学含む)」を選択し、「医療検査学科（仮称）を受験したい」かつ「合格した場合、入学したい」と強い入学意志を示した者は 103 人であった。

また、同条件（問３の希望進路において「大学」、問４の学問分野で「医療（看護学、臨床検査学含む)」）で、「看護学科（仮称）を受験したい」と回答し、かつ「合格した場合、入学したい」と強い入学意志を示したのは 98 人であったことから、「医療検査学科（仮称)」と「看護学科（仮称)」への入学意志が、各学科が予定する入学定員の 80 名を上回る結果となった。以上のことから、健康科学部「医療検査学科、看護学科（仮称)」の学生確保の見通しは問題なしと判断できる。

添付資料

北里大学 健康科学部 医療検査学科、看護学科（仮称）

・概要説明プリント

・設置構想についての高校生アンケート調査用紙

-2022 年度高校 2 年生対象アンケート調査用紙

-2023 年度高校 3 年生対象アンケート調査用紙

北里大学独自の教育・研究

01）8学部を有する「生命科学」の総合大学

北里大学は、予防医学の基礎を築いた学祖・北里柴三郎の意志を引き継ぐ、生命科学の総合大学。
「生命科学」を中心に、医療・医学・薬学・獣医学・農学・理学・工学の分野からなる8つの学部を展開し、「人の役に立つ実学」に即した教育・研究を実践しています。
健康科学部（仮称）は、9つ目の学部となります。

02）病院との強い連携による教育を展開

北里大学では、病院との連携による充実した環境を活かし、他大学に先駆けて実践的な教育体制をいち早く築いてきました。健康科学部（仮称）も、臨地実習を重視した教育を展開します。
3つある大学附属の病院や、新潟県内外の各病院において、どのような医療が実践されているか、体感的に学んでいきます。

03）充実した国家資格取得や就職のサポート

就職センターと連携した就職支援プログラムを展開し、学生一人ひとりをサポートしています。
習熟度に応じたきめ細やかな国家試験対策や、資格を生かした就職サポートを行います。
その結果、既設学部では国家試験合格率と就職率、共に高い水準で推移しています。

納付金について

学部名	学科名	入学金	授業料	施設設備費	初年次合計
健康科学部	医療検査学科(仮称)	300,000円	1,200,000円	200,000円	1,700,000円
	看護学科(仮称)	300,000円	1,300,000円	200,000円	1,800,000円

［ (参考) 他大学の同じ分野の学科 ］

医療検査学科(仮称)の競合校：　新潟大学／新潟医療福祉大学／新潟薬科大学
看護学科(仮称)の競合校：　新潟大学／新潟医療福祉大学／新潟青陵大学／新潟薬科大学／長岡崇徳大学

ACCESS

［　住　所　］　〒949-7241 新潟県南魚沼市黒土新田500番
［車でお越しの場合］　新潟方面からお越しの方は「小出IC」、東京方面からお越しの方は「六日町IC」をご利用ください。
［電車をご利用の場合］　JR上越線・上越新幹線「浦佐」駅東口から無料通学バスで7分

JR上越線・上越新幹線「浦佐」駅より、無料通学バス運行予定！

なりたい、を超えていく
北里大学
KITASATO UNIVERSITY

北里大学　健康科学部設置準備室
〒949-7241新潟県南魚沼市黒土新田500番
TEL 025-779-4511

本概要の内容は設置構想中のため、学部・学科名や学費など変更となる場合があります。

北里大学　健康科学部

2024年4月新潟キャンパスで開設予定（仮称・設置構想中）

医療検査学科（仮称）

入学定員：80名
取得学位：学士（医療検査学）

養成する人材像

医療人の一員として求められる幅広い教養と豊かな人間性、確固たる倫理観に裏打ちされた使命感を有し、高度医療ならびに地域・在宅医療を含めた医療現場で質の高い医療に貢献できる臨床検査技師を養成します。

臨床検査技師の仕事とは？

人々の健康を把握するために必要な検査のスペシャリストです。
病気の診断や治療方針を決める上で、臨床検査から得られる検査データは重要な役割を果たしています。この検査の中心的な役割を担うのが、臨床検査技師です。近年、高齢化に伴う在宅医療の増加に伴い、在宅現場での臨床検査の実施が期待されています。

医療検査学科(仮称)で身につける能力

① 病気の診断に不可欠な医学検査の専門的知識と実践力
② 患者や家族と円滑なコミュニケーションをとり、修得した技術を実践の場で活用できる能力
③ 医療系の他職種の役割を理解し、チーム医療の一員として活躍できる能力

取得可能な資格・免許

臨床検査技師国家試験受験資格 / 毒物劇物取扱者 / 健康食品管理士 / Excel表計算処理技術認定試験

POINT 1. 生命科学の総合大学として８学部16学科、附属３病院と連携した「知」のネットワークを活かし、充実した臨床教育を展開！

POINT 2. 北里が60年以上に渡り、臨床検査教育をリードしてきた十分な実績と高い教育力で資格取得を強力にサポート！

代表的な授業科目

在宅検査演習
本学の立地環境と看護学科を有する特徴を活かし、ICTを活用しながら高齢化社会を迎え今後益々必要とされる在宅医療・検査について学ぶ

データサイエンス概論
北里大学未来工学部データサイエンス学科と連携し、臨床検査に不可欠とされるデータ解析を学ぶとともに、今後必要とされるデータサイエンティストとしての資質を養う

卒業研究
興味のある分野を選択し、実験やディスカッションを通じて理解を深める探求型学習を展開する

チーム医療演習

医療系学部の約 1,100人の学生が相模原キャンパスに集結し、グループに分かれて患者を中心とした最適な医療を実践するためのチーム医療について議論・発表する

卒業後の進路

臨床検査技師として、病院や検査センターをはじめ様々な業種での活躍が期待されます。
・医療機関：総合病院やクリニックの臨床検査業務
・検査センター：臨床検査、環境・食品分析
・治験コーディネーター：医薬品の臨床試験
・胚培養士：産婦人科クリニック等における体外受精や顕微受精業務
・大学院進学：研究職や教育職

看護学科（仮称）

入学定員：80名
取得学位：学士（看護学）

養成する人材像

幅広く深い教養と豊かな人間性を基盤とした総合的な判断力をもち、多様化した保健医療に対する社会の要請に応えることができる知識と技能を備え、健康社会の実現に向けて病院や地域・在宅の現場で質の高い医療に貢献できる人材を養成します。

看護学科(仮称)で身につける能力

① 専門職として生涯を通じて最新の知識・技術を学び続ける力
② 対象者や保健医療に関わる人々と協働する力
③ 未知の課題に対して多様な情報を集め、倫理的・道徳的な判断、科学的根拠に基づき課題解決につなげる力

取得可能な資格・免許

看護師国家試験受験資格 / 保健師国家試験受験資格
養護教諭二種教員免許（保健師資格取得後、申請で取得。所定単位の修得が必要です。）

POINT 1. 地域社会と連携し、地域で共に「生きる」を多面的・多角的に学ぶ

POINT 2. 北里柴三郎が具現化した「人の役に立つ実学」を学ぶ

POINT 3. 8学部を有する生命科学系総合大学で保健医療福祉チームの礎となる「チーム医療」を学ぶ

代表的な授業科目

看護学原論
看護学の学問的基盤を理解し、専門職として対象者に看護実践を提供するための基礎的知識・技術・態度を学ぶ

看護技術演習
病院や施設、在宅の現場において適切な看護を提供するための技術や医療処置を学ぶ

看護機能形態学
科学的根拠に基づく看護を実践するために、人体の構造と機能、栄養の摂取と排泄、睡眠・休息の仕組みを学ぶ

地域看護学
地域の人々の健康をまもり療養を支援するための知識・技術や、災害時に地域で活動する看護職の専門性を学ぶ

卒業後の進路

・高度な実践能力を備えた看護師としてがんや救急など先端医療を提供している病院や、訪問看護など在宅の現場での活躍が期待されます。
・地域医療構想を推進する保健師・看護師として、地域社会での保健医療の担い手としての活躍が期待されます。
・ICT(Information and Communication Technology)のスキルを活かした医療人として、他職種が連携してチーム医療を推進する現場での活躍が期待されます。

■アンケート用紙（2022 年度高校 2 年生対象）

北里大学（新潟キャンパス）
健康科学部（医療検査学科、看護学科）（仮称）
設置構想についての高校生アンケート調査

対象：2022年度高校２年生の皆様

北里大学では、2024年4月に「健康科学部（仮称）」の設置を構想しております。なお、構想中の同学部には、臨床検査技師の育成を目的とした「医療検査学科（仮称）」と、看護師・保健師の育成を目的とした「看護学科（仮称）」の2学科の構成を予定しています。

本学では、この調査を通して、皆様の進路に関するご意見をお聞きし、設置構想内容に反映したいと考えております。なお、皆様から得られた情報は、設置構想に関わる統計資料及び文部科学省への提出書類の一部としてのみ活用するとともに、個人が特定されることはございません。つきましては、別紙の「健康科学部（仮称）の概要」をご覧いただいた上で、アンケートへのご協力をよろしくお願い申し上げます。

※この調査は、北里大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

※概要及びアンケート用紙に記載されている学部学科の内容については予定であり、変更される可能性がございます。

【アンケート記入にあたっての注意事項】

・記入は必ず黒鉛のシャープペンシル、または黒鉛筆を使用し、訂正する場合は、消しゴムできれいに消してください。

正しい回答 ● 誤った回答 ⊘ ✓

問１ あなたの性別を教えてください。

○ 女性　○ 男性　○ その他

問２ あなたのお住まいの都道府県を教えてください。

○ 北海道	○ 青森県	○ 岩手県	○ 宮城県	○ 秋山県	○ 山形県	○ 福島県
○ 茨城県	○ 栃木県	○ 群馬県	○ 埼玉県	○ 千葉県	○ 東京都	○ 神奈川県
○ 新潟県	○ 富山県	○ 石川県	○ 福井県	○ 山梨県	○ 長野県	○ 岐阜県
○ 静岡県	○ 愛知県	○ 三重県	○ 滋賀県	○ 京都府	○ 大阪府	○ 兵庫県
○ 奈良県	○ 和歌山県	○ 鳥取県	○ 島根県	○ 岡山県	○ 広島県	○ 山口県
○ 徳島県	○ 香川県	○ 愛媛県	○ 高知県	○ 福岡県	○ 佐賀県	○ 長崎県
○ 熊本県	○ 大分県	○ 宮崎県	○ 鹿児島県	○ 沖縄県		

問３ 高校卒業後の希望進路について教えてください。

○ 大学　○ 短期大学　○ 専門学校　○ 就職　○ その他

問４ あなたが関心のある学問分野を教えてください。（あてはまるもの全てにマーク）

○ 医療（看護学、臨床検査学含む）	○ 医学・歯学・薬学	○ 理学・工学・情報
○ 教育・保育	○ スポーツ・体育	○ 文学・歴史・心理
○ 経済・経営・ビジネス	○ 法学・政治	○ 社会・社会福祉・観光
○ 外国語・国際関係	○ 栄養・家政	○ 芸術
○ その他		

裏面に続きます。「北里大学 健康科学部（仮称）の概要」をご覧になった上でお答えください。

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

問５ 本学が構想中の「健康科学部（仮称）」の特色は以下の通りです。あなたが興味・関心を感じる特色を教えてください。（あてはまるもの全てにマーク）

- ○ 医療職に関する資格・免許の取得を目指せる
- ○ 地域社会で求められる医療の知識・技術を修得できる
- ○ 複数の医療職と連携し、チーム医療を学ぶことができる
- ○ 附属3病院や地域の病院との連携で、臨床教育が充実している
- ○ 「生命科学」の総合大学という特色を生かした他学部との連携がある
- ○ 資格取得や就職に向けたサポートが充実している

問６ あなたは本学が構想中の「健康科学部（仮称）」を受験したいと思いますか。

- ○ 医療検査学科（仮称）を受験したい　→問7へお進みください。
- ○ 看護学科（仮称）を受験したい　→問7へお進みください。
- ○ 受験しない　→問8へお進みください。

問7は、問6でいずれかの学科を「受験したい」と回答した方のみにお尋ねします。

問７ あなたは問6で「受験したい」と回答した学科を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。

- ○ 入学したい
- ○ 併願校の結果によっては入学したい

問8は、問6で「受験しない」と回答した方のみにお尋ねします。

問８ あなたは本学が構想中の「健康科学部（仮称）」を受験しないと回答された理由をお答えください。（あてはまるもの全てにマーク）

- ○ 興味・関心のある分野ではないから
- ○ 興味・関心のある分野だが、他大学への進学を希望しているから
- ○ 興味・関心のある分野だが、さらに詳細を知った上で検討したいから
- ○ 通学が不便そうだから
- ○ 学費が高いから
- ○ その他

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

■アンケート用紙（2023 年度高校 3 年生対象）

北里大学（新潟キャンパス）
健康科学部（医療検査学科、看護学科）（仮称）
設置構想についての高校生アンケート調査

対象：2023年度高校3年生の皆様

北里大学では、2024年4月に「健康科学部（仮称）」の設置を構想しております。なお、構想中の同学部には、臨床検査技師の育成を目的とした「医療検査学科（仮称）」と、看護師・保健師の育成を目的とした「看護学科（仮称）」の2学科の構成を予定しています。

本学では、この調査を通して、皆様の進路に関するご意見をお聞きし、設置構想内容に反映したいと考えております。なお、皆様から得られた情報は、設置構想に関わる統計資料及び文部科学省への提出書類の一部としてのみ活用するとともに、個人が特定されることはございません。つきましては、別紙の「健康科学部（仮称）の概要」をご覧いただいた上で、アンケートへのご協力をよろしくお願い申し上げます。

※この調査は、北里大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

※概要及びアンケート用紙に記載されている学部学科の内容については予定であり、変更される可能性がございます。

【アンケート記入にあたっての注意事項】

・記入は必ず黒鉛のシャープペンシル、または黒鉛筆を使用し、訂正する場合は、消しゴムできれいに消してください。

正しい回答　誤った回答

問 1　あなたの性別を教えてください。

○ 女性　○ 男性　○ その他

問 2　あなたのお住まいの都道府県を教えてください。

○ 北海道	○ 青森県	○ 岩手県	○ 宮城県	○ 秋田県	○ 山形県	○ 福島県
○ 茨城県	○ 栃木県	○ 群馬県	○ 埼玉県	○ 千葉県	○ 東京都	○ 神奈川県
○ 新潟県	○ 富山県	○ 石川県	○ 福井県	○ 山梨県	○ 長野県	○ 岐阜県
○ 静岡県	○ 愛知県	○ 三重県	○ 滋賀県	○ 京都府	○ 大阪府	○ 兵庫県
○ 奈良県	○ 和歌山県	○ 鳥取県	○ 島根県	○ 岡山県	○ 広島県	○ 山口県
○ 徳島県	○ 香川県	○ 愛媛県	○ 高知県	○ 福岡県	○ 佐賀県	○ 長崎県
○ 熊本県	○ 大分県	○ 宮崎県	○ 鹿児島県	○ 沖縄県		

問 3　高校卒業後の希望進路について教えてください。

○ 大学　○ 短期大学　○ 専門学校　○ 就職　○ その他

問 4　あなたが関心のある学問分野を教えてください。（あてはまるもの全てにマーク）

○ 医療（看護学、臨床検査学含む）	○ 医学・歯学・薬学	○ 理学・工学・情報
○ 教育・保育	○ スポーツ・体育	○ 文学・歴史・心理
○ 経済・経営・ビジネス	○ 法学・政治	○ 社会・社会福祉・観光
○ 外国語・国際関係	○ 栄養・家政	○ 芸術
○ その他		

裏面に続きます。「北里大学 健康科学部（仮称）の概要」をご覧になった上でお答えください。

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

問５ 本学が構想中の「健康科学部（仮称）」の特色は以下の通りです。あなたが興味・関心を感じる特色を教えてください。（あてはまるもの全てにマーク）

- ○ 医療職に関する資格・免許の取得を目指せる
- ○ 地域社会で求められる医療の知識・技術を修得できる
- ○ 複数の医療職と連携し、チーム医療を学ぶことができる
- ○ 附属3病院や地域の病院との連携で、臨床教育が充実している
- ○ 「生命科学」の総合大学という特色を生かした他学部との連携がある
- ○ 資格取得や就職に向けたサポートが充実している

問６ あなたは本学が構想中の「健康科学部（仮称）」を受験したいと思いますか。

- ○ 医療検査学科（仮称）を受験したい　→問7へお進みください。
- ○ 看護学科（仮称）を受験したい　→問7へお進みください。
- ○ 受験しない　→問8へお進みください。

問7は、問6でいずれかの学科を「受験したい」と回答した方のみにお尋ねします。

問７ あなたは問6で「受験したい」と回答した学科を受験し合格した場合、入学したいと思いますか。

- ○ 入学したい
- ○ 併願校の結果によっては入学したい

問8は、問6で「受験しない」と回答した方のみにお尋ねします。

問８ あなたは本学が構想中の「健康科学部（仮称）」を受験しないと回答された理由をお答えください。（あてはまるもの全てにマーク）

- ○ 興味・関心のある分野ではないから
- ○ 興味・関心のある分野だが、他大学への進学を希望しているから
- ○ 興味・関心のある分野だが、さらに詳細を知った上で検討したいから
- ○ 通学が不便そうだから
- ○ 学費が高いから
- ○ その他

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

【資料4】私立大学における「保健系」学部の入学志願動向

年度	平成25年（2013年）	平成26年（2014年）	平成27年（2015年）	平成28年（2016年）	平成29年（2017年）	平成30年（2018年）	平成31年（2019年）	令和2年（2020年）	令和3年（2021年）	令和4年（2022年）	H25→R4の増減
学部数	161学部	175学部	192学部	198学部	209学部	220学部	236学部	244学部	254学部	266学部	105学部
入学定員（A）	24,734人	27,033人	28,998人	30,330人	32,850人	34,307人	35,781人	37,221人	38,143人	39,789人	15,055人
志願者（B）	157,627人	164,659人	170,602人	172,040人	179,961人	185,322人	188,352人	200,366人	188,155人	184,961人	27,334人
受験者（C）	152,437人	158,154人	163,950人	165,349人	173,270人	177,967人	180,804人	192,496人	180,494人	177,173人	24,736人
合格者（D）	50,020人	56,334人	61,599人	63,762人	67,108人	69,269人	73,667人	78,539人	80,307人	81,466人	31,446人
入学者（E）	27,307人	29,156人	31,206人	31,584人	33,560人	34,669人	36,071人	37,721人	38,130人	39,444人	12,137人
志願倍率（B/A）	6.37倍	6.09倍	5.88倍	5.67倍	5.48倍	5.40倍	5.26倍	5.38倍	4.93倍	4.65倍	
合格率（D/C）	32.81%	35.62%	37.57%	38.56%	38.73%	38.92%	40.74%	40.80%	44.49%	45.98%	
歩留率（E/D）	54.59%	51.76%	50.66%	49.53%	50.01%	50.05%	48.96%	48.03%	47.48%	48.42%	
入学定員充足率（E/A）	110.40%	107.85%	107.61%	104.13%	102.16%	101.06%	100.81%	101.34%	99.97%	99.13%	

出典：『平成25(2013)～ 令和4（2022）年度　私立大学・短期大学等入学志願動向』（日本私立学校振興・共済事業団）

【資料5】 私立大学「看護学部」の入学志願動向

学部	区分	平成25年（2013年）	平成26年（2014年）	平成27年（2015年）	平成28年（2016年）	平成29年（2017年）	平成30年（2018年）	平成31年（2019年）	令和2年（2020年）	令和3年（2021年）	令和4年（2022年）	H25→R4の増減
看護学部	学部数	58学部	66学部	78学部	81学部	88学部	95学部	101学部	100学部	101学部	107学部	49学部
	入学定員	5,302人	6,117人	7,142人	7,427人	8,112人	8,819人	9,335人	9,150人	9,203人	9,723人	4,421人
	志願者数	35,827人	37,965人	44,257人	44,462人	48,762人	56,612人	56,868人	54,346人	50,733人	51,399人	15,572人
	入学者数	5,945人	6,722人	7,738人	7,997人	8,708人	9,402人	9,604人	9,406人	9,453人	9,894人	3,949人
	充足率（%）	112.13	109.89	108.35	107.67	107.35	106.61	102.88	102.80	102.72	101.76	

出典：『平成25(2013)～ 令和4（2022）年度　私立大学・短期大学等入学志願動向』（日本私立学校振興・共済事業団）

【資料6】私立大学「医療技術・医療保健系学部」の入学志願動向

学部	区分	平成25年（2013年）	平成26年（2014年）	平成27年（2015年）	平成28年（2016年）	平成29年（2017年）	平成30年（2018年）	平成31年（2019年）	令和2年（2020年）	令和3年（2021年）	令和4年（2022年）	H25→R4の増減
医療技術学部	学部数	3学部	3学部	3学部	3学部	3学部	3学部	4学部	4学部	5学部	7学部	4学部
	入学定員	1,490人	1,540人	1,540人	1,580人	1,865人	1,755人	1,595人	1,655人	1,735人	2,185人	695人
	志願者数	12,774人	11,923人	12,057人	10,712人	12,034人	12,234人	10,418人	11,472人	10,575人	12,788人	14人
	入学者数	1,738人	1,810人	1,790人	1,685人	2,045人	1,781人	1,573人	1,552人	1,586人	2,196人	458人
	充足率（%）	116.64	117.53	116.23	106.65	109.65	101.48	98.62	93.78	91.41	100.50	
医療保健学部	学部数	6学部	6学部	6学部	6学部	8学部	8学部	8学部	8学部	8学部	8学部	2学部
	入学定員	1,450人	1,610人	1,610人	1,650人	1,810人	1,820人	1,770人	1,815人	1,820人	1,820人	370人
	志願者数	11,028人	12,062人	9,813人	9,130人	10,424人	8,713人	8,618人	9,269人	8,163人	7,124人	−3,904人
	入学者数	1,513人	1,728人	1,679人	1,603人	1,759人	1,733人	1,767人	1,889人	1,887人	1,756人	243人
	充足率（%）	104.34	107.33	104.29	97.15	97.18	95.22	99.83	104.08	103.68	96.48	
合計	学部数	9学部	9学部	9学部	9学部	11学部	11学部	12学部	12学部	13学部	15学部	6学部
	入学定員	2,940人	3,150人	3,150人	3,230人	3,675人	3,575人	3,365人	3,470人	3,555人	4,005人	1,065人
	志願者数	23,802人	23,985人	21,870人	19,842人	22,458人	20,947人	19,036人	20,741人	18,738人	19,912人	−3,890人
	入学者数	3,251人	3,538人	3,469人	3,288人	3,804人	3,514人	3,340人	3,441人	3,473人	3,952人	701人
	充足率（%）	110.58	112.32	110.13	101.80	103.51	98.29	99.26	99.16	97.69	98.68	

出典：『平成25(2013)～ 令和4(2022)年度　私立大学・短期大学等入学志願動向』（日本私立学校振興・共済事業団）

１（書類等の題名）

〇18 歳人口の将来推計　（本文 13 ページ、資料 31 ページ【資料７】）

２（出典）

〇株式会社リクルート

３（引用範囲）

〇リクルート総研「18 歳人口推移、大学・短大・専門学校進学率、地元残留率の動向　2022」から、全国・甲信越地方・新潟県における、2022～2027 年度の 18 歳人口について、2023 年度を 100 とした割合等を引用した。

【資料8】 新潟県『令和４年度　大学等進学状況調査』 ※抜粋

第１表　進路別卒業者の推移　　（人・％）

区分＼年度			２６	２７	２８	２９	３０	３１（R元）	R２
卒業者数		a	20,091 [19,626]	20,434 [19,873]	20,059 [19,479]	20,013 [19,427]	19,463 [18,890]	19,093 [18,562]	18,854 [18,311]
進路別	大学等進学者	A	9,582 [9,200]	9,746 [9,285]	9,566 [9,091]	9,261 [8,799]	9,219 [8,763]	9,142 [8,698]	9,337 [8,867]
	専修学校(専門課程)進学者	B	5,410 [5,369]	5,310 [5,263]	5,068 [5,010]	5,210 [5,153]	4,983 [4,924]	4,868 [4,826]	4,794 [4,759]
	専修学校(一般課程)等入学者	C	557 [536]	576 [550]	664 [645]	706 [680]	609 [585]	519 [501]	401 [382]
	公共職業能力開発施設等入学者	D	218 [218]	221 [220]	236 [235]	197 [196]	208 [207]	194 [191]	135 [135]
	就職者等(※)	E	3,835 [3,826]	4,013 [4,005]	3,945 [3,935]	4,015 [4,004]	3,806 [3,797]	3,709 [3,706]	3,589 [3,584]
	左記以外の者	F	489 [477]	568 [550]	579 [562]	623 [594]	637 [613]	661 [640]	598 [584]
	不詳・死亡の者	G	0	0	1 [1]	1 [1]	1 [1]	0	0
	A、B、C、Dのうちの就職者（再掲）		4 [4]	6 [6]	4 [4]	5 [4]	2 [2]	0	1 [1]
	就職者（再掲）(※)	H	3,725 [3,716]	3,904 [3,896]	3,840 [3,830]	3,899 [3,887]	3,697 [3,688]	3,637 [3,634]	3,533 [3,528]
大学学部・短期大学本科への志願者数		I	10,466 [10,045]	10,738 [10,234]	10,627 [10,122]	10,480 [9,949]	10,373 [9,844]	10,251 [9,759]	10,115 [9,603]
大学学部短期大学本科志願率	当県	I／a×100	52.1 [51.2]	52.5 [51.5]	53.0 [52.0]	52.4 [51.2]	53.3 [52.1]	53.7 [52.6]	53.6 [52.4]
	全国		60.4 [60.3]	60.8 [60.6]	61.1 [61.0]	61.4 [61.3]	61.8 [61.6]	61.2 [61.0]	61.4 [61.2]
大学等進学率	当県	A／a×100	47.7 [46.9]	47.7 [46.7]	47.7 [46.7]	46.3 [45.3]	47.4 [46.4]	47.9 [46.9]	49.5 [48.4]
	全国		53.9 [53.8]	54.6 [54.5]	54.8 [54.7]	54.8 [54.7]	54.8 [54.7]	54.8 [54.7]	55.9 [55.8]
専修学校(専門課程)進学率	当県	B／a×100	26.9 [27.4]	26.0 [26.5]	25.3 [25.7]	26.0 [26.5]	25.6 [26.1]	25.5 [26.0]	25.4 [26.0]
	全国		17.0 [17.0]	16.7 [16.7]	16.3 [16.4]	16.2 [16.2]	15.9 [16.0]	16.3 [16.4]	16.8 [16.9]
専修学校(一般課程)等入学率	当県	C／a×100	2.8 [2.7]	2.8 [2.8]	3.3 [3.3]	3.5 [3.5]	3.1 [3.1]	2.7 [2.7]	2.1 [2.1]
	全国		5.4 [5.4]	5.2 [5.2]	5.4 [5.3]	5.3 [5.3]	5.5 [5.4]	5.1 [5.0]	4.4 [4.4]
公共職業能力開発施設等入学率	当県	D／a×100	1.1 [1.1]	1.1 [1.1]	1.2 [1.2]	1.0 [1.0]	1.1 [1.1]	1.0 [1.0]	0.7 [0.7]
	全国		0.6 [0.6]	0.6 [0.6]	0.6 [0.6]	0.6 [0.6]	0.6 [0.6]	0.6 [0.6]	0.5 [0.5]
就職率	当県	H／a×100	18.5 [18.9]	19.1 [19.6]	19.1 [19.7]	19.5 [20.0]	19.0 [19.5]	19.0 [19.6]	18.7 [19.3]
	全国		17.5 [17.5]	17.7 [17.8]	17.8 [17.9]	17.7 [17.8]	17.5 [17.6]	17.6 [17.7]	17.3 [17.4]

（注）高等学校(全日制・定時制)及び中等教育学校の卒業者の合計値を表し、[ ]の数値は、高等学校卒業者の数値を表す。

（注）全国数値出典：学校基本調査

（※）「就職者等Ｅ」は、調査の概要 6(5)（p4）の就職者等をいい、「就職者（再掲）Ｈ」は「就職者等Ｅ」のうち自営業主及び無期雇用労働者と、「A,B,C,Dのうちの就職者」及び有期雇用労働者のうち雇用契約期間が１年以上かつフルタイム勤務相当の者の合計をいう

（注）令和２年度から調査内容を一部変更したため、上記（※）就職者の定義等は平成 31 年度までと異なる

第２表　県内県外別大学等志願者数及び進学者の推移（過年度卒業者を含む）

区分　＼　年度	２６	２７	２８	２９	３０	３１(R元)	Ｒ２
志願者総数　A(人)	11,630	11,576	11,505	11,488	11,388	11,253	11,052
県内志願者数B(人)	4,422	4,556	4,446	4,452	4,434	4,545	4,415
県外志願者数　(人)	7,208	7,020	7,059	7,036	6,954	6,708	6,637
B／A×100　(%)	38.0	39.4	38.6	38.8	38.9	40.4	39.9
進学者総数　C(人)	10,476	10,343	10,201	9,973	9,952	9,877	10,035
県内進学者数D(人)	3,908	4,023	3,872	3,857	3,895	3,986	4,011
県外進学者数　(人)	6,568	6,320	6,329	6,116	6,057	5,891	6,024
D／C×100　(%)	37.3	38.9	38.0	38.7	39.1	40.4	40.0

（注）高等学校(全日制・定時制)及び中等教育学校の卒業者の合計値を表す。

１（書類等の題名）

〇看護学科の近隣競合校による一般選抜の募集状況

（本文 14 ページ、資料 34 ページ【資料９】）

２（出典）

〇株式会社旺文社

３（引用範囲）

〇『『螢雪時代　8 月臨時増刊　全国大学内容案内号　2018-2022』から、

新潟県内 3 大学について、2018～2022 年度の志願者数、受験者数、合格者数、実質倍率を引用した。

１（書類等の題名）

〇看護学科の近隣競合校の充足状況　（本文 14 ページ、資料 35 ページ【資料 10】）

２（出典）

〇各大学 Web サイト

３（引用範囲）

〇各大学 HP の情報公開から、

新潟県内計 4 大学について、入学定員の状況、収容定員の状況を引用した。

1 （書類等の題名）

〇医療検査学科の近隣競合校による一般選抜の募集状況

（本文 14 ページ、資料 36 ページ【資料 11】）

2 （出典）

〇各大学 Web サイト

3 （引用範囲）

〇各大学 HP の情報公開から、

新潟県内計 3 大学について、2018～2022 年度の志願者数、受験者数、合格者数、実質倍率を引用した。

１（書類等の題名）

○医療検査学科の近隣競合校の充足状況　（本文 15 ページ、資料 37 ページ【資料 12】）

２（出典）

○各大学 Web サイト

３（引用範囲）

○各大学 HP の情報公開から、

新潟県内計 3 大学について、入学定員の状況、収容定員の状況を引用した。

【資料13】本学既設学部・学科の学生募集の状況

〔薬学部　薬学科〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	260	260	260	260	260	260
志願者数	2,176	1,497	1,431	1,690	1,808	1,720
受験者数	2,107	1,436	1,379	1,627	1,763	1,662
合格者数	542	461	532	507	533	515
入学者数	273	265	265	265	264	266
充足率	105.0%	101.9%	101.9%	101.9%	101.5%	102.5%

〔薬学部　生命創薬科学科〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	35	35	35	35	35	35
志願者数	356	207	220	291	326	280
受験者数	353	197	210	286	321	273
合格者数	144	99	98	120	125	117
入学者数	35	37	37	36	37	36
充足率	100.0%	105.7%	105.7%	102.9%	105.7%	104.0%

〔獣医学部　獣医学科〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	120	120	120	120	120	120
志願者数	2,260	2,227	1,882	2,012	2,077	2,092
受験者数	2,184	2,139	1,807	1,947	2,010	2,017
合格者数	538	440	474	420	430	460
入学者数	124	132	131	131	131	130
充足率	103.3%	110.0%	109.2%	109.2%	109.2%	108.2%

〔獣医学部　動物資源科学科〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	130	130	130	130	130	130
志願者数	827	850	684	695	535	718
受験者数	745	762	592	597	478	635
合格者数	429	550	573	588	505	529
入学者数	133	130	115	140	118	127
充足率	102.3%	100.0%	88.5%	107.7%	90.8%	97.8%

〔獣医学部　生物環境科学科〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	90	90	90	90	90	90
志願者数	711	553	414	451	351	496
受験者数	667	509	384	406	319	457
合格者数	430	514	373	406	326	410
入学者数	99	91	45	71	48	71
充足率	110.0%	101.1%	50.0%	78.9%	53.3%	78.7%

〔医学部　医学科〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	119	118	119	120	125	120
志願者数	1,973	2,064	2,012	2,255	2,120	2,085
受験者数	1,894	1,996	1,923	2,147	2,011	1,994
合格者数	328	279	445	372	359	357
入学者数	123	118	117	120	125	121
充足率	103.4%	100.0%	98.3%	100.0%	100.0%	100.3%

〔海洋生命科学部　海洋生命科学科〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	180	180	180	180	180	180
志願者数	2,204	1,892	1,641	1,711	1,579	1,805
受験者数	2,028	1,685	1,496	1,519	1,393	1,624
合格者数	670	632	645	657	599	641
入学者数	192	193	192	196	202	195
充足率	106.7%	107.2%	106.7%	108.9%	112.2%	108.3%

〔看護学部　看護学科〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	120	125	125	125	125	124
志願者数	928	746	669	759	706	762
受験者数	890	724	647	737	689	737
合格者数	276	230	274	250	300	266
入学者数	130	140	125	125	136	131
充足率	108.3%	112.0%	100.0%	100.0%	108.8%	105.8%

〔理学部　物理学科〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	53	53	53	53	53	53
志願者数	552	619	475	498	382	505
受験者数	541	604	463	482	373	493
合格者数	278	237	260	259	242	255
入学者数	52	56	58	64	50	56
充足率	98.1%	105.7%	109.4%	120.8%	94.3%	105.7%

〔理学部　化学科〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	80	80	80	80	80	80
志願者数	831	879	796	819	741	813
受験者数	815	855	773	799	723	793
合格者数	372	360	328	402	430	378
入学者数	84	88	88	80	97	87
充足率	105.0%	110.0%	110.0%	100.0%	121.3%	109.3%

〔理学部　生物科学科〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	80	80	80	80	80	80
志願者数	862	842	778	753	792	805
受験者数	844	820	756	722	777	784
合格者数	300	347	375	326	330	336
入学者数	83	88	87	87	83	86
充足率	103.8%	110.0%	108.8%	108.8%	103.8%	107.0%

〔医療衛生学部　保健衛生学科〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	40	40	40	40	40	40
志願者数	150	181	103	74	69	115
受験者数	123	176	94	69	64	105
合格者数	103	90	114	127	102	107
入学者数	41	40	42	32	49	41
充足率	102.5%	100.0%	105.0%	80.0%	122.5%	102.0%

〔医療衛生学部　医療検査学科〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	105	105	105	105	105	105
志願者数	639	666	452	426	427	522
受験者数	601	633	437	413	411	499
合格者数	208	236	216	253	195	222
入学者数	110	110	110	110	108	110
充足率	104.8%	104.8%	104.8%	104.8%	102.9%	104.4%

〔医療衛生学部　医療工学科　臨床工学専攻〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	45	45	45	45	45	45
志願者数	214	208	171	158	126	175
受験者数	196	195	161	151	122	165
合格者数	65	71	82	76	69	73
入学者数	47	47	47	47	46	47
充足率	104.4%	104.4%	104.4%	104.4%	102.2%	104.0%

〔医療衛生学部　医療工学科　診療放射線技術科学専攻〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	70	70	70	70	70	70
志願者数	424	535	436	400	430	445
受験者数	401	507	417	388	413	425
合格者数	151	146	137	120	157	142
入学者数	73	73	73	73	71	73
充足率	104.3%	104.3%	104.3%	104.3%	101.4%	103.7%

〔医療衛生学部　リハビリテーション学科　理学療法学専攻〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	45	45	45	45	45	45
志願者数	415	445	318	263	316	351
受験者数	390	416	309	256	312	337
合格者数	118	109	109	96	95	105
入学者数	46	47	47	47	46	47
充足率	102.2%	104.4%	104.4%	104.4%	102.2%	103.6%

〔医療衛生学部　リハビリテーション学科　作業療法学専攻〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	40	40	40	40	40	40
志願者数	121	150	101	75	77	105
受験者数	114	144	93	71	75	99
合格者数	84	76	88	80	105	87
入学者数	42	42	41	45	38	42
充足率	105.0%	105.0%	102.5%	112.5%	95.0%	104.0%

〔医療衛生学部　リハビリテーション学科　言語聴覚療法学専攻〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	30	30	30	30	30	30
志願者数	94	70	76	39	53	66
受験者数	87	66	74	37	51	63
合格者数	43	42	46	37	44	42
入学者数	32	32	31	30	30	31
充足率	106.7%	106.7%	103.3%	100.0%	100.0%	103.3%

〔医療衛生学部　リハビリテーション学科　視覚機能療法学専攻〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員	30	30	30	30	30	30
志願者数	61	81	49	42	50	57
受験者数	55	71	48	41	49	53
合格者数	43	43	47	41	35	42
入学者数	32	32	32	31	33	32
充足率	106.7%	106.7%	106.7%	103.3%	110.0%	106.7%

〔未来工学部　データサイエンス学科〕

年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	平均
入学定員					100	100
志願者数					451	451
受験者数					441	441
合格者数					301	301
入学者数					105	105
充足率					105.0%	105.0%

※上記は推薦、一般、共通テスト利用、総合型、帰国生徒、地域枠、社会人の合計値

1 （書類等の題名）

○本学既設学部・学科の志願者数（実数）

（本文 15 ページ、資料 42～45 ページ【資料 14】）

2 （出典）

○北里大学

3 （引用範囲）

○本学の志願者実数や学内の併願状況を示した資料であるが、一般に公表していない情報であるため、本書類に差し替える。

【資料15】北里大学保健衛生専門学院の都道府県別入学者数

〔保健看護科〕

		入学者数					合計	
		2018	2019	2020	2021	2022	5年計	割合
東北	北海道			1			1	0.2%
	青森県			1			1	0.2%
	岩手県	1					1	0.2%
	宮城県	3	1		3	1	8	1.7%
	秋田県	1	1	1	2	1	6	1.2%
	山形県	9	5	9	6	7	36	7.5%
	福島県	1	5	4	3	4	17	3.5%
甲信越	新潟県	82	82	60	43	41	308	63.8%
	長野県	4	12	8	5	10	39	8.1%
	山梨県				1	2	3	0.6%
関東	茨城県		1	1		1	3	0.6%
	栃木県	1	1	1			3	0.6%
	群馬県	2	3	2	2	2	11	2.3%
	埼玉県	2	1	1			4	0.8%
	千葉県						0	0.0%
	東京都	2	5	4			11	2.3%
	神奈川県	2			3	2	7	1.4%
北陸	富山県	1	1	1	1	4	8	1.7%
	石川県		1				1	0.2%
	福井県	1					1	0.2%
中部	岐阜県	1	1				2	0.4%
	静岡県	3	1	1		1	6	1.2%
	愛知県	1				1	2	0.4%
	三重県						0	0.0%
近畿	滋賀県						0	0.0%
	京都府						0	0.0%
	大阪府						0	0.0%
	兵庫県						0	0.0%
	奈良県						0	0.0%
	和歌山県						0	0.0%
中国	鳥取県		1				1	0.2%
	島根県						0	0.0%
	岡山県						0	0.0%
	広島県						0	0.0%
	山口県						0	0.0%
四国	徳島県						0	0.0%
	香川県						0	0.0%
	愛媛県						0	0.0%
	高知県						0	0.0%
九州	福岡県						0	0.0%
	佐賀県						0	0.0%
	長崎県						0	0.0%
	熊本県						0	0.0%
	大分県						0	0.0%
	宮崎県						0	0.0%
	鹿児島県						0	0.0%
	沖縄県		1				1	0.2%
その他	その他	1		1			2	0.4%
合計		118	123	96	69	77	483	

〔臨床検査技師養成科〕

		入学者数					合計	
		2018	2019	2020	2021	2022	5年計	割合
東北	北海道				2	2	4	0.7%
	青森県	2	2	1	3	1	9	1.7%
	岩手県	2	2	2		1	7	1.3%
	宮城県	4	1	3	2	2	12	2.2%
	秋田県	13	7	3	10	11	44	8.2%
	山形県	6	8	6	7	1	28	5.2%
	福島県	9	10	3	7	8	37	6.9%
甲信越	新潟県	62	52	29	33	31	207	38.5%
	長野県	13	21	21	11	16	82	15.3%
	山梨県		3			1	4	0.7%
関東	茨城県			2	2	2	6	1.1%
	栃木県		3	2		1	6	1.1%
	群馬県	6	5	4	6	3	24	4.5%
	埼玉県	2		1	2		5	0.9%
	千葉県		2				2	0.4%
	東京都	1	4	1		1	7	1.3%
	神奈川県	2	1	4			7	1.3%
北陸	富山県	4	3	5	6	2	20	3.7%
	石川県	1		3	2		6	1.1%
	福井県						0	0.0%
中部	岐阜県						0	0.0%
	静岡県		1	1	1		3	0.6%
	愛知県	1	1				2	0.4%
	三重県						0	0.0%
近畿	滋賀県						0	0.0%
	京都府						0	0.0%
	大阪府						0	0.0%
	兵庫県		1				1	0.2%
	奈良県						0	0.0%
	和歌山県						0	0.0%
中国	鳥取県						0	0.0%
	島根県			1			1	0.2%
	岡山県						0	0.0%
	広島県			1			1	0.2%
	山口県						0	0.0%
四国	徳島県						0	0.0%
	香川県						0	0.0%
	愛媛県						0	0.0%
	高知県						0	0.0%
九州	福岡県						0	0.0%
	佐賀県						0	0.0%
	長崎県			1			1	0.2%
	熊本県						0	0.0%
	大分県						0	0.0%
	宮崎県						0	0.0%
	鹿児島県	1		1			2	0.4%
	沖縄県	1		2	1		4	0.7%
その他	その他	2	2	1			5	0.9%
合計		132	129	98	95	83	537	

【資料16】看護師数の推移（全国／新潟県）

◆全国

区分	年次	総数	前年との比較増減	指数（H23=100）
看護師	平成 23 年末（End of 2011）	1,495,572人	25,151人	100.0
	24（2012）	1,537,813人	42,241人	102.8
	25（2013）	1,571,647人	33,834人	105.1
	26（2014）	1,603,108人	31,461人	107.2
	27（2015）	1,634,119人	31,011人	109.3
	28（2016）	1,660,071人	25,952人	111.0
	29（2017）	1,657,923人	−2,148人	110.9
	30（2018）	1,683,023人	25,100人	112.5
	令和元年（2019）	1,683,295人	272人	112.6

出典：日本看護協会出版会「看護関係統計資料集（令和3年）」

◆新潟県

区分	年次	総数	2年前との比較増減	指数（H24=100）
看護師	平成24（2012）	19,797人		100.0
	26（2014）	20,967人	1,170人	105.9
	28（2016）	21,938人	971人	110.8
	30（2018）	22,702人	764人	114.7
	令和2年（2020）	23,390人	688人	118.1

出典：新潟県福祉保健部　医師・看護職員確保対策課
『令和4年度　新潟県看護関係者の現状』
https://www.pref.niigata.lg.jp/uploaded/attachment/348388.pdf

令 和 2 年 3 月 31 日
新 潟 県 福 祉 保 健 部
医師・看護職員確保対策課

新潟県看護職員需給見通しについて

1　作成の趣旨

○　新潟県看護職員需給見通しは、本県の看護職員の需給動向を推計し、看護職員の安定的な確保と質の向上の推進に資するための基礎資料として作成するものです。

○　平成 27 年までは、概ね５年ごとに作成される国の需給見通しに合わせて、病院等に対する実態調査、各種統計データ等をもとに作成しました。

○　平成 28 年～29 年の需給見通しについては、国が地域医療計画との整合性の観点から、2025 年の医療需要等を踏まえ検討することとし、策定をしない方針を示しましたが、本県における看護職員確保対策の検討等を行うためにも必要であることから、県独自で作成しました。

○　令和元年度に、国において、地域医療構想との整合性の確保や地域間偏在等の是正などの観点を踏まえ、従来の積み上げ方式ではなく、将来の医療需要を踏まえた需給推計を作成することに合わせ、本県においても需給見通しを作成するものです。

2　推計時点

国において、地域医療構想との整合性の観点から、令和７年（2025 年）における看護職員の需給推計を行う方針が示されたことから、本県においても同時点における需給見通しを作成します。

3　本県の看護職員の現状

○　本県の看護職員数は年々増加しており、人口 10 万人当たりの看護職員数は全国平均を上回っているものの、職員の高齢化及び地域間の偏在がみられる状況です。

○　県内病院における募集人数に対する採用人数の割合は７～８割程度であるほか、ナースセンターにおける看護職員の求人倍率は全国平均と比べて高くなっています。また、育児等の理由により夜勤に従事する職員が不足しているとの声も聞かれることから、現時点では看護職員は不足している状況と推定されます。

○　キャリア形成支援・教育体制が充実している比較的大規模な病院に看護職員が集中する傾向にあることなどから、病院によっても看護職員の確保状況に差が生じています。

4　需給見通しの推計方法

⑴ 推計の方針

国の推計方針に基づき、国が定めた推計方法（推計ツール）によることを基本とし、地域医療構想等との整合性を確保しながら、直近の統計データを用いて推計しました。（参考資料を参照）

⑵ 需要数

病院、診療所、訪問看護事業所等の領域（就業場所）別に、国の示した推計ツールにより算定した需要数に、ワークライフバランスの充実度合いによるシナリオを反映することにより推計しました。

ただし、算定において使用する地域医療構想の病床数については、県独自推計に基づき算定したものを使用することとしました。

⑶ 供給数

国の推計ツールにより算定した数値は、近年の就業者数の推移との乖離が大きいと考えられることから、国において、過去の就業者数の実績に基づき推計した数を供給数としました。

5　推計結果

⑴ 前回（平成 28 年～29 年）の需給見通しの状況

○　前回（平成 28 年～29 年）の需給見通しは、従来のような病院等への実態調査は実施せず、業務従事者届で把握した実績等を参考に、国が試算した 2025 年における必要看護職員数を見据えて作成しました。

○　平成 29 年末において、需要数 28,975 人を見込んでいましたが、業務従事者届により推計される就業者数は 27,826 人と、需要見込み数と比較して 1,149 人不足しています。

○　また、平成 29 年末の供給見込み数 29,153 人に対しては、1,326 人の供給不足となっています。

○　これらのことから、現状としては 1,000 人規模で看護職員が不足しているものと考えています。

（常勤換算、単位：人）

区分	平成 28 年末	平成 29 年末（推計）
需要見込数　A	28,535	28,975
供給見込数　B	28,621	29,153
就業者数　C	27,736	27,826
C－A	▲799	▲1,149
C－B	▲885	▲1,326

○　就業者数が見込みより減少した要因としては、需給見通しの算定基礎となった平成 22 年～26 年と、平成 28 年～29 年の就業状況を比較すると、再就業者が見込みより減少したことが一因として考えられます。

看護職員（従事期間１年未満）の従事開始理由

単位：人

	再就業	転職	その他		合計
				新規（内数）	
H22	957	1,173	845	―	2,975
H24	972	1,221	931	―	3,124
H26	883	1,211	902	―	2,996
H28	630	1,346	1,133	999	3,109
H30	610	1,358	1,164	1,009	3,132

厚生労働省「衛生行政報告例」

※　再就業：従事開始前１年間に看護職として勤務していない場合
　　転　職：従事開始前１年間に看護職として勤務したことがある場合
　　新　規：免許取得後、初めて看護職として勤務した場合（平成 28 年から分類に追加）
　　その他：上記のいずれにも該当しない場合

※　平成 26 年まで「新規」の分類がなく新規就業者は「その他」に計上していたため、平成 28、30 年の「新規」は「その他」に含む。

⑵ 県全体の需給推計

○　ワークライフバランスの充実度合いによるシナリオごとに推計した令和７年（2025 年）の需要数と、平成 30 年の就業者数とを比較すると、<u>いずれのシナリオでも需要数に対し大幅に不足している状況です。</u>

○　なお、国の調査によると、現状における看護職員の平均的な勤務状況は、超過勤務 10.3 時間／月、有給休暇取得日数 10.3 日／年であり、シナリオ②に近い状況です。（平成 29 年度厚生労働省委託・医療勤務環境改善マネジメントシステムに基づく医療機関の取組に対する支援の充実を図るための調査･研究事業報告書）

看護職員の需要推計（令和７年（2025 年））

（実人員、単位：人）

平成 30 年の就業者数 A	需要推計 B		平成 30 年の就業者数と令和７年（2025 年）の需要数の差 A－B
30,294	シナリオ①	33,136	▲2,842
	シナリオ②	33,433	▲3,139
	シナリオ③	35,586	▲5,292

※　シナリオ①：超過勤務 10 時間以内／月、有給休暇取得日数５日以上／年

シナリオ②：超過勤務 10 時間以内／月、有給休暇取得日数 10 日以上／年（現状に近い想定）

シナリオ③：超過勤務０時間／月、有給休暇取得日数 20 日以上／年

○　一方、令和７年（2025 年）における需要推計と供給推計を比較すると、県全体で、ワークライフバランスの充実度合いによるシナリオ毎に、シナリオ①では 906 人、シナリオ②では 609 人供給数が需要数を上回ると推計されますが、シナリオ③では、1,544 人の不足が見込まれます。

看護職員の需給推計（令和７年（2025 年））

（実人員　単位：人）

供給推計 A	需要推計 B		過不足数 A－B	充足率 A／B
34,042	シナリオ①	33,136	906	102.7%
	シナリオ②	33,433	609	101.8%
	シナリオ③	35,586	▲1,544	95.7%

⑶　領域（就業場所）別の需要推計

ア　需要の見込み

現在の勤務状況に最も近いシナリオ②（超過勤務 10 時間以内／月、有給休暇取得 10 日以上／年）で見た場合、領域（就業場所）別では、病院・有床診療所及び精神病床で 17,821 人、無床診療所で 5,806 人、訪問看護事業所で 1,971 人、介護保険サービスで 4,612 人、保健所、市町村、学校養成所等で 3,223 人の需要が見込まれます。

イ　現状の就業者数との比較

令和７年（2025年）の需要数は、県全体で33,433人（平成30年の1.10倍）となり、平成30年の就業者数と比較すると3,139人の不足が見込まれます。

特に、訪問看護事業所では1,257人増の1,971人（平成30年の2.76倍）、無床診療所では2,380人増の5,806人（平成30年の1.69倍）と大幅な不足が見込まれます。

6　現状及び推計結果を踏まえた課題

○　本県の看護職員の現状としては、前回の需給見通しの状況から、1,000 人以上不足している状況と考えられます。県内病院における募集人数に対する採用人数の割合は７～８割程度であるほか、平成 30 年のナースセンターにおける看護職員の求人倍率は 2.99 と全国平均と比べ高くなっています。令和７年（2025 年）の需要見込み数に対して、平成 30 年の就業者数は 2,842～5,292 人不足していることから、引き続き看護職員の確保、育成に取り組む必要があります。

○　今回の推計の結果では、ワークライフバランスの充実度合の想定によっては、供給数が需要数を上回る場合があるものの、現状では県内において領域（就業場所）別、地域別の偏在があることから、これらの偏在を解消し、県内全域において需要を満たすよう取り組む必要があります。

○　高齢化の進展や地域医療構想による病床の機能分化・連携に伴い、訪問看護や介護分野における看護ニーズが大きく増加することが見込まれていることから、不足が見込まれる訪問看護に従事する職員の確保が必要となります。

7　今後の看護職員確保に向けた対策

上記の課題を踏まえ、看護職員の確保に向け、以下の対策に取り組んでいきます。

(1) 領域（就業場所）別、地域別の偏在の解消

ア　訪問看護従事者の確保・定着

○　訪問看護ステーションでのインターンシップ等の訪問看護への就業意欲を高める取組により、訪問看護事業所への就業促進を図ります。

○　キャリアに応じた人材育成の体制を整備し、訪問看護従事者の定着及び質の向上を図ります。

イ　地域偏在の解消

○　看護学生修学資金について、看護職員の不足する地域への就業につながる制度となるよう検討していきます。

○　県の修学資金に加え、市町村や病院が行う修学資金の情報発信を行い、学生のニーズに応じて効果的な修学支援を行います。

(2) 県内就業・定着促進、離職防止

ア　県内就業の促進

○　看護学生に対する修学資金の貸与により、県内就業の促進を図ります。

○　首都圏での就職相談会の開催、情報発信等により、県内出身者を中心とした県外看護学生、看護職員のU・Ｉターンの促進を図ります。

○　県内病院、訪問看護ステーション等による就職ガイダンスの開催等により、県内看護学生の県内就業促進を図ります。

【資料18】保健師の需要予測（新潟県看護職員需給見通しより抜粋）

領域（就業場所）別の需要推計

（実人員　単位：人）

		平成30年（2018年）の就業者数（A）※1	令和7年（2025年）の需要数（B）※2			平成30年の就業者数と令和7年の需要数の差（A－B）		
			シナリオ①	シナリオ②	シナリオ③	シナリオ①	シナリオ②	シナリオ③
一般病床及び療養病床		18,416	15,719	15,860	16,882	753	595	▲ 553
精神病床			1,944	1,961	2,088			
無床診療所		3,426	5,755	5,806	6,180	▲ 2,329	▲ 2,380	▲ 2,754
訪問看護事業所		714	1,953	1,971	2,098	▲ 1,239	▲ 1,257	▲ 1,384
（内訳）	医療保険		508	513	546			
	介護保険		713	719	765			
	精神病床からの基盤整備		733	739	787			
介護保険サービス等		4,843	4,571	4,612	4,909	272	231	▲ 66
（内訳）	介護老人保健施設	1,295	1,445	1,458	1,552	▲ 150	▲ 163	▲ 257
	介護老人福祉施設	1,408	1,296	1,307	1,392	112	101	16
	居宅サービス事業所等	1,749	1,055	1,065	1,133	694	684	616
	居宅介護支援事業所	88	103	104	111	▲ 15	▲ 16	▲ 23
	その他の介護保険施設等	303	368	372	395	▲ 65	▲ 69	▲ 92
	介護医療院	0	304	306	326	▲ 304	▲ 306	▲ 326
保健所、市町村、学校養成所等		2,895	3,194	3,223	3,430	▲ 299	▲ 328	▲ 535
（内訳）	助産所	92	80	81	86	12	11	6
	社会福祉施設	851	995	1,003	1,068	▲ 144	▲ 152	▲ 217
	保健所	111	125	127	135	▲ 14	▲ 16	▲ 24
	都道府県・市町村	1,093	1,134	1,144	1,218	▲ 41	▲ 51	▲ 125
	事業所	101	115	116	123	▲ 14	▲ 15	▲ 22
	看護師等学校養成所・研究機関	365	425	429	456	▲ 60	▲ 64	▲ 91
	その他	282	320	323	344	▲ 38	▲ 41	▲ 62
合計		30,294	33,136	33,433	35,586	▲ 2,842	▲ 3,139	▲ 5,292

※1　業務従事者届（平成30年12月末）による。
※2　シナリオ①：超過勤務10時間以内／月、有給休暇取得日数5日以上／年
　　シナリオ②：超過勤務10時間以内／月、有給休暇取得日数10日以上／年
　　シナリオ③：超過勤務0時間／月、有給休暇取得日数20日以上／年

【資料19】臨床検査技師の従事者数推移（病院／一般診療所）

（単位＝人）

年	病院				一般診療所
	総数	精神科病院	一般病院	医育機関	
2011（平成23）年	49,772.1	948.9	48,822.2	6,855.0	12,686.4
2014（平成26）年	52,961.5	956.6	52,004.9	7,364.7	11,118.5
2017（平成29）年	54,960.2	935.5	54,006.7	7,673.3	11,905.8
2020（令和2）年	55,169.8	908.1	54,261.7	7,728.8	12,582.2
2011→2020	5,397.7	△ 40.8	5,439.5	873.8	△ 104.2

※数値は常勤換算従事者数

参照：厚生労働省『医療施設調査・病院報告』各年度

【資料20】医療技術者の有効求人倍率推移

	24年度計	25年度計	26年度計	27年度計	28年度計	29年度計	30年度計	元年度計
職業計	0.66	0.78	0.91	1.01	1.15	1.31	1.42	1.39
管理的職業	0.73	0.82	1.02	1.25	1.49	1.70	1.66	1.81
専門的・技術的職業	1.32	1.48	1.65	1.77	1.93	2.11	2.23	2.19
開発技術者	1.18	1.32	1.71	1.88	2.01	2.39	2.59	2.32
製造技術者	0.37	0.40	0.45	0.48	0.53	0.64	0.71	0.70
建築・土木・測量技術者	2.43	3.62	3.96	4.17	4.98	5.79	6.26	6.65
情報処理・通信技術者	1.42	1.73	2.00	2.21	2.47	2.62	2.59	2.36
その他の技術者	0.50	0.71	0.95	1.23	1.50	1.82	2.32	2.29
医師、歯科医師、獣医師、薬剤師	7.66	7.76	7.56	7.17	6.97	6.60	5.72	4.61
保健師、助産師、看護師	3.12	2.96	2.87	2.76	2.63	2.54	2.49	2.45
医療技術者	2.50	2.57	2.77	2.91	2.92	2.85	3.04	3.07
その他の保健医療の職業	1.08	1.16	1.28	1.41	1.56	1.81	2.04	2.20
社会福祉の専門的職業	1.25	1.47	1.81	2.11	2.40	2.86	3.11	3.28
美術家、デザイナー、写真家、映像撮影者	0.29	0.34	0.36	0.39	0.45	0.49	0.46	0.38
その他の専門的職業	0.44	0.50	0.54	0.61	0.66	0.70	0.77	0.72
事務的職業	0.21	0.24	0.27	0.31	0.36	0.41	0.46	0.45
一般事務の職業	0.17	0.19	0.22	0.24	0.27	0.31	0.35	0.35
会計事務の職業	0.26	0.34	0.43	0.49	0.57	0.65	0.74	0.73
生産関連事務の職業	0.54	0.62	0.83	0.92	1.14	1.51	1.82	1.77
営業・販売関連事務の職業	0.40	0.46	0.52	0.61	0.72	0.84	0.88	0.90
外勤事務の職業	2.17	2.44	2.60	2.90	3.66	4.10	4.29	4.57
運輸・郵便事務の職業	1.33	1.61	1.91	2.37	2.57	3.00	3.43	3.43
事務用機器操作の職業	0.38	0.34	0.37	0.38	0.41	0.43	0.47	0.47
販売の職業	0.80	0.92	1.10	1.28	1.53	1.80	2.03	2.03
商品販売の職業	0.69	0.85	1.08	1.34	1.61	1.86	2.13	2.12
販売類似の職業	1.88	2.22	2.29	2.55	2.98	3.13	3.53	3.27
営業の職業	0.87	0.94	1.07	1.18	1.42	1.70	1.90	1.90
サービスの職業	1.20	1.37	1.68	2.03	2.39	2.76	2.95	3.04
家庭生活支援サービスの職業	0.53	0.65	0.81	0.92	1.05	1.24	1.29	1.22
介護サービスの職業	1.35	1.46	1.80	2.09	2.53	3.04	3.38	3.62
保健医療サービスの職業	1.10	1.22	1.54	1.81	2.07	2.40	2.84	3.07
生活衛生サービスの職業	1.85	2.09	2.43	2.93	3.58	4.04	4.44	4.27
飲食物調理の職業	1.06	1.34	1.71	2.20	2.64	2.91	2.97	2.93
接客・給仕の職業	1.32	1.49	1.82	2.28	2.54	2.91	2.93	2.97
居住施設・ビル等の管理の職業	0.34	0.41	0.48	0.57	0.68	0.79	0.83	0.87
その他のサービスの職業	0.74	0.75	0.83	0.99	1.14	1.28	1.35	1.35
保安の職業	3.38	3.92	4.45	4.93	6.07	7.07	7.77	7.56
農林漁業の職業	0.67	0.77	0.87	0.93	1.06	1.26	1.40	1.36
生産工程の職業	0.58	0.74	0.96	1.05	1.25	1.59	1.81	1.65
生産設備制御・監視の職業（金属）	0.33	0.48	0.76	0.76	0.95	1.37	1.62	1.30
生産設備制御・監視の職業（金属除く）	0.57	0.62	0.80	0.97	1.20	1.61	1.96	1.84
生産設備制御・監視の職業（機械組立）	0.24	0.35	0.52	0.56	0.72	1.01	1.05	0.83
金属材料製造、金属加工、金属溶接・溶断の職業	0.88	1.11	1.52	1.64	1.92	2.54	3.09	2.80
製品製造・加工処理の職業（金属除く）	0.59	0.76	0.93	1.06	1.26	1.51	1.69	1.56
機械組立の職業	0.23	0.33	0.43	0.45	0.55	0.77	0.83	0.66
機械整備・修理の職業	1.15	1.42	1.79	2.12	2.44	3.17	3.77	4.07
製品検査の職業（金属）	0.84	1.02	1.37	1.41	1.64	2.13	2.29	1.72
製品検査の職業（金属除く）	1.20	1.31	1.61	1.73	2.01	2.33	2.39	2.03
機械検査の職業	0.73	0.88	1.20	1.16	1.49	2.02	2.11	1.48
生産関連・生産類似の職業	0.71	0.79	0.89	0.91	1.04	1.17	1.31	1.24
輸送・機械運転の職業	1.19	1.41	1.60	1.72	1.95	2.32	2.58	2.63
鉄道運転の職業	0.27	0.26	0.44	0.35	0.54	0.50	0.74	0.90
自動車運転の職業	1.34	1.62	1.87	2.05	2.35	2.77	3.05	3.08
船舶・航空機運転の職業	0.41	0.44	0.59	0.51	0.56	0.61	0.58	0.65
その他の輸送の職業	0.38	0.50	0.60	0.63	0.76	1.01	1.16	1.08
定置・建設機械運転の職業	0.98	1.10	1.20	1.26	1.37	1.66	1.95	2.14
建設・採掘の職業	1.98	2.63	2.96	3.08	3.54	4.36	5.20	5.61
建設躯体工事の職業	4.97	6.53	7.17	7.23	8.00	10.19	11.19	11.12
建設の職業	1.95	2.63	2.93	3.08	3.68	4.44	5.14	5.31
電気工事の職業	1.55	1.82	2.02	2.05	2.41	2.97	3.50	3.84
土木の職業	1.65	2.39	2.80	2.93	3.25	4.00	5.01	5.69
採掘の職業	1.10	1.59	2.25	2.48	2.49	3.32	4.11	5.66
運搬・清掃・包装等の職業	0.24	0.30	0.37	0.41	0.47	0.56	0.61	0.59
運搬の職業	0.50	0.61	0.74	0.83	0.98	1.23	1.39	1.35
清掃の職業	0.23	0.39	0.57	0.71	0.89	1.09	1.24	1.26
包装の職業	1.10	1.39	1.64	1.99	2.36	2.64	2.80	2.33
その他の運搬・清掃・包装等の職業	0.10	0.12	0.14	0.15	0.17	0.20	0.22	0.20
分類不能の職業	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
介護関係職種（※）	1.37	1.53	1.88	2.16	2.57	3.07	3.39	3.64

参照：厚生労働省『一般職業紹介状況（職業安定業務統計）より

【資料21】医療検査技師による在宅医療推進のための提言書　※抜粋

令和 3 年 3 月 31 日

一般社団法人　日本臨床衛生検査技師会
会長　宮島喜文　様

在宅業務推進ワーキンググループ（平成 30 年度～令和元年度）
委員長　宮下　勉
委　員　椙山　広美
山本　幸治
高村　好実
津田　喜裕
担当理事　深澤　恵治
担当事務局　内海万紀幸
在宅業務推進ワーキンググループ（令和2年度～令和 3 年度）
委員長　宮下　勉
委　員　高村　好実
深澤　恵治
津田　喜裕
井越　尚子
杉原　明美
担当理事　竹浦　久司
担当事務局　児玉　真由

臨床検査技師による在宅医療推進のための提言書

我が国は、少子高齢化が急速に進展している中で、健全な皆保険制度を維持していくために、医療保健制度を含めた様々な改革が急務となっている。さらに 2025 年には団塊の世代がすべて75歳以上の後期高齢者となり、要介護、認知症高齢者などが増加する背景から、政府は医療提供体制の見直しを開始した。重度の要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築のことである。これまでのわが国の医療は、主に青壮年期の患者を対象とし、救命・延命・治癒・社会復帰を前提とした「病院完結型」の医療であった。今後は慢性疾患による受療が多く、複数の疾病を抱えるなどの特徴を持つ老齢の患者が中心となり、病気と共存しながらQOL(Quality of Life)の維持・向上を目指す医療となる。すなわち、医療はかつての「病院完結型」から、患者の住み慣れた地域や自宅での生活のための医療、地域全体で治し、支える

「地域完結型」の医療に変わらざるを得ない。一定の仮定を置いて、地域ごとに推計した値を積み上げ、2025年度おいては、1日当たり29万人の在宅医療等提供者が見込まれ、医師、歯科医師、薬剤師、看護師等の医療技術者とリハビリ職、ケアマネージャー、介護士等の医療福祉従事者が、お互いの専門職を生かしながらチームとなって患者・家族をサポートしていく体制を構築することが重要であるとされている。

上記医療情勢の中、現在までの病院等医療施設での勤務が主であった臨床検査技師は、人口の急速な高齢化等に伴う医療提供体制の見直しのため、患者も病院から在宅へと医療提供体制も見直されることから、臨床検査技師を含む各医療職種は勤務場所を病院から在宅へと拡大することが求められた。このことから、在宅医療で臨床検査技師が果たすべき業務の情報収集並びに在宅医療で必要とされるスキルを取得するため、人材育成、情報収集を計画的に実施するため、この在宅業務推進ワーキンググループでは、以下の臨床検査技師の在宅医療の推進について 6つの視点での考えを取りまとめた。

1）臨床検査技師の在宅医療へ対しての『理解』
2）各施設内での調整
3）臨床検査技師のスキルの向上
4）成功事例の共有
5）他職種からの提言
6）教育分野からの提言

今回はそれぞれの視点について論じるとともに、今後の在宅医療への臨床検査技師の関りについて提言書として報告する。

〈平成30年度～令和元年度　ワーキングの開催〉
1　第1回WG：平成31年3月2日（土）　日臨技会館　第3会議室
2　第2回WG：令和　元年7月6日（土）　日臨技会館　第3会議室
〈令和2年度～令和3年度　ワーキングの開催〉
1　第1回WG：令和2年10月30日（金）　日臨技会館およびWeb会議
2　第2回WG：令和2年12月21日（月）　日臨技会館およびWeb会議
3　第3回WG：令和3年2月15日（月）　日臨技会館およびWeb会議

3)臨床検査技師のスキルの向上

病院内での臨床検査と在宅医療の現場での臨床検査の大きな違いは、手軽に検査が実施できない事であり、検査技師に対してはコミュニケーション能力が高く求められる事、介護保険や福祉制度の知識を必要とする事等があげられ、多職種との連携が特に重要であると考えられる。

在宅医療の現場においても、尿・血液・便・喀痰・滲出液・咽頭ぬぐい液等の検体を用いた、血液・生化学・一般・感染症等の臨床検査は病院と同程度の実施が可能であり、また、生理検査としては心電図、ホルター心電図、超音波検査、呼吸機能検査、聴力検査等も実施可能である。しかし、病院内とは違った環境・状況の制約から、在宅医療の現場での臨床検査は病院とは異なる視点での方法論が必要である。また、病院では病状を評価するための鑑別診断を要する検査であるのに対して、在宅では問診、理学所見から推察し、検査を実施するにあたっては、何が有用かではなく、何が最も容易に実施可能かを判断する事が優先される。

在宅療養中の患者様の病状変化では、比較的頻度が高く重要な症状として、発熱、食欲不振、ADL の低下を主徴とする肺炎や尿路感染などの感染症である。こうした症状発現の早期に検査を行う事で、理学所見とあわせて的確な臨床診断が可能となる。

在宅医療の現場では患者様に接する医療職者が検査技師一人のみの場合もあり、検査についての説明を本人、もしくは家族に行う必要がある。特に認知症の患者様に対しては相手のペースに合わせ、検査に協力していただけるような配慮が必要であり、認知症への理解と適切な対応が検査を行う上で重要となる。

検査の関わりとして直接関係ないが、病院と違い在宅で過ごされている患者様は、介護サービス(通所介護・通所リハビリ・短期入所・通所介護・訪問入浴等)を中心に日々を過ごされている方も多く、そのため患者様の普段のご様子を把握するためにもケアマネジャー等との情報交換・情報共有も重要である。また、患者様の身体状況を理解・把握するためには、患者様がどの様な介護・福祉制度を利用して生活しているかを知る必要もある。したがって、検査技師も介護保険や福祉制度等の知識を身につけなければ、患者様が適切な医療を受ける事ができず、不利益が出てしまう可能性がある。検査を行うだけでなく多職種と連携をとること、また患者様のみならず家族ともコミュニケーションを取ることが在宅医療においては必要なスキルである。

「検査技師が在宅医療に関わるにあたり必要な在宅スキル」

1.バイタルサインや精神症状(器質疾患によらないもの、器質疾患によるもの)の理解
2.急変時に対応する能力
3.訪問時におけるカルテ作成、記載(医療用語の理解必要)等の基礎知識
4.診療(身体観察)における介助
5.検体採取(採血、培養検体採取、咽頭ぬぐい液等)
6.POCT の理解(機器管理、精度管理、教育等)
7.心電図、超音波検査(心臓、腹部、下肢領域、褥瘡等)、呼吸機能検査、聴力検査
8.認知症の知識及び理解と対応

9.コミュニケーション能力
10.多職種との連携
11. 地域包括ケアシステムに係る、介護保険や社会福祉制度

4)成功事例の共有

地域医療構想とは、将来人口推計をもとに 2025 年に必要となる病床数(病床の必要量)を4つの医療機能ごとに推計した上で、地域の医療関係者の協議を通じて病床の機能分化と連携を進め、効率的な医療提供体制を実現するものである。その中で現在ある在宅医療は「看取りの医療」だけであり、積極的に医療を展開せず、ただ最後の時を居宅にて迎えるだけの制度には国民は大きな不安を抱え、積極的な在宅医療への展開は見せていない現状がある。当会としては、その現状の打開を図るべく「在宅医療は臨床検査を活用して質を担保するべき」と様々なところで意見を述べてきたところである。在宅医療は大きく分けて 2 つの医療供給体系に分類される。一つは大規模都市圏(都市型)の中で活動する在宅医療施設であり、もう一つは山間部や離島など地方で活動(地域型)する医療施設となっている。地域や人口などの構造によって在宅医療の形は変化し、場合によっては両方の形を取り入れ IT 技術を駆使しながら活動している医療施設も見受けられる。その両方の在宅医療の現場では臨床検査技師が活躍している事例も散見され、成功事例としては POCT や超音波検査などを居宅にて実施し医療の質の担保を図っているところとなる。

今回は以下に臨床検査技師が在宅医療で活躍しているのか成功事例を紹介する。

「都市型在宅医療」

○文京根津クリニック

在宅医療を中心に東京都文京区で開業しているクリニックでの実践事例。ここでは医師と臨床検査技師の 2 人がチームとなって居宅を訪問し、点滴など医師でなくてもできる治療に関しては訪問看護ステーションに任せて実施している。この方式に根津クリニック院長の任先生は「臨床検査技師は看護師に比べ検査に対する感性は鋭いですよ。看護師は医者の指示を黙々と採血をする。だが臨床検査技師は一回考える。“ワーファリン使っているからAPTT、PTを検査して、INRも書いておきますよ”という。看護師がそこまで到達するには、よほどベテランか、血液内科に長く在籍されていた看護師に限られる。だけど臨床検査技師は、そこのところが鋭い。また在宅の検査となると、どうしても病院に比べて、偶然誤差、経年誤差が起こりやすい。そのような中、看護師による全ての検査行為がアバウトな対応では、出てくる結果もアバウトになる。そこに臨床検査技師としての役割つまり医療ニーズが生まれる」と臨床検査技師の必要性を訴えている。その意味では、効率性と正確性の両方を兼ね備えるにはこの形(医師と臨床検査技師の訪問診療)が適切であると考えている。

○ゆみのハートクリニック

ゆみのハートクリニックでは、様々な診療科の医師と医療スタッフが、居宅に訪問し、患者さんの生活の質を保ちながら診療・ケアを行っている。また、総合病院への外来や入院の数を減らし、患者さんご本人だけではなくご家族の負担も減らすように心がけている。その中で事前に医師の検査依頼を受けた臨床検査技師1名が一人で居宅へ向かい各種超音波検査や迅速検査など様々な臨床検査の実施や軽微の処置などを実施する。場合によっては血管拡張薬の噴霧を行い心機能評価後、医師へ緊急報告を行い適切な処置につなげ、医療の質の向上に努めている。検査やエコーをする上で、在宅で知識のない Dr が行うなど、ただやっているというパフォーマンスではなく、

北里大学
健康科学部 医療検査学科、看護学科（仮称）
人材需要の見通し調査
【設置構想についての人材需要アンケート調査】
報告書

2023（令和 5）年 6 月 1 日

株式会社高等教育総合研究所

目　次

１.「設置構想についての人材需要アンケート調査」概要 2
２.「設置構想についての人材需要アンケート調査」集計結果 3
３.「設置構想についての人材需要アンケート調査」集計結果のポイント 7
４.「設置構想についての人材需要アンケート調査」集計結果の分析 13

添付資料 16

1.「設置構想についての人材需要アンケート調査」概要

<table>
<tr><td>調査目的</td><td>北里大学が 2024（令和 6）年度に設置構想中の健康科学部「医療検査学科、看護学科（仮称）」（以下、「当該学部学科」と記す）における採用意向の見通しを第三者機関によりアンケート調査を用いて計ることを目的とする。</td></tr>
<tr><td>調査対象</td><td>北里大学保健衛生専門学院の 2019（令和元）年から 2021（令和 3）年までの就職実績データに基付く 228 件に調査を依頼した。業種は以下の表の通りである。

■業種（回答の多い順）
<table><tr><th>業種</th><th>件数</th></tr><tr><td>サービス：病院･医院･医療・保健衛生</td><td>214 件</td></tr><tr><td>公務（地方）</td><td>6 件</td></tr><tr><td>公務（国家）</td><td>2 件</td></tr><tr><td>サービス：その他</td><td>1 件</td></tr><tr><td>サービス：非営利団体(政治・経済・文化団体)</td><td>1 件</td></tr><tr><td>サービス：福祉・福祉施設</td><td>1 件</td></tr><tr><td>商社：医薬･化学･化粧品･ｺﾞﾑ･ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ</td><td>1 件</td></tr><tr><td>流通：その他(ﾒｶﾞﾈ･薬局･書籍・ｽﾎﾟｰﾂ等)</td><td>1 件</td></tr><tr><td>その他</td><td>1 件</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>調査内容</td><td>● 問 1～3：回答事業所の基本情報（本社（本部）所在地、業種、従業員数）
● 問 4：当該学部学科の教育の特色に対する興味・関心
● 問 5：当該学部学科に対する社会的ニーズ
● 問 6：医療検査学科（仮称）の卒業生に対する採用の意向
● 問 7：採用可能人数
● 問 8：看護学科（仮称）の卒業生に対する採用の意向
● 問 9：採用可能人数
● 問 10：期待・要望点
● 問 11：事業所名
以上、全 11 問で主に選択肢式。一部記述を含む。</td></tr>
<tr><td>調査時期</td><td>2023（令和 5）年 2 月～2023（令和 5）年 4 月</td></tr>
<tr><td>調査方法</td><td>調査対象先の人事・採用担当者宛に依頼状・概要説明プリント・アンケート調査用紙 1 部・返送用封筒を送付した。ご協力いただける場合は、WEB 調査またはアンケート調査用紙により回答を得た。</td></tr>
<tr><td>回答件数</td><td>有効回答数 69 件（紙回答：33 件、WEB 回答：36 件）</td></tr>
</table>

2.「設置構想についての人材需要アンケート調査」集計結果

※「構成比(%)」はいずれも、少数点第二位を四捨五入。

問１　貴法人・貴施設の本社（本部）所在地をご回答ください。

選択肢	回答件数	構成比	選択肢	回答件数	構成比
北海道	0	0.0%	滋賀県	0	0.0%
青森県	0	0.0%	京都府	0	0.0%
岩手県	0	0.0%	大阪府	1	1.4%
宮城県	0	0.0%	兵庫県	0	0.0%
秋田県	4	5.8%	奈良県	0	0.0%
山形県	4	5.8%	和歌山県	0	0.0%
福島県	4	5.8%	鳥取県	0	0.0%
茨城県	0	0.0%	島根県	0	0.0%
栃木県	0	0.0%	岡山県	0	0.0%
群馬県	4	5.8%	広島県	0	0.0%
埼玉県	11	15.9%	山口県	0	0.0%
千葉県	3	4.3%	徳島県	0	0.0%
東京都	13	18.8%	香川県	0	0.0%
神奈川県	7	10.1%	愛媛県	0	0.0%
新潟県	13	18.8%	高知県	0	0.0%
富山県	0	0.0%	福岡県	0	0.0%
石川県	1	1.4%	佐賀県	0	0.0%
福井県	0	0.0%	長崎県	0	0.0%
山梨県	0	0.0%	熊本県	0	0.0%
長野県	2	2.9%	大分県	0	0.0%
岐阜県	0	0.0%	宮崎県	0	0.0%
静岡県	1	1.4%	鹿児島県	0	0.0%
愛知県	0	0.0%	沖縄県	0	0.0%
三重県	1	1.4%	無回答	0	0.0%
			合計	69	100.0%

問２　貴法人・貴施設の主業種をご回答ください。

選択肢	回答件数	構成比
病院	49	71.0%
クリニック・診療所	2	2.9%
訪問看護ステーション	0	0.0%
研究所・臨床検査等会社	6	8.7%
医薬品製造業	0	0.0%
官公庁・自治体・公共団体	3	4.3%
その他	5	7.2%
無回答	4	5.8%
合計	69	100.0%

問３　貴法人・貴施設の従業員数をご回答ください。

選択肢	回答件数	構成比
50 人未満	3	4.3%
50～99 人	1	1.4%
100～499 人	24	34.8%
500～999 人	15	21.7%
1000 人以上	26	37.7%
無回答	0	0.0%
合計	69	100.0%

問４　本学が構想中の「健康科学部（仮称）」には以下の特色があります。貴法人・貴施設が評価する内容をご回答ください。（あてはまるもの全てにマーク）

選択肢	回答件数	回答率
医療職に関する資格・免許の取得を目指せる	62	89.9%
地域社会で求められる医療の知識・技術を修得できる	45	65.2%
複数の医療職と連携し、チーム医療を学ぶことができる	50	72.5%
附属３病院や地域の病院との連携で、臨床教育が充実している	38	55.1%
「生命科学」の総合大学という特色を生かした他学部との連携がある	20	29.0%
資格取得や就職に向けたサポートが充実している	38	55.1%

※複数回答項目のため、回答数は延べ。回答率＝回答件数/69 件

問５　本学が構想中の「健康科学部（仮称）」が養成する人材は、地域的・社会的ニーズがあると思われますか。

選択肢	回答件数	構成比
ニーズは極めて高い	43	62.3%
ニーズはある程度高い	26	37.7%
ニーズはあまりない	0	0.0%
ニーズは全くない	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	69	100.0%

問６　貴法人・貴施設では、医療検査学科（仮称）を卒業した学生を採用したいと思われますか。

選択肢	回答件数	構成比
採用したい	36	52.2%
採用を検討したい	21	30.4%
採用しない	4	5.8%
わからない	8	11.6%
無回答	0	0.0%
合計	69	100.0%

問７は、問６で「採用したい」「採用を検討したい」と回答した 57 件が対象である。

問７　採用する場合の採用可能人数をお教えください。（あてはまるもの１つにマーク）

選択肢	回答件数	構成比
１人	8	14.0%
２人	9	15.8%
３人	3	5.3%
４人	0	0.0%
５人	5	8.8%
10 人以上	5	8.8%
人数は未確定	27	47.4%
無回答	0	0.0%
合計	57	100.0%

問８　貴法人・貴施設では、看護学科（仮称）を卒業した学生を採用したいと思われますか。

選択肢	回答件数	構成比
採用したい	46	66.7%
採用を検討したい	14	20.3%
採用しない	6	8.7%
わからない	3	4.3%
無回答	0	0.0%
合計	69	100.0%

問９は、問８で「採用したい」「採用を検討したい」と回答した 60 件が対象である。

問９　採用する場合の採用可能人数をお教えください。

選択肢	回答件数	構成比
1 人	1	1.7%
2 人	5	8.3%
3 人	6	10.0%
4 人	0	0.0%
5 人	2	3.3%
10 人以上	7	11.7%
人数は未確定	39	65.0%
無回答	0	0.0%
合計	60	100.0%

問 10　期待される点やご要望がありましたらご自由にお書きください。

記述内容
求人の際はどうぞよろしくお願いいたします。
山形県は臨床検査技師の養成校がないため、UIJ ターンの区別を問いません。おそらく在籍 3 年→4 年にして、その分他校より教育を充実させ、より社会で活躍できる人材を育成するのだと思います。知識だけでなくより患者に優しい人材を輩出してくだされば と思います。
就職ガイダンス、就職説明会にて、既に貴学とは交流があります。遠隔地でも、就職を希望する方向に開拓できるよう、更なる連携を期待します。
新潟を含む東日本エリアに各地にラボを置き、地域貢献を企業理念に掲げて検体検査に従事している弊社にとって非常に魅力的な学科であると感じています。学生の皆様にお会いできる日を楽しみにしております。
新潟県内で５拠点の健診施設を運営しています。中越地区出身の学生には「○○○○※1」での就業をお願いしたい。新潟県下越地区出身の学生には新潟市内３拠点で就業できる。４年制大学になることで、初任給を上げることができる。また 4 年制大学の一般教養で学んだ事柄が人格形成に大いに寄与できると期待している。
卒業生がこの地に一人でも多く就職していただきたい。
対象となっている職種の採用試験を毎年行っているため、是非受験して頂きたいです。
地域社会で求められる医療人として、在宅医療の分野にも力を入れて頂きたい
当センターは東京に位置しておりますので、会社説明会にお越しになる学生様も 1 都 3 県にお住まいの方が多いです。 その他の地域の方にも当センターをより知っていただきたいと思いますので、是非とも当センターの採用情報を周知していただけると嬉しく存じます。
同封されていたﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄを拝見する限り、非常に充実した学習内容が確保されていると感じました。 このような基礎知識を備え持つのはもちろんですが、社会に出るにあたり、人としての常識・医療従事者としての心構えなどを大切にしていただきたいと考えます。
特に保健師資格を有した、地域住民と良好に関わっていける人材の育成を期待します。
臨床検査技師 1 名（既卒、新卒問わず）を募集しています。

※1：事業所名のため、割愛。

問 11　　事業所名を問う設問のため割愛。

3.「設置構想についての人材需要アンケート調査」集計結果のポイント

※「構成比(%)」はいずれも、少数点第二位を四捨五入。

● 回答事業所の 18.8%が新潟県、東京都に所在/業種については病院が 71.0%

北里大学が 2024（令和 6）年度に設置構想中の健康科学部「医療検査学科、看護学科（仮称）」に係る「設置構想についての人材需要アンケート調査」において、有効回答 69 件の集計を行った。

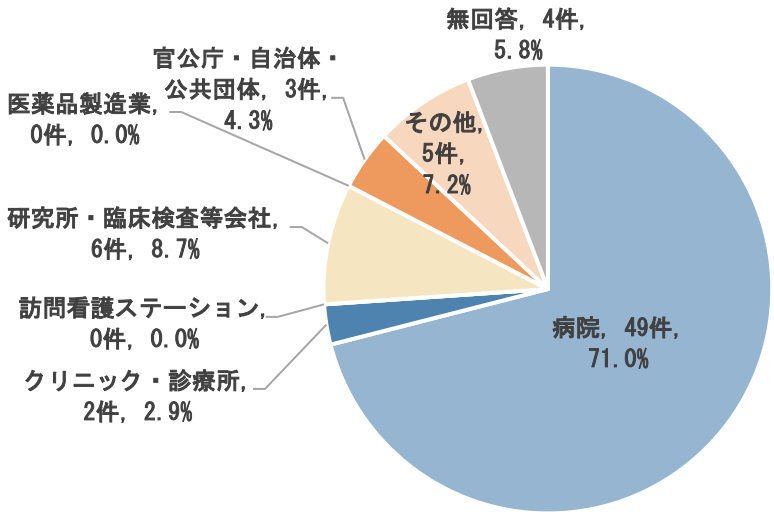
その結果、本社（本部）所在地の内訳は、「新潟県」（13 件、18.8%）と「東京都」（13 件、18.8%）が最も多く、次いで「埼玉県」が 11 件（15.9%）であった。

【表】回答事業所の居住地について＜問1の結果より＞

選択項目	回答数	構成比	選択項目	回答数	構成比
秋田県	4 件	5.8%	神奈川県	7 件	10.1%
山形県	4 件	5.8%	新潟県	13 件	18.8%
福島県	4 件	5.8%	石川県	1 件	1.4%
群馬県	4 件	5.8%	長野県	2 件	2.9%
埼玉県	11 件	15.9%	静岡県	1 件	1.4%
千葉県	3 件	4.3%	三重県	1 件	1.4%
東京都	13 件	18.8%	大阪府	1 件	1.4%
合計				69 件	100.0%

※回答のあった都道府県のみ記載

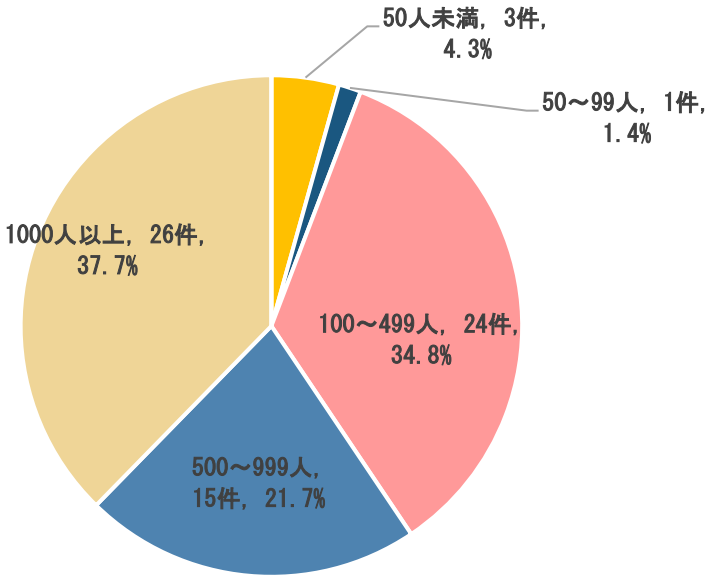
【グラフ】回答事業所の業種について＜問 2 の結果より＞



● 回答事業所の勤務状況について、従業員数 1000 人以上が 37.7%

回答事業所における従業員数については、「1000 人以上」が 26 件（37.7%）で最も多く、次いで「100～499 人」が 24 件（34.8%）、「500～999 人」が 15 件（21.7%）、「50 人未満」が 3 件（4.3%）、「50～99 人」が 1 件（1.4%）と続いた。

【グラフ】回答事業所の勤務状況について＜問 3 の結果より＞

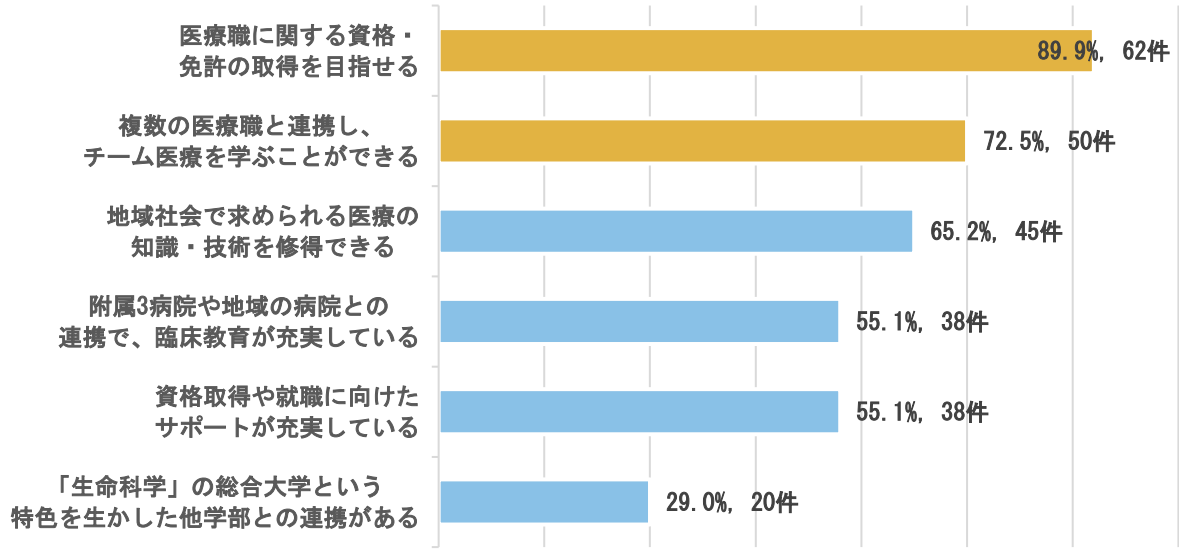


● 回答事業所の約半数以上が、当該学部学科の教育の特色 5 つに、より興味･関心を示す

当該学部学科の教育の特色のうち、最も多かったのは「医療職に関する資格・免許の取得を目指せる」が 62 件（89.8%）であった。次いで、「複数の医療職と連携し、チーム医療を学ぶことができる」が 50 件（72.5%）で、「地域社会で求められる医療の知識・技術を修得できる」が 45 件（65.2%）、「附属 3 病院や地域の病院との連携で、臨床教育が充実している」、「資格取得や就職に向けたサポートが充実している」が 38 件（55.1%）と続いた。

回答事業所の約半数以上が、当該学部学科の教育の特色の 6 つのうち 5 つに、より興味・関心を示す結果となった。

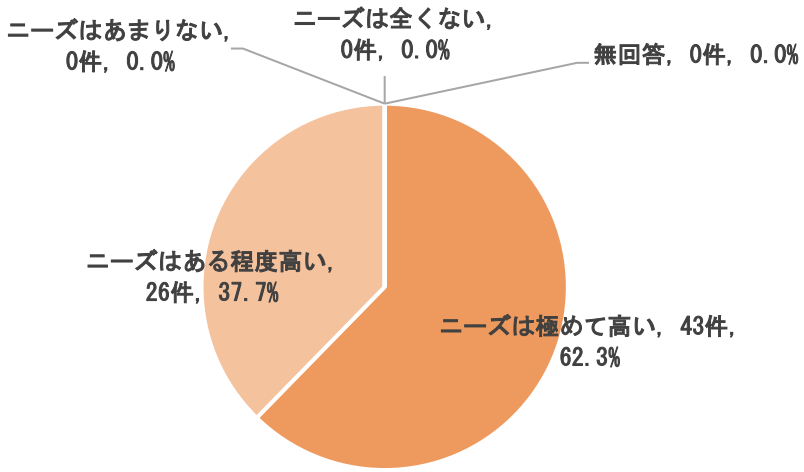
【グラフ】当該学部学科の教育の特色について＜問 4 の結果より＞（回答の多い順）



● 回答のあった全ての事業所が、当該学部学科の社会的ニーズを認める結果となった

当該学部学科に対する社会的ニーズについての質問では、「ニーズは極めて高い」が 43 件（62.3%）で最も多い。次いで「ニーズはある程度高い」が 26 件（37.7%）であった。回答事業所のすべてが、当該学部学科の社会的ニーズを認める結果となった。

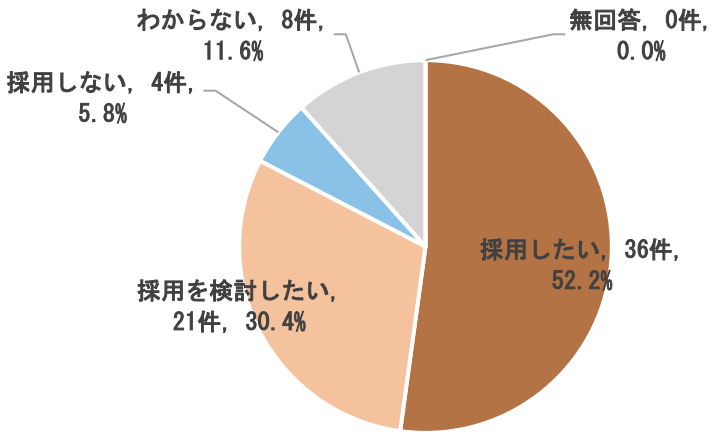
【グラフ】当該学部学科に対する社会的ニーズについて＜問 5 の結果より＞



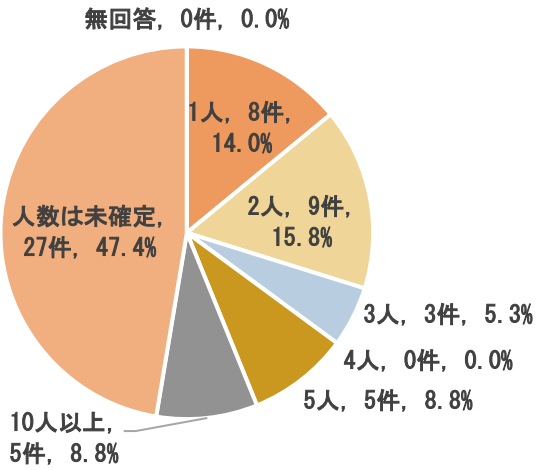
● 医療検査学科（仮称）の卒業生に対する採用意欲は全体の 82.6%

医療検査学科（仮称）の卒業生に対する採用意向については、「採用したい」が 36 件（52.2%）で最も多かった。次いで、「採用を検討したい」が 21 件（30.4%）であった。「採用したい」と「採用を検討したい」の回答件数を合計すると、回答事業所の 82.6%が、医療検査学科（仮称）の卒業生の採用に積極的である結果となった。

【グラフ】医療検査学科（仮称）の卒業生に対する採用の意向について＜問 6 の結果より＞



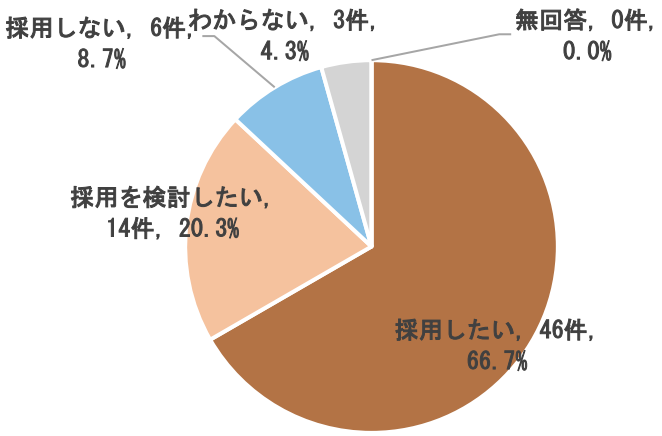
【グラフ】採用可能人数について＜問 7 の結果より＞



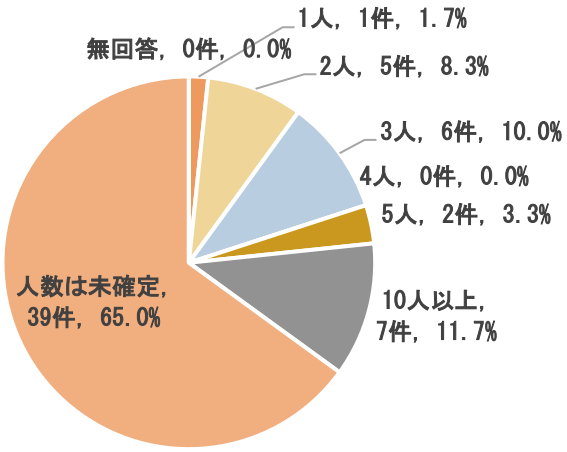
● 看護学科（仮称）の卒業生に対する採用意欲は全体の 87%

看護学科（仮称）の卒業生に対する採用意向については、「採用したい」が 46 件（66.7%）で最も多かった。次いで、「採用を検討したい」が 14 件（20.3%）であった。「採用したい」と「採用を検討したい」の回答件数を合計すると、回答事業所の 87.0%が、看護学科（仮称）の卒業生の採用に積極的である結果となった。

【グラフ】看護学科（仮称）の卒業生に対する採用の意向について＜問 8 の結果より＞



【グラフ】採用可能人数について＜問 9 の結果より＞

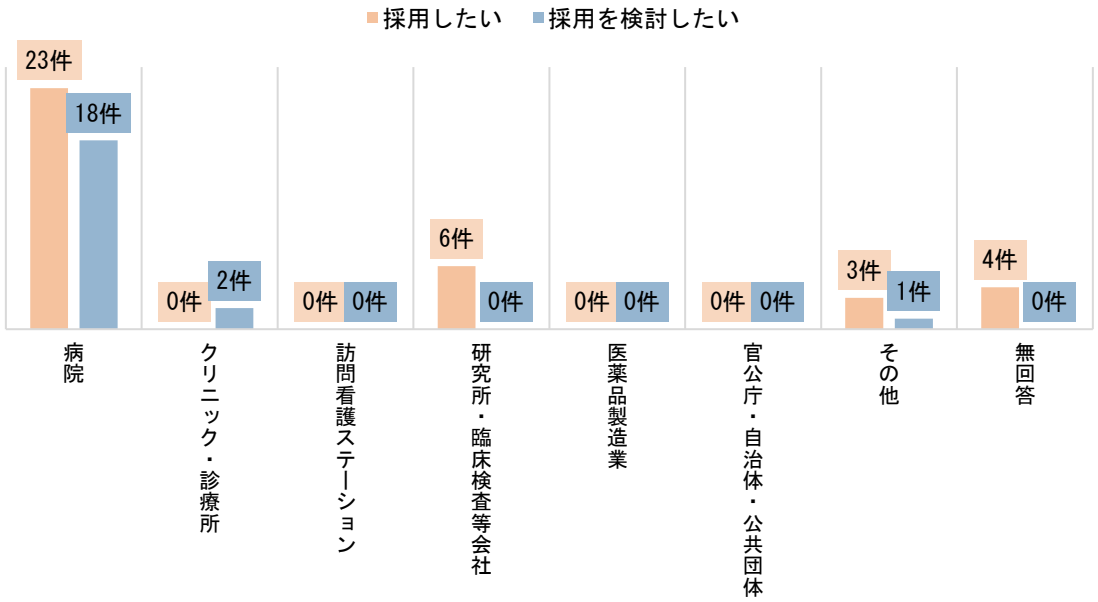


4.「設置構想についての人材需要アンケート調査」集計結果の分析

【１】医療検査学科（仮称）の卒業生の採用意向

医療検査学科（仮称）への卒業生に対し、採用意欲＜問 6＞を示した回答事業所の業種＜問 2＞は以下のグラフの通りである。医療検査学科（仮称）の卒業生を「採用したい」と回答した 32 件（※無回答を除く）のうち、最も多かった業種は「病院」で 23 件であった。次いで、「研究所・臨床検査等会社」で 6 件であった。

【グラフ】医療検査学科（仮称）へ採用意欲を示した回答事業所の業種＜問 2、問 6＞



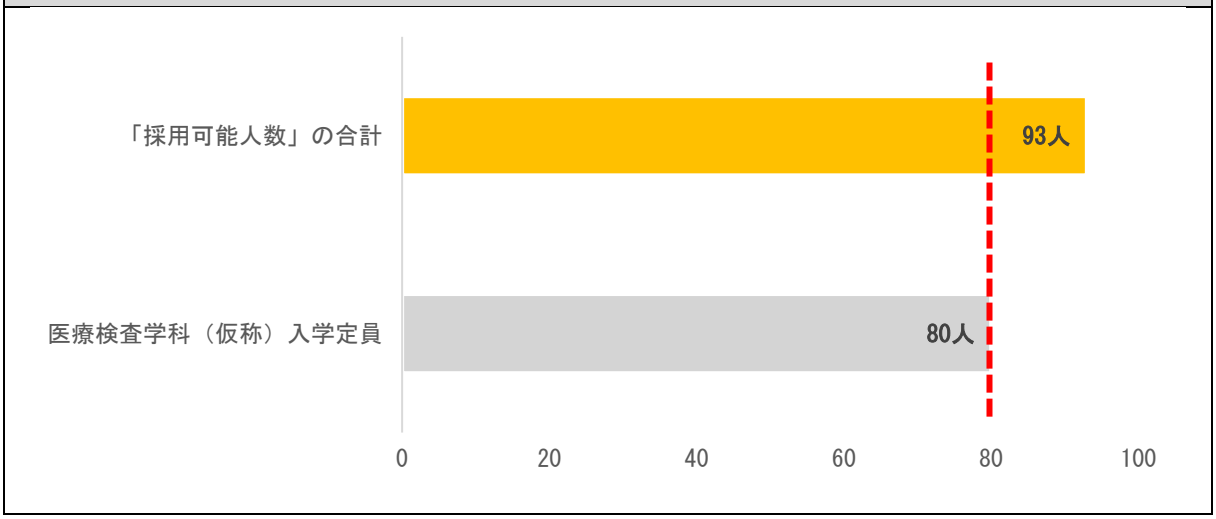
医療検査学科（仮称）の卒業生に対する採用意向別＜問 6＞の採用可能人数＜問 7＞は、以下の表の通りである。

【表】採用可能人数について＜問 7 の結果より＞

No	選択項目	採用したい		採用を検討したい	
		回答数	採用可能人数	回答数	採用可能人数
1	1 人	2 件	2 人	6 件	6 人
2	2 人	8 件	16 人	1 件	2 人
3	3 人	1 件	3 人	2 件	6 人
4	4 人	0 件	0 人	0 件	0 人
5	5 人	5 件	25 人	0 件	0 人
6	10 人以上	3 件	30 人	2 件	20 人
7	人数は未確定	17 件	17 人	10 件	10 人
合計		36 件	93 人	21 件	44 人

※「10 人以上」は 10 人、「人数は未確定」は 1 人として集計

【グラフ】医療検査学科（仮称）の卒業生の採用可能人数について＜問 7＞

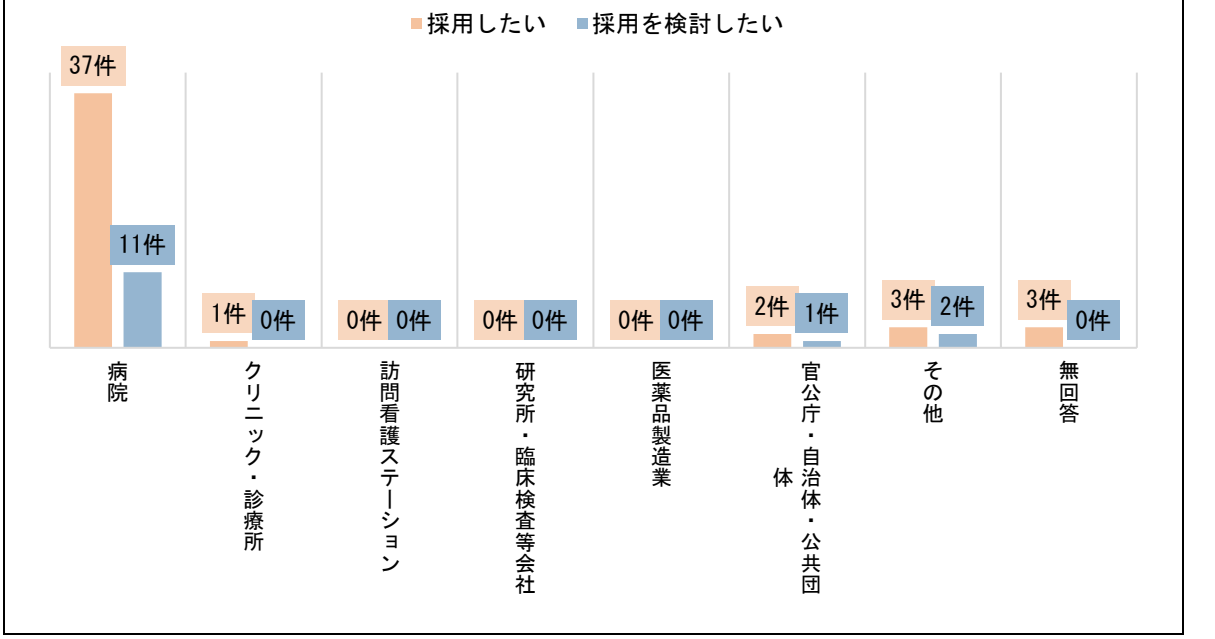


医療検査学科（仮称）の卒業生を「採用したい」と回答した医療機関・企業 36 件の採用可能人数を乗じた合計は 93 人であり、医療検査学科（仮称）が予定する入学定員 80 名を上回る。また、「採用を検討したい」と回答した 21 件の採用可能人数を乗じた合計は 44 人であり、「採用したい」と「採用を検討したい」と回答した採用可能人数を合計すると 137 人であり、医療検査学科（仮称）の人材需要の見通しは問題ないと判断できる。

【２】看護学科（仮称）の卒業生の採用意向

看護学科（仮称）への卒業生に対し、採用意欲＜問 8＞を示した回答事業所の業種＜問 2＞は以下のグラフの通りである。看護学科（仮称）の卒業生を「採用したい」と回答した 43 件（※無回答を除く）のうち、最も多かった業種は「病院」で 37 件であった。次いで、「その他」が 3 件であった。「訪問看護ステーション」や「研究所・臨床検査等会社」、「医薬品製造業」は 0 件であった。

【グラフ】看護学科（仮称）へ採用意欲を示した回答事業所の業種＜問 2、問 8＞



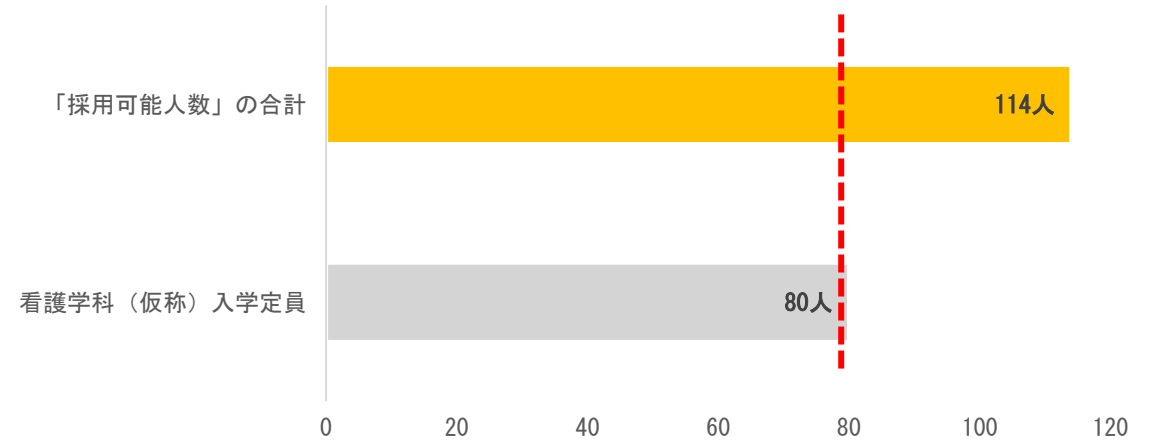
看護学科（仮称）の卒業生に対する採用意向別＜問 8＞の採用可能人数＜問 9＞は、以下の表の通りである。

【表】採用可能人数について＜問 8 の結果より＞

No	選択項目	採用したい		採用を検討したい	
		回答数	採用可能人数	回答数	採用可能人数
1	1 人	1 件	1 人	0 件	0 人
2	2 人	5 件	10 人	0 件	0 人
3	3 人	5 件	15 人	1 件	3 人
4	4 人	0 件	0 人	0 件	0 人
5	5 人	2 件	10 人	0 件	0 人
6	10 人以上	5 件	50 人	2 件	20 人
7	人数は未確定	28 件	28 人	11 件	11 人
合計		46 件	114 人	14 件	34 人

※「10 人以上」は 10 人、「人数は未確定」は 1 人として集計

【グラフ】看護学科（仮称）の卒業生の採用可能人数について＜問 9＞



看護学科（仮称）の卒業生を「採用したい」と回答した医療機関・企業 46 件の採用可能人数を乗じた合計は 114 人であり、看護学科（仮称）が予定する入学定員 80 名を上回る。また、「採用を検討したい」と回答した 14 件の採用可能人数を乗じた合計は 34 人であり、「採用したい」と「採用を検討したい」と回答した採用可能人数を合計すると 148 人であり、看護学科（仮称）の人材需要の見通しは問題ないと判断できる。

■まとめ

以上の結果より、北里大学が 2024（令和 6）年 4 月に設置構想する健康科学部「医療検査学科、看護学科（仮称）」の人材需要の見通しは、医療検査学科（仮称）の卒業生を採用したいと回答した医療機関・企業 36 件に採用可能人数を乗じた合計は 93 人、看護学科（仮称）の卒業生を「採用したい」と回答した医療機関・企業 46 件に採用可能人数を乗じた合計は 114 人であった。医療検査学科（仮称）と看護学科（仮称）の採用可能人数は、各学科が予定する入学定員の各 80 名を上回る結果であるため、人材需要の見通しは問題なしと判断できる。

添付資料

北里大学 健康科学部 医療検査学科、看護学科（仮称）

・概要説明プリント
・設置構想についての人材需要アンケート調査用紙
・設置構想についての人材需要アンケート Web 調査

北里大学　健康科学部

2024年4月新潟キャンパスで開設予定（仮称・設置構想中）

北里大学独自の教育・研究

01）8学部を有する「生命科学」の総合大学

北里大学は、予防医学の基礎を築いた学祖・北里柴三郎の意志を引き継ぐ、生命科学の総合大学。
「生命科学」を中心に、医療・医学・薬学・獣医学・農学・理学・工学の分野からなる8つの学部を展開し、「人の役に立つ実学」に即した教育・研究を実践しています。
健康科学部（仮称）は、9つ目の学部となります。

02）病院との強い連携による教育を展開

北里大学では、病院との連携による充実した環境を活かし、他大学に先駆けて実践的な教育体制をいち早く築いてきました。健康科学部（仮称）も、臨地実習を重視した教育を展開します。
3つある大学附属の病院や、新潟県内外の各病院において、どのような医療が実践されているか、体感的に学んでいきます。

03）充実した国家資格取得や就職のサポート

就職センターと連携した就職支援プログラムを展開し、学生一人ひとりをサポートしています。
習熟度に応じたきめ細やかな国家試験対策や、資格を生かした就職サポートを行います。
その結果、既設学部では国家試験合格率と就職率、共に高い水準で推移しています。

納付金について

学部名	学科名	入学金	授業料	施設設備費	初年次合計
健康科学部	医療検査学科(仮称)	300,000円	1,200,000円	200,000円	1,700,000円
	看護学科(仮称)	300,000円	1,300,000円	200,000円	1,800,000円

［（参考）他大学の同じ分野の学科］

医療検査学科（仮称）の競合校：　新潟大学／新潟医療福祉大学／新潟薬科大学
看護学科（仮称）の競合校：　新潟大学／新潟医療福祉大学／新潟青陵大学／新潟薬科大学／長岡崇徳大学

ACCESS

［住所］　〒949-7241 新潟県南魚沼市黒土新田500番
［車でお越しの場合］　新潟方面からお越しの方は「小出IC」、東京方面からお越しの方は「六日町IC」をご利用ください。
［電車をご利用の場合］　JR上越線・上越新幹線「浦佐」駅東口から無料通学バスで7分

JR上越線・上越新幹線「浦佐」駅より、無料通学バス運行予定！

なりたい、を超えていく
北里大学
KITASATO UNIVERSITY

北里大学　健康科学部設置準備室
〒949-7241新潟県南魚沼市黒土新田500番
TEL 025-779-4511

本概要の内容は設置構想中のため、学部・学科名や学費など変更となる場合があります。

医療検査学科（仮称）

入学定員：80名
取得学位：学士（医療検査学）

養成する人材像

医療人の一員として求められる幅広い教養と豊かな人間性、確固たる倫理観に裏打ちされた使命感を有し、高度医療ならびに地域・在宅医療を含めた医療現場で質の高い医療に貢献できる臨床検査技師を養成します。

臨床検査技師の仕事とは？

人々の健康を把握するために必要な検査のスペシャリストです。
病気の診断や治療方針を決める上で、臨床検査から得られる検査データは重要な役割を果たしています。この検査の中心的な役割を担うのが、臨床検査技師です。近年、高齢化に伴う在宅医療の増加に伴い、在宅現場での臨床検査の実施が期待されています。

医療検査学科(仮称)で身につける能力

① 病気の診断に不可欠な医学検査の専門的知識と実践力
② 患者や家族と円滑なコミュニケーションをとり、修得した技術を実践の場で活用できる能力
③ 医療系の他職種の役割を理解し、チーム医療の一員として活躍できる能力

取得可能な資格・免許

臨床検査技師国家試験受験資格 / 毒物劇物取扱者 / 健康食品管理士 / Excel表計算処理技術認定試験

POINT 1. 生命科学の総合大学として８学部16学科、附属３病院と連携した「知」のネットワークを活かし、充実した臨床教育を展開！

POINT 2. 北里が60年以上に渡り、臨床検査教育をリードしてきた十分な実績と高い教育力で資格取得を強力にサポート！

代表的な授業科目

在宅検査演習
本学の立地環境と看護学科を有する特徴を活かし、ICTを活用しながら高齢化社会を迎え今後益々必要とされる在宅医療・検査について学ぶ

データサイエンス概論
北里大学未来工学部データサイエンス学科と連携し、臨床検査に不可欠とされるデータ解析を学ぶとともに、今後必要とされるデータサイエンティストとしての資質を養う

卒業研究
興味のある分野を選択し、実験やディスカッションを通じて理解を深める探求型学習を展開する

チーム医療演習

医療系学部の約 1,100人の学生が相模原キャンパスに集結し、グループに分かれて患者を中心とした最適な医療を実践するためのチーム医療について議論・発表する

卒業後の進路

臨床検査技師として、病院や検査センターをはじめ様々な業種での活躍が期待されます。
・医療機関：総合病院やクリニックの臨床検査業務
・検査センター：臨床検査、環境・食品分析
・治験コーディネーター：医薬品の臨床試験
・胚培養士：産婦人科クリニック等における体外受精や顕微受精業務
・大学院進学：研究職や教育職

看護学科（仮称）

入学定員：80名
取得学位：学士（看護学）

養成する人材像

幅広く深い教養と豊かな人間性を基盤とした総合的な判断力をもち、多様化した保健医療に対する社会の要請に応えることができる知識と技能を備え、健康社会の実現に向けて病院や地域・在宅の現場で質の高い医療に貢献できる人材を養成します。

看護学科(仮称)で身につける能力

① 専門職として生涯を通じて最新の知識・技術を学び続ける力
② 対象者や保健医療に関わる人々と協働する力
③ 未知の課題に対して多様な情報を集め、倫理的・道徳的な判断、科学的根拠に基づき課題解決につなげる力

取得可能な資格・免許

看護師国家試験受験資格 / 保健師国家試験受験資格
養護教諭二種教員免許（保健師資格取得後、申請で取得。所定単位の修得が必要です。）

POINT 1. 地域社会と連携し、地域で共に「生きる」を多面的・多角的に学ぶ

POINT 2. 北里柴三郎が具現化した「人の役に立つ実学」を学ぶ

POINT 3. 8学部を有する生命科学系総合大学で保健医療福祉チームの礎となる「チーム医療」を学ぶ

代表的な授業科目

看護学原論
看護学の学問的基盤を理解し、専門職として対象者に看護実践を提供するための基礎的知識・技術・態度を学ぶ

看護技術演習
病院や施設、在宅の現場において適切な看護を提供するための技術や医療処置を学ぶ

看護機能形態学
科学的根拠に基づく看護を実践するために、人体の構造と機能、栄養の摂取と排泄、睡眠・休息の仕組みを学ぶ

地域看護学
地域の人々の健康をまもり療養を支援するための知識・技術や、災害時に地域で活動する看護職の専門性を学ぶ

卒業後の進路

・高度な実践能力を備えた看護師としてがんや救急など先端医療を提供している病院や、訪問看護など在宅の現場での活躍が期待されます。
・地域医療構想を推進する保健師・看護師として、地域社会での保健医療の担い手としての活躍が期待されます。
・ICT(Information and Communication Technology)のスキルを活かした医療人として、他職種が連携してチーム医療を推進する現場での活躍が期待されます。

■アンケート用紙

北里大学　（新潟キャンパス）
健康科学部（医療検査学科、看護学科）（仮称）
設置構想についての人材需要アンケート調査

対象：人事・採用ご担当者様

北里大学では、2024年4月に「健康科学部（仮称）」の設置を構想しております。なお、構想中の同学部には、臨床検査技師の育成を目的とした「医療検査学科（仮称）」と、看護師・保健師の育成を目的とした「看護学科（仮称）」の2学科の構成を予定しています。

本学では、この調査を通して、将来的に採用をご検討いただく皆様から様々なご意見をお聞きし、構想内容の充実を図っていきたいと考えています。また、本調査から得られた情報は、構想に関わる統計資料及び文部科学省への提出書類の一部として活用しますが、個人が特定されることはございません。

つきましては、別紙の学部学科の概要をご覧いただいた上で、アンケートへのご協力をよろしくお願い申し上げます。

※この調査は、北里大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

※概要及びアンケート用紙に記載されている学部学科の内容については予定であり、変更される可能性がございます。

【アンケート記入にあたっての注意事項】

・記入は必ず黒鉛のシャープペンシル、または黒鉛筆を使用し、訂正する場合は、消しゴムできれいに消してください。

正しい回答　誤った回答

問１ 貴法人・貴施設の本社（本部）所在地をご回答ください。

○ 北海道	○ 青森県	○ 岩手県	○ 宮城県	○ 秋田県	○ 山形県	○ 福島県
○ 茨城県	○ 栃木県	○ 群馬県	○ 埼玉県	○ 千葉県	○ 東京都	○ 神奈川県
○ 新潟県	○ 富山県	○ 石川県	○ 福井県	○ 山梨県	○ 長野県	○ 岐阜県
○ 静岡県	○ 愛知県	○ 三重県	○ 滋賀県	○ 京都府	○ 大阪府	○ 兵庫県
○ 奈良県	○ 和歌山県	○ 鳥取県	○ 島根県	○ 岡山県	○ 広島県	○ 山口県
○ 徳島県	○ 香川県	○ 愛媛県	○ 高知県	○ 福岡県	○ 佐賀県	○ 長崎県
○ 熊本県	○ 大分県	○ 宮崎県	○ 鹿児島県	○ 沖縄県		

問２ 貴法人・貴施設の主業種をご回答ください。

○ 病院	○ クリニック・診療所	○ 訪問看護ステーション
○ 研究所・臨床検査等会社	○ 医薬品製造業	○ 官公庁・自治体・公共団体
○ その他		

問３ 貴法人・貴施設の従業員数をご回答ください。

○ 50人未満　○ 50～99人　○ 100～499人　○ 500～999人　○ 1000人以上

裏面は、北里大学健康科学部（仮称）の概要をご覧になった上で、お答えください。

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

問４ 本学が構想中の「健康科学部（仮称）」には以下の特色があります。貴法人・貴施設が評価する内容をご回答ください。（あてはまるもの全てにマーク）

- ○ 医療職に関する資格・免許の取得を目指せる
- ○ 地域社会で求められる医療の知識・技術を修得できる
- ○ 複数の医療職と連携し、チーム医療を学ぶことができる
- ○ 附属3病院や地域の病院との連携で、臨床教育が充実している
- ○ 「生命科学」の総合大学という特色を生かした他学部との連携がある
- ○ 資格取得や就職に向けたサポートが充実している

問５ 本学が構想中の「健康科学部（仮称）」が養成する人材は、地域的・社会的ニーズがあると思われますか。

○ ニーズは極めて高い　○ ニーズはある程度高い　○ ニーズはあまりない　○ ニーズは全くない

問６ 貴法人・貴施設では、医療検査学科（仮称）を卒業した学生を採用したいと思われますか。

○ 採用したい　○ 採用を検討したい　○ 採用しない　○ わからない

問7は、問6で「採用したい」「採用を検討したい」と回答された方にお尋ねします。
問７ 採用する場合の採用可能人数をお教えください。（あてはまるもの1つにマーク）

○ 1人　○ 2人　○ 3人　○ 4人　○ 5人　○ 10人以上
○ 人数は未確定

問８ 貴法人・貴施設では、看護学科（仮称）を卒業した学生を採用したいと思われますか。

○ 採用したい　○ 採用を検討したい　○ 採用しない　○ わからない

問9は、問8で「採用したい」「採用を検討したい」と回答された方にお尋ねします。
問９ 採用する場合の採用可能人数をお教えください。

○ 1人　○ 2人　○ 3人　○ 4人　○ 5人　○ 10人以上
○ 人数は未確定

問10 期待される点やご要望がありましたらご自由にお書きください。

問11 差し支えなければ、貴法人・貴施設名をお教えください。

本アンケート調査用紙に印刷されている
QRコードは集計時に使用するものです。
個人の特定を目的とするものではありません。

■WEB 調査

1ページ目（全4ページ）

北里大学（新潟キャンパス）

健康科学部（医療検査学科、看護学科）（仮称）
設置構想についての人材需要アンケート調査
対象：人事・採用ご担当者様

北里大学では、2024年4月に「健康科学部（仮称）」の設置を構想しております。なお、構想中の同学部には、臨床検査技師の育成を目的とした「医療検査学科（仮称）」と、看護師・保健師の育成を目的とした「看護学科（仮称）」の2学科の構成を予定しています。

本学では、この調査を通して、将来的に採用をご検討いただく皆様から様々なご意見をお聞きし、構想内容の充実を図っていきたいと考えています。また、本調査から得られた情報は、構想に関わる統計資料及び文部科学省への提出書類の一部として活用しますが、個人が特定されることはございません。つきましては、別紙の学部学科の概要をご覧いただいた上で、アンケートへのご協力をよろしくお願い申し上げます。

※ この調査は、北里大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。
※ 概要及びアンケート用紙に記載されている学部学科の内容については予定であり、変更される可能性がございます。

規約に同意する 必須

このアンケートはお一人につき、一回までとなります。

☐ 同意する

次へ

2ページ目（全4ページ）

問１ 貴法人・貴施設の本社（本部）所在地をご回答ください。 必須

選択してください

問２ 貴法人・貴施設の主業種をご回答ください。 必須

選択してください

問３ 貴法人・貴施設の従業員数をご回答ください。 必須

選択してください

次へ

戻る

北里大学　健康科学部

2024年4月新潟キャンパスで開設予定（仮称・設置構想中）

医療検査学科（仮称）

地域の医療を支えるのは、キミだ

看護学科（仮称）

医療検査学科（仮称）

入学定員：80名
取得学位：学士（医療検査学）

育成する人材像

医療人の一員として求められる幅広い教養と豊かな人間性、確固たる倫理観に裏打ちされた使命感を有し、高度医療ならびに地域・在宅医療を含めた医療現場で質の高い医療に貢献できる臨床検査技師を養成します。

臨床検査技師の仕事とは？

人々の健康や疾病するために必要な検査のスペシャリストです。
病気の診断や治療の参考になるよう、臨床検査から得られる検査データは重要な役割を果たしています。この検査の中心的な役割を担うのが、臨床検査技師です。近年、高齢化に伴う生活習慣病などに伴い、在宅医療での臨床検査の実施が期待されています。

医療検査学科で身につける能力

① 病気の診断に不可欠な医学検査の専門知識と技術
② 患者や医師と円滑なコミュニケーションをとり、信頼した技術を実践の場で活用できる能力
③ 医療チームの一員として、チーム医療の一員として活躍できる能力

取得可能な免許・免許

臨床検査技師国家試験受験資格 / 臨床検査専門医 / 認定臨床微生物検査技師 / 認定臨床検査管理士 / 2021年度取得見込

POINT 1. 生命科学の総合大学としてさまざまな学問分野、附属3病院と連携した「知」のネットワークを活かし、充実した臨床教育を展開！

POINT 2. 北里5000年以上に渡り、臨床検査教育をリードしてきた十分な実績と高い教育力で資格取得を強力にサポート！

共通的な授業科目

主な実習施設
大学の臨床病院と看護学科を有する利便性を活かし、以下を活用しながら高度化かつ多様な学習が必要とされる現代医療・検査について学ぶ

データサイエンス概論
北里大学が本学データサイエンス学科と連携し、臨床検査に不可欠とされるデータ解析を学ぶとともに、今後必要とされるデータサイエンティストとしての資質を養う

ゼミナール（3年）
1年次より興味のある分野を選択し、実験やディスカッションを通じて理解を深める総合型学習を展開する

チーム医療実習
医療大学部の約1,100人の学生がグループに分かれて患者を中心とした最適な医療を実践するためのチーム医療について議論・実習する

卒業後の進路

臨床検査技師として、病院や検査センターをはじめ様々な領域での活躍が期待されます。

- 医療機関：総合病院やクリニックの臨床検査業務
- 検査センター：臨床検査、理解・食品分析
- 企業コーディネーター：医薬品の臨床試験
- 官庁等：保健所・衛生研究所における検査業務
- 大学院進学：研究職や教育職

看護学科（仮称）

入学定員：80名
取得学位：学士（看護学）

育成する人材像

幅広く深い教養と豊かな人間性を基盤とした総合的な判断力をもち、多様化した保健医療に対する社会の要請に応えることができる知識と技能を備え、健康社会の実現に向けて病院や地域・在宅の現場で質の高い医療に貢献できる人材を養成します。

看護学科で身につける能力

① 専門職として生涯を通じて最新の知識・技術を学び続ける力
② 対象者や保健医療に関わる人々と協働する力
③ 多様な課題に対して多様な観点を基に、倫理的・創造的な判断、科学的根拠に基づき課題解決につなげる力

取得可能な免許・免許

看護師国家試験受験資格 / 保健師国家試験受験資格
看護教諭二種免許状（保健体育科の教員、中学で保健、養護教諭の経験が必要です。）

POINT 1. 地域社会と連携し、地域で共に「生きる」を生涯的・多角的に学ぶ

POINT 2. 北里第二病院は県内最大「人の役に立つ病院」を学ぶ

POINT 3. 医学部を有する北里大学総合大学の保健医療従事者の礎となる「チーム医療」を学ぶ

共通的な授業科目

看護学総論
看護学の学問的基盤を理解し、専門職として対象者に看護実践を提供するための基礎的知識・技術・態度を学ぶ

看護技術演習
病院や施設、家庭の環境において適切な看護を提供するための技術や技術を学ぶ

看護概論と実習
科学的根拠に基づく看護を実践するために、人体の構造と機能、栄養の知識と理解、病態・疾患の仕組みを学ぶ

地域看護学
地域の人々や組織をとりまく環境を支援するための知識・技術や、活動的に地域で活動する看護職の専門性を学ぶ

卒業後の進路

- 高度な実践能力を備えた看護師としてがんや急性など先進医療を提供している病院や、訪問看護など在宅医療での活躍が期待されます。
- 地域保健活動を推進する保健師・看護師として、地域社会での保健医療の担い手としての活躍が期待されます。
- ICT(Information and Communication Technology)のスキルを活かした医療人として、多職種が連携してチーム医療を推進する現場での活躍が期待されます。

医療検査学科（仮称）

入学定員：80名
取得学位：学士（医療検査学）

養成する人材像

医療人の一員として求められる幅広い教養と豊かな人間性、確固たる倫理観に裏打ちされた使命感を有し、高度医療ならびに地域・在宅医療を含めた医療現場で質の高い医療に貢献できる臨床検査技師を養成します。

臨床検査技師の仕事とは？

人々の健康を把握するために必要な検査のスペシャリストです。
病気の診断や治療方針を決める上で、臨床検査から得られる検査データは重要な役割を果たしています。この検査の中心的な役割を担うのが、臨床検査技師です。近年、高齢化に伴う在宅医療の増加に伴い、在宅現場での臨床検査の実施が期待されています。

医療検査学科(仮称)で身につける能力

① 病気の診断に不可欠な医学検査の専門的知識と実践力
② 患者や家族と円滑なコミュニケーションをとり、修得した技術を実践の場で活用できる能力
③ 医療系の他職種の役割を理解し、チーム医療の一員として活躍できる能力

取得可能な資格・免許

臨床検査技師国家試験受験資格 / 毒物劇物取扱者 / 健康食品管理士 / Excel表計算処理技術認定試験

POINT 1. 生命科学の総合大学として８学部16学科、附属３病院と連携した「知」のネットワークを活かし、充実した臨床教育を展開！

POINT 2. 北里が60年以上に渡り、臨床検査教育をリードしてきた十分な実績と高い教育力で資格取得を強力にサポート！

代表的な授業科目

在宅検査演習
本学の立地環境と看護学科を有する特徴を活かし、ICTを活用しながら高齢化社会を迎え今後益々必要とされる在宅医療・検査について学ぶ

データサイエンス概論
北里大学未来工学部データサイエンス学科と連携し、臨床検査に不可欠とされるデータ解析を学ぶとともに、今後必要とされるデータサイエンティストとしての資質を養う

ゼミナールⅠ～Ⅳ
1年次より興味のある分野を選択し、実験やディスカッションを通じて理解を深める探求型学習を展開する

チーム医療演習

医療系学部の約 1,100人の相模原キャンパスに集結し、分かれて患者を中心とした実践するためのチーム医療

卒業後の進路

臨床検査技師として、病院や検査センターをはじめ様々な業種での活躍が期待されます。
・医療機関：総合病院やクリニックの臨床検査業務
・検査センター：臨床検査、環境・食品分析
・治験コーディネーター：医薬品の臨床試験
・胚培養士：産婦人科クリニック等における体外受精や顕微受精業務
・大学院進学：研究職や教育職

看護学科（仮称）

入学定員：80名
取得学位：学士（看護学）

養成する人材像

幅広く深い教養と豊かな人間性を基盤とした総合的な判断力をもち、多様化した保健医療に対する社会の要請に応えることができる知識と技能を備え、健康社会の実現に向けて病院や地域・在宅の現場で質の高い医療に貢献できる人材を養成します。

看護学科(仮称)で身につける能力

① 専門職として生涯を通じて最新の知識・技術を学び続ける力
② 対象者や保健医療に関わる人々と協働する力
③ 未知の課題に対して多様な情報を集め、倫理的・道徳的な判断、科学的根拠に基づき課題解決につなげる力

取得可能な資格・免許

看護師国家試験受験資格 / 保健師国家試験受験資格
養護教諭二種教員免許（保健師資格取得後、申請で取得。所定単位の修得が必要です。）

POINT 1. 地域社会と連携し、地域で共に「生きる」を多面的・多角的に学ぶ

POINT 2. 北里柴三郎が具現化した「人の役に立つ実学」を学ぶ

POINT 3. 8学部を有する生命科学系総合大学で保健医療福祉チームの礎となる「チーム医療」を学ぶ

代表的な授業科目

学生がグループに最適な医療をについて議論・発表する

看護学原論
看護学の学問的基盤を理解し、専門職として対象者に看護実践を提供するための基礎的知識・技術・態度を学ぶ

看護技術演習
病院や施設、在宅の現場において適切な看護を提供するための技術や医療処置を学ぶ

看護機能形態学
科学的根拠に基づく看護を実践するために、人体の構造と機能、栄養の摂取と排泄、睡眠・休息の仕組みを学ぶ

地域看護学
地域の人々の健康をまもり療養を支援するための知識・技術や、災害時に地域で活動する看護職の専門性を学ぶ

卒業後の進路

・高度な実践能力を備えた看護師としてがんや救急など先端医療を提供している病院や、訪問看護など在宅の現場での活躍が期待されます。
・地域医療構想を推進する保健師・看護師として、地域社会での保健医療の担い手としての活躍が期待されます。
・ICT(Information and Communication Technology)のスキルを活かした医療人として、多職種が連携してチーム医療を推進する現場での活躍が期待されます。

北里大学独自の教育・研究

01）8学部を有する「生命科学」の総合大学

北里大学は、予防医学の基礎を築いた学祖・北里柴三郎の意志を引き継ぐ、生命科学の総合大学。
「生命科学」を中心に、医療・医学・薬学・獣医学・農学・理学・工学の分野からなる8つの学部を展開し、「人の役に立つ実学」に即した教育・研究を実践しています。
健康科学部（仮称）は、9つ目の学部となります。

02）病院との強い連携による教育を展開

北里大学では、病院との連携による充実した環境を活かし、他大学に先駆けて実践的な教育体制をいち早く築いてきました。健康科学部（仮称）も、臨地実習を重視した教育を展開します。
3つある大学附属の病院や、新潟県内外の各病院において、どのような医療が実践されているか、体感的に学んでいきます。

03）充実した国家資格取得や就職のサポート

就職センターと連携した就職支援プログラムを展開し、学生一人ひとりをサポートしています。
習熟度に応じたきめ細やかな国家試験対策や、資格を生かした就職サポートを行います。
その結果、既設学部では国家試験合格率と就職率、共に高い水準で推移しています。

納付金について

学部名	学科名	入学金	授業料	施設設備費	初年次合計
健康科学部	医療検査学科(仮称)	300,000円	1,200,000円	200,000円	1,700,000円
	看護学科(仮称)	300,000円	1,300,000円	200,000円	1,800,000円

［ (参考) 他大学の同じ分野の学科 ］

医療検査学科(仮称)の競合校：　新潟大学／新潟医療福祉大学／新潟薬科大学
看護学科(仮称)の競合校：　新潟大学／新潟医療福祉大学／新潟青陵大学／新潟薬科大学／長岡崇徳大学

ACCESS

［　住　所　］　〒949-7241 新潟県南魚沼市黒土新田500番

［車でお越しの場合］　新潟方面からお越しの方は「小出IC」、東京方面からお越しの方は「六日町IC」をご利用ください。

［電車をご利用の場合］　JR上越線・上越新幹線「浦佐」駅東口から無料通学バスで7分

JR上越線・上越新幹線「浦佐」駅より、無料通学バス運行中！
新幹線及び在来線のダイヤに合わせて運行していますが、状況により変更することがあります。

なりたい、を超えていく
北里大学
KITASATO UNIVERSITY

北里大学 健康科学部事務室（仮称）
〒949-7241新潟県南魚沼市黒土新田500番
TEL 025-779-4511

本概要の内容は設置構想中のため、学部・学科名や学費など変更となる場合があります。

上記概要は、下記リンクからもご確認いただけます。

リンク先→概要PDF　（外部サイトが別タブで開きます）

※モバイルの場合、グーグルドライブのアプリがインストールされているとアプリが開くことがあります。

概要をご確認いただけましたか。 必須

☐ 確認した

次へ

戻る

問 4 本学が構想中の「健康科学部（仮称）」には以下の特色があります。貴法人・貴施設が評価する内容をご回答ください。（あてはまるもの全てにマーク） 必須

- [ ] 医療職に関する資格・免許の取得を目指せる
- [ ] 地域社会で求められる医療の知識・技術を修得できる
- [ ] 複数の医療職と連携し、チーム医療を学ぶことができる
- [ ] 附属3病院や地域の病院との連携で、臨床教育が充実している
- [ ] 「生命科学」の総合大学という特色を生かした他学部との連携がある
- [ ] 資格取得や就職に向けたサポートが充実している

問 5 本学が構想中の「健康科学部（仮称）」が養成する人材は、地域的・社会的ニーズがあると思われますか。 必須

- ○ ニーズは極めて高い
- ○ ニーズはある程度高い
- ○ ニーズはあまりない
- ○ ニーズは全くない

※採用したいを選択すると、採用可能人数＜問 7、問 9＞を問う設問が開く仕様

問 6 貴法人・貴施設では、医療検査学科（仮称）を卒業した学生を採用したいと思われますか。 必須

- ◉ 採用したい
- ○ 採用を検討したい
- ○ 採用しない
- ○ わからない

問 7 採用する場合の採用可能人数をお教えください。（あてはまるもの1つにマーク） 必須

- ○ 1人
- ○ 2人
- ○ 3人
- ○ 4人
- ○ 5人
- ○ 10人以上
- ○ 人数は未確定

問 8 貴法人・貴施設では、看護学科（仮称）を卒業した学生を採用したいと思われますか。 必須

- ◉ 採用したい
- ○ 採用を検討したい
- ○ 採用しない
- ○ わからない

問 9 採用する場合の採用可能人数をお教えください。 必須

- ○ 1人
- ○ 2人
- ○ 3人
- ○ 4人
- ○ 5人
- ○ 10人以上
- ○ 人数は未確定

問 10 期待される点やご要望がありましたらご自由にお書きください。 任意

問 11 差し支えなければ、貴法人・貴施設名をお教えください。 任意

送信

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　　員　　名　　簿

学　　長　　の　　氏　　名　　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
―	学長	ｼﾏﾌﾞｸﾛ　ｷｮｳｺ 島袋　香子 〈令和2年7月〉		博士 (看護学)		北里大学長 （令和2年7月1日 ～令和6年6月30日）